

柏市健康福祉審議会 障害者健康福祉専門分科会	
第3回 (R2.02.20)	資料1

柏市
障害者計画策定のための
基礎調査結果報告書（案）

2019年3月

柏市

目次

第1章 調査の概要	1
I. はじめに	2
II. 調査の概要	3
1. アンケート調査（障害者計画策定のためのアンケート調査）概要	3
2. 障害福祉課関係団体ヒアリング概要	4
3. 委託相談支援事業所ヒアリング概要	5
4. 一般市民向けアンケート概要	6
5. ひきこもりが疑われる障害者に係るヒアリング概要	7
第2章 基礎調査結果のまとめ ～ニーズを中心に～	8
I. 柏市に今後望むこと	9
II. 分野ごとのまとめ	13
情報提供の充実・障害理解・差別解消	13
暮らしを支えるサービス	15
こども ～小学校入学前（乳幼児期）～	17
こども ～小学校入学後（学齢期）～	19
就労・社会参加	21
相談体制	23
健康・医療	25
安全・安心な生活環境	27
第3章 基礎調査結果のまとめ	29
III. アンケート調査結果の検証	30
IV. アンケート調査結果詳細	33
1. 質問項目一覧	33
2. 報告書を見る際の留意点	36
3. 各質問項目の回答結果	37
ご本人のことについて	37
障害の状況	58
情報提供の充実・障害理解・差別解消	68
暮らしを支えるサービス	84
こども ～小学校入学前（乳幼児期）～	120
こども ～小学校入学後（学齢期）～	130
就労・社会参加	148
相談体制	178
健康・医療	194
安全・安心な生活環境	218
全体を通して	244

1. 自由意見のまとめ.....	250
V. 各種ヒアリング等結果について	266
1. 障害福祉関係団体ヒアリング	266
2. 各団体からの意見.....	268
3. 委託相談支援事業所ヒアリング結果概要	278
4. 一般市民向けアンケート結果概要	288
5. ひきこもりが疑われる障害者に係るヒアリング概要.....	299

第 1 章 調査の概要

I. はじめに

柏市では、障害のある方への福祉施策の一層の充実を図るため、現行の障害者計画を見直し、2021年度からスタートする新たな障害者基本計画・障害福祉計画を策定する予定です。この計画の策定にあたって参考として活用するため、障害のある方や支援の必要な方の実情やニーズを把握することを目的として、アンケート調査とヒアリング調査からなる基礎調査を2019年度に実施しました。

本報告書は、2019年度に実施した基礎調査の結果をまとめたものです。

(実施した調査)

- **障害者計画策定のためのアンケート調査** (以下、特に注釈無く「アンケート調査」)
障害者手帳所持者等から無作為抽出された方に加え、障害児及び障害関係団体の所属者(約3,500名)を対象に、アンケート調査を行ったものです。
- **障害福祉関係団体ヒアリング調査**
当事者団体及び家族会等(9団体)を対象に、事前調査票の配布とヒアリングを行ったものです。アンケート調査からは見えてこない障害者の日常生活においての問題点や、当事者団体及び家族会等が抱えている課題を把握することを目的として実施しました。
- **委託相談支援事業所ヒアリング調査**
市内の委託相談支援事業所(5事業所)を対象に、事前調査票の配布とヒアリングを行ったものです。アンケート調査からは見えてこない相談支援事業所の困り感、支援をする当事者及び支援者のニーズや相談支援事業所における課題を把握することを目的として実施しました。
- **一般市民向けアンケート調査**
柏市職員及び不特定多数の市民を対象に、障害当事者及び関係者のみならず、一般の方の障害福祉に関する意識を把握することを目的として実施しました。
- **ひきこもりが疑われる障害者に係るヒアリング調査**
市内委託相談支援事業所や支援に携わる関係機関を対象に、一定期間、趣味などを除いて家から出ないひきこもりが疑われる障害者の状態について把握することを目的として実施しました。

II. 調査の概要

1. アンケート調査（障害者計画策定のためのアンケート調査）概要

- 調査地域：柏市全域
- 調査期間：2019年8月30日（金）～9月27日（金）（返送期日）
- 調査方法：郵送による配布・回収（今回調査からインターネット上での回答も可としましたが、郵送回答分との重複を避ける確認作業を行っています）
- 調査対象者：下表のとおり

種類	対象者	人数
身体障害	身体障害者手帳所持者から無作為抽出	645
知的障害	療育手帳所持者から無作為抽出	544
精神障害	自立支援医療（精神通院）受給者および精神保健福祉手帳所持者から無作為抽出	712
難病患者	特定疾病療養者見舞金受給者から無作為抽出	609
子ども	児童発達支援センター通園者	115
	特別支援学校および市内小・中学校特別支援学級通学者より無作為抽出	385
障害関係団体	市内障害者関係団体会員に配布	468
	合計	3,472

- 調査票の配布に係る留意点：調査票は、各障害者手帳所持者等から無作為抽出した方や、障害関係団体等の会員に二重に送付されることが無いように配布しました。また、回答した個人が特定されることが無いようにするため、調査票は無記名としました。
- 調査票の回収に係る留意点：調査票は基本的に障害当事者である宛名のご本人に送付し、ご本人に回答をお願いしていますが、記入できない場合は代理の方がご本人の立場になって記入をお願いしています。しかし、調査票送付の際、障害当事者ではなく、団体の会員である保護者宛に調査票が送付された一部の障害関係団体がありました。無記名のため特定はできませんが、可能性としてはその保護者等が障害があった場合などご自身のことを回答している場合もあります。
- 回収結果
配布数：3,472 票
回収数：1,861 票（有効票 1,855 票・無効票 1 票・白票 5 票）
回収率：53.6%（有効回答率 53.4%）

（参考）前回（2017年）に実施したアンケート調査）の回収結果

配布数：3,086 票
回収数：1,526 票
回収率：49.4%

2. 障害福祉課関係団体ヒアリング概要

- 調査期間：2019年11月25日（月）～11月29日（金）

- 調査方法：障害関係団体に事前に調査票（別紙●）を配布し、後日詳細について聞き取り調査（ヒアリング）を行いました。聞き取り調査では、事前調査票を元に本市における障害者の実状や各団体のニーズを聞き取ったうえで、優先的に市に取り組んでほしいと各団体が考える事項についての聞き取りも行いました。
（ヒアリング結果のまとめは248ページから記載しています。）

- 調査対象団体：以下の9団体を対象に調査を実施しました。
（カッコ内は報告書内で使用する略称）
 - ・ 柏市肢体不自由児者を育てる会 （育てる会）
 - ・ 柏市手をつなぐ育成会 （育成会）
 - ・ 柏市聴覚障害者協会 （柏聴協）
 - ・ 柏市身体障害者福祉会 （身体）
 - ・ 千葉県中途失聴者難聴者協会柏地区会 （中難協）
 - ・ 柏市視覚障害者協会 （視覚）
 - ・ 柏市自閉症協会 （自閉症）
 - ・ 精神障害者家族会よつば会 （よつば）
 - ・ 東葛菜の花「高次脳機能障害者と家族の会」 （高次脳）

3. 委託相談支援事業所ヒアリング概要

- 調査期間：2019年10月30日（水）～11月1日（金）

- 調査方法：市内委託相談支援事業所に事前に調査票（別紙●）を配布し、後日詳細について聞き取り調査（ヒアリング）を行いました。聞き取り調査では、事前調査票を元に一般相談を受け付けている中での委託相談支援事業所の困り感や関係機関との連携、及び事業所職員の質の向上に向けた取り組みについて重点的に聞き取りを行いました。（ヒアリング結果のまとめは260ページから記載しています。）

- 調査対象団体：以下の5事業所を対象に調査を実施しました。
 - ・社会福祉法人青葉会 地域生活相談センターシャル
 - ・社会福祉法人桐友学園 サポートセンター沼南
 - ・特定非営利活動法人権利擁護あさひ
 - ・社会福祉法人ぶるーむ ぶるーむの風相談室
 - ・社会福祉法人ワナーホーム たんぼぼセンター

4. 一般市民向けアンケート概要

- 調査期間：2020年1月15日（水）～1月22日（水）

- 調査方法：
 - (1) 庁内におけるグループウェアのアンケート機能（庁内アンケート）
 - (2) インターネット（ちば電子申請サービス）による回答

- 調査対象者：
 - (1) 柏市職員（障害福祉課職員を除く） 2,631人
 - (2) 一般市民

- 回収結果：
回収数：1,339票

5. ひきこもりが疑われる障害者に係るヒアリング概要

- 調査期間：2020年1月22日（水）～1月31日（金）

- 調査方法：ヒアリング形式（一部事業所はアンケート自記式調査）にて実施。
調査対象となる関係機関等が支援を行っている方に影響が及ばないようにするため、また、個人情報の漏洩が起これないように配慮するため、個人が特定される情報は調査対象としておりません。

- 調査対象機関：
 - (1) 市内委託相談支援事業所（5か所）
 - (2) 柏市地域生活センターあいネット
 - (3) かしわ地域若者サポートステーション
 - (4) 市内精神科医療機関（2か所）
 - (5) 柏市教育委員会学校教育部児童生徒課

- 今回調査で用いたひきこもりの定義について：ここ6ヶ月以上、「一切外出していない」「近所のコンビニやスーパーにしか外出していない」「趣味の活動以外で外出していない」のいずれかに該当する人。

第2章 基礎調査結果のまとめ

～ニーズを中心に～

I. 柏市に今後望むこと

未就学児

■お子さんのことで現在悩んでいることや困っている事は何ですか

前回	1位	発育や発達の遅れ	81.4%
	2位	就学への不安がある	72.6%
	3位	心身が疲れる	30.1%

今回	1位	発育や発達の遅れ	80.2%
	2位	就園・就学への不安がある	69.8%
	3位	心身が疲れる	39.5%

前回調査と比べ、「発育や発達の遅れ」がほとんど変わらず、「就学への不安がある」が約3ポイント減少する一方、「心身が疲れる」が約9ポイント増加しました。障害児の成長に連れて様々な不安や悩みから、保護者の心身を守る支援が必要であることがわかりました。

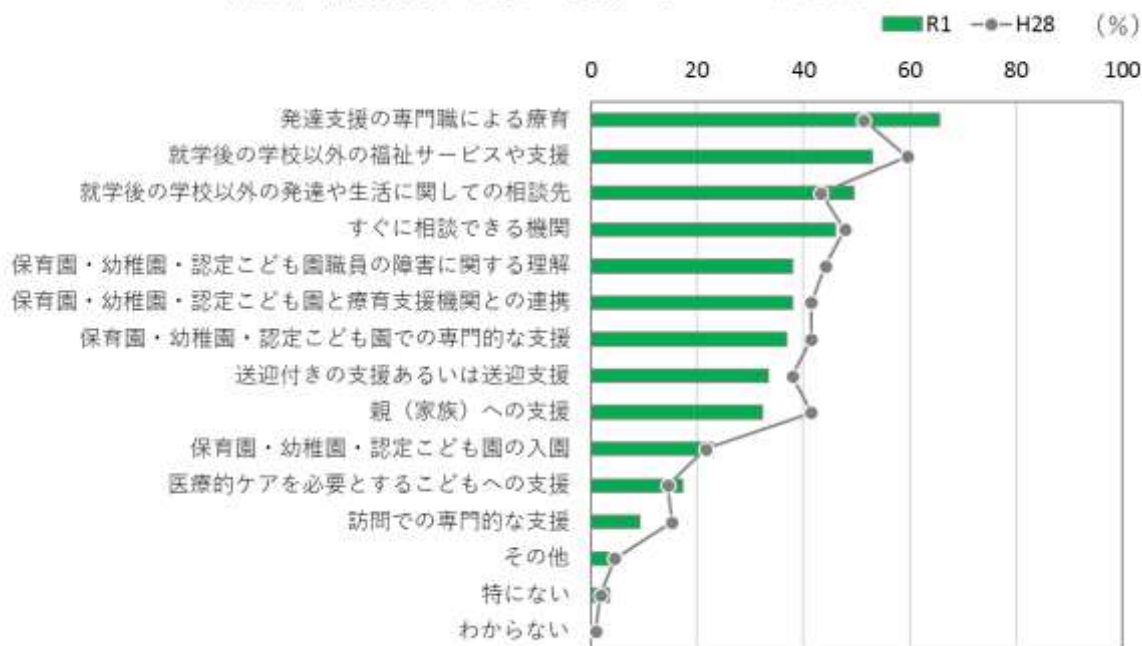
■今後充実してほしい支援・サービスは何ですか

前回	1位	就学後の学校以外の福祉サービスや支援	59.5%
	2位	専門職による療育	51.4%
	3位	すぐに相談できる機関	47.7%

今回	1位	発達支援の専門職による療育	65.5%
	2位	就学後の学校以外の福祉サービスや支援	52.9%
	3位	就学後の学校以外の発達や生活に関する相談先	49.4%

前回調査と比べ、「専門職による療育」が約14ポイント増え、「就学後の学校以外の福祉サービスや支援」が約7ポイント低下しました。療育に係るサービスのニーズが増えているがわかります。「就学後の学校以外の発達や生活に関する相談先」が約6ポイント増え、障害や生活に係る不安に応える相談支援の充実が必要です。

問34. 今後充実してほしい支援・サービスは何ですか



学齢期

■ 学齢期に子育てをする上でどんなことに不安がありますか

前回	1位	自立	57.7%	今回	1位	自立	71.6%
	2位	学力	49.6%		2位	就労	58.9%
	3位	こどもの友人関係	48.2%		3位	性の問題	50.9%

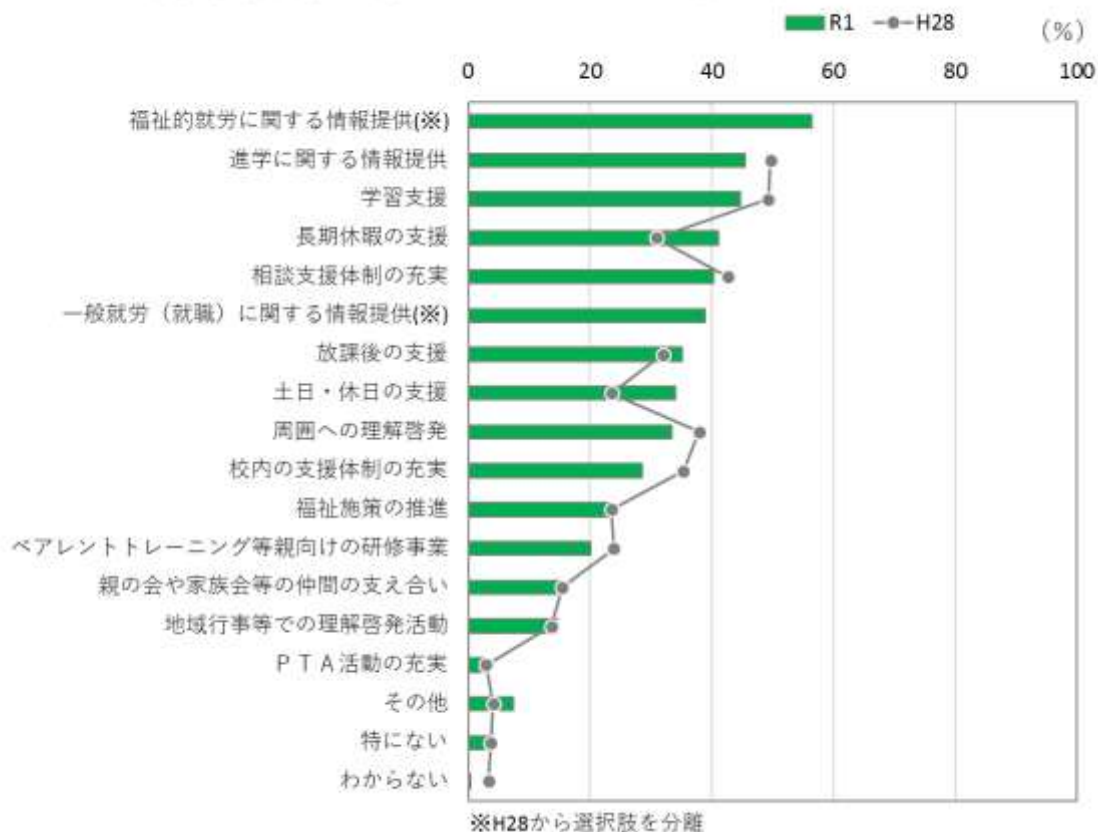
最も不安を感じていることは、前回と同様に「自立」でしたが、約14ポイント増加しました。一方で、「就労」が約15ポイント、「性の問題」が約11ポイント増加し、「学力」が約10ポイント、「こどもの友人関係」が約12ポイント減少したため、前回と比べて傾向が変わりました。

■ 学齢期に子育てをするうえでどんな援助を希望しますか

今回から就労に関する選択肢を2つに分けたところ、「福祉的就労に関する情報提供」が5割以上でした。「進学に関する情報提供」は約4ポイント、「学習支援」は約5ポイント減少しましたが、子育てに係る支援のニーズは傾向としては変わりませんでした。

前回	1位	就労に関する情報提供	51.8%	今回	1位	福祉的就労に関する情報提供	56.4%
	2位	進学に関する情報提供	49.6%		2位	進学に関する情報提供	45.4%
	3位	学習支援	49.3%		3位	学習支援	44.7%

問37. 学齢期に子育てをするうえでどんな援助を希望しますか



成人

■主に相談したいことは何ですか

前回	1位	将来のこと	46.2%
	2位	健康のこと	40.3%
	3位	医療のこと	35.6%

今回	1位	将来のこと	45.0%
	2位	医療や健康のこと	44.3%
	3位	お金関係のこと	29.5%

「将来のこと」を挙げる割合は前回とほとんど変わらず、今回調査から選択肢を修正した「医療や健康のこと」を挙げる意見も引き続き多かったです。「お金関係のこと」が約9ポイント増えました。

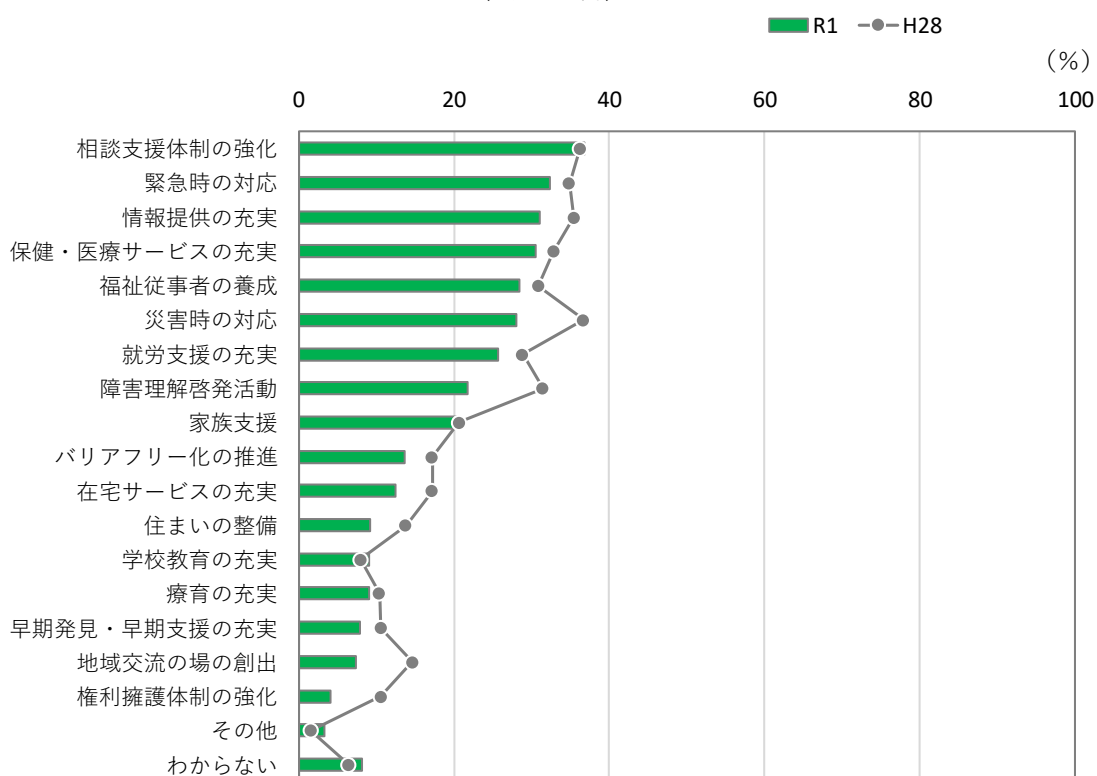
■何の施策に力を入れてほしいですか

「災害時の対応」が約9ポイント減少、「相談支援体制の強化」はほとんど変わらなかったため、傾向に変化が見られました。「相談支援体制の強化」は精神障害が他と比べて多くなっていました。

前回	1位	災害時の対応	36.7%
	2位	相談支援体制の強化	36.3%
	3位	情報提供の充実	35.5%

今回	1位	相談支援体制の強化	36.8%
	2位	緊急時の対応	32.3%
	3位	情報提供の充実	31.0%

成人（★全障害）



高齢者

■主に相談したいことは何ですか

前回	1位	健康のこと	46.3%
	2位	医療のこと	40.3%
	3位	特にない	25.4%

今回	1位	医療や健康のこと	50.8%
	2位	福祉サービスのこと	29.9%
	3位	将来のこと	18.2%

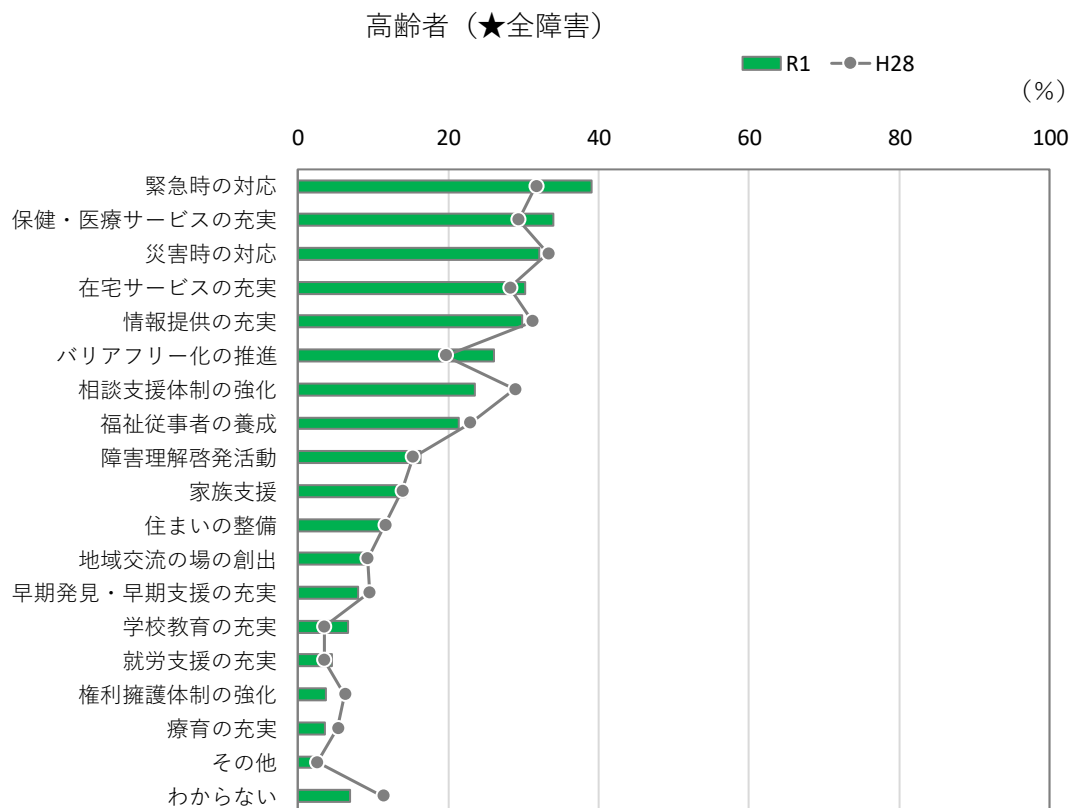
今回調査から選択肢を修正したところ、「医療や健康のこと」が最も多く5割程度となりました。「福祉サービスのこと」は前回から約10ポイント増加しました。高齢障害者の不安は日常生活の健康維持やサービスの確保にあることがわかりました。

■何の施策に力を入れてほしいですか

前回	1位	災害時の対応	33.3%
	2位	緊急時の対応	31.6%
	3位	情報提供の充実	31.2%

今回	1位	緊急時の対応	39.1%
	2位	保健・医療サービスの充実	34.0%
	3位	災害時の対応	32.0%

「緊急時の対応」が約8ポイント増え、「災害時の対応」が約1ポイント減少し、「保健・医療サービスの充実」が約5ポイント増加しましたが、傾向に大きな変動はみられませんでした。「保健・医療サービスの充実」は内部障害で高い割合となり、高齢障害者の要望の傾向に変化をもたらしました。



II. 分野ごとのまとめ

情報提供の充実・障害理解・差別解消

1. アンケート調査結果

◇市等の情報提供を充実させるためにはどのようなことが必要だと思いますか（問13）

障害福祉のしおりの内容を充実させることが最多

多くの方が障害福祉のしおりを情報源としていることがわかりました。年代別に見ると、児童や成人でSNSの活用と回答した人が2割程度いる一方で、高齢は広報をより読みやすくすると回答した人が3割以上で最多となっており、年代によって情報源が多様なことが伺えます。

◇差別を受けたり嫌な思いをする（した）ことがありますか（問15）

差別を受けたり嫌な思いをする（した）ことがある人は3割以上

年代別に見ると、若い人ほど差別を受けたり嫌な思いをする（した）と回答する人が多く、児童では半数程度、成人では4割以上の人があると回答しています。一方で、高齢の7割近くはないと回答しており、年代によって大きな差が見られます。

◇差別や偏見を持たずに暮らすために必要なこと（問17）

学校での福祉教育の充実が全体の半数以上

すべての年代において、福祉教育の充実という回答が最も多くなっています。特に児童においては7割以上が福祉教育の充実と回答しています。

2. 各種ヒアリング等結果

◇障害関係団体ヒアリング

- ・情報伝達の媒体は、印刷物、インターネット等、多様な提供手段が必要。
- ・社会参加にあたっては周囲の理解も重要。
- ・学齢期の時期に障害理解を進めることが重要。

◇委託相談支援事業所ヒアリング

- ・相談先の周知は大きな課題。

◇一般市民向けアンケート

- ・障害者に声掛けや手助けをすることに抵抗があると回答した人が3割以上。
- ・障害者と聞いて、どう対応すればよいかわからないというイメージ。

3. まとめ

◇アンケート結果から

- ・市等の情報提供を充実させるためには、「障害福祉のしおりの内容を充実させる」という意見が多数だが、年代によって「SNSの活用」や「情報誌の充実」など様々。
- ・障害者差別解消法を「知らない」と回答した人が全体の6割程度。
- ・差別を受けたり嫌な思いをする（した）ことがある人は全体の3割以上。
- ・差別を受けたり嫌な思いをしたのは「交通機関」「店舗」が多い。年代別では、児童で「学校」と回答した人が4割で最多。
- ・差別や偏見を持たずに暮らすためには、「学校での福祉教育の充実」が必要と答えた人が、児童では7割以上、成人や高齢でも最多。

◇各種ヒアリング結果等から

- ・様々な媒体で情報提供，周知を行うことが必要。
- ・社会参加にあたっては周囲の理解も重要。
- ・一般市民においては，障害者にどう対応すればよいかわからないという意見があり。

4. 見えてくる課題

★情報提供の充実

市等の発行物をより読みやすくするだけでなく，SNSの活用等，情報提供手段の拡充が求められています。

★障害理解の推進，福祉意識の醸成

平成28年4月の施行以来，障害者差別解消法の普及に努めてきましたが，障害当事者においては6割以上の人，一般市民では3割以上の人知らないという結果となりました。また，一般市民においては，障害者を手助けすることに抵抗がある人が3割以上いました。今後は，障害者差別解消法の更なる普及とともに，継続して実施してきた障害理解イベントを含め，パラリンピックで醸成された機運を活かし，障害に関する理解促進を引き続き進めていく必要があります。

また，福祉教育が必要という意見が多かったことから，障害のあるなしに関係なく学べる場を増やすなどして，福祉意識の醸成を進めていく必要があります。

暮らしを支えるサービス

1. アンケート調査結果

◇今後どのようなサービスを利用したいですか（問20）

全体だと計画相談支援・障害児相談支援が最多。児童は放課後等デイサービスが最多
年代別に見ると、児童は放課後等デイサービス、成人は共同生活援助、高齢は居宅介護
と、年代によって、ニーズが異なっています。

◇将来どこで暮らしたいですか（問21）

家族や親族と自宅で暮らしたいが全体の6割以上
年代別に見ると、児童と成人でグループホームと回答した人が2割程度いる一方で、高齢
では1割に満たない結果となりました。

◇グループホームをいつ利用したいですか（問23）

時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたいが6割以上
すべての年代において、今と状況が変わったら入りたいという回答が最も多くなっていま
す。年代別に見ると、児童ではわからない、成人では半年以内に入りたい、高齢では今すぐ
に入りたいという回答が他の年代に比べて多くなっています。

2. 各種ヒアリング等結果

◇障害関係団体ヒアリング

- ・地域で暮らしていける住環境の整備やサービスの充実が必要。
- ・当事者の地域生活の希望と実態はかけ離れているのが現状。

◇委託相談支援事業所ヒアリング

- ・重度の行動障害や精神障害の場合、地域に受け手であるサービス提供事業所がないか、
あっても消極的。
- ・地域での受け入れ先が見つからないケースがある。

◇一般市民向けアンケート

- ・過去1年程度の間、交通機関や街中等で障害者を見かけたことがある人は6割程度。

3. まとめ

◇アンケート結果から

- ・障害福祉サービスを利用したことがある人は半数近く。年代別に見ると、児童はあると回答した人が8割近くだが、高齢は3割程度。
- ・今後利用したいサービスとして、児童は「放課後等デイサービス」、成人は「共同生活援助」「短期入所」、高齢は「居宅介護」「日常生活用具給付」と回答した人が多数。
- ・将来、家族と自宅で暮らしたい人が6割以上。児童、成人ではグループホームも多い。
- ・家族や親族が病気などで一緒に生活できなくなった時に、「一人暮らし」や「グループホーム」など地域での生活を希望する人が4割以上。高齢では「施設」が最多。
- ・グループホームを利用したい時期として、今と状況が変わったら入りたいと回答した人が最多。年代が上がるほど、早く入りたいと回答している割合が多くなる傾向がある。
- ・短期入所を利用したことがない人が8割以上。
- ・短期入所の目的は、児童と成人で将来への備え、高齢で家族等の都合との回答が多い。
- ・外出する際には、一人もしくは家族と出かける人が多数。
- ・外出するために必要なこととして、「移動支援サービスの充実」「公共交通機関による支援」に加え、「周囲の理解」と回答した人が多かった。

◇各種ヒアリング等結果から

- ・地域で暮らしていける住環境の整備やサービスの充実が必要。
- ・地域での受け入れ先が見つからないケースがある。

4. 見えてくる課題

★居住環境の整備

将来的に自宅で暮らしたい、地域で生活したいというニーズが伺えます。そのために、地域で暮らしていくための障害福祉サービスの整備は必要であるとの意見が聞かれました。グループホームについては、半年以内に入りたいというよりも、今と状況が変わったら入りたいと考えている人が多いことや、地域での受け入れ先が見つからないという意見があったことから、グループホームの量的な整備ではなく、質的な整備が求められています。

★障害福祉サービスの充実

地域での生活を支えるためのサービスについて充実が求められています。一方で、各年代で利用したいサービスが異なることから、現在のサービスを精査し、必要なサービスを重点的に充実させていくことが必要です。

こども ～小学校入学前（乳幼児期）～

1. アンケート調査結果

◇現在悩んでいることや困っていることはなんですか（問28）

発育や発達の遅れが8割程度

次いで、就園・就学への不安がある、保護者の心身が疲れるとなっています。

◇今後充実してほしい支援・サービスは何ですか（問34）

発達支援の専門職による療育が6割以上

次いで、就学後の学校以外の福祉サービスや支援、就学後の学校以外の発達や生活に関する相談先となっています。

2. 各種ヒアリング等結果

◇障害関係団体ヒアリング

- ・様々なサービスをどのように利用して子どもを育てていけばよいかわからない保護者がいる。
- ・乳幼児健診等で合理的配慮に欠けている部分がある。

3. まとめ

◇アンケート結果から

- ・現在悩んでいることや困っていることは「発育や発達の遅れ」が8割程度。
- ・悩みについて、相談した人が9割程度で、相談先は「柏市こども発達センター」が8割程度で最多。「家族・親族」が5割程度で続いている。
- ・相談のきっかけは「父母の気づき」が6割程度で、「健診」「医療機関の勧め」が続く。
- ・相談先について、「すぐに相談に応じてもらえる」ことを評価している人が7割程度。一方で、「面談や支援までに時間がかかる」ことを不満としている人が3割程度。
- ・今後充実してほしい支援・サービスは「専門職による療育」が最多で、就学後の学校以外の福祉サービスや支援、相談先が続いている。

◇各種ヒアリング結果等から

- ・様々なサービスをどのように利用して子どもを育てていけばよいかわからない保護者がいる。
- ・乳幼児健診等で合理的配慮に欠けている部分がある。

4. 見えてくる課題

★療育支援の充実

発達や発育の遅れに不安を感じる保護者が多く、発達支援の専門職による療育を求める声が多いことから、早い段階からの適切な支援ができるような体制整備が求められています。引き続き、療育支援の充実を進めていく必要があります。

★学校以外での支援の充実

就園・就学への不安を感じる保護者が多く、就学後に学校以外でのサービスや支援、相談先を求める声が多いことから、就園・就学等のライフステージに応じて一貫した支援ができるよう、学校における切れ目の無い支援体制の構築を進めることや、学校以外でのサービスの充実が求められています。

こども ～小学校入学後（学齡期）～

1. アンケート調査結果

◇学齡期に子育てをするうえでどのようなことに不安がありますか（問36）

自立が最多

学校別にみると、普通学級または特別支援学級、特別支援学校においても、自立が最多となっています。普通学級または特別支援学級においては、進学やこどもの友人関係が続きますが、特別支援学校においては就労や性の問題が続いています。

◇学齡期に子育てをするうえでどんな援助を希望しますか（問37）

普通学級または特別支援学級では進学に関する情報提供が最多
特別支援学校では福祉的就労に関する情報提供が最多

学校別にみると、普通学級または特別支援学級において、進学に関する情報提供が最多となっており、学習支援が続いています。特別支援学校においては、福祉的就労に関する情報提供が最多となっており、次いで長期休暇の支援や放課後の支援が多くなっています。

◇学校卒業後、どんな支援を希望しますか（問39）

将来に関する相談が最多

普通学級または特別支援学級においては、恋愛や結婚に関する相談や紹介、老後に関する相談、余暇支援も多くなっています。特別支援学校においては、余暇支援、グループホームでの生活支援が多くなっています。

2. 各種ヒアリング結果

◇障害関係団体ヒアリング

- ・放課後等デイサービスを使っている場合、成人後も同様のサービスを求めたい。
- ・学校に入ると学校以外の療育相談の場がない。
- ・義務教育を終えた16～18歳に対するサービスや支援が必要。

3. まとめ

◇アンケート結果から

- ・学校生活で困っていることは「長期休暇の時の支援」が3割程度。普通学級または特別支援学級においては、「授業についていけない」「友達ができづらい」が多い。
- ・子育てをするうえでの不安は「自立」が6割以上。普通学級または特別支援学級においては「進学」、特別支援学校においては「就労」が多くなっている。
- ・子育てをするうえでの援助として、普通学級または特別支援学級においては「進学に関する情報提供」が7割程度。特別支援学校においては「福祉的就労に関する情報提供」が5割以上。
- ・学校卒業後の進路は、「就職（福祉事業所含む）」を希望する人が多い。
- ・学校卒業後の支援は、「将来に関する相談」を求める人が多い。

◇各種ヒアリング結果から

- ・放課後等デイサービスを使っている場合、成人後も同様のサービスを求めたい。
- ・義務教育を終えた16～18歳に対するサービスや支援が必要。

4. 見えてくる課題

★一貫した相談、支援

ライフステージに応じた相談先や支援を求める声が多くみられました。特に、高校卒業後に、これまでと同様の支援を希望する人が多いことから、学齢期の終了と同時にサービスや支援が途切れることがないように、切れ目の無い支援体制の構築が必要です。

就労・社会参加

1. アンケート調査結果

◇長期的に働くためにはどのようなことが必要ですか（問49）

周囲の理解が最多

多くの方が周囲の理解が必要だと回答しています。年代別に見ると、成人、高齢ともに周囲の理解のほか、能力にあった仕事、体調にあった勤務体制が必要だと回答しています。

◇今後社会参加するとしたら、どんな活動に参加したいですか（問50）

趣味やサークル活動が最多

多くの方が趣味やサークル活動に参加したいと回答しています。年代別に見ると、成人では障害者が活動している場所への参加、高齢では講座や研修への参加を希望しています。一方で、成人の2割、高齢の3割が特にないと回答しており、高齢の3割以上が本設問への回答をしていないなど、社会参加に対する意欲の低下も伺える結果となりました。

2. 各種ヒアリング等結果

◇障害関係団体ヒアリング

- ・グループホームが主体となり、住と食を確保したうえで、作業所につなげるのがよい。
- ・一般の趣味の教室やイベントで障害者受け入れが促進されるとよい。

◇一般市民向けアンケート

- ・自立や社会参加を支援を促す支援の充実を優先して実施すべきという意見が2割程度。

3. まとめ

◇アンケート結果から

- ・主な収入源としては「障害年金」が4割以上。成人は「自分の給料・工賃」「家族（保護者）の援助」という回答も多く、高齢は「老齢年金」が最多。
- ・就労状況として、「就いていない」が全体で6割程度。成人の5割は就労している。
- ・就労している人の仕事内容としては、「事務」が2割程度で最多。
- ・賃金・工賃は「20万円以上」が2割程度。「5～10万円未満」も2割程度。
- ・就労が難しい、していない理由としては、「病気や障害で働くことが難しい」が最多。高齢では「高齢で働くことが難しい」が多い。
- ・今後働きたい人は3割近く。成人は4割が働きたいと回答している。

- ・働きたい場所が「わからない」と回答している人が4割程度。働きたい場所の回答の中では、「一般企業（一般枠）」が2割程度で最多。
- ・希望する仕事内容は「事務」が1割程度。「特にない」が3割以上、「わからない」が2割以上。高齢では「特にない」が5割。
- ・就職するために必要なこととして、「体調にあった勤務体制」「能力にあった仕事」が4割程度。成人では「障害特性に関する周囲の理解」と回答した人も多かった。
- ・長期的に働くために必要なことは「周囲の理解」が最多。
- ・今後社会参加するとしたら、「趣味やサークル活動」が最多。高齢では「特にない」も多い。
- ・社会参加するにあたって必要なことは「近くに活動の場があること」が5割近く。成人では「障害への配慮があること」も多い。

◇各種ヒアリング等結果から

- ・グループホームが主体となり、住と食を確保したうえで、作業所につなげるのがよい。
- ・一般の趣味の教室やイベントで障害者受け入れが促進されるとよい。

4. 見えてくる課題

★就労支援体制の充実

現在就労していない障害者のうち、成人でも4割しか働きたいとは思っておらず、就労意欲が低下していることが伺えます。個々の体調や能力にあった働き方ができるように、個々に応じた就労支援や企業への理解を進めていく必要があります。

★社会参加しやすい環境の構築

社会参加をするに当たって、趣味やサークル活動に参加したいという意見が多く聞かれ、また、近くに活動の場があることが必要という人が多かったことから、障害者が暮らしている地域で活動できるような場所があることが求められています。一般の趣味の教室等に参加しやすくするためにも、周囲の理解は必要であり、障害理解イベントを通じて理解を深めるなど、安心して社会参加できる環境作りが求められています。

相談体制

1. アンケート調査結果

◇主に相談したい内容はなんですか（問52）

全体だと医療や健康のことが最多。児童，成人では将来のことが最多

年代別に見ると，児童は将来のことに加え，学校や教育関係のことが，成人は将来のことがと医療や健康のことが，高齢は医療や健康のことが多くなっています。

◇主に誰（どこ）に相談していますか（問53）

全体だと家族が最も多く，児童では通っている学校が4割

年代別に見ると，児童は通っている学校や友人・知人，成人では友人・知人や医療機関，高齢では医療機関が多くなっています。

また，地域生活支援拠点及び民間の相談支援事業所の認知度は成人と高齢で低くなっています。

◇必要な時に気軽に相談するために必要だと思うこと（問54）

身近な場所に相談できるところがあるが最多

すべての年代において，身近な相談場所が必要という回答が多くなっています。また，専門的な知識を持った職員がいること，障害に配慮して相談を聞いてくれることが必要という回答も多くなっています。

2. 各種ヒアリング等結果

◇障害関係団体ヒアリング

- ・親や家族への相談支援を充実してほしい。
- ・ライフステージに応じた相談支援体制が必要。

◇委託相談支援事業所ヒアリング

- ・「話を聞いて欲しい」というちょっとした不安に絡んだ相談が多い。
- ・医ケアのように障害種別や年代に応じた専門的な対応が出来る相談支援事業所や障害福祉サービス事業所及び医療機関が少ない。
- ・相談支援専門員の質の向上には1事業所当たりの相談支援専門員の人数の増が必要。
- ・市役所窓口部署等との連携は見直しが必要ではないか。

3. まとめ

◇アンケート結果から

- ・主に相談したい内容は「医療や健康のこと」が最多。児童は「将来のこと」「学校や教育関係のこと」、成人は「将来のこと」も多い。
- ・主な相談先は「家族」が6割程度で最多。児童は「通っている学校」、成人、高齢は「医療機関」も多い。「地域生活支援拠点」及び「民間の相談支援事業所」の認知度は成人と高齢で特に低い。
- ・相談するために必要なことは「身近な場所に相談できるところがある」「専門的な知識を持った職員がいる」「障害に配慮して相談を聞いてくれる」が多い。

◇各種ヒアリング等結果から

- ・ライフステージや医ケア等の専門性を備えた相談支援
- ・相談支援専門員の人数の増加、質の向上の取り組み及び市役所、相談支援事業所間の連携強化。

4. 見えてくる課題

★相談支援体制の充実

身近な相談場所で、専門的な知識を持った職員に相談したいというニーズが伺えます。また、地域生活支援拠点及び民間の相談支援事業所の認知度が決して高くはないことも課題です。地域ごとの相談支援体制の充実と医ケアや重度障害等の専門性を備えた相談支援事業所の支援を引き続き進めていく必要があります

また、委託相談支援事業所から、相談支援専門員の質の向上には相談支援専門員の人数が増えなければならないという意見が多く聞かれました。また、市役所等の関係機関との連携を強化したいという意見も多くありました。研修等を通じて質の向上に取り組むと共に、相談支援に取り組む事業所の支援が求められています。

健康・医療

1. アンケート調査結果

◇あなたはどのような医療的ケアを必要としていますか（問56）

服薬管理以外の医療的ケアを必要としている人は2割程度

全体で見ると、服薬管理以外の医療的ケアを必要としている人は2割程度いることがわかりました。年代別に見ると、児童では2割程度、成人では1割程度、高齢では3割近くが服薬管理以外の医療的ケアを必要としています。

◇障害の重度化予防のためにしていることやしたいことはありますか（問57）

定期的に病院に通うが最多。

すべての年代において、定期的に病院に通うが最多となりました。年代別に見ると、特にしていることやしたいことはないと回答している人の割合は、高齢になるほど少なくなり、健康の維持に対する認識が高まっていくことがわかります。

◇地域で自立した生活を続けていくためにどのような支援が必要ですか（問58）

困った時の相談や対応支援が全体の4割程度。

年代別に見ると、日中に通える場所と回答した人が児童で5割、成人で2割程度いる一方で、高齢では1割程度という結果となりました。児童において自宅を離れて泊まりながら、自立して生活できるように訓練する場所と支援が高く、特に高齢になると低くなりました。また、特に支援は必要ないと回答している人の割合が、高齢になるほど多くなっています。

2. 各種ヒアリング結果

◇障害関係団体ヒアリング

- ・障害高齢者のニーズに応じた移動手段や活動手段の確保。
- ・医療的ケア児への相談支援の充実。

◇委託相談支援事業所ヒアリング

- ・相談支援事業所は医療機関や地域包括支援センター等の関係機関との連携にはまだ課題が多いと思う。
- ・児童の医療的ケアの対応が可能な医療機関や障害福祉サービス事業所が市内に少ない。
- ・医療的ケアに対応できる相談支援事業所も同様に市内には少ない。

3. まとめ

◇アンケート結果から

- ・医療を利用するうえで困ったことは「待ち時間が長い」が最多。次いで「特にない」
- ・医療的ケアを必要としていない人が6割以上。必要と回答している人では「服薬管理」が2割以上で最多で、服薬管理以外の医療的ケアでは、「たんの吸引」が最多。
- ・障害の重度化予防のためにしている、したいことは「定期的に病院に通う」が5割以上。「食生活に気を付ける」「散歩」「簡単な運動」も多い。年代別に見ると、「していることやしたいことはない」と回答している人の割合が高齢になるほど多い。
- ・地域で自立した生活を続けていくためには「困った時の相談や対応支援」が最多。「特にない」と回答している人の割合が、高齢になるほど多い。
- ・高齢化に伴い不安なこととして、「面倒を見てくれる人がいない」が最多。高齢では「外出が難しい」と「特にない」が3割程度が多い。

◇各種ヒアリング結果から

- ・高齢者のニーズに応じた移動手段や活動手段の確保。
- ・医療機関や地域包括支援センター等の関係機関と相談支援事業所の連携。
- ・医療的ケアへの対応が可能な医療機関や事業所の不足。

4. 見えてくる課題

★地域での自立した生活のサポート

地域での自立した生活を続けていくために、個人ができるような簡単な運動を促すなど、障害の重度化予防、健康増進を進めていく必要があります。

また、高齢に伴い、外出が難しいという意見が多く聞かれたため、移動や活動を支援するなど、地域の中で孤立しないようなサポートが求められています。

★医療と福祉の連携強化

医療的ケアが必要な障害者に対してニーズに応じた支援が提供できるよう、研修を通じて専門性が高い職員の配置を支援することや事業所の増加に取り組む必要があります。

また、今後は医療的ケアが必要な障害者が増えていくと見込まれることから、医療機関及び地域包括支援センター等の他制度の関係機関との連携を強化していくことが必要となります。

安全・安心な生活環境

1. アンケート調査結果

◇災害が起きた時に支援してほしいことは何ですか（問65）

水の提供，食糧の提供が7割近く

次いで，生活必需品の提供が5割程度で続いています。年代別に見ると，児童は「避難所での配慮」，成人と高齢は「情報の提供」が多くなっています。

◇今後バリアフリーを進めていくうえで力を入れてほしい部分はどこですか（問66）

道路の整備が5割程度

次いで，公共交通の整備，公共機関の施設の整備が4割程度で続いています。

2. 各種ヒアリング結果

◇障害関係団体ヒアリング

- ・災害時の対応強化が必要。

◇委託相談支援事業所ヒアリング

- ・災害対策が大事。災害の内容によって必要なことが違う。
- ・市との連絡が取れなくとも，災害に備えて事業所がオートマチックに対応できるようにすることが重要。

3. まとめ

◇アンケート結果から

- ・災害時に近所に助けを求められる人は「いない」が6割程度。そのうち，自分一人で避難できると回答している人は5割程度。児童では一人で避難できないが8割以上。
- ・災害時に助けを求められるのは「近所に住む家族（同居を含む）」が5割程度。「隣近所の人」が4割以上で続いている。
- ・K-Netは「登録していない」が5割以上で，高齢になるほど多い。
- ・災害に備えていることは「水の備蓄」が5割以上。「特にない」も2割程度。
- ・災害時の支援として「水の提供」「食料の提供」が7割近く。

◇各種ヒアリング結果から

- ・災害時の対応強化が必要。
- ・市との連絡が取れなくとも，災害に備えて事業所がオートマチックに対応できるようにすることが重要。

4. 見えてくる課題

★災害時の体制整備

災害時における避難所での物資の提供や、障害ごとに避難所での対応について配慮を求める声が多くありました。令和元年の台風15号、19号では、電力や水の確保が課題となったことから、地域における防災拠点のあり方は大きな課題です。地震だけでなく、風水害等の様々な災害に対応できるような体制の整備が必要です。

また、防災福祉K-Netの普及啓発や、地域における協力体制の強化に加えて、防災に対する意識啓発を進めていく必要があります。

★バリアフリー化の推進

道路の整備や公共機関の整備を求める意見が多くありました。障害者だけでなく、誰もが利用しやすいようなあり方が引き続き課題となっています。

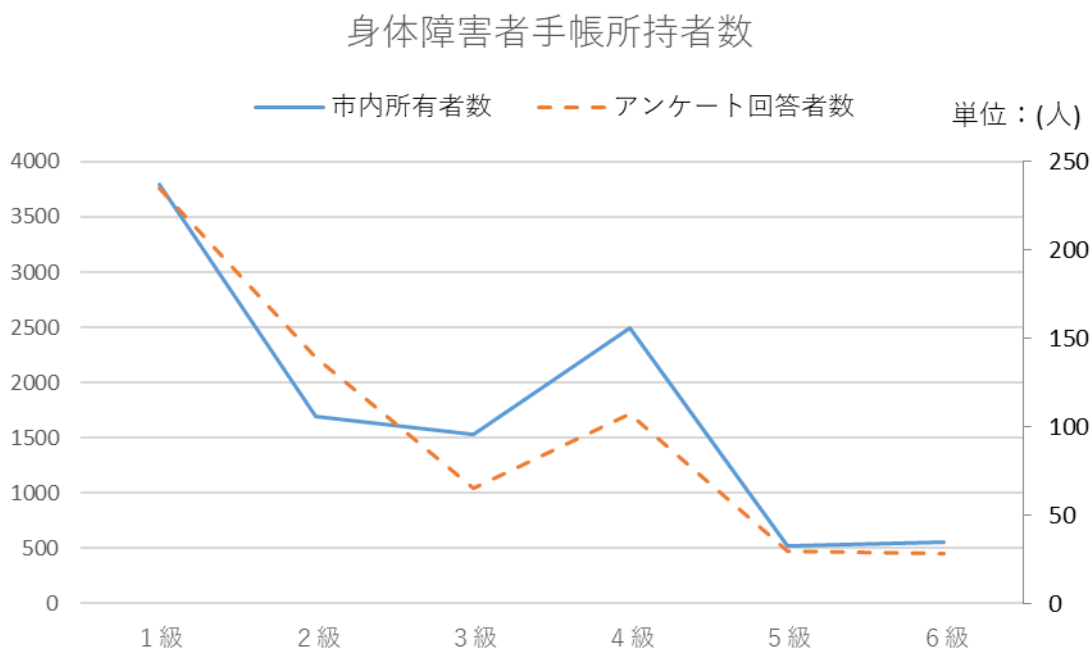
第 3 章 基礎調査結果のまとめ

Ⅲ. アンケート調査結果の検証

アンケート調査では約 3,500 名を対象に調査票を配布し、1,855 名の方から有効な回答を得ました。本項では、今回のアンケート調査で得られた回答者(以下、「アンケート回答者」)のうち、各障害者手帳を所持していると回答した方について本市の手帳所持者数との比較を行いました。詳細は次の通りです。

1. 身体障害者手帳

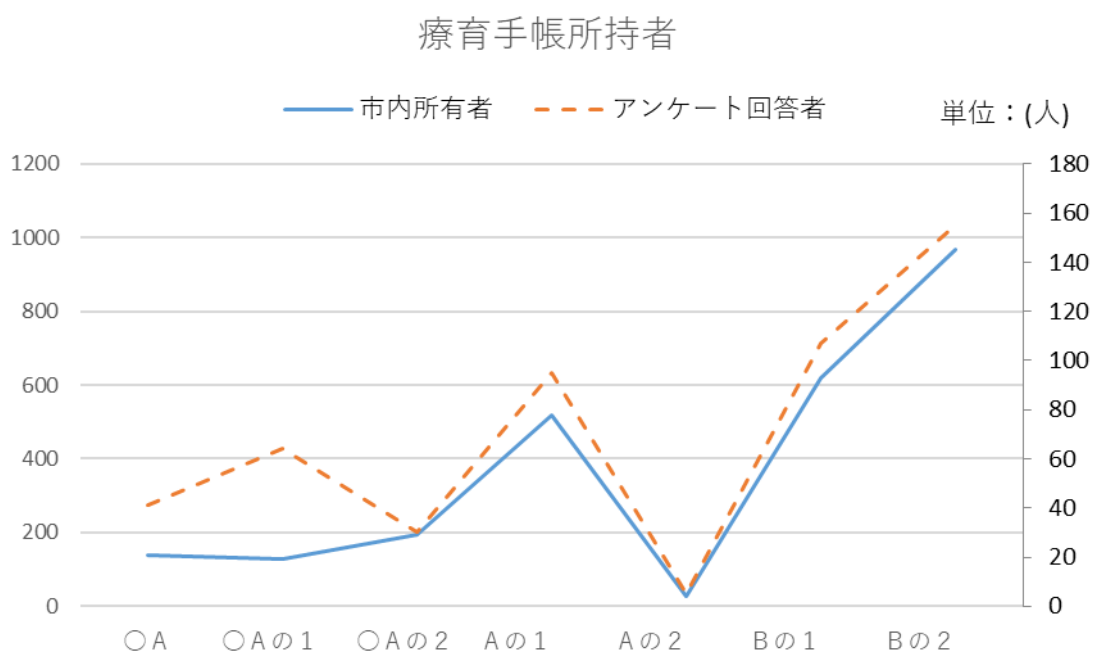
身体障害者手帳所持者について、「市内の所持者数（2019 年 12 月 11 日時点）」と「アンケート回答者のうち問 10 において身体障害者手帳を選択した方」の等級別割合を比較しました。市内の所持者に比べ、アンケート回答者は 2 級が回答者に占める割合が 7 ポイント多く、4 級が回答者に占める割合が 6 ポイント少ないことがわかりました。



2. 療育手帳

療育手帳所持者について、「市内の所持者数（2019年11月29日時点）」と「アンケート回答者のうち問10において療育手帳を選択した方」の等級別割合を比較しました。

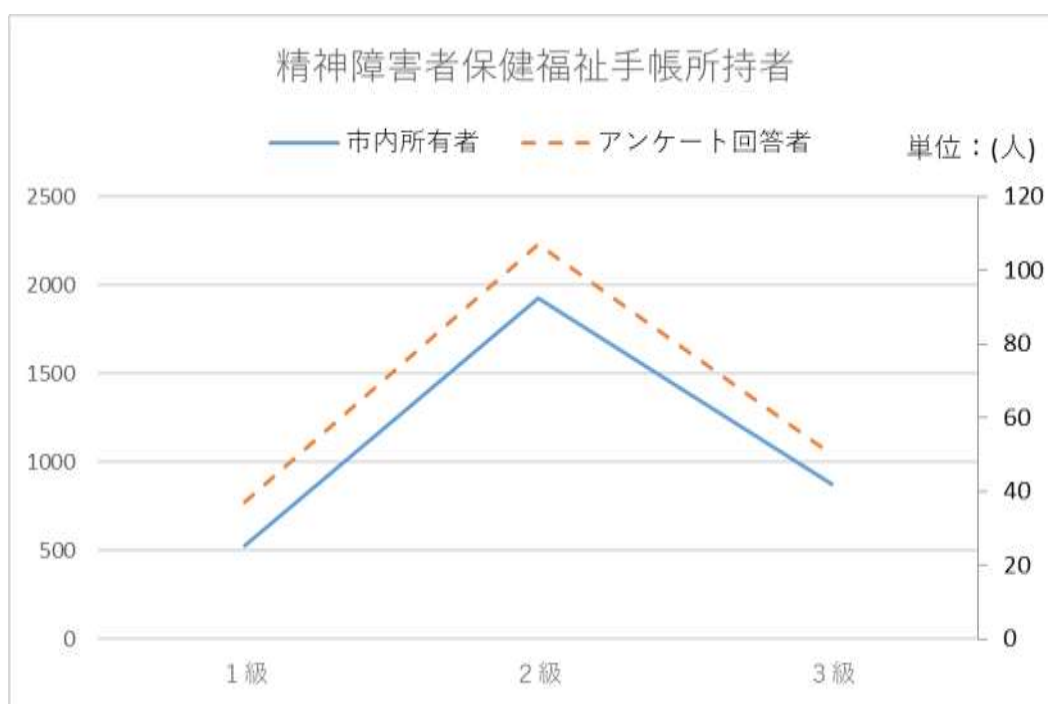
市内の所持者に比べ、アンケート回答者はBの2及び○Aの2が回答者に占める割合が若干少なく、○A及び○Aの1が回答者に占める割合が若干高いことがわかりました。傾向として、市内の所持者数とアンケート回答者の療育手帳所持者の等級別割合に大きな差異は認められませんでした。



3. 精神障害者保健福祉手帳

精神障害者保健福祉手帳所持者について、「市内の所持者数（2019年12月1日現在）」と「アンケート回答者のうち問10において精神障害者保健福祉手帳を選択した方」の等級別割合を比較しました。

市内の所持者に比べ、アンケート回答者は1級が回答者に占める割合が4ポイント高く、2級が回答者に占める割合が2ポイント低いことがわかりました。傾向として、市内の所持者数とアンケート回答者の精神障害者保健福祉手帳の等級別割合に大きな差異は認められませんでした。



Ⅳ. アンケート調査結果詳細

1. 質問項目一覧

各柱に関する質問は下記のとおりです。

ご本人のことについて	問 1. 回答を記入していただく方はどなたですか。
	問 2. あなたは何歳ですか（2019年4月1日現在）
	問 3. あなたの性別をお答えください。
	問 4. 昼間に主に通っているところはどこですか（複数回答）。
	問 5. あなたがお住いの地域はどちらですか。次の4つのエリアからひとつえらんでください。
	問 6. どこで生活していますか。
	問 7. (問6で「1.自宅」と答えた方にお伺いします。) 誰と一緒に暮らしていますか（複数回答）。
	問 8. (問6で「1.自宅」と答えた方にお伺いします。) 主に介護や支援をしている人はどなたですか。
障害の状況	問 9. 障害の種類は何ですか（複数回答）。
	問 10. 障害者手帳や以下の受給者証をお持ちですか（該当する番号と等級を選択）
	問 11. 障害福祉サービス受給者証をお持ちですか（該当する番号と区分を選択）。
	問 12. (40歳以上の方に伺います) 介護保険の要介護認定を受けていますか（該当する番号と区分を選択）。
情報提供の充実・障害理解・差別解消	問 13. 市等の情報提供を充実させるためにはどのようなことが必要だと思いますか（複数回答）。
	問 14. 障害者差別解消法を知っていますか。
	問 15. 差別を受けたり嫌な思いをする（した）ことがありますか。
	問 16. (問15で「1. よくある」、「2. ときどきある」、「3. ごくまれにある」と答えた方のみお答えください) どのような場所や場面で差別や嫌な思いをしましたか（複数回答）。
	問 17. 障害の有無にかかわらず、全ての人が差別や偏見を持たずに暮らしていくには、どのようなことが必要だと思いますか（複数回答）。
暮らしを支えるサービス	問 18. 障害福祉サービスを利用したことがありますか。
	問 19. (問18で「2. ある」と答えた方に伺います) 現在利用している障害福祉サービスの満足度について教えてください（使ったことがあるサービスをえらんでください）。使ったことがあるサービスの満足度を5段階で評価してください。
	問 20. 今後どのようなサービスを利用したいですか（複数回答）。

暮らしを支えるサービス	問 21. 将来どこで暮らしたいですか（複数回答）。17 歳以下のお子さん（児童）は成人した時のことを、18 歳以上の成人の方は将来の目標についてお考えください。
	問 22.（問 21 で「1. 自宅（家族や親族と同居）」と答えた方のみお答えください）将来、親や親族が病気などで一緒に生活できなくなった時は、どのような生活を希望しますか。
	問 23.（問 21 で「4. グループホーム」と答えた方のみお答えください）いつ施設を利用したいですか。
	問 24 . 短期入所（ショートステイ）のサービスを利用したことがありますか。
	問 25.（問 24 で「2. ある」と答えた方のみお答えください）短期入所（ショートステイ）のサービスを利用したことがある方はどのような目的で利用しましたか（複数回答）。
	問 26. 外出する際はどのような手段を使いますか（複数回答）。
	問 27. 外出するために必要だと思うことは何ですか（複数回答）。
こども 小学校入学前 （乳幼児期）	問 28. 小学校入学前のお子さんのことで、現在悩んでいることや困っていることは何ですか（複数回答）。
	問 29. お子さんについての悩みや困っていることをどこかに相談しましたか。
	問 30.（問 29 で「2.相談した」と答えた方のみお答えください） お子さんについての悩みや困っていることをどこに相談しましたか（複数回答）。
	問 31.（問 29 で「2.相談した」と答えた方のみお答えください）相談に至ったきっかけは何ですか（複数回答）。
	問 32.（問 29 で「2.相談した」と答えた方のみお答えください）利用している相談先に関して評価していることはありますか（複数回答）。
	問 33.（問 29 で「2.相談した」と答えた方のみお答えください）利用している相談先に関する不満はありますか（複数回答）。
	問 34. 今後充実してほしい支援・サービスは何ですか（複数回答）。
こども 小学校入学後 （学齢期）	問 35. 学校生活で困った、困っていることはありますか（複数回答）。
	問 36. 学齢期に子育てをするうえでどのようなことに不安がありますか（複数回答）。
	問 37. 学齢期に子育てをするうえでどんな援助を希望しますか（複数回答）。
こども 高等部（または高等学校）在学者	問 38. 学校卒業後、どんな進路を希望していますか。
	問 39. 学校卒業後、どんな支援を希望しますか（複数回答）。

就労・社会参加	問 40. 収入源は何ですか（複数回答）。
	問 41. 現在、仕事に就いていますか。
	問 42. (問 41 で仕事に「3.就いている(福祉的就労)」,「4.就いている(一般就労)」と答えた方のみお答えください) 仕事内容は何ですか。
	問 43. (問 41 で仕事に「3.就いている(福祉的就労)」,「4.就いている(一般就労)」と答えた方のみお答えください) 賃金・工賃は平均でいくらですか（月額でお答えください）。
	問 44. (問 41 で仕事に「1.就いていない」,「2.就職活動中」と答えた方のみお答えください) 就労することが難しい, または就労をしていない理由は何ですか（複数回答）。
	問 45. (問 41 で仕事に「1.就いていない」,「2.就職活動中」と答えた方のみお答えください) 今後, 働きたいですか。
	問 46. (問 41 で仕事に「1.就いていない」,「2.就職活動中」と答えた方のみお答えください) どこで働きたいですか（複数回答）。
	問 47. (問 41 で仕事に「1.就いていない」,「2.就職活動中」と答えた方のみお答えください) 希望する仕事内容は何ですか（複数回答）。
	問 48. (問 41 で仕事に「1.就いていない」,「2.就職活動中」と答えた方のみお答えください) 就職するために必要だと思うことは何ですか（複数回答）。
	問 49. 長期的に働くためにはどのようなことが必要ですか（複数回答）。
	問 50. 今後社会参加するとしたら, どんな活動に参加したいですか(複数回答)。
相談体制	問 51. 社会参加するに当たってどのようなことが必要ですか（複数回答）。
	問 52. 主に相談したい内容は何ですか（複数回答）。
	問 53. 主に誰（どこ）に相談していますか（複数回答）。
健康・医療	問 54. あなたが必要な時に気軽に相談するためにどのようなことが必要だと思いますか（複数回答）。
	問 55. 医療を利用するうえで困ったことはありますか（複数回答）。
	問 56. あなたはどのような医療的ケアを必要としていますか（複数回答）。
	問 57. 障害の重度化予防のために何かしていることや, これからしたいことはありますか（複数回答）。
	問 58. あなたが地域で自立した生活を続けていくためには, どのような支援が必要ですか（複数回答）。
	問 59. 高齢化に伴い不安なことはありますか（複数回答）。

安全・安心な生活環境	問 60. 災害時に近所に助けを求められる人はいますか。
	問 61. (問 60 で「1. いない」と答えた方のみお答えください。) 自分一人で避難することはできますか。
	問 62. (問 60 で「2. いる」と答えた方のみお答えください。) 助けを求められる人は誰ですか (複数回答)。
	問 63. K - N e t に登録していますか。
	問 64. 災害に備えていることはありますか (複数回答)。
	問 65. 災害が起きた時に支援してほしいことは何ですか (複数回答)。
	問 66. 今後バリアフリー化を進めていくうえで力を入れてほしい部分はどこですか (複数回答)。
全体を通して	問 67. 柏市の資源や財源は限られており, 特に必要な取組みから優先して実施していかねばなりません。今後, 柏市の障害福祉の取組みについて, 特に優先して力を入れてほしいものは何ですか (5 つまで選択)。
	問 68. 全体を通して, また, 親や介護者の立場として何かご意見があればご自由に記入してください。

2. 報告書を見る際の留意点

- 回答は各質問の回答者数 (n) を基数とした百分率 (%) で示しています。
- 回答の比率 (%) は, 各設問の回答者数を母数として算出しているため, 複数回答の設問については, 選択肢ごとの比率を合計すると 100%を超えることがあります。
- 回答の比率 (%) は, 小数点以下第 2 位を四捨五入しているため, 属性ごとの回答比率の合計が 100%にならないことがあります。
- 「児童」は17歳以下, 「成人」は18～64歳, 「高齢者」は65歳以上を指します。
- 割合の表記は, 4 割「近く」は37～39%, 4 割「以上」は40～46%, 4 割「程度」は 37～43%を指します。
- クロス集計分析にあたっては, 原則として, 属性ごとの母数が有効回答数の 1 割以上あるものについて傾向を記載しています。
- 障害種別の集計表の合計数については, 重複して障害を持っている方はそれぞれの障害でもカウントするため, 全体の合計数にならない場合があります。
- 設問ごとに前回調査の結果と比較している場合があります。この前回調査とは, 2017 年度に実施した「障害者計画策定のためのアンケート調査」を指します。
- 問68の自由記述は, 代表的な回答を抜粋し概要を記載しています。

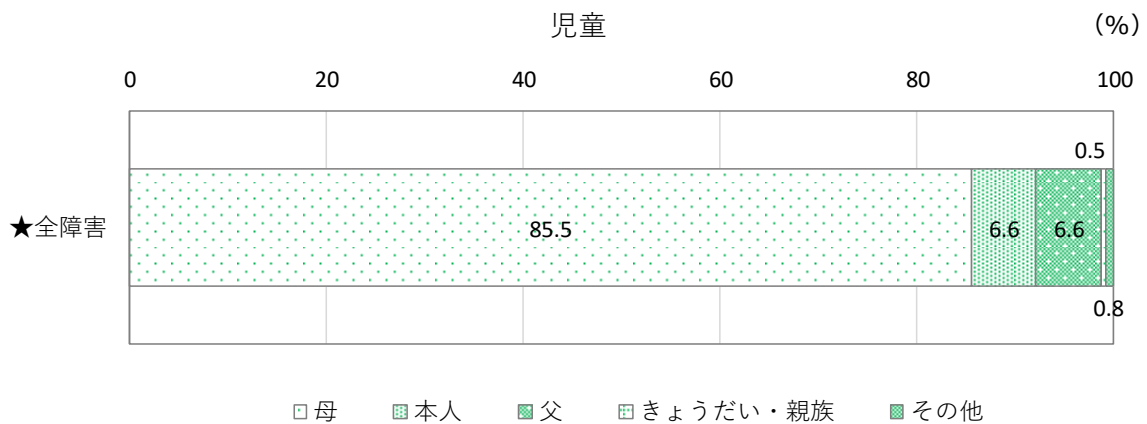
3. 各質問項目の回答結果

ご本人のことについて

問1. 回答を記入していただく方はどなたですか（○はひとつ）。※ご本人以外が記入する場合は、基本的には、ご本人の立場になってお答えください。

【児童】

児童全体では、「母」が最も多く8割以上となっています。

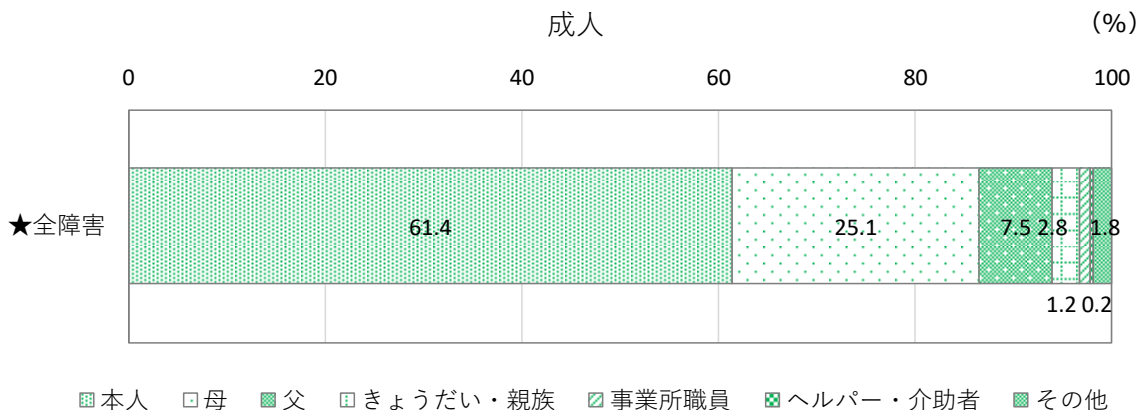


(単位：%)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	379	3	13	33	241	170	8	1	20	22	23	28
母	85.5	100.0	92.3	84.8	88.8	87.6	87.5	100.0	80.0	86.4	95.7	75.0
本人	6.6	0.0	7.7	3.0	4.1	5.3	0.0	0.0	15.0	9.1	0.0	17.9
父	6.6	0.0	0.0	12.1	5.8	5.9	12.5	0.0	5.0	4.5	4.3	3.6
きょうだい・親族	0.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
事業所職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパー・介助者	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知人・友人	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6

【成人】

成人全体では、「本人」が最も多く6割程度となっており、特に難病、精神障害で多くなっています。一方、知的障害と発達障害は「母」が最も多くなっています。

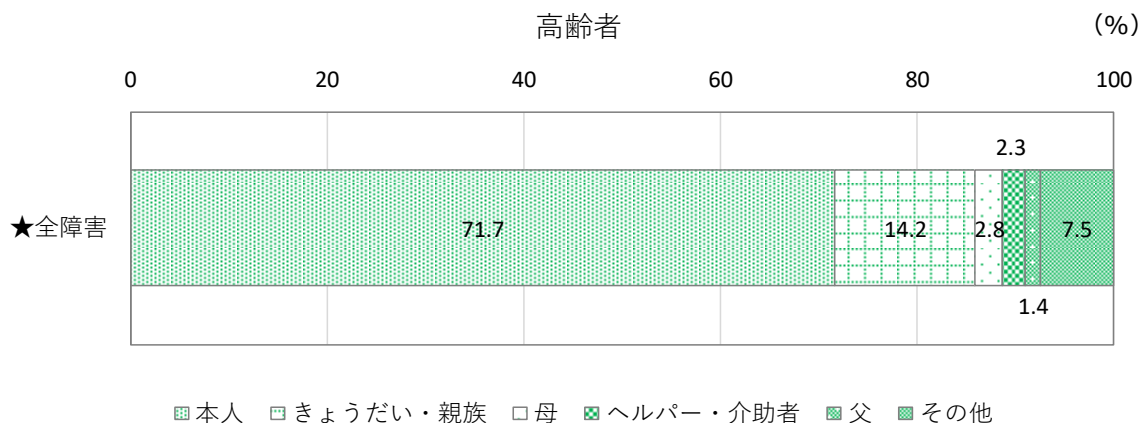


(単位：％)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数 (人)	830	35	58	107	283	96	274	16	33	110	21	37
本人	61.4	48.6	65.5	49.5	23.7	40.6	77.7	68.8	81.8	86.4	85.7	73.0
母	25.1	37.1	20.7	36.4	54.4	42.7	12.0	6.3	18.2	8.2	14.3	16.2
父	7.5	2.9	5.2	6.5	14.5	16.7	4.0	0.0	0.0	0.9	0.0	2.7
きょうだい・親族	2.8	0.0	5.2	2.8	3.9	0.0	3.3	12.5	0.0	0.9	0.0	0.0
事業所職員	1.2	2.9	1.7	0.9	2.5	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパー・介助者	0.2	0.0	0.0	1.9	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0
知人・友人	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1.8	8.6	1.7	1.9	0.7	0.0	1.8	12.5	0.0	2.7	0.0	8.1

【高齢者】

高齢者全体についても、「本人」が最も多く7割程度となっており、特に聴覚障害、内部機能障害では8割を超えています。

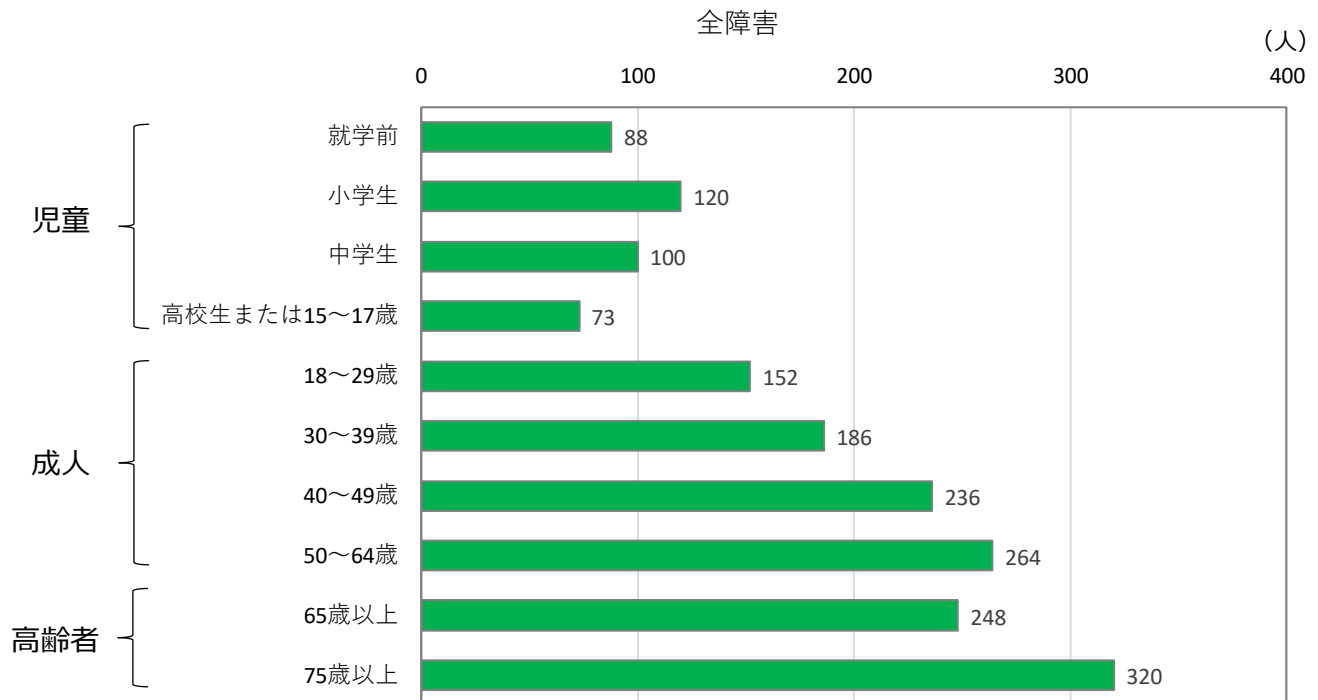


(単位：％)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	562	55	74	154	14	4	59	9	136	115	18	42
本人	71.7	41.8	83.8	70.1	21.4	25.0	54.2	44.4	82.4	74.8	72.2	76.2
きょうだい・親族	14.2	21.8	9.5	16.2	21.4	0.0	16.9	33.3	7.4	18.3	27.8	14.3
母	2.8	0.0	0.0	1.9	28.6	25.0	16.9	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
ヘルパー・介助者	2.3	12.7	1.4	1.9	0.0	0.0	1.7	0.0	2.9	1.7	0.0	0.0
父	1.4	0.0	0.0	0.0	21.4	50.0	5.1	0.0	0.7	0.0	0.0	2.4
事業所職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知人・友人	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7.5	23.6	5.4	9.7	7.1	0.0	5.1	22.2	5.9	5.2	0.0	7.1

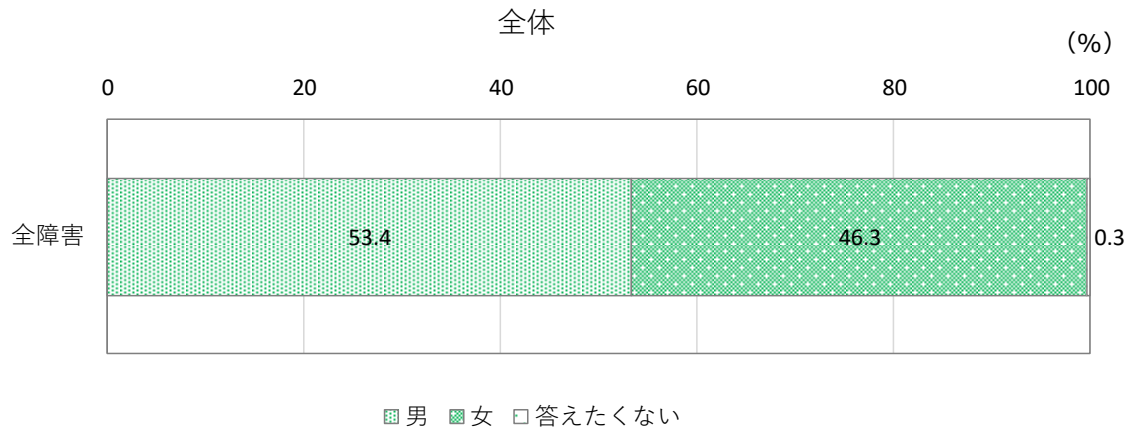
問2. あなたは何歳ですか（2019年4月1日現在）（宛名のご本人についてお答えください）。

「成人」（18～64歳）が最も多く4割以上、次いで、「高齢者」（65歳以上）が3割程度、「児童」（17歳以下）は2割程度となっています。

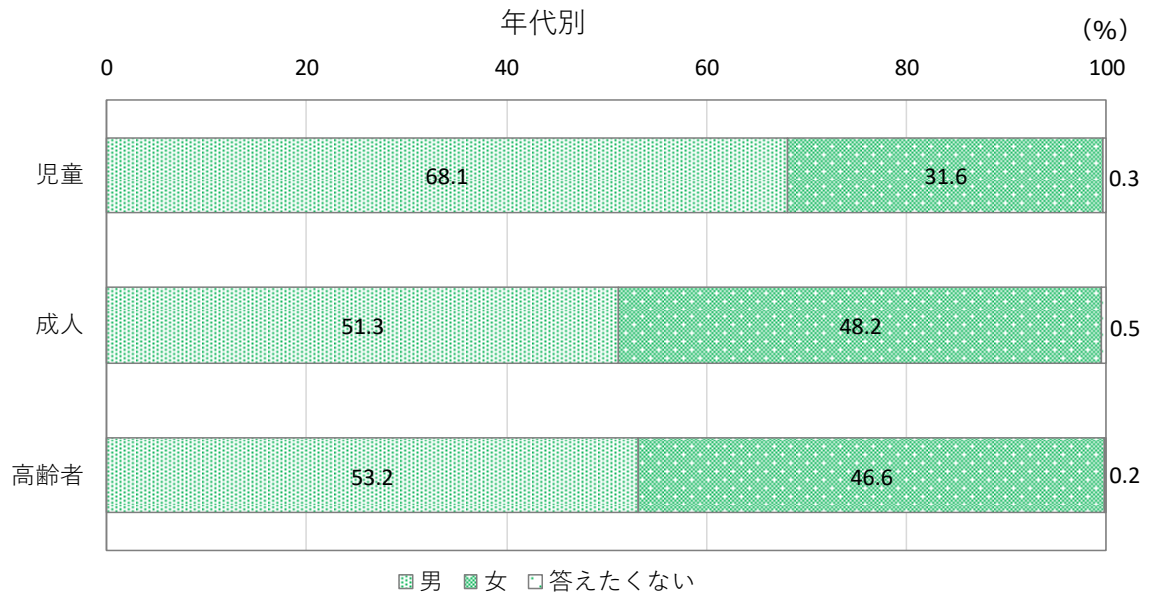


問3. あなたの性別をお答えください（○はひとつ）。

「男性」が5割以上となり、「女性」より多くなっています。



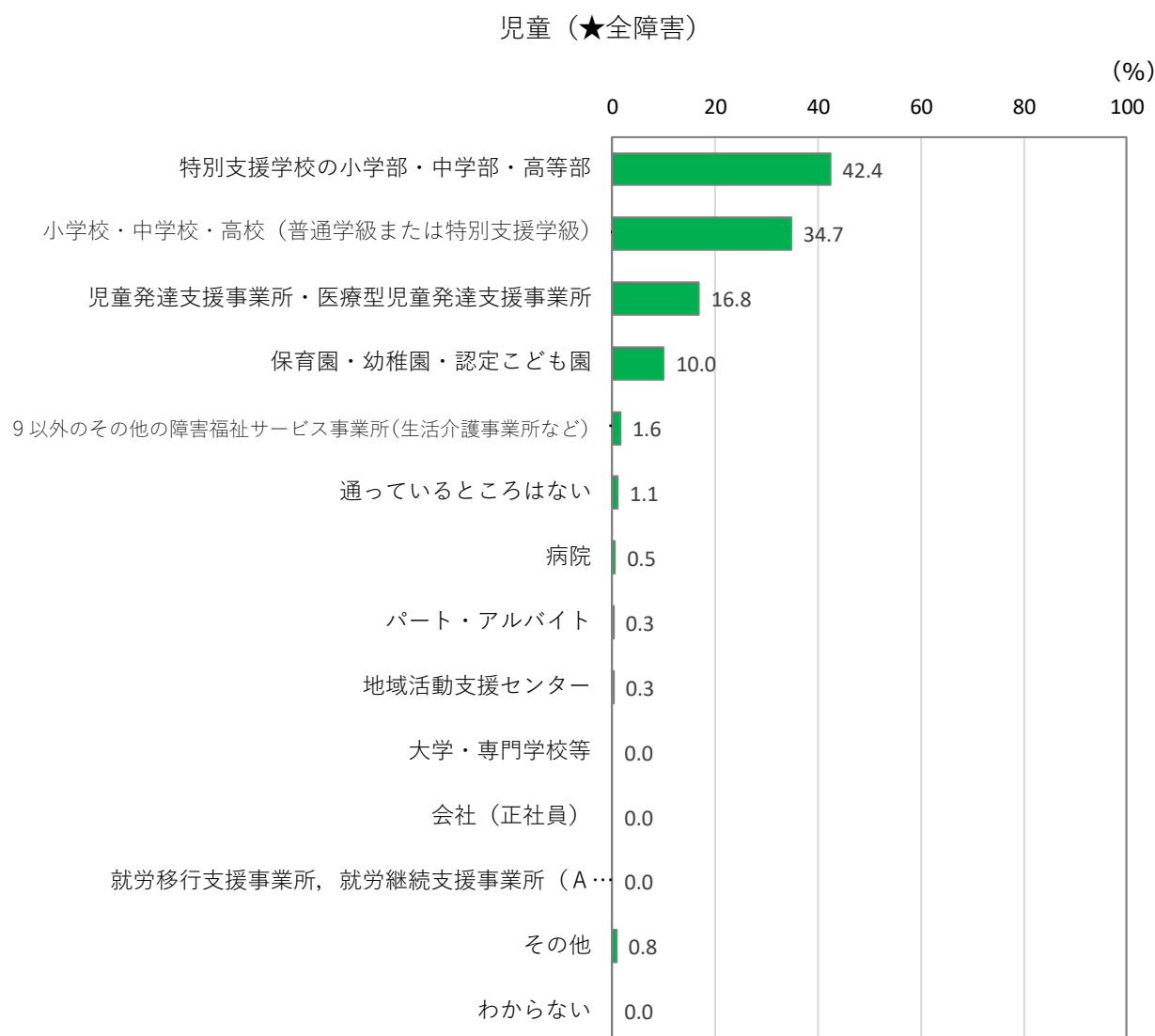
年代別にみると、児童は「男性」が最も多く7割近く、成人では「男性」と「女性」がそれぞれ半数程度、高齢者は「女性」が5割以上となっています。



問4. 昼間に主に通っているところはどこですか（○はいくつでも）。

【児童】

「特別支援学校の小学部・中学部・高等部」が4割以上で最も多く、次いで「小学校・中学校・高校（普通学級または特別支援学級）」が3割以上となっています。



(単位：%)

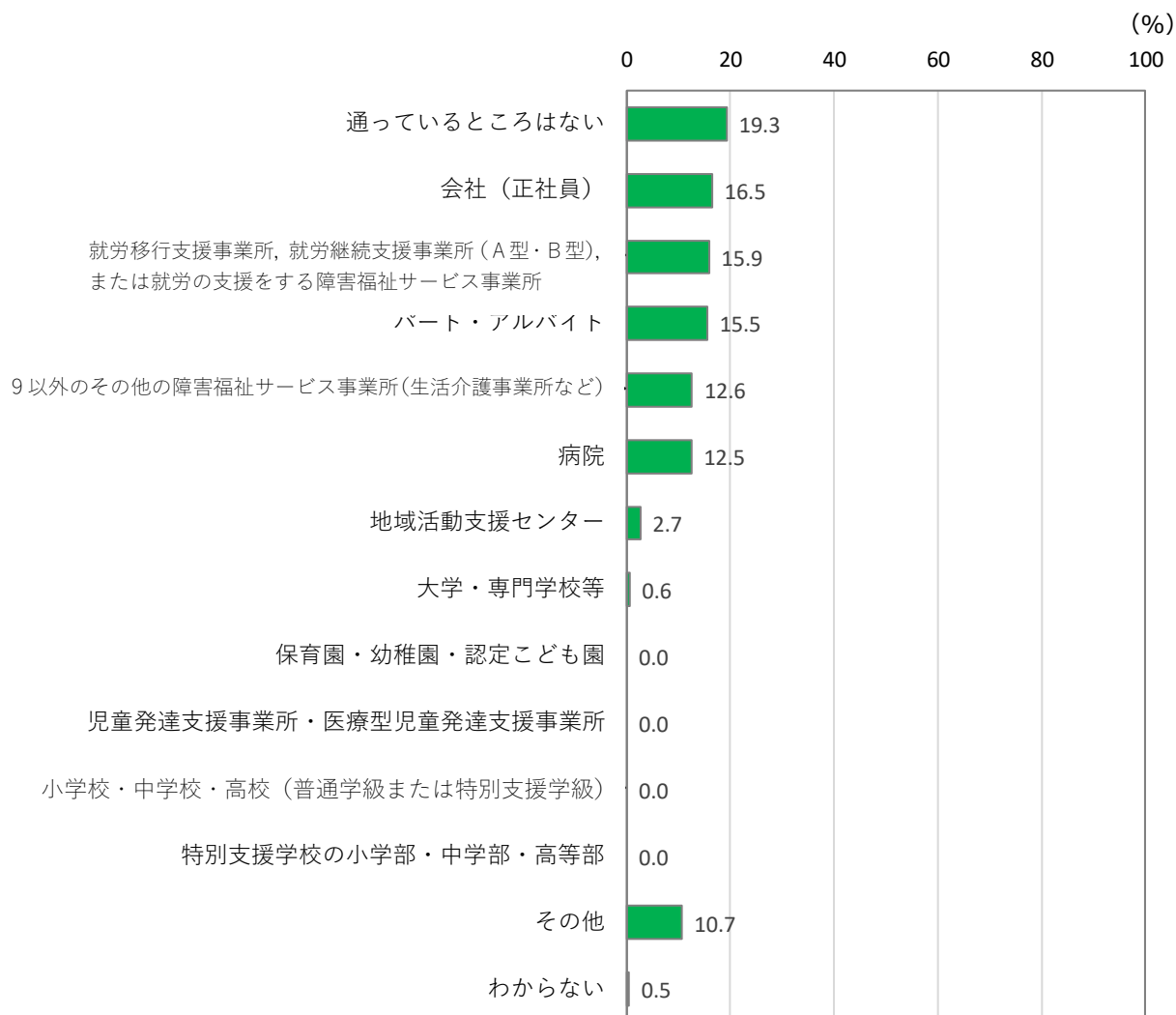
児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	380	3	13	33	242	170	8	1	20	22	23	28
特別支援学校の小学部・中 学部・高等部	42.4	66.7	76.9	57.6	58.3	41.8	37.5	0.0	25.0	31.8	0.0	17.9
小学校・中学校・高校（普通学 級または特別支援学級）	34.7	33.3	7.7	12.1	28.5	35.3	62.5	100.0	30.0	45.5	52.2	32.1
児童発達支援事業所・医療 型児童発達支援事業所	16.8	0.0	15.4	30.3	13.2	21.8	0.0	0.0	10.0	9.1	21.7	32.1
保育園・幼稚園・ 認定こども園	10.0	0.0	0.0	6.1	3.3	8.8	0.0	0.0	10.0	13.6	34.8	32.1
9以外のその他の障害福祉サー ビス事業所（生活介護事業所など）	1.6	0.0	7.7	3.0	2.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通っているところはない	1.1	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	0.0	3.6
病院	0.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
パート・アルバイト	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
地域活動支援センター	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
大学・専門学校等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
会社（正社員）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援事業所、就労継続支 援事業所（A型・B型）、または就労の支援 をする障害福祉サービス事業所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	12.5	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【成人】

「通っているところはない」が最も多く2割近くとなっています。通っている場所としては「会社（正社員）」「パート・アルバイト」（合計3割程度）が、「就労移行支援事業所、就労継続支援事業所」や「その他の障害福祉サービス事業所」（合計3割近く）より多くなっています。

「その他」の回答は、契約社員や自営を含む「就労」や「デイサービス」などがありました。

成人（★全障害）



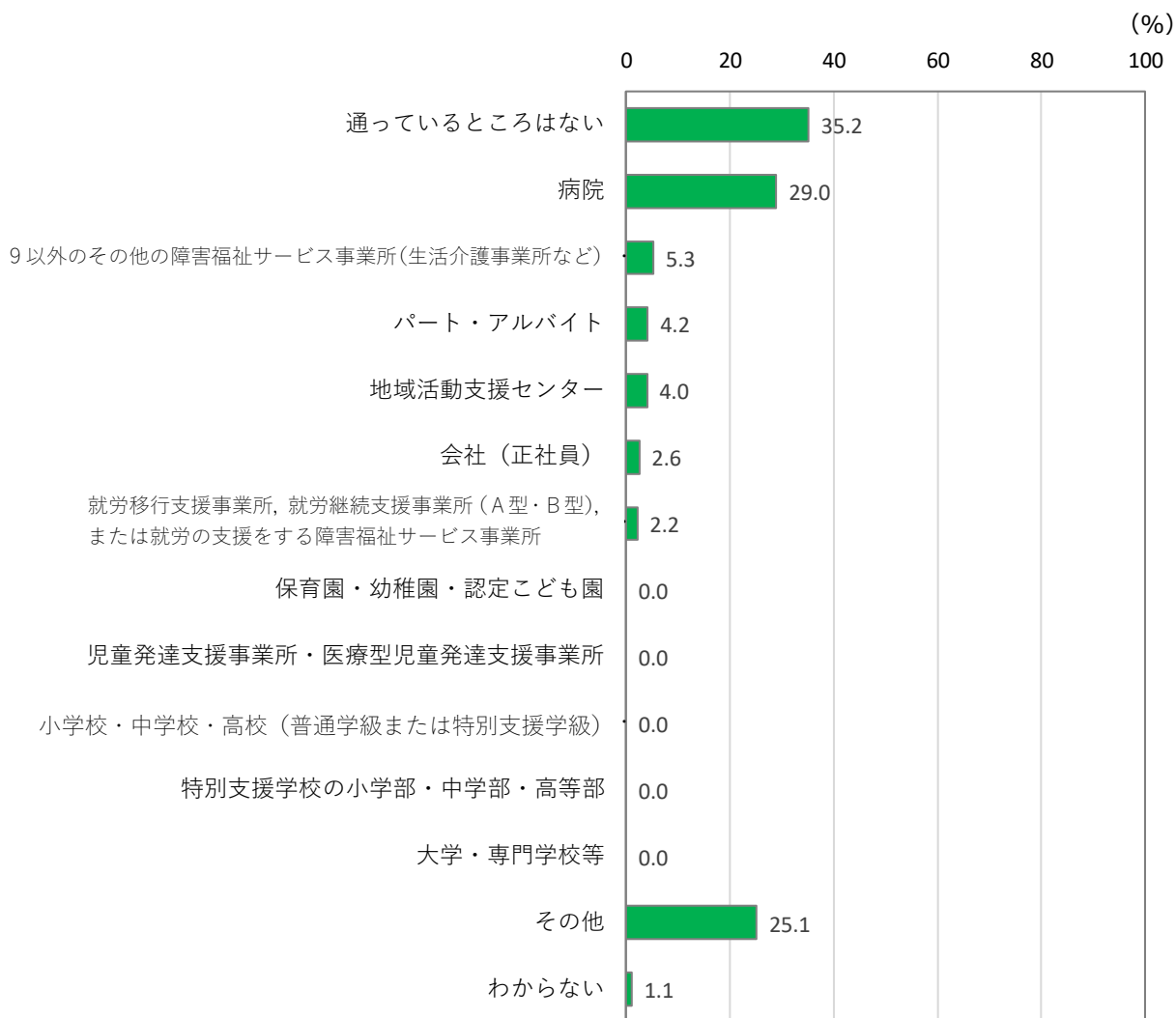
(単位：%)

成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	825	35	57	104	283	97	270	15	33	109	21	37
通っているところはない	19.3	25.7	19.3	22.1	6.4	13.4	25.6	33.3	21.2	28.4	38.1	21.6
会社（正社員）	16.5	11.4	24.6	15.4	8.8	12.4	12.2	13.3	33.3	32.1	23.8	16.2
就労移行支援事業所，就労継続支援事業所（A型・B型），または就労の支援をする障害福祉サービス事業所	15.9	22.9	7.0	7.7	31.1	28.9	9.6	20.0	6.1	3.7	4.8	2.7
パート・アルバイト	15.5	2.9	12.3	6.7	14.8	15.5	15.6	0.0	15.2	14.7	23.8	13.5
9以外のその他の障害福祉サービス事業所（生活介護事業所など）	12.6	28.6	14.0	32.7	29.7	14.4	4.1	6.7	9.1	6.4	0.0	8.1
病院	12.5	2.9	10.5	6.7	3.9	4.1	25.6	20.0	21.2	9.2	4.8	27.0
地域活動支援センター	2.7	0.0	0.0	1.0	1.8	2.1	4.8	13.3	0.0	0.9	0.0	2.7
大学・専門学校等	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.7	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0
保育園・幼稚園・認定こども園	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
児童発達支援事業所・医療型児童発達支援事業所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学校・中学校・高校（普通学級または特別支援学級）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別支援学校の小学部・中学部・高等部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	10.7	11.4	15.8	12.5	6.7	13.4	13.0	13.3	0.0	9.2	4.8	18.9
わからない	0.5	0.0	1.8	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7

【高齢者】

「通っているところはない」が3割以上で最も多く、次いで「病院」となっています。「その他」の回答は、「デイサービス」などがありました。

高齢者（★全障害）

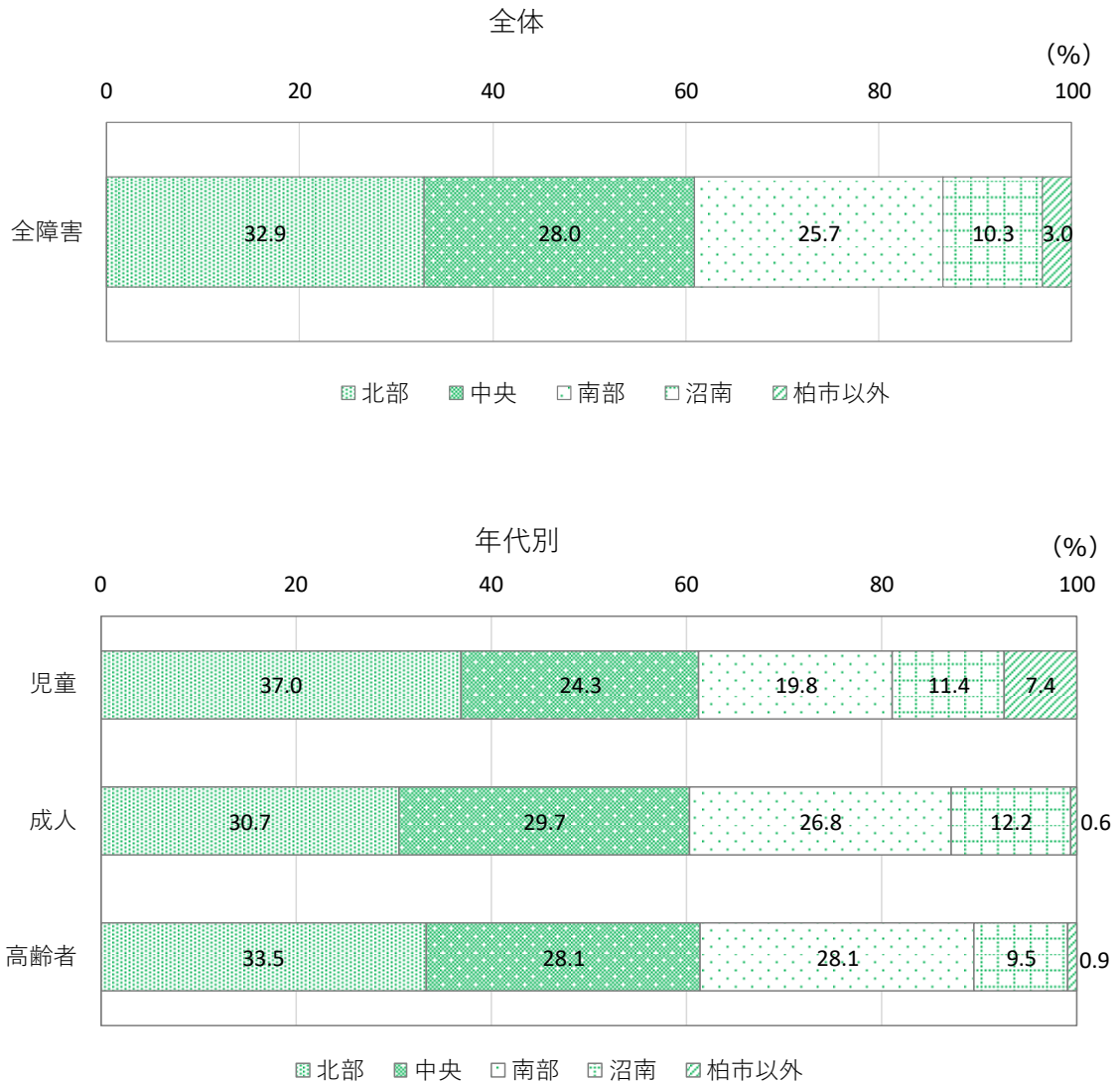


(単位：%)

高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	549	55	70	151	14	4	59	8	130	112	18	42
通っているところはない	35.2	40.0	41.4	31.8	7.1	25.0	40.7	12.5	32.3	37.5	38.9	21.4
病院	29.0	20.0	24.3	27.2	21.4	25.0	30.5	25.0	37.7	29.5	38.9	26.2
9以外のその他の障害福祉サービス事業所（生活介護事業所など）	5.3	9.1	8.6	10.6	28.6	0.0	3.4	0.0	2.3	2.7	5.6	4.8
パート・アルバイト	4.2	1.8	0.0	4.0	7.1	0.0	3.4	0.0	3.1	6.3	5.6	4.8
地域活動支援センター	4.0	9.1	7.1	2.0	0.0	0.0	1.7	12.5	3.8	5.4	5.6	0.0
会社（正社員）	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	2.7	0.0	2.4
就労移行支援事業所、就労継続支援事業所（A型・B型）、または就労の支援をする障害福祉サービス事業所	2.2	1.8	0.0	0.7	28.6	50.0	6.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
保育園・幼稚園・認定こども園	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
児童発達支援事業所・医療型児童発達支援事業所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学校・中学校・高校（普通学級または特別支援学級）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別支援学校の小学部・中学部・高等部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大学・専門学校等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	25.1	23.6	27.1	30.5	14.3	0.0	16.9	37.5	23.8	25.9	22.2	45.2
わからない	1.1	1.8	1.4	0.7	0.0	0.0	1.7	12.5	0.8	0.0	0.0	2.4

問5. あなたがお住いの地域はどちらですか（○はひとつ）。

「北部」が3割以上で最も多く、次いで「中央」が3割近く、「南部」が2割以上となっています。いずれの年代も同様の傾向ですが、児童は「柏市以外」が1割近くとなっています。



《参考》本質問におけるエリアの分類

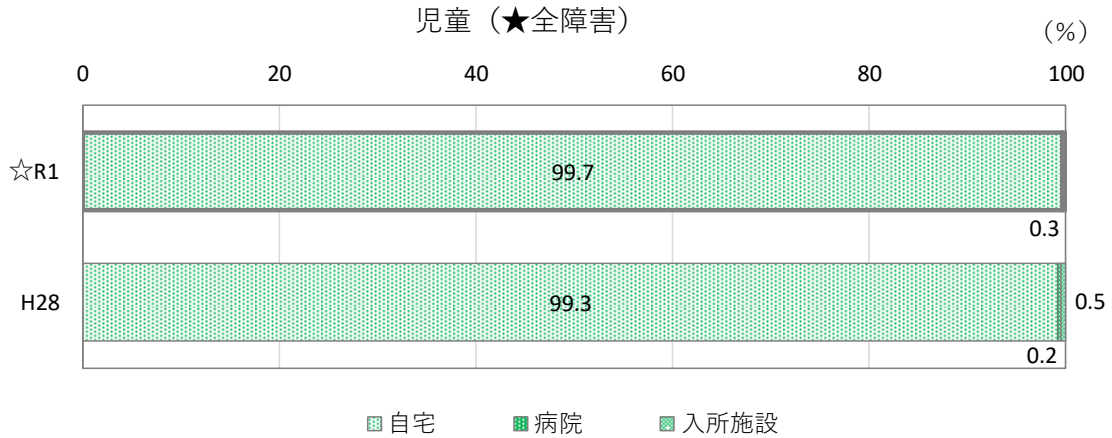
1. 北部	田中, 西原, 富勢, 松葉, 高田, 松ヶ崎等
2. 中央	豊四季台, 新富, 旭町, 柏中央, 新田原, 富里, 永楽台等
3. 南部	増尾, 南部, 藤心, 光ヶ丘, 酒井根等
4. 沼南	手賀, 風早北部, 風早南部等
5. 柏市以外	柏市以外にお住いの方

問6. どこで生活していますか（○はひとつ）。

【児童】

児童全体では、ほとんどの人が「自宅」で生活しています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

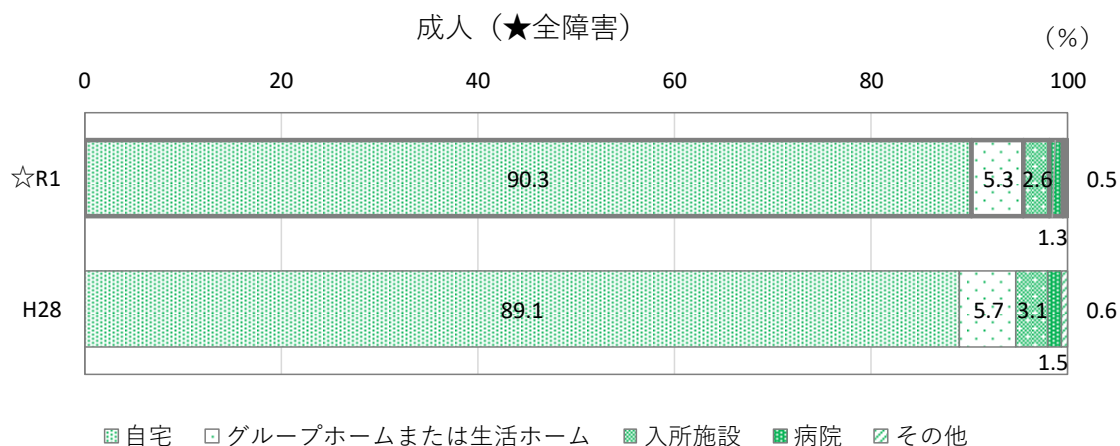


（単位：％）

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数（人）	380	3	13	33	242	171	8	1	19	22	23	28
自宅	99.7	100.0	100.0	100.0	99.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
病院	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入所施設	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホームまたは生活ホーム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【成人】

成人全体では、「自宅」で生活している人が9割程度となっています。知的障害と発達障害は、「グループホームまたは生活ホーム」が1割程度で他の障害と比べて多くなっています。前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



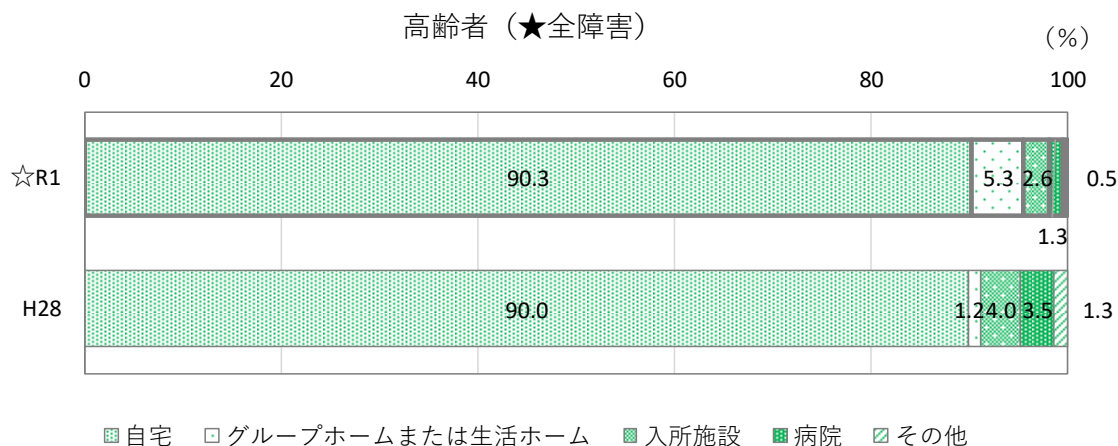
(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	837	35	59	108	287	98	274	16	33	110	21	38
自宅	90.3	91.4	93.2	85.2	79.1	89.8	92.7	87.5	97.0	99.1	100.0	94.7
グループホームまたは生活ホーム	5.3	0.0	1.7	3.7	11.5	8.2	4.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
入所施設	2.6	8.6	3.4	7.4	6.6	0.0	0.7	12.5	0.0	0.0	0.0	2.6
病院	1.3	0.0	1.7	1.9	2.1	2.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
その他	0.5	0.0	0.0	1.9	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0

【高齢者】

高齢者全体についても、「自宅」で生活している人が9割程度となっています。精神障害は「病院」が1割で他の障害と比べて多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

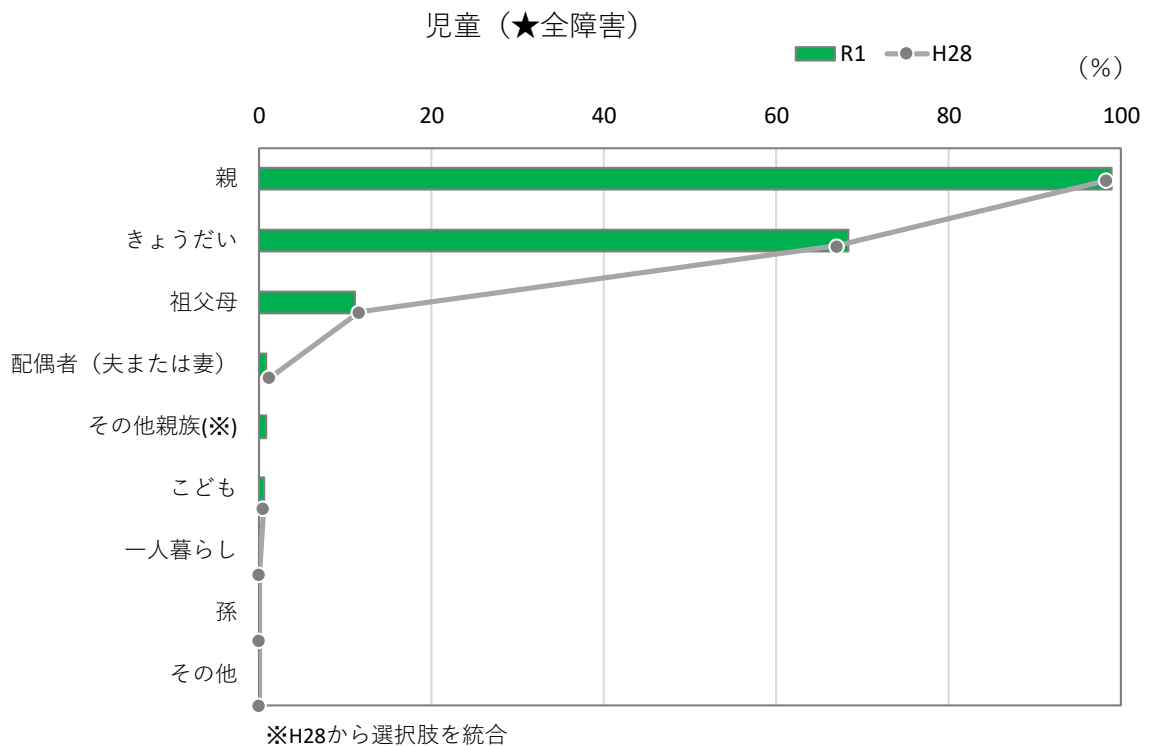
高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	567	57	73	154	14	4	60	9	136	117	18	42
自宅	89.8	89.5	91.8	85.7	64.3	50.0	80.0	77.8	94.1	88.9	94.4	95.2
入所施設	4.6	3.5	2.7	7.1	14.3	0.0	5.0	22.2	2.2	6.8	5.6	0.0
病院	2.6	1.8	1.4	3.2	7.1	0.0	10.0	0.0	2.9	3.4	0.0	0.0
グループホームまたは生活ホーム	1.8	0.0	0.0	2.6	14.3	50.0	1.7	0.0	0.7	0.0	0.0	2.4
その他	1.2	5.3	4.1	1.3	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.9	0.0	2.4

問7. (問6で「1. 自宅」と答えた方にお伺いします。) 誰と一緒に暮らしていますか (〇はいくつでも)。

【児童】

児童全体では、ほとんどの人が「親」と暮らしており、「きょうだい」と暮らしている人は7割近くになっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



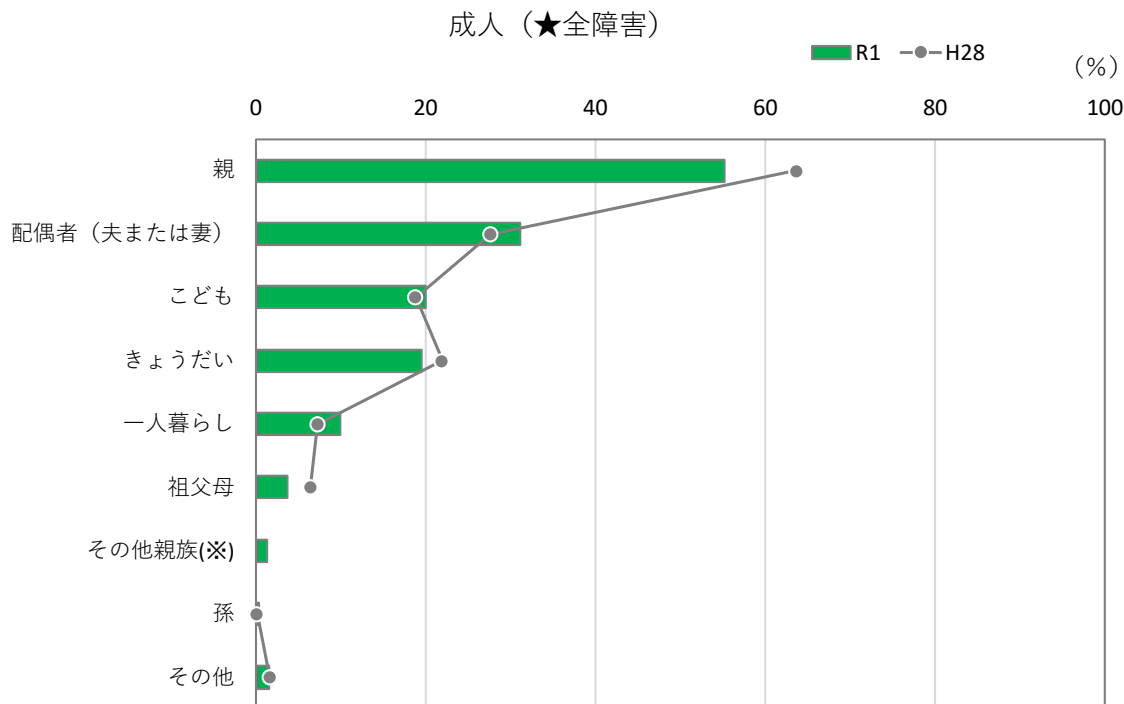
(単位：%)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他
有効回答数 (人)	377	3	13	33	241	170	8	1	19	22	23	27
親	98.9	100.0	100.0	100.0	100.0	99.4	100.0	100.0	94.7	100.0	95.7	96.3
きょうだい	68.4	100.0	76.9	78.8	72.6	70.0	87.5	100.0	63.2	72.7	65.2	51.9
祖父母	11.1	0.0	15.4	3.0	12.4	10.0	12.5	100.0	10.5	9.1	13.0	14.8
配偶者 (夫または妻)	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	4.3	3.7
その他親族	0.8	0.0	7.7	0.0	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
こども	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	8.7	0.0
一人暮らし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
孫	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【成人】

成人全体についても、「親」と暮らしている人が5割以上、次いで「配偶者」が3割程度、「こども」と「きょうだい」がそれぞれ2割程度となっています。特に、知的障害と発達障害は「親」と暮らしている人が8割以上で、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べると、「親」と暮らしている人が約9ポイント減少しています。



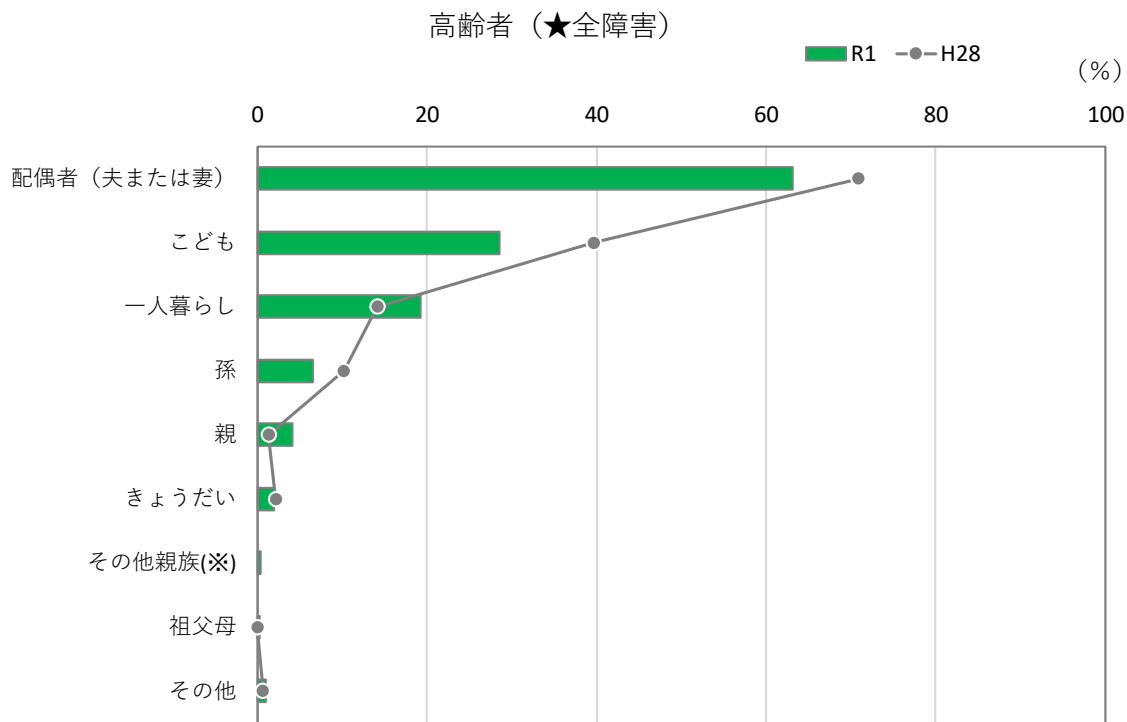
(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ その か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	748	32	55	91	225	88	249	14	32	109	21	36
親	55.2	50.0	40.0	49.5	92.9	84.1	46.6	42.9	37.5	30.3	28.6	47.2
配偶者 (夫または妻)	31.1	31.3	29.1	39.6	1.3	4.5	32.9	57.1	50.0	56.0	57.1	41.7
こども	20.1	6.3	20.0	17.6	1.8	5.7	23.3	28.6	31.3	35.8	47.6	22.2
きょうだい	19.5	15.6	23.6	17.6	39.6	35.2	9.6	0.0	6.3	8.3	9.5	8.3
一人暮らし	10.0	12.5	23.6	13.2	2.2	8.0	14.1	7.1	9.4	12.8	4.8	11.1
祖父母	3.7	0.0	0.0	3.3	8.9	4.5	2.0	0.0	0.0	2.8	0.0	2.8
その他親族	1.3	0.0	3.6	2.2	0.4	0.0	2.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
孫	0.4	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0
その他	1.6	6.3	0.0	1.1	0.9	2.3	2.8	0.0	0.0	0.9	0.0	5.6

【高齢者】

高齢者全体では、「配偶者」と暮らしている人が6割以上、次いで「こども」と暮らしている人が3割近く、「一人暮らし」が2割近くとなっています。

前回調査と比べると、「配偶者」と暮らしている人が約8ポイント、「こども」と暮らしている人が約11ポイント減少しています。



※H28から選択肢を統合

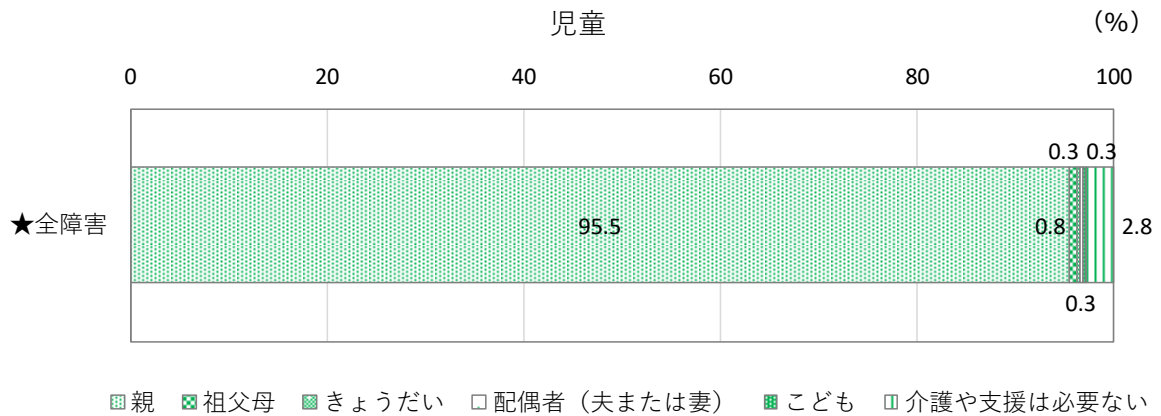
(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	504	51	65	131	9	2	48	7	126	103	17	40
配偶者 (夫または妻)	63.1	66.7	66.2	67.2	22.2	50.0	41.7	85.7	65.1	68.0	58.8	67.5
こども	28.6	23.5	32.3	24.4	33.3	50.0	22.9	14.3	31.7	33.0	52.9	30.0
一人暮らし	19.2	23.5	15.4	19.1	11.1	50.0	22.9	14.3	19.0	18.4	11.8	17.5
孫	6.5	5.9	4.6	8.4	0.0	0.0	0.0	14.3	7.1	9.7	17.6	10.0
親	4.2	0.0	1.5	3.8	33.3	0.0	22.9	0.0	0.8	1.0	0.0	2.5
きょうだい	2.0	2.0	1.5	2.3	11.1	0.0	10.4	0.0	0.0	1.0	0.0	5.0
その他親族	0.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
祖父母	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
その他	1.0	2.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	2.5

問8. (問6で「1. 自宅」と答えた方にお伺いします。) 主に介護や支援をしている人はどなたですか (○はひとつ)。

【児童】

児童全体では、「親」が介護や支援をしていると回答した人が全体の9割以上となっています。



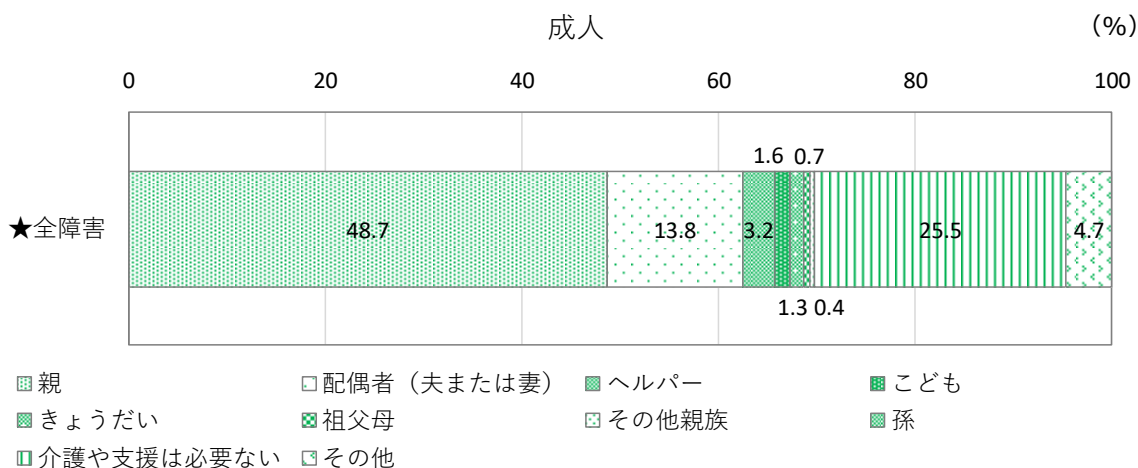
(単位: %)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	355	2	10	30	226	161	7	1	18	18	21	26
親	95.5	100.0	100.0	100.0	98.2	98.1	100.0	100.0	88.9	100.0	81.0	84.6
祖父母	0.8	0.0	0.0	0.0	0.9	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
きょうだい	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
配偶者 (夫または妻)	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8
こども	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
孫	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他親族	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパー	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護や支援は必要ない	2.8	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	11.1	0.0	19.0	11.5
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【成人】

成人全体では、「親」が介護や支援をしている人が5割近く、「配偶者」が1割以上となっています。「介護や支援は必要ない」という人は2割以上です。

知的障害と発達障害は「親」が介護している人が7割以上となっています。難病は「介護や支援は必要ない」が5割近くとなっています。



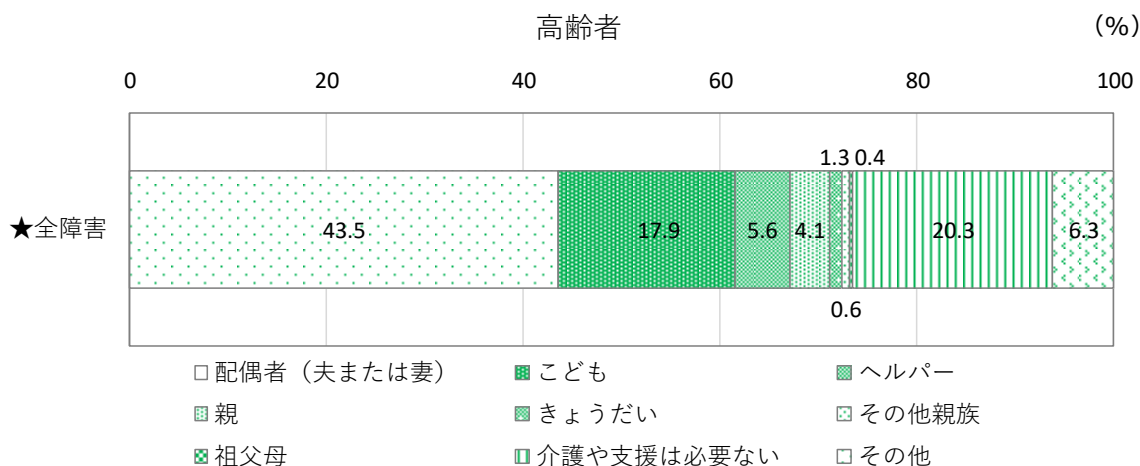
(単位：％)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	682	30	44	81	214	86	230	11	28	94	20	31
親	48.7	43.3	40.9	46.9	86.0	76.7	41.7	36.4	42.9	21.3	10.0	48.4
配偶者 (夫または妻)	13.8	23.3	6.8	24.7	0.5	1.2	17.4	36.4	14.3	20.2	10.0	19.4
ヘルパー	3.2	16.7	4.5	9.9	2.3	2.3	3.9	18.2	3.6	3.2	0.0	0.0
こども	1.6	0.0	2.3	2.5	0.0	2.3	0.9	9.1	3.6	1.1	5.0	3.2
きょうだい	1.3	0.0	6.8	1.2	1.4	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
祖父母	0.7	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他親族	0.4	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
孫	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護や支援は必要ない	25.5	16.7	31.8	13.6	5.1	12.8	26.1	0.0	35.7	48.9	75.0	16.1
その他	4.7	0.0	6.8	0.0	2.8	4.7	7.4	0.0	0.0	4.3	0.0	12.9

【高齢者】

高齢者全体では、「配偶者」が介護や支援をしている人が4割以上で最も多く、次いで「子ども」が2割近くとなっています。「介護や支援は必要ない」という人は2割程度です。

視覚障害と肢体不自由では「配偶者」が介護や支援をしている人が5割以上となっており、他の障害と比べ若干ではありますが多くなっています。難病は「介護や支援は必要ない」が3割となっています。



(単位：％)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	464	48	57	122	8	2	46	7	115	90	17	35
配偶者 (夫または妻)	43.5	56.3	47.4	52.5	12.5	50.0	30.4	100.0	44.3	44.4	23.5	37.1
子ども	17.9	8.3	26.3	16.4	25.0	0.0	13.0	0.0	23.5	12.2	23.5	20.0
ヘルパー	5.6	18.8	1.8	7.4	0.0	0.0	2.2	0.0	3.5	6.7	5.9	0.0
親	4.1	0.0	0.0	1.6	50.0	0.0	26.1	0.0	1.7	0.0	0.0	2.9
きょうだい	1.3	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.9	0.0	0.0	5.7
その他親族	0.6	2.1	0.0	0.0	12.5	0.0	2.2	0.0	0.0	1.1	5.9	0.0
祖父母	0.4	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
孫	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護や支援は必要ない	20.3	10.4	14.0	14.8	0.0	0.0	13.0	0.0	20.0	30.0	41.2	22.9
その他	6.3	2.1	8.8	7.4	0.0	50.0	6.5	0.0	5.2	5.6	0.0	11.4

障害の状況

問9. 障害の種類は何ですか（当てはまるものすべてに○）。

全体では「知的障害」の回答者が最も多く544人で全体の3割程度を占めています。次いで「精神障害」の回答者が343人で全体の2割近く、「肢体不自由」の回答者が296人で全体の1割以上となっています。

【児童】

「知的障害」の回答者が242人で児童全体の6割以上と最も多く、次いで「発達障害」の回答者が171人で児童全体の4割以上となっています。

【成人】

「知的障害」の回答者が288人、「精神障害」の回答者が275人でそれぞれ成人全体の3割以上と上位となっています。

【高齢者】

「肢体不自由」の回答者が155人で3割近く、「内部機能障害」の回答者が136人、「難病」の回答者が117人でそれぞれ高齢者全体の2割以上となっています。

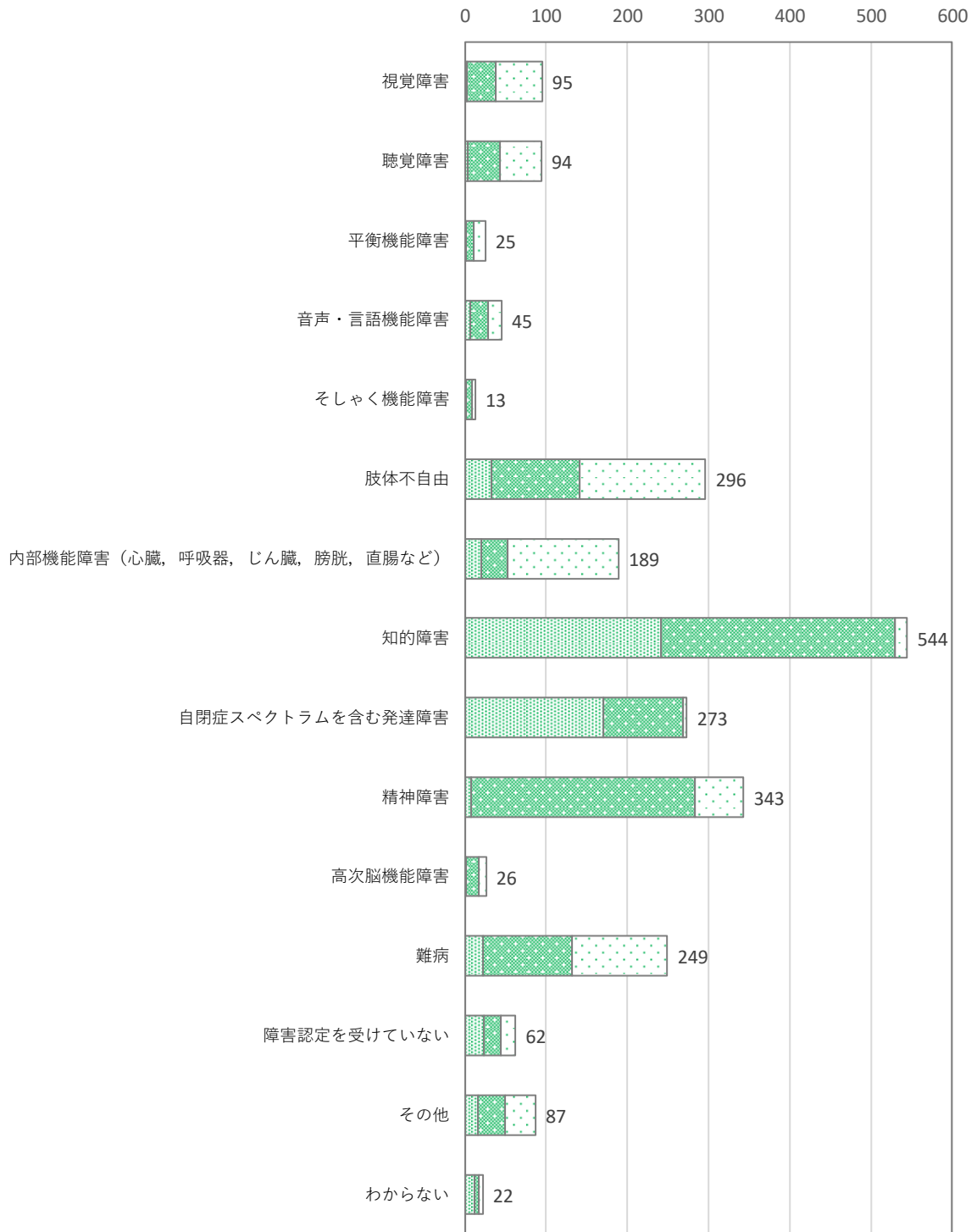
(単位：人)

	全体	児童	成人	高齢者
有効回答数(人)	1,787	381	838	568
視覚障害	95	3	35	57
聴覚障害	94	4	39	51
平衡機能障害	25	1	10	14
音声・言語機能障害	45	7	22	16
そしゃく機能障害	13	1	8	4
肢体不自由	296	33	108	155
内部機能障害(心臓, 呼吸器, じん臓, 膀胱, 直腸など)	189	20	33	136
知的障害	544	242	288	14
自閉症スペクトラムを含む発達障害	273	171	98	4
精神障害	343	8	275	60
高次脳機能障害	26	1	16	9
難病	249	22	110	117
障害認定を受けていない	62	23	21	18
その他	87	16	33	38
わからない	22	12	5	5

年代別

■ 児童 ■ 成人 □ 高齢者

(人)



問 10. 障害者手帳や以下の受給者証をお持ちですか（該当する番号と等級に○）。

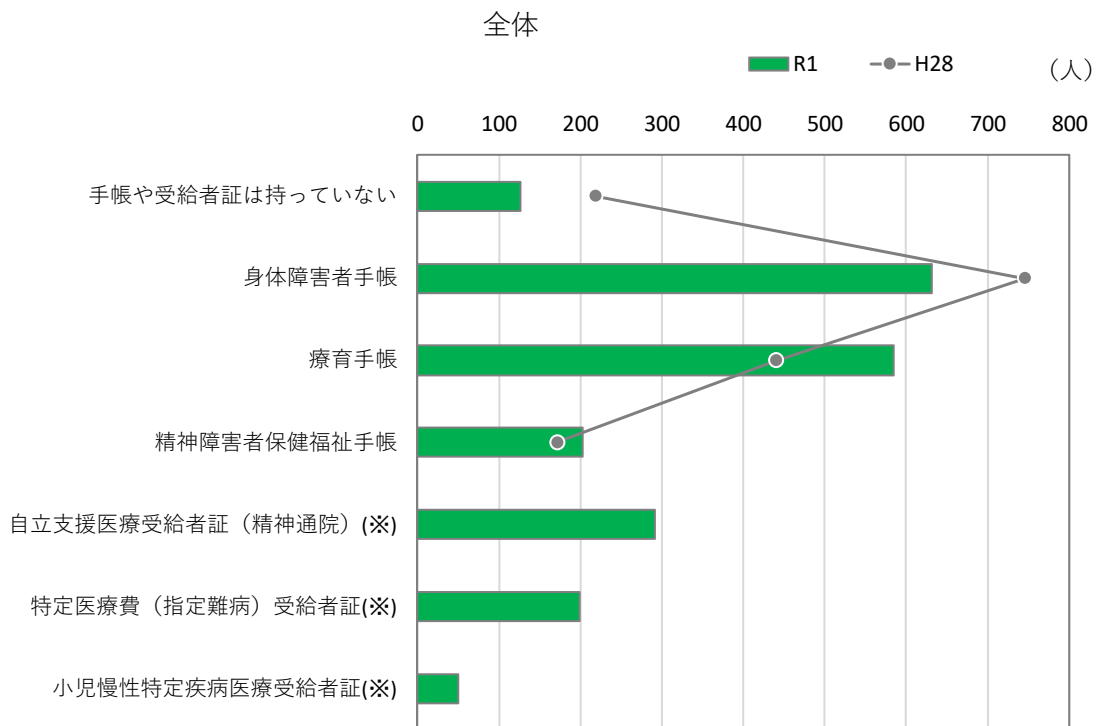
（1）手帳の所持

手帳の所持について、全体では、「身体障害者手帳」が 631 人と最も多く、次いで「療育手帳」が 585 人とそれぞれ全体の 3 割以上となっています。

前回調査とは選択肢が異なる（前回の選択肢：手帳は持っていない、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）ため単純な比較はできませんが、「身体障害者手帳」が 115 人減少しています。

（単位：人）

	全体	児童	成人	高齢者
有効回答数（人）	1,751	364	831	556
手帳や受給者証は持っていない	126	53	33	40
身体障害者手帳	631	48	204	379
療育手帳	585	272	301	12
精神障害者保健福祉手帳	203	9	165	29
自立支援医療受給者証（精神通院）	292	2	253	37
特定医療費（指定難病）受給者証	199	3	94	102
小児慢性特定疾病医療受給者証	50	49	1	0



※選択肢を新設

【児童】

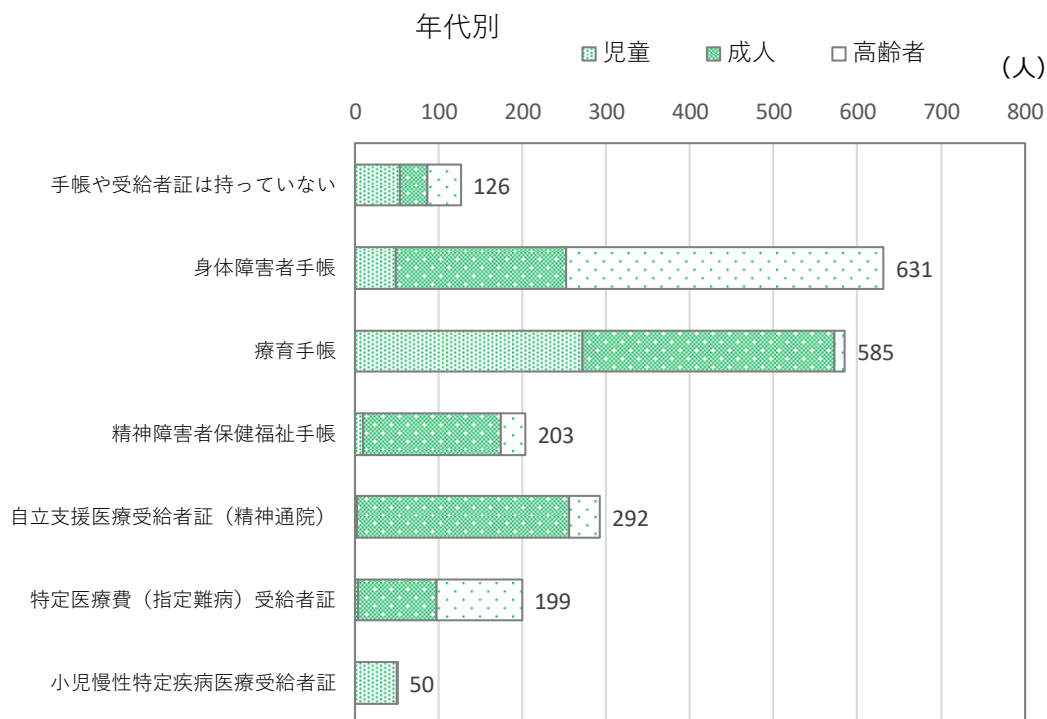
「療育手帳」が 585 人と最も多く、児童全体の 7 割以上となっています。

【成人】

「療育手帳」が 301 人、「自立支援医療受給者証」が 253 人と、それぞれ成人全体の 3 割を超えているほか、「身体障害者手帳」は 204 人と成人全体の 2 割以上となっています。

【高齢者】

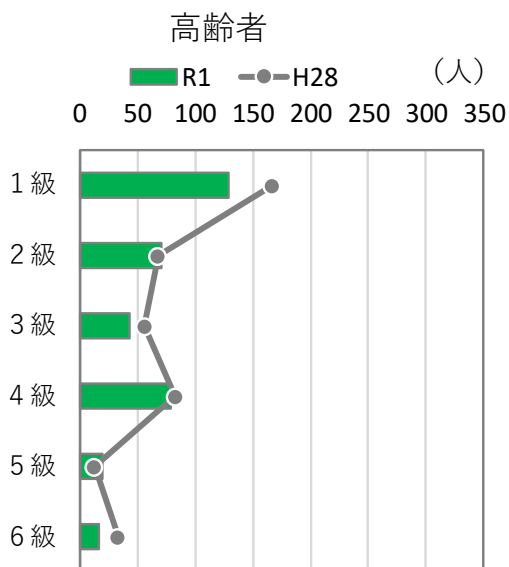
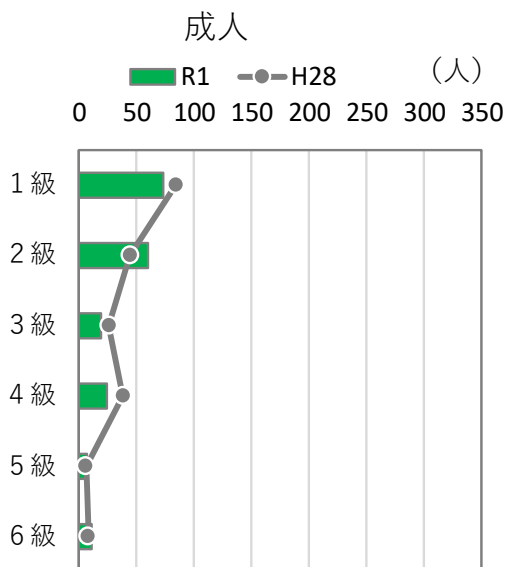
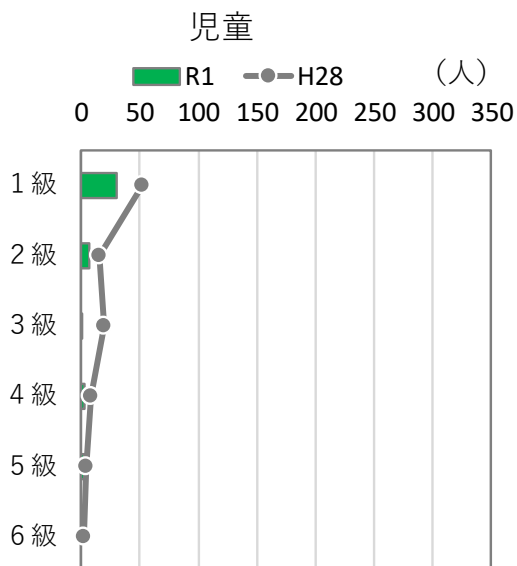
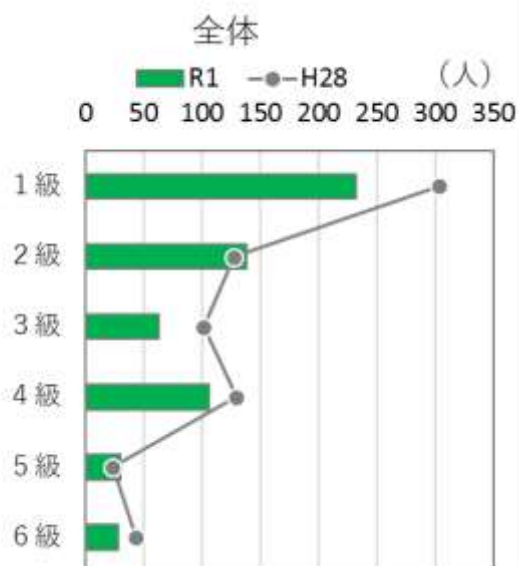
「身体障害者手帳」が 379 人と最も多く、高齢者全体の 6 割以上となっています。また、「特定医療費（指定難病）受給者証」が 102 人と高齢者全体の 2 割近くで、他の年代と比べ多くなっています。



(2) 身体障害者手帳（確認！）

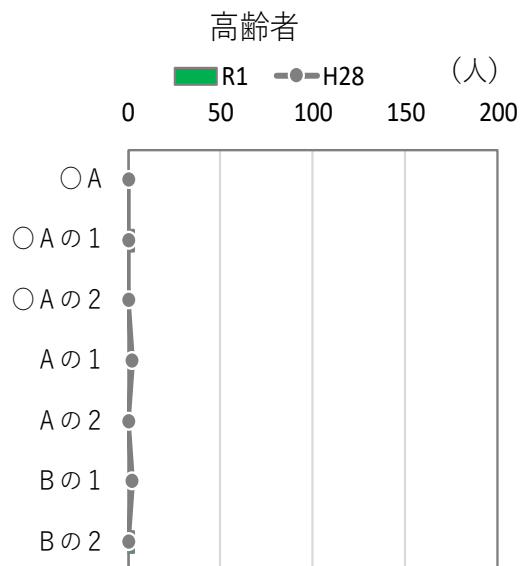
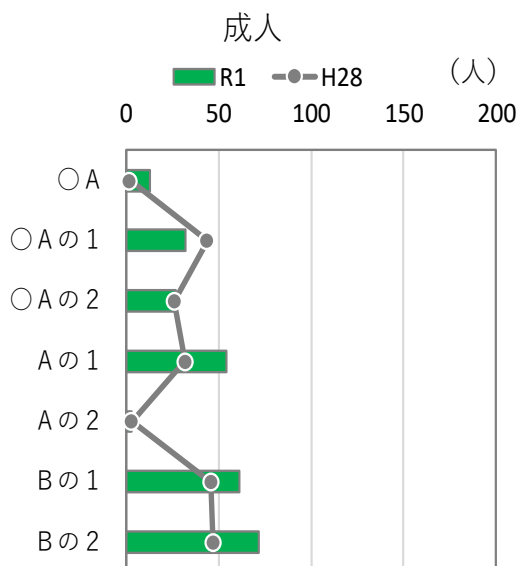
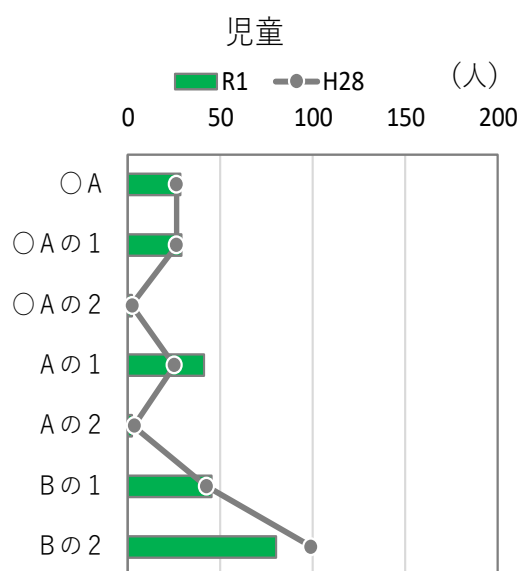
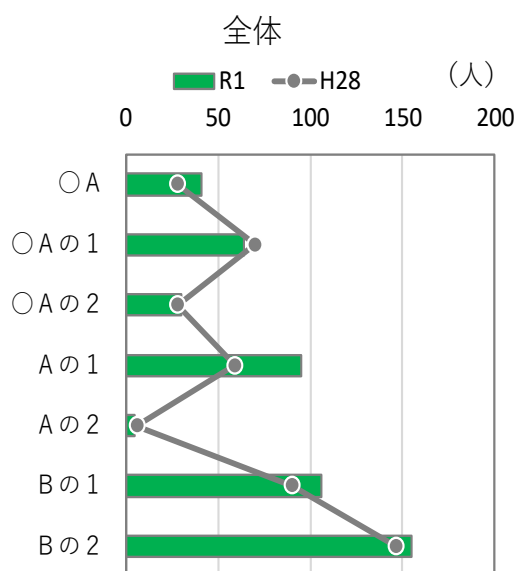
身体障害者手帳について、全体では、「1級」が4割近くで最も多くなっています。特に児童は「1級」が7割近くで、他の年代と比べ多くなっています。

本質問についてはいずれの年代でも前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



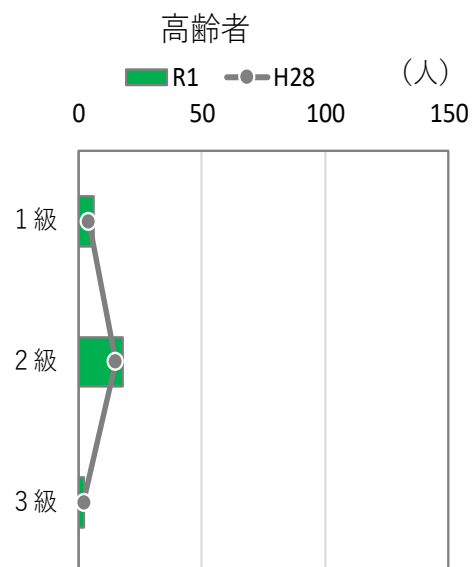
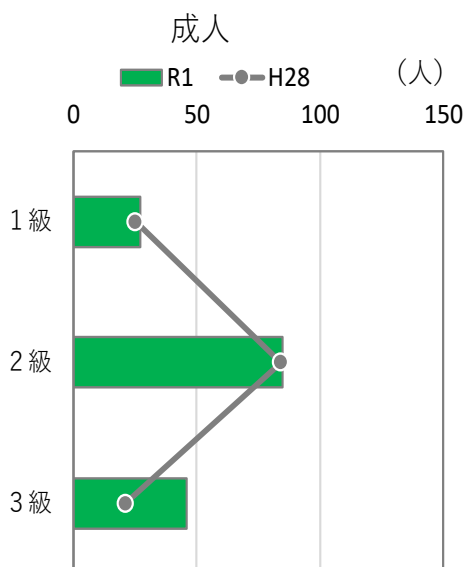
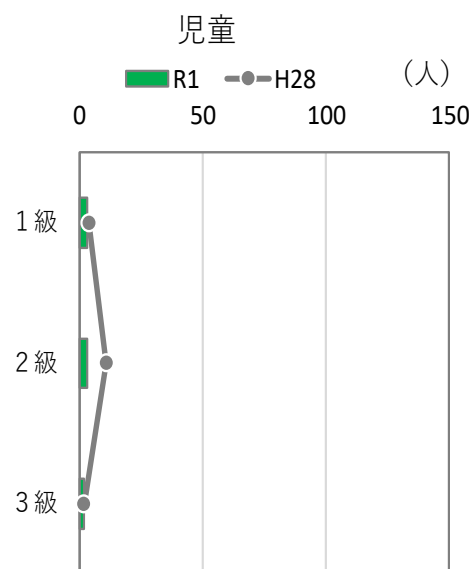
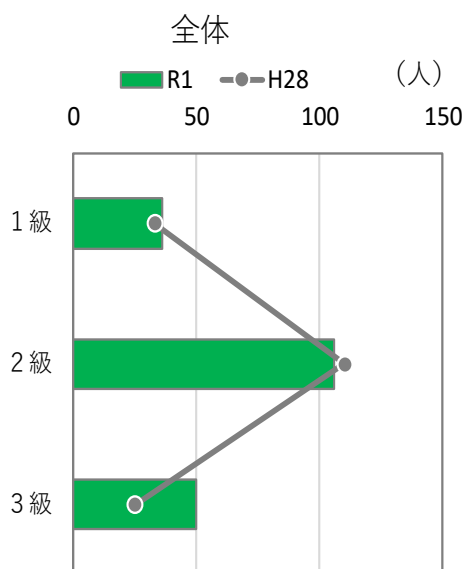
(3) 療育手帳

療育手帳について、全体では、「Bの2」が3割以上で最も多くなっています。
本質問についてはいずれの年代でも前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



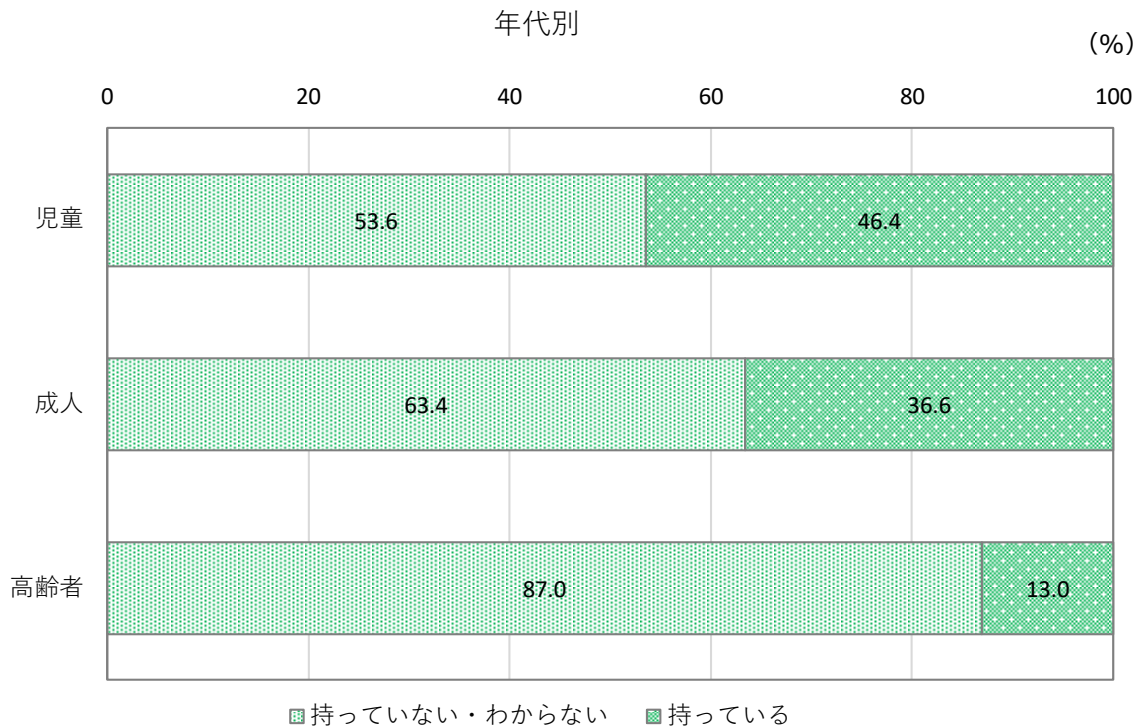
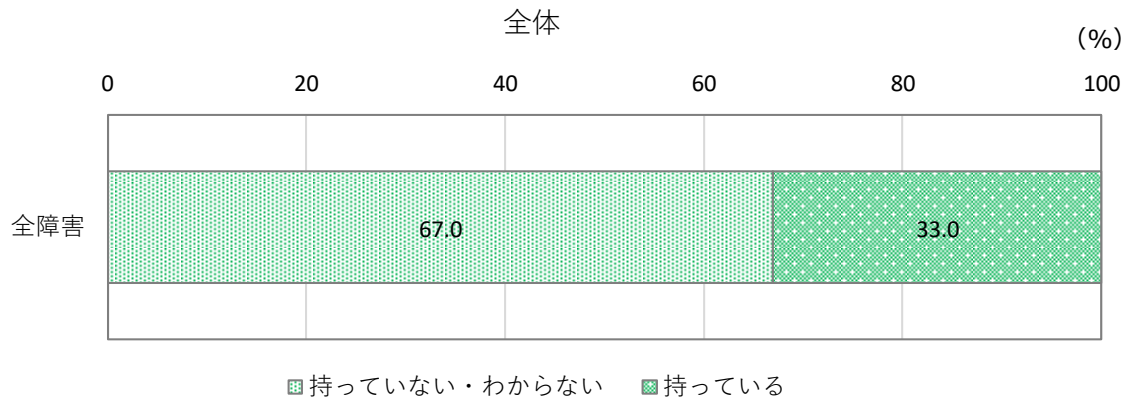
(4) 精神障害者保健福祉手帳

精神障害者保健福祉手帳について全体では「2級」が5割以上で最も多くなっています。本質問については、いずれの年代でも前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



問 11. 障害福祉サービス受給者証をお持ちですか（該当する番号と区分に○）。

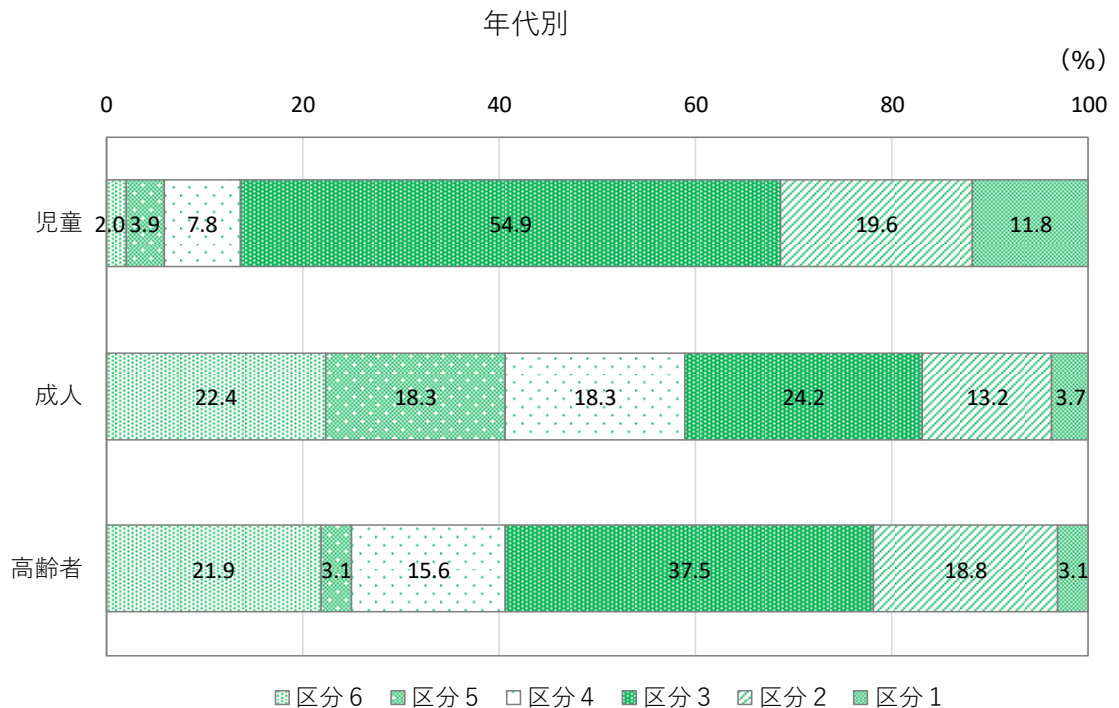
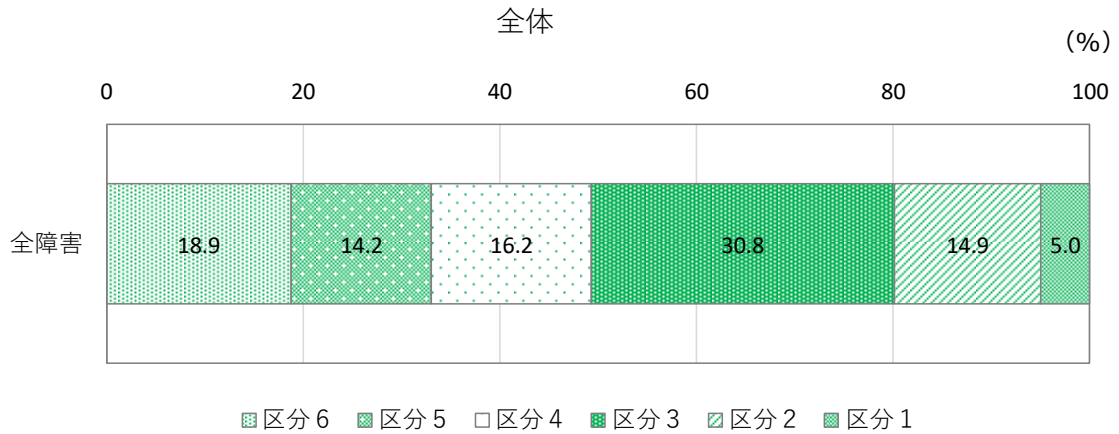
全体では、障害福祉サービス受給者証を「持っていない・わからない」が7割近くとなっています。年代別にみると、児童は「持っている」が5割近くで、他の年代と比べ多いという特徴がみられます。反対に、高齢者は「持っていない・わからない」が9割近くであり、他の年代と比べ多くなっています。



【障害福祉サービス受給者証の区分】

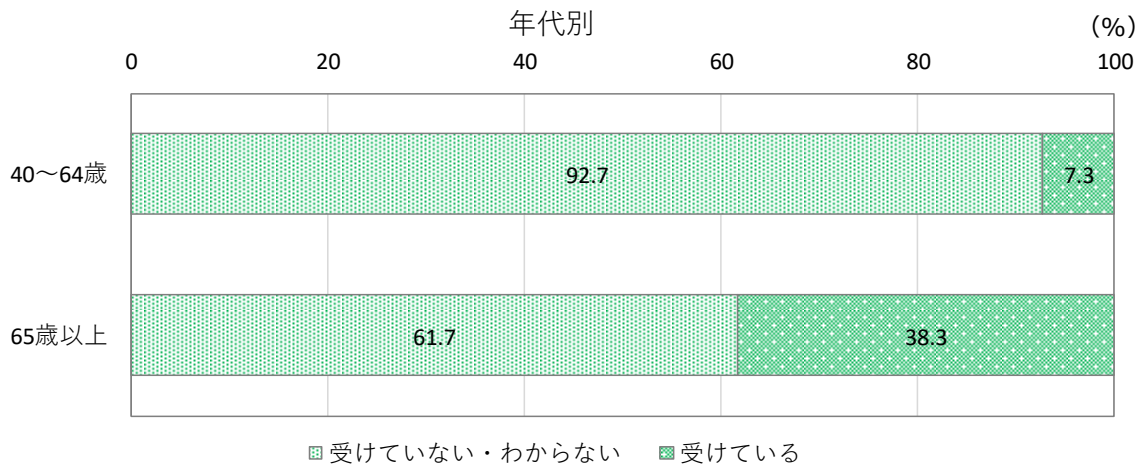
区分について、全体では「区分3」が最も多く、3割程度となっています。

年代別にみると、児童は「区分3」が他の年代と比べて多く、成人は「区分6」から「区分3」まで同じような割合であるという特徴がみられます。



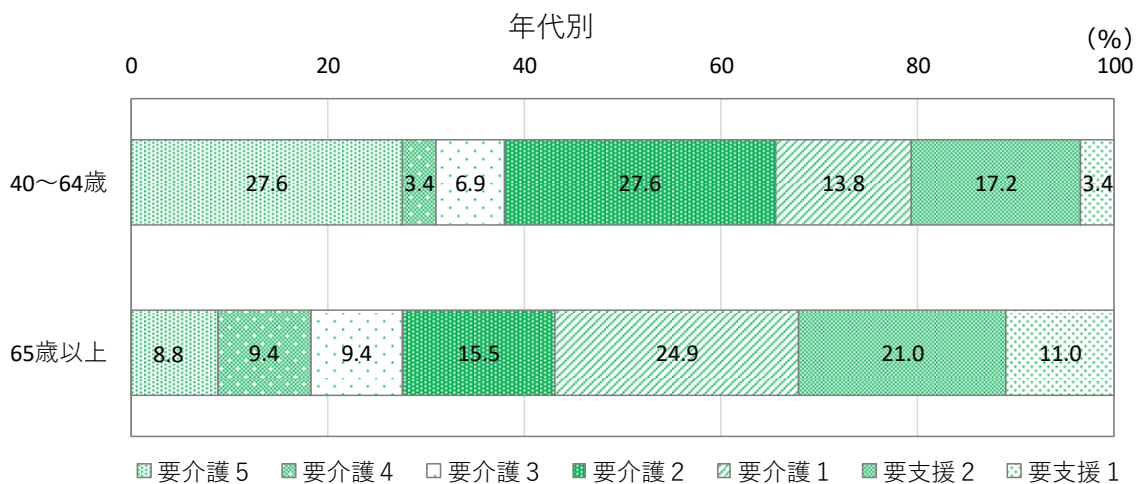
問 12. (40歳以上の方に伺います) 介護保険の要介護認定を受けていますか(該当する番号と区分に○)。

40～64歳では、要介護認定を受けている人が1割未満となっておりますが、65歳以上では4割近くとなっております。



【要介護認定の区分】

40～64歳は、「要介護5」と「要介護2」がそれぞれ3割近くとなっております。65歳以上は「要介護1」が最も多く2割以上となっており、次いで「要支援2」が2割程度となっております。



情報提供の充実・障害理解・差別解消

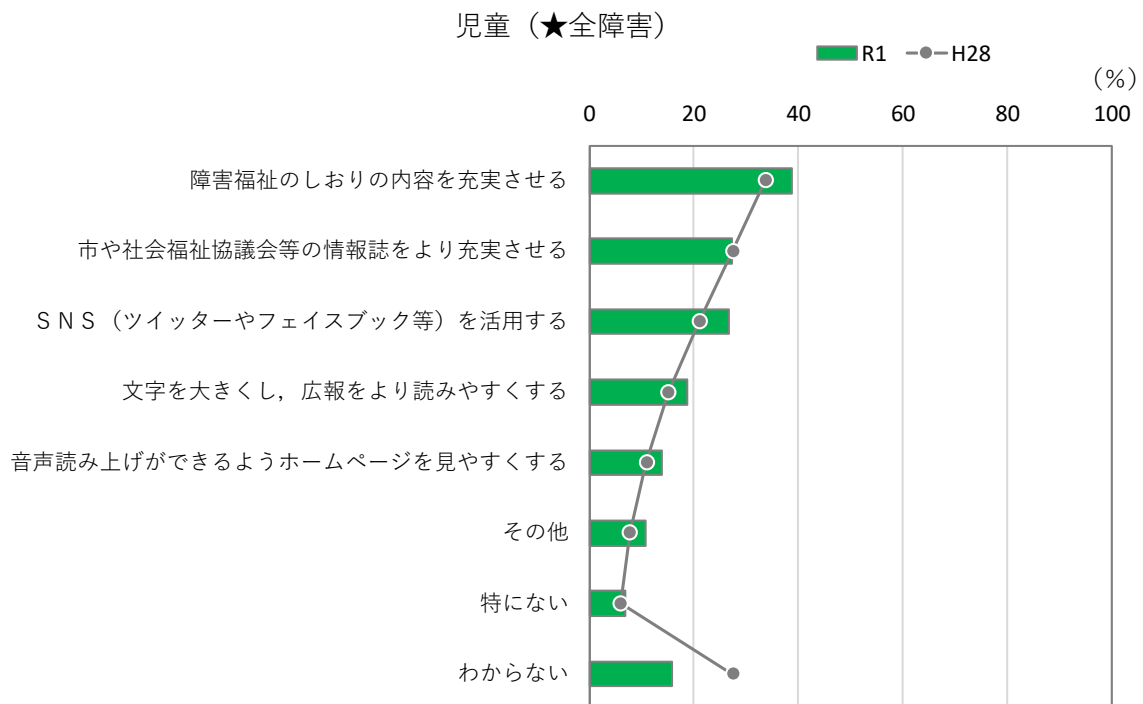
問 13. 市等の情報提供を充実させるためにはどのようなことが必要だと思いますか
(○はいくつでも)。

【児童】

児童全体では、「障害福祉のしおりの内容を充実させる」が4割近くで最も多く、次いで「市や社会福祉協議会等の情報誌をより充実させる」「SNS（ツイッターやフェイスブック等）を活用する」となっています。発達障害では、他の障害と比べ、上位項目のいずれも多く挙げる傾向がみられます。

「その他」の回答は、「動画や写真、イラスト等を活用して分かりやすく伝える」「しおりなどの配布場所を増やす」「本人に必要な情報が直接届くようにする」などがありました。

前回調査と比べ、児童全体では大きな傾向の違いはみられません。



(単位：%)

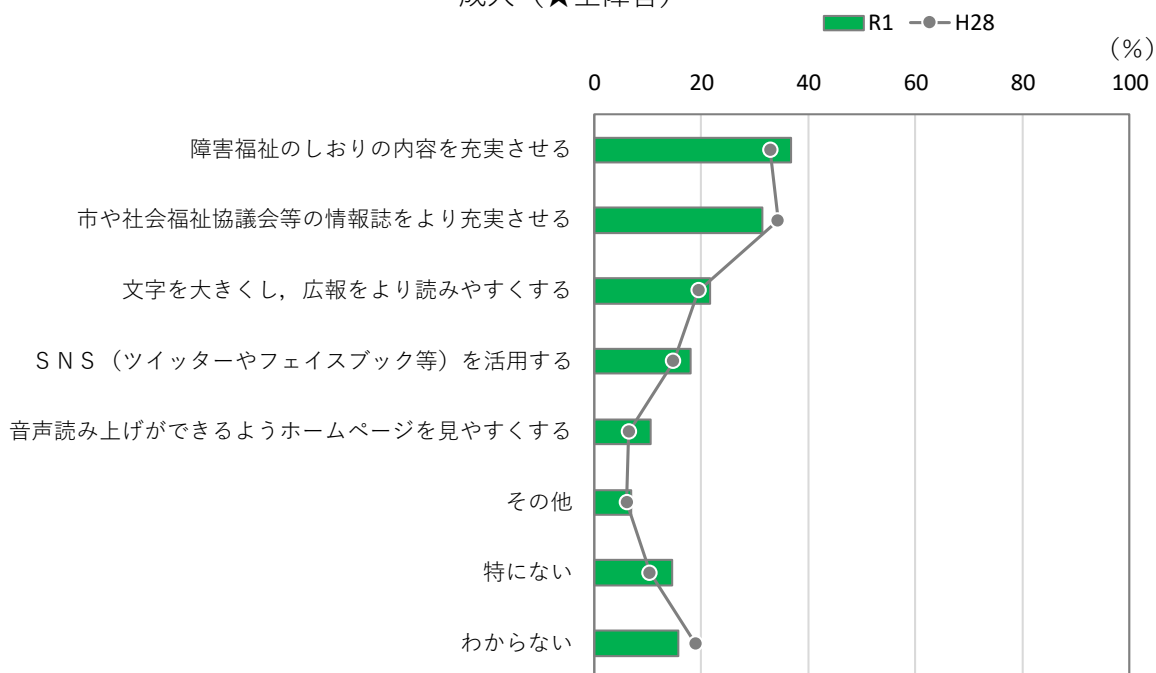
児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	359	3	13	32	226	163	8	1	17	21	22	27
障害福祉のしおりの内容を充実させる	38.7	33.3	53.8	59.4	43.8	42.3	50.0	100.0	29.4	42.9	9.1	37.0
市や社会福祉協議会等の情報誌をより充実させる	27.3	0.0	23.1	28.1	28.3	33.7	37.5	0.0	17.6	28.6	13.6	22.2
S N S（ツイッターやフェイスブック等）を活用する	26.7	0.0	7.7	25.0	23.0	32.5	25.0	0.0	23.5	28.6	22.7	22.2
文字を大きくし、広報をより読みやすくする	18.7	0.0	15.4	25.0	19.5	17.8	12.5	100.0	11.8	14.3	22.7	11.1
音声読み上げができるようホームページを見やすくする	13.9	0.0	15.4	9.4	14.2	16.0	12.5	0.0	11.8	4.8	27.3	11.1
その他	10.9	0.0	15.4	18.8	12.4	9.8	0.0	0.0	17.6	9.5	4.5	11.1
特になし	7.0	0.0	0.0	6.3	4.0	3.7	25.0	0.0	17.6	19.0	22.7	11.1
わからない	15.9	66.7	15.4	9.4	15.9	14.1	12.5	0.0	5.9	9.5	22.7	29.6

【成人】

成人全体では、「障害福祉のしおりの内容を充実させる」が3割以上で最も多く、次いで「市や社会福祉協議会等の情報誌をより充実させる」が3割程度となっています。

前回調査と比べると、1位と2位が入れ替わっていますが、大きな傾向の違いはみられません。

成人（★全障害）



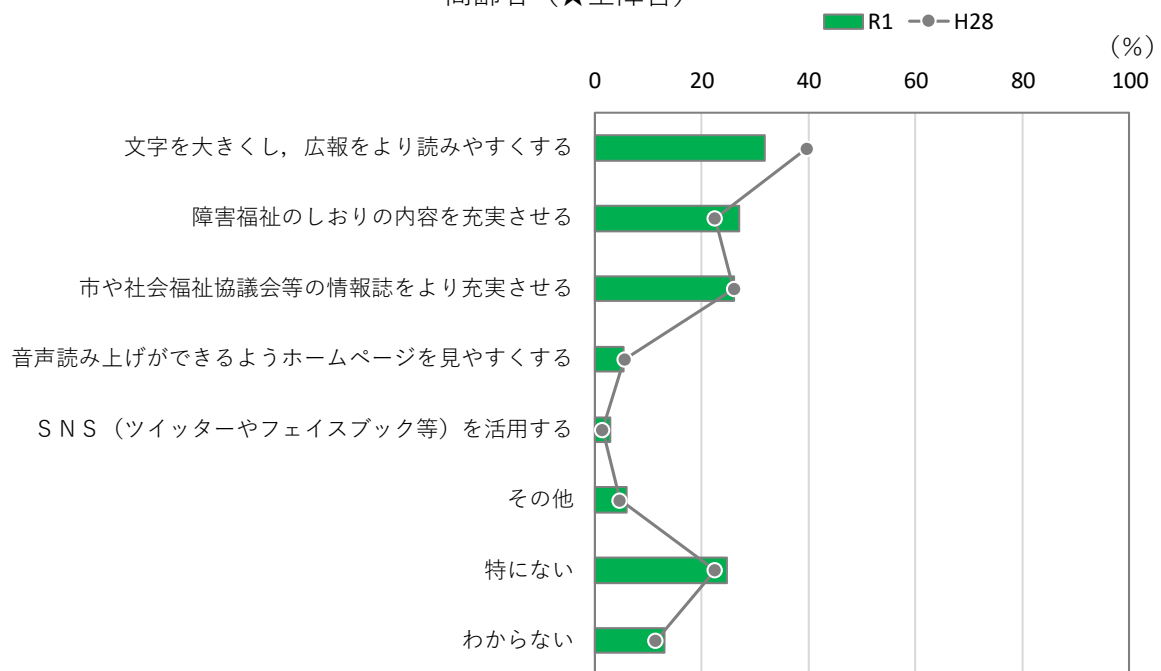
(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	760	30	54	97	257	89	251	14	32	104	17	34
障害福祉のしおりの内容を充実させる	36.8	60.0	48.1	49.5	51.8	41.6	34.7	14.3	31.3	31.7	17.6	26.5
市や社会福祉協議会等の情報誌をより充実させる	31.4	40.0	37.0	36.1	36.6	42.7	25.5	21.4	43.8	30.8	41.2	26.5
文字を大きくし、広報をより読みやすくする	21.6	33.3	31.5	19.6	21.8	19.1	20.3	35.7	25.0	28.8	23.5	20.6
SNS（ツイッターやフェイスブック等）を活用する	18.0	16.7	22.2	17.5	13.6	23.6	18.3	14.3	31.3	18.3	29.4	20.6
音声読み上げができるようホームページを見やすくする	10.5	23.3	1.9	8.2	8.9	20.2	7.6	14.3	12.5	11.5	17.6	14.7
その他	6.8	3.3	20.4	9.3	4.3	5.6	6.8	14.3	3.1	8.7	0.0	5.9
特にない	14.6	10.0	3.7	14.4	8.9	6.7	16.3	28.6	6.3	21.2	17.6	20.6
わからない	15.8	10.0	14.8	10.3	16.3	16.9	19.9	21.4	9.4	9.6	17.6	8.8

【高齢者全体では、「文字を大きくし、広報をより読みやすくする」が3割程度で最も多くなっています。

聴覚障害と精神障害は「障害福祉のしおりの内容を充実させる」が最も多くなっています。
 前回調査と比べ、「文字を大きくし、広報をより読みやすくする」が約10ポイント減少しています。

高齢者（★全障害）



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他
有効回答数(人)	524	54	66	138	13	4	56	8	126	108	18	41
文字を大きくし、広報をより読みやすくする	31.9	31.5	34.8	31.9	23.1	75.0	25.0	37.5	31.0	34.3	33.3	31.7
障害福祉のしおりの内容を充実させる	27.1	22.2	36.4	29.7	46.2	50.0	35.7	12.5	27.0	16.7	16.7	19.5
市や社会福祉協議会等の情報誌をより充実させる	26.1	18.5	30.3	28.3	53.8	25.0	26.8	37.5	21.4	22.2	33.3	24.4
音声読み上げができるようホームページを見やすくする	5.3	25.9	4.5	5.1	0.0	0.0	3.6	12.5	0.8	4.6	5.6	4.9
SNS（ツイッターやフェイスブック等）を活用する	2.9	1.9	1.5	1.4	7.7	0.0	8.9	0.0	4.0	4.6	5.6	0.0
その他	5.9	5.6	7.6	4.3	0.0	0.0	3.6	0.0	5.6	6.5	16.7	9.8
特にない	24.8	22.2	18.2	21.0	7.7	0.0	25.0	12.5	30.2	28.7	16.7	24.4
わからない	13.2	13.0	16.7	18.8	15.4	0.0	16.1	25.0	9.5	14.8	5.6	14.6

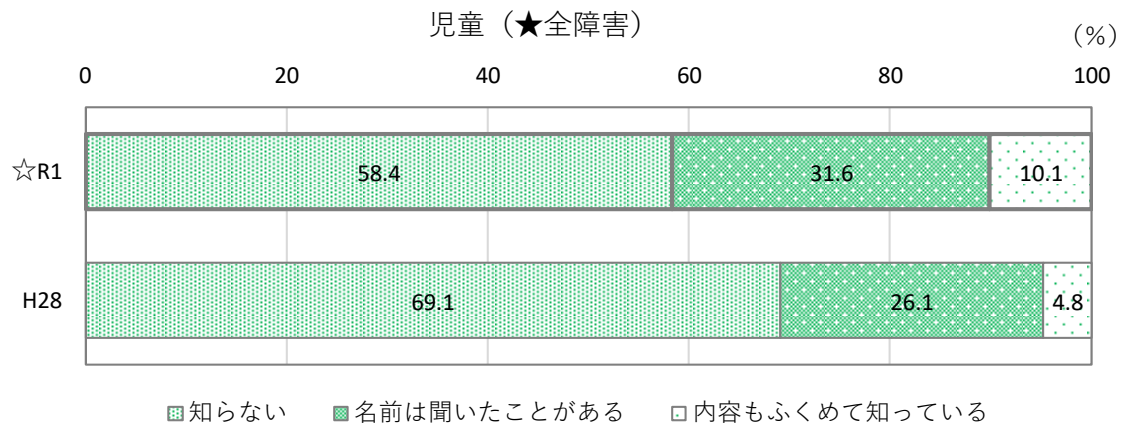
問 14. 障害者差別解消法を知っていますか（○はひとつ）。

【児童】

児童全体では、「知らない」という人が6割近くとなっています。

「内容もふくめて知っている」は、知的障害、発達障害で1割以上となっています。

前回調査と比べ、「知らない」が約 11 ポイント減少し、「内容もふくめて知っている」が約 6 ポイント増加しています。



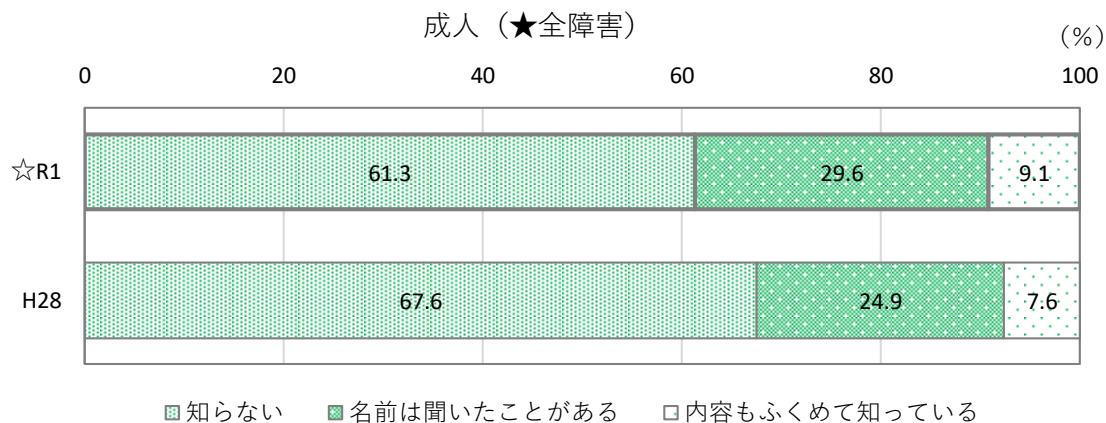
（単位：%）

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	377	3	13	33	240	169	8	1	20	22	22	28
知らない	58.4	66.7	61.5	45.5	51.3	52.1	75.0	100.0	70.0	50.0	86.4	75.0
名前は聞いたことがある	31.6	33.3	30.8	51.5	35.8	32.5	25.0	0.0	25.0	36.4	13.6	25.0
内容もふくめて知っている	10.1	0.0	7.7	3.0	12.9	15.4	0.0	0.0	5.0	13.6	0.0	0.0

【成人】

成人全体では、「知らない」という人が6割程度となっています。

前回調査と比べ、「知らない」が約6ポイント減少しています。



(単位：%)

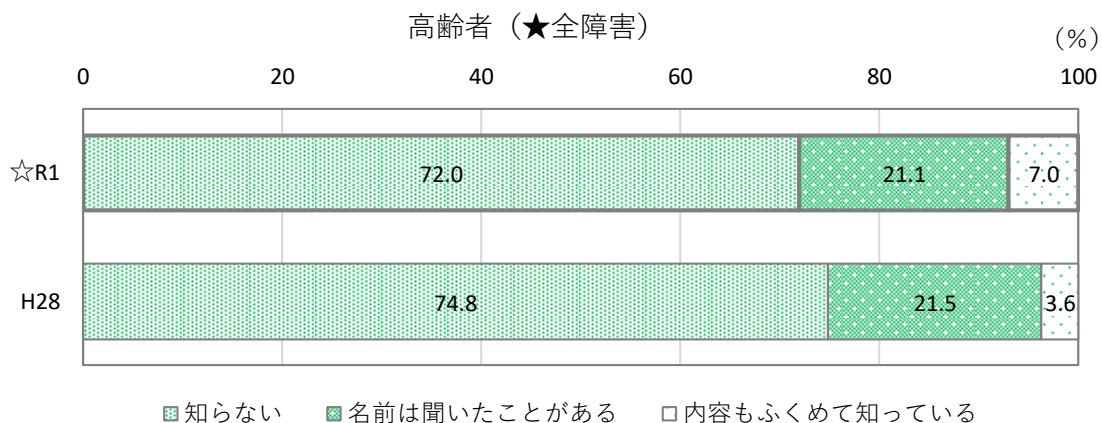
成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数 (人)	822	34	56	102	282	95	272	15	33	110	21	38
知らない	61.3	44.1	42.9	51.0	51.1	50.5	69.9	80.0	57.6	71.8	90.5	68.4
名前は聞いたことがある	29.6	35.3	28.6	37.3	39.7	41.1	23.2	0.0	36.4	22.7	9.5	26.3
内容もふくめて知っている	9.1	20.6	28.6	11.8	9.2	8.4	7.0	20.0	6.1	5.5	0.0	5.3

【高齢者】

高齢者全体では、「知らない」という人が7割程度となり、児童・成人と比べ多くなっています。

視覚障害や聴覚障害では、「内容もふくめて知っている」が1割以上となっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



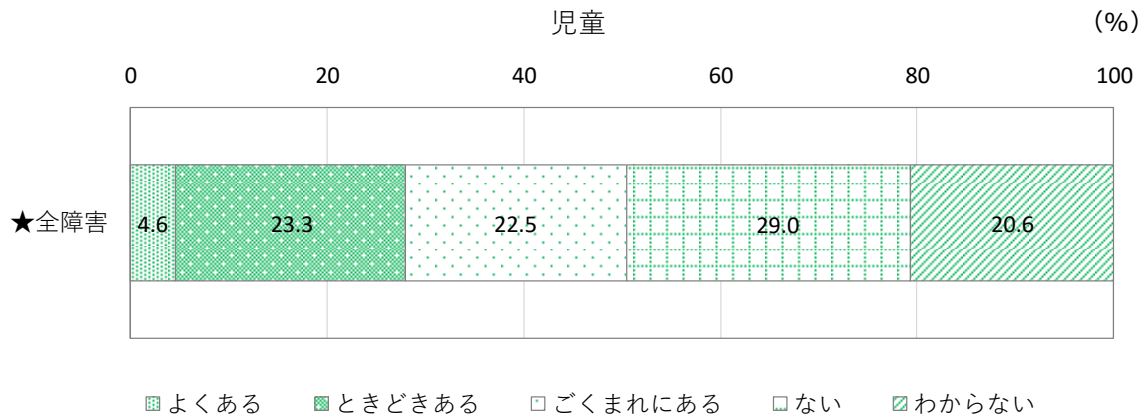
(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数 (人)	546	52	70	146	14	4	57	9	131	111	18	42
知らない	72.0	57.7	65.7	71.2	57.1	75.0	64.9	100.0	78.6	77.5	66.7	78.6
名前は聞いたことがある	21.1	26.9	20.0	25.3	28.6	0.0	26.3	0.0	19.1	18.9	16.7	14.3
内容もふくめて知っている	7.0	15.4	14.3	3.4	14.3	25.0	8.8	0.0	2.3	3.6	16.7	7.1

問 15. 差別を受けたり嫌な思いをする（した）ことがありますか（○はひとつ）

【児童】

児童全体では、差別を受けたり嫌な思いをする（した）ことが「ない」という人が3割近くとなっています。一方で、「よくある」「ときどきある」「ごくまれにある」を合計した「ある」と回答した人は5割以上になり、「ない」を上回っています。



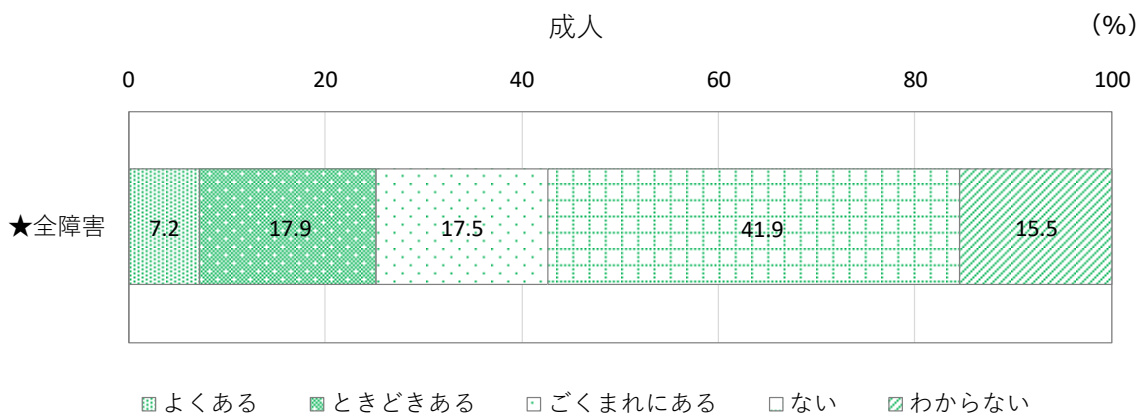
(単位：％)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	373	3	13	33	241	166	8	1	20	21	22	26
よくある	4.6	0.0	7.7	6.1	5.8	6.0	12.5	0.0	5.0	4.8	0.0	3.8
ときどきある	23.3	66.7	23.1	24.2	27.4	27.7	0.0	0.0	20.0	14.3	4.5	26.9
ごくまれにある	22.5	0.0	15.4	33.3	20.7	25.9	12.5	100.0	20.0	28.6	18.2	7.7
ない	29.0	33.3	15.4	27.3	24.5	19.3	37.5	0.0	35.0	38.1	54.5	46.2
わからない	20.6	0.0	38.5	9.1	21.6	21.1	37.5	0.0	20.0	14.3	22.7	15.4

【成人】

成人全体では、差別を受けたり嫌な思いをする（した）ことが「ない」という人が4割程度となっています。一方、「よくある」「ときどきある」「ごくまれにある」を合計した「ある」と回答した人も4割程度となっています。

知的障害では「ある」という人が5割以上、発達障害では「ある」という人が7割近くとなり、他の障害と比べ多い傾向がみられます。



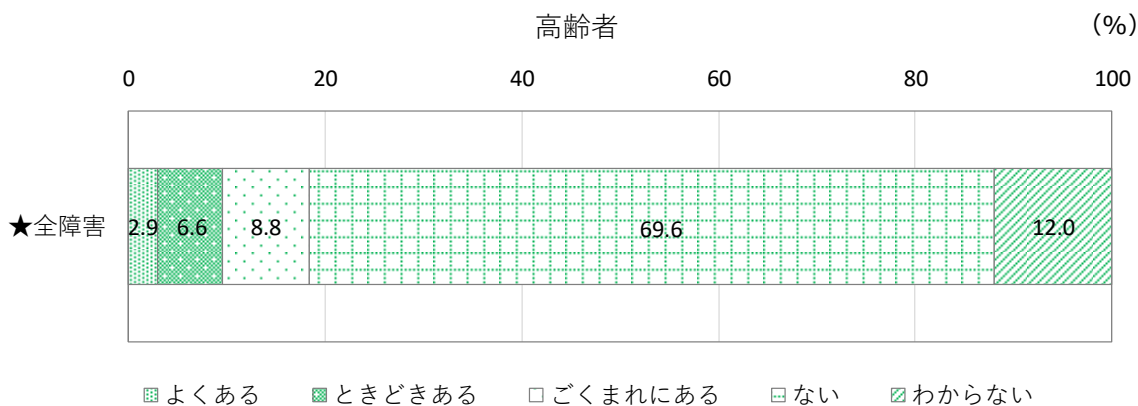
(単位：％)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	819	33	58	104	281	97	270	16	33	108	20	38
よくある	7.2	6.1	6.9	6.7	7.1	8.2	9.6	18.8	9.1	2.8	0.0	10.5
ときどきある	17.9	27.3	19.0	17.3	26.7	33.0	14.8	6.3	12.1	7.4	15.0	7.9
ごくまれにある	17.5	15.2	36.2	23.1	21.0	25.8	16.3	18.8	18.2	14.8	0.0	7.9
ない	41.9	45.5	22.4	43.3	28.5	16.5	41.5	43.8	57.6	65.7	75.0	55.3
わからない	15.5	6.1	15.5	9.6	16.7	16.5	17.8	12.5	3.0	9.3	10.0	18.4

【高齢者】

高齢者全体では、差別を受けたり嫌な思いをする（した）ことが「ない」という人が7割程度となっています。一方、「ある」という人は2割近くです。

視覚障害、聴覚障害では「ある」という人が3割以上であり他の障害と比べ多い傾向がみられます。



(単位：％)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数 (人)	543	52	71	146	12	4	58	9	130	111	18	41
よくある	2.9	9.6	7.0	2.1	8.3	25.0	5.2	0.0	2.3	0.9	0.0	0.0
ときどきある	6.6	7.7	11.3	9.6	25.0	0.0	6.9	0.0	1.5	8.1	5.6	2.4
ごくまれにある	8.8	17.3	14.1	8.9	16.7	25.0	13.8	11.1	6.2	7.2	0.0	2.4
ない	69.6	55.8	53.5	64.4	33.3	50.0	48.3	33.3	83.8	75.7	88.9	78.0
わからない	12.0	9.6	14.1	15.1	16.7	0.0	25.9	55.6	6.2	8.1	5.6	17.1

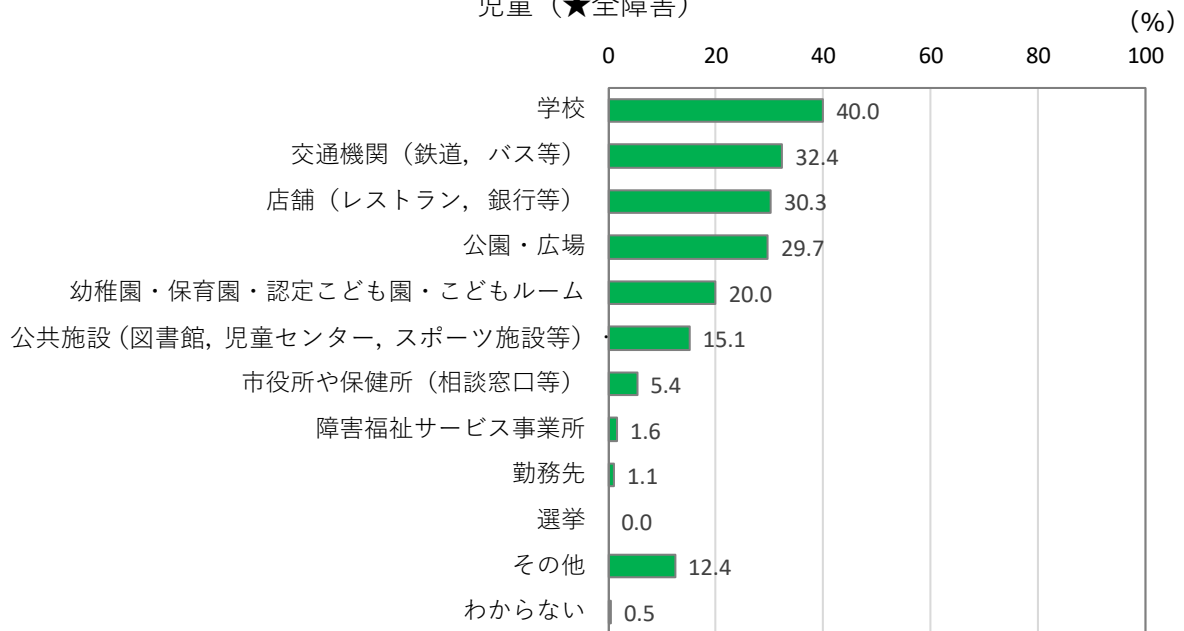
問 16. (問 15 で「1. よくある」, 「2. ときどきある」, 「3. ごくまれにある」と答えた方のみお答えください) どのような場所や場面で差別や嫌な思いをしましたか (〇はいくつでも)。

【児童】

児童全体では, 「学校」が4割で最も多く, 次いで「交通機関」「公園・広場」「店舗」がそれぞれ3割程度となっています。

「その他」の回答は, 「近所」などがありました。

児童 (★全障害)



(単位: %)

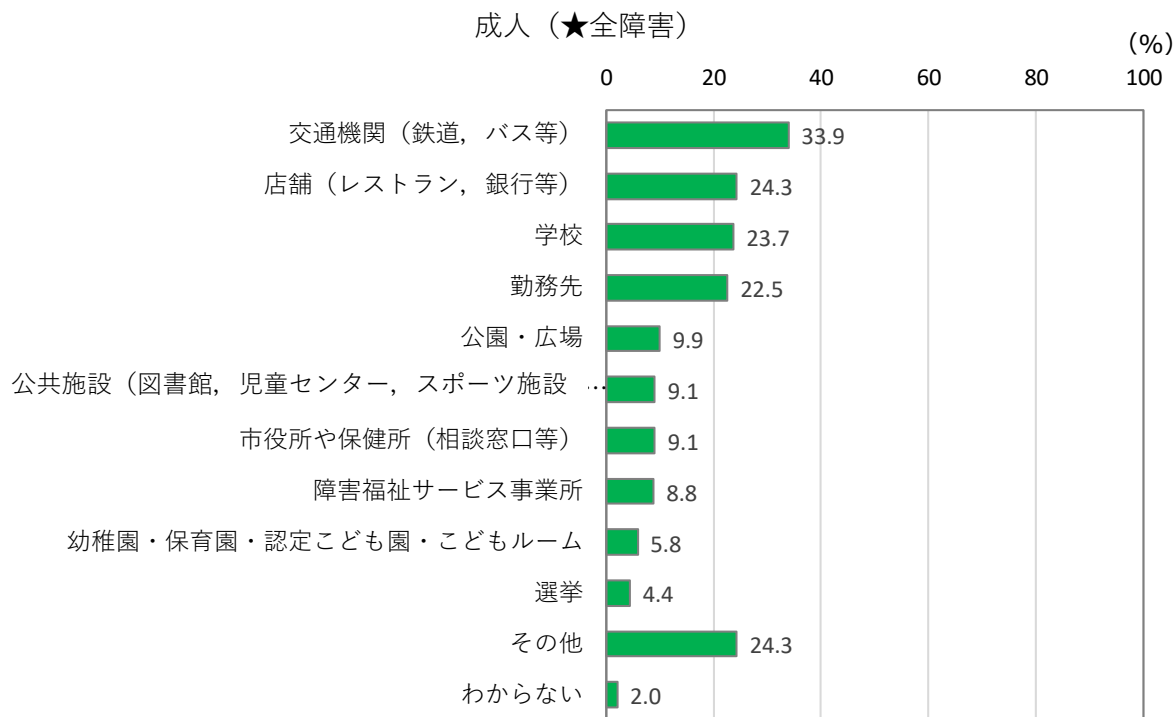
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	185	2	6	21	128	98	2	1	9	10	5	10
学校	40.0	100.0	0.0	23.8	38.3	39.8	50.0	100.0	55.6	40.0	100.0	30.0
交通機関 (鉄道, バス等)	32.4	50.0	66.7	52.4	38.3	33.7	0.0	0.0	22.2	40.0	20.0	30.0
店舗 (レストラン, 銀行等)	30.3	0.0	33.3	47.6	32.0	33.7	0.0	0.0	33.3	40.0	0.0	30.0
公園・広場	29.7	0.0	66.7	23.8	32.8	31.6	50.0	0.0	44.4	20.0	0.0	40.0
幼稚園・保育園・認定こども園・こどもルーム	20.0	50.0	0.0	19.0	17.2	21.4	0.0	0.0	11.1	0.0	40.0	30.0
公共施設 (図書館, 児童センター, スポーツ施設等)	15.1	0.0	33.3	9.5	16.4	18.4	0.0	0.0	33.3	10.0	0.0	10.0
市役所や保健所 (相談窓口等)	5.4	0.0	0.0	9.5	6.3	3.1	0.0	0.0	22.2	20.0	0.0	10.0
障害福祉サービス事業所	1.6	0.0	0.0	0.0	1.6	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
勤務先	1.1	0.0	0.0	0.0	1.6	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
選挙	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	12.4	0.0	33.3	9.5	12.5	13.3	50.0	0.0	11.1	20.0	20.0	30.0
わからない	0.5	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【成人】

成人全体では、「交通機関」が3割以上と最も多くなっています。次いで「店舗」「学校」「勤務先」がそれぞれ2割以上となっています。

聴覚障害や肢体不自由は「交通機関」や「店舗」、知的障害と発達障害は「学校」、精神障害は「勤務先」が他の障害と比べ多い傾向がみられます。

「その他」の回答は、「病院」や「近所」などがありました。



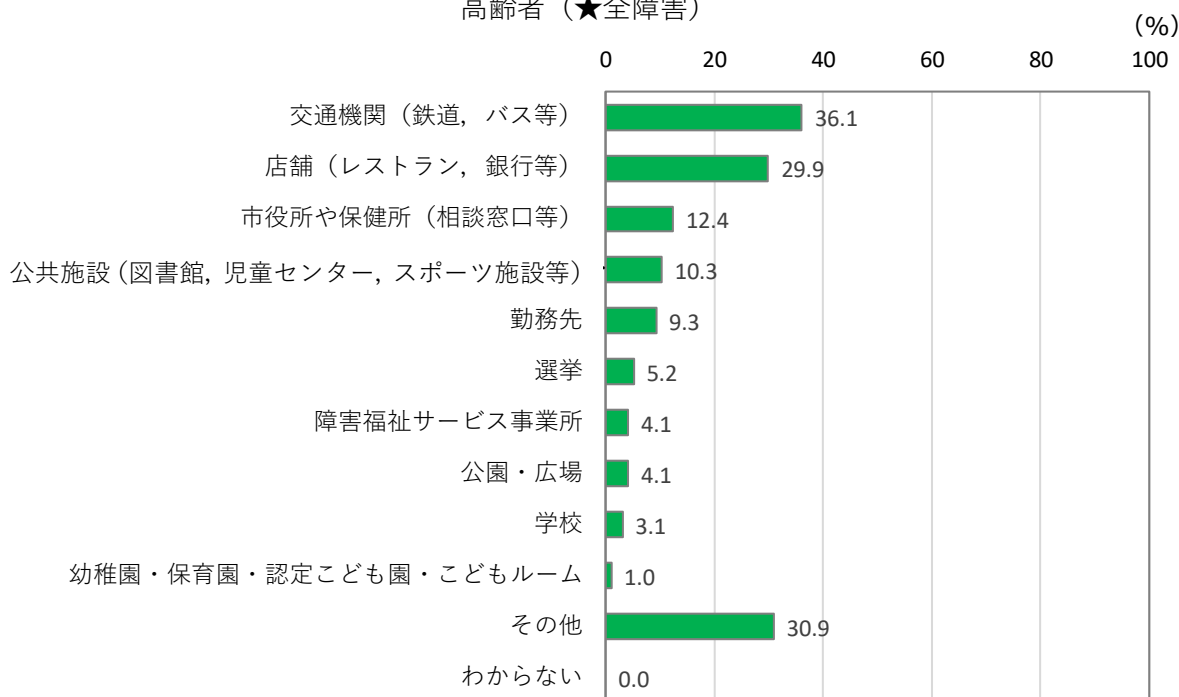
(単位: %)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	342	16	35	49	152	64	105	7	13	27	3	10
交通機関 (鉄道, バス等)	33.9	37.5	42.9	44.9	39.5	32.8	24.8	57.1	46.2	44.4	0.0	10.0
店舗 (レストラン, 銀行等)	24.3	56.3	57.1	32.7	28.3	23.4	15.2	28.6	23.1	25.9	0.0	0.0
学校	23.7	0.0	14.3	10.2	33.6	35.9	16.2	0.0	30.8	11.1	33.3	20.0
勤務先	22.5	18.8	25.7	18.4	16.4	21.9	31.4	28.6	15.4	14.8	0.0	30.0
公園・広場	9.9	0.0	2.9	8.2	17.1	17.2	5.7	14.3	7.7	7.4	0.0	0.0
公共施設 (図書館, 児童センター, スポーツ施設等)	9.1	18.8	11.4	12.2	11.2	4.7	4.8	14.3	7.7	0.0	0.0	0.0
市役所や保健所 (相談窓口等)	9.1	25.0	5.7	8.2	6.6	6.3	12.4	28.6	0.0	11.1	0.0	40.0
障害福祉サービス事業所	8.8	25.0	0.0	8.2	8.6	10.9	10.5	28.6	7.7	3.7	0.0	20.0
幼稚園・保育園・認定こども園・こどもルーム	5.8	0.0	2.9	8.2	8.6	7.8	2.9	0.0	15.4	3.7	33.3	0.0
選挙	4.4	18.8	8.6	6.1	6.6	3.1	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	10.0
その他	24.3	25.0	25.7	24.5	17.8	25.0	31.4	57.1	7.7	29.6	66.7	60.0
わからない	2.0	0.0	2.9	2.0	1.3	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【高齢者】

高齢者全体では、「交通機関」が3割以上で最も多く、次いで「店舗」となっています。
 視覚障害、聴覚障害、内部機能障害は「交通機関」が多い傾向がみられます。
 「その他」の回答は、「病院」や「近所」などがありました。

高齢者（★全障害）



(単位：%)

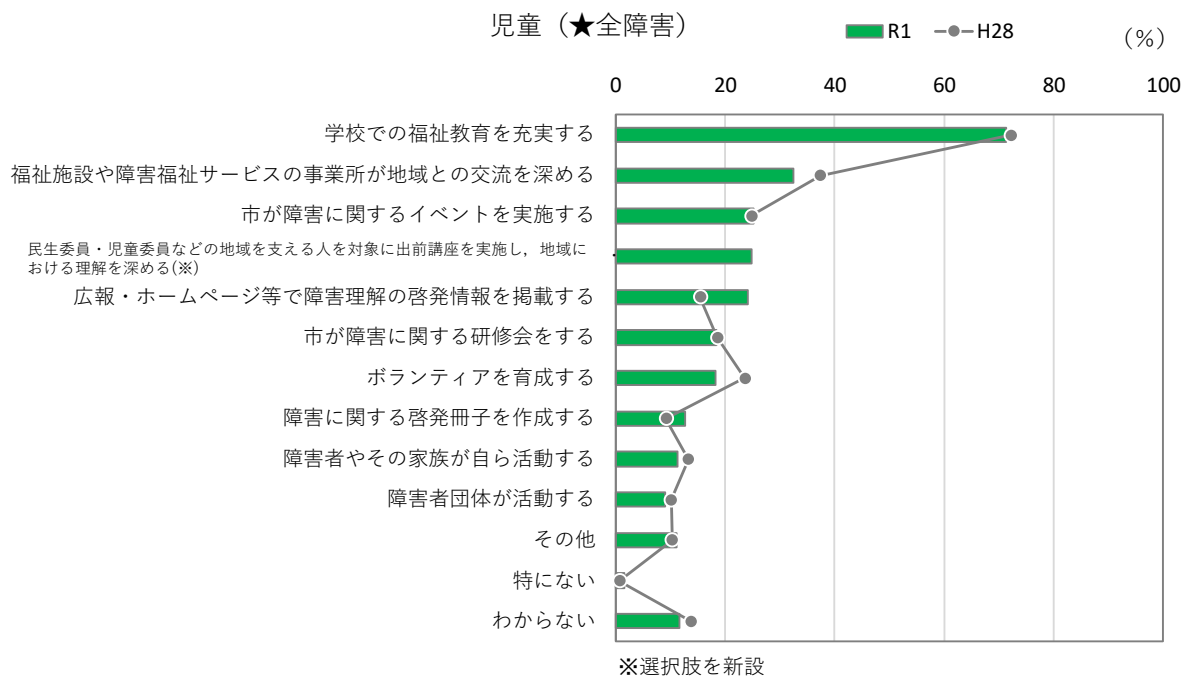
高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	97	17	23	27	6	2	15	1	13	18	1	2
交通機関（鉄道，バス等）	36.1	41.2	39.1	40.7	16.7	0.0	13.3	0.0	69.2	22.2	0.0	100.0
店舗（レストラン，銀行等）	29.9	35.3	30.4	22.2	66.7	0.0	26.7	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0
市役所や保健所（相談窓口等）	12.4	17.6	21.7	3.7	16.7	0.0	6.7	0.0	15.4	11.1	0.0	0.0
公共施設（図書館，児童センター，スポーツ施設等）	10.3	11.8	8.7	7.4	16.7	50.0	6.7	0.0	0.0	11.1	0.0	50.0
勤務先	9.3	5.9	8.7	11.1	0.0	50.0	26.7	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0
選挙	5.2	23.5	4.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害福祉サービス事業所	4.1	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	13.3	0.0	7.7	5.6	0.0	0.0
公園・広場	4.1	0.0	4.3	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	50.0
学校	3.1	0.0	4.3	3.7	16.7	50.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
幼稚園・保育園・認定こども園・こどもルーム	1.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	30.9	41.2	30.4	29.6	0.0	50.0	40.0	0.0	7.7	33.3	100.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 17. 障害の有無にかかわらず、全ての人々が差別や偏見を持たずに暮らしていくには、どのようなことが必要だと思いますか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「学校での福祉教育を充実する」が7割程度と最も多くなっています。次いで、「福祉施設や障害福祉サービスの事業所が地域との交流を深める」が3割程度となっています。「その他」の回答は、「小さいころから障害の有無にかかわらず一緒に過ごす」「障害のある方とない方が交流する機会を増やす」などがありました。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

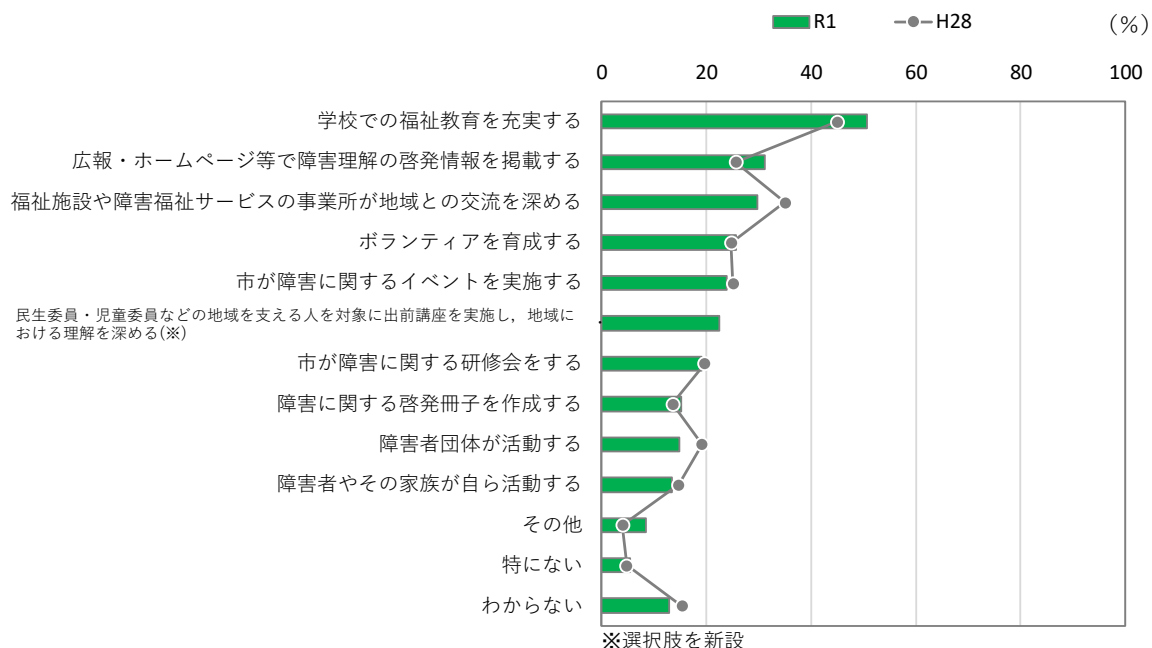


【成人】

成人全体では、「学校での福祉教育を充実する」が5割程度で最も多くなっています。次いで、「広報・ホームページ等で障害理解の啓発情報を掲載する」「福祉施設や障害福祉サービスの事業所が地域との交流を深める」がそれぞれ3割程度となっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

成人（★全障害）



(単位：%)

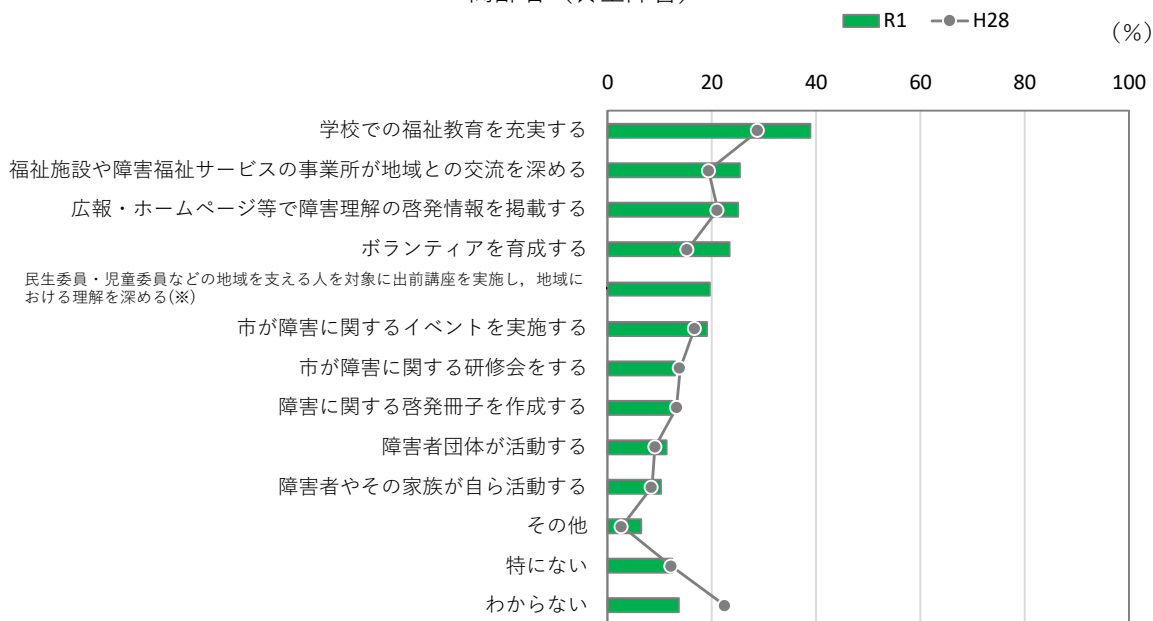
成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数（人）	818	33	58	104	278	97	268	16	33	108	21	38
学校での福祉教育を充実する	50.6	60.6	50.0	61.5	49.6	57.7	40.7	56.3	54.5	61.1	61.9	47.4
広報・ホームページ等で障害理解の啓発情報を掲載する	31.2	33.3	41.4	37.5	31.7	36.1	29.1	25.0	33.3	35.2	42.9	15.8
福祉施設や障害福祉サービスの事業所が地域との交流を深める	29.8	39.4	29.3	36.5	35.3	30.9	27.2	25.0	21.2	28.7	23.8	15.8
ボランティアを育成する	25.7	51.5	39.7	34.6	29.5	34.0	23.5	31.3	27.3	23.1	19.0	21.1
市が障害に関するイベントを実施する	24.0	24.2	29.3	24.0	21.9	22.7	23.5	25.0	18.2	25.0	33.3	31.6
民生委員・児童委員などの地域を支える人を対象に出前講座を実施し、地域における理解を深める	22.5	24.2	29.3	20.2	24.1	34.0	23.5	12.5	21.2	11.1	19.0	23.7
市が障害に関する研修会をする	19.2	18.2	25.9	23.1	19.1	17.5	20.1	18.8	6.1	13.0	9.5	18.4
障害に関する啓発冊子を作成する	15.2	9.1	20.7	16.3	14.0	20.6	16.8	18.8	15.2	12.0	0.0	13.2
障害者団体が活動する	14.9	18.2	22.4	20.2	17.6	12.4	14.6	18.8	12.1	9.3	0.0	13.2
障害者やその家族が自ら活動する	13.4	18.2	10.3	14.4	15.1	12.4	14.2	12.5	6.1	9.3	4.8	18.4
その他	8.4	12.1	12.1	9.6	7.2	10.3	9.3	25.0	0.0	6.5	0.0	15.8
特になし	5.4	6.1	3.4	3.8	4.0	1.0	7.1	6.3	9.1	4.6	9.5	10.5
わからない	12.8	3.0	8.6	3.8	14.0	12.4	16.0	6.3	12.1	10.2	4.8	18.4

【高齢者】

高齢者全体では、「学校での福祉教育を充実する」が4割近くと最も多くなっています。このほか、「福祉施設や障害福祉サービスの事業所が地域との交流を深める」「広報・ホームページ等で障害理解の啓発情報を掲載する」「ボランティアを育成する」がそれぞれ2割以上となっています。

前回調査と比べ、「学校での福祉教育を充実する」が約10ポイント増加しています。

高齢者（★全障害）



※選択肢を新設

(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	539	53	70	147	14	4	54	9	128	111	18	40
学校での福祉教育を充実する	39.0	45.3	30.0	47.6	21.4	0.0	31.5	44.4	33.6	51.4	55.6	30.0
福祉施設や障害福祉サービスの事業所が地域との交流を深める	25.4	35.8	32.9	22.4	35.7	100.0	13.0	55.6	23.4	21.6	22.2	27.5
広報・ホームページ等で障害理解の啓発情報を掲載する	25.0	35.8	24.3	21.8	21.4	25.0	20.4	33.3	21.9	28.8	44.4	20.0
ボランティアを育成する	23.4	32.1	27.1	21.8	64.3	50.0	20.4	33.3	16.4	22.5	27.8	22.5
民生委員・児童委員などの地域を支える人を対象に出前講座を実施し、地域における理	19.7	22.6	25.7	15.6	35.7	25.0	20.4	33.3	14.8	20.7	16.7	22.5
市が障害に関するイベントを実施する	19.1	24.5	27.1	17.0	35.7	50.0	18.5	33.3	14.8	11.7	22.2	22.5
市が障害に関する研修会をする	13.0	22.6	20.0	8.8	28.6	25.0	22.2	22.2	7.0	12.6	5.6	7.5
障害に関する啓発冊子を作成する	12.4	20.8	17.1	10.2	21.4	25.0	7.4	22.2	11.7	13.5	16.7	5.0
障害者団体が活動する	11.3	24.5	20.0	9.5	28.6	50.0	13.0	0.0	7.8	5.4	5.6	5.0
障害者やその家族が自ら活動する	10.4	18.9	12.9	10.2	28.6	50.0	16.7	11.1	5.5	4.5	5.6	12.5
その他	6.5	9.4	7.1	6.1	7.1	25.0	9.3	0.0	3.1	7.2	16.7	5.0
特にない	12.4	9.4	8.6	9.5	0.0	0.0	20.4	11.1	18.8	9.9	0.0	10.0
わからない	13.7	11.3	22.9	15.6	0.0	0.0	13.0	22.2	10.2	13.5	5.6	22.5

暮らしを支えるサービス

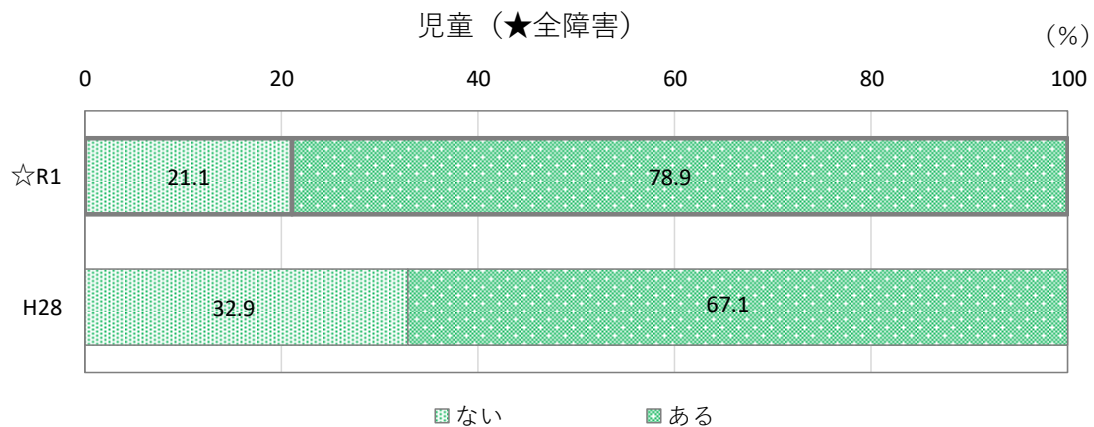
問 18. 障害福祉サービスを利用したことがありますか（○はひとつ）。

【児童】

児童全体では、障害福祉サービスを利用したことが「ある」という人が8割近くとなっています。

障害種別にみると、知的障害と発達障害では障害福祉サービスを利用したことが「ある」という人が9割近くとなっています。

前回調査との比較では、「ある」と答えた人の割合が約12ポイント増加しています。



(単位：％)

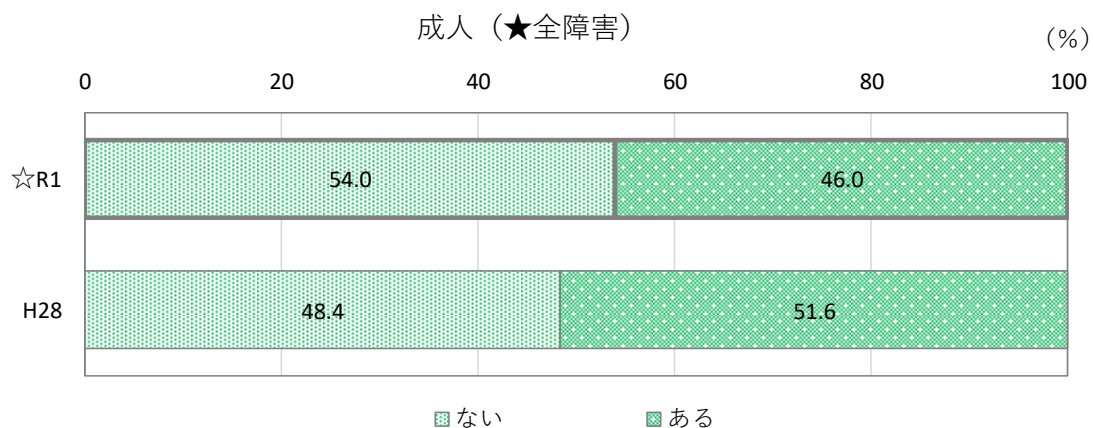
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数(人)	379	3	13	33	241	170	8	1	19	22	23	28
ない	21.1	0.0	0.0	0.0	11.2	11.2	25.0	0.0	36.8	45.5	65.2	46.4
ある	78.9	100.0	100.0	100.0	88.8	88.8	75.0	100.0	63.2	54.5	34.8	53.6

【成人】

成人全体では、障害福祉サービスを利用したことが「ある」という人が4割以上となっています。

障害種別でみると、肢体不自由、発達障害では障害福祉サービスを利用したことが「ある」という人が7割程度、知的障害では8割近くとなっています。一方で、精神障害では3割以上、難病では2割程度となっています。

前回調査との比較では、「ある」と答えた人が約6ポイント減少しています。

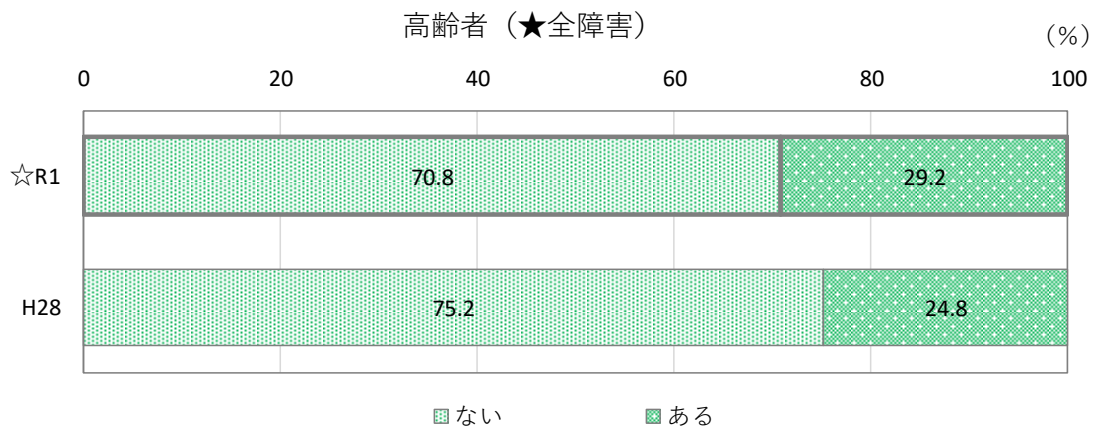


(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数(人)	809	34	55	106	280	96	264	16	31	108	20	38
ない	54.0	32.4	47.3	31.1	22.9	27.1	64.8	50.0	71.0	80.6	95.0	76.3
ある	46.0	67.6	52.7	68.9	77.1	72.9	35.2	50.0	29.0	19.4	5.0	23.7

【高齢者】

高齢者全体では、障害福祉サービスを利用したことが「ある」という人が3割程度となっています。内部機能障害と難病は2割程度であり、他の障害と比べ少ない傾向がみられます。前回調査との比較では、「ある」と答えた人が約4ポイント増加しています。



（単位：%）

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数（人）	528	56	69	137	14	3	55	9	124	109	17	37
ない	70.8	46.4	63.8	63.5	28.6	33.3	69.1	66.7	79.0	76.1	82.4	89.2
ある	29.2	53.6	36.2	36.5	71.4	66.7	30.9	33.3	21.0	23.9	17.6	10.8

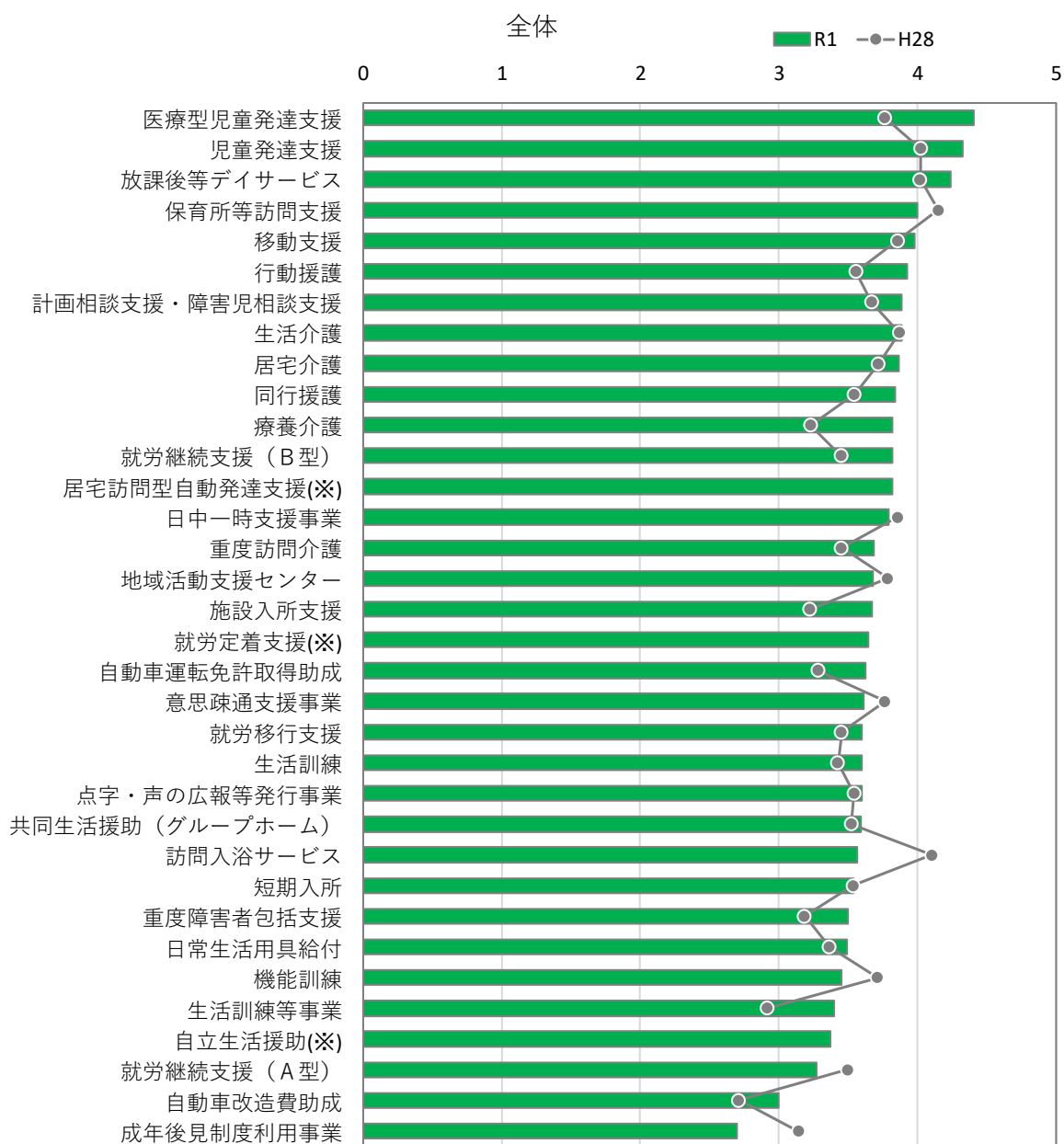
問 19. (問 18 で「2. ある」と答えた方に伺います) 現在利用している障害福祉サービスの満足度について教えてください(使ったことがあるサービスに対して○をひとつ)。使ったことがあるサービスの満足度を 5 段階で評価してください。

全体では、「医療型児童発達支援」「児童発達支援」「放課後等デイサービス」の満足度が高い傾向がみられます。

なお、前回調査では「保育所等訪問支援」「訪問入浴サービス」「児童発達支援」の順で満足度が高い結果でした。

《満足度の算出方法》

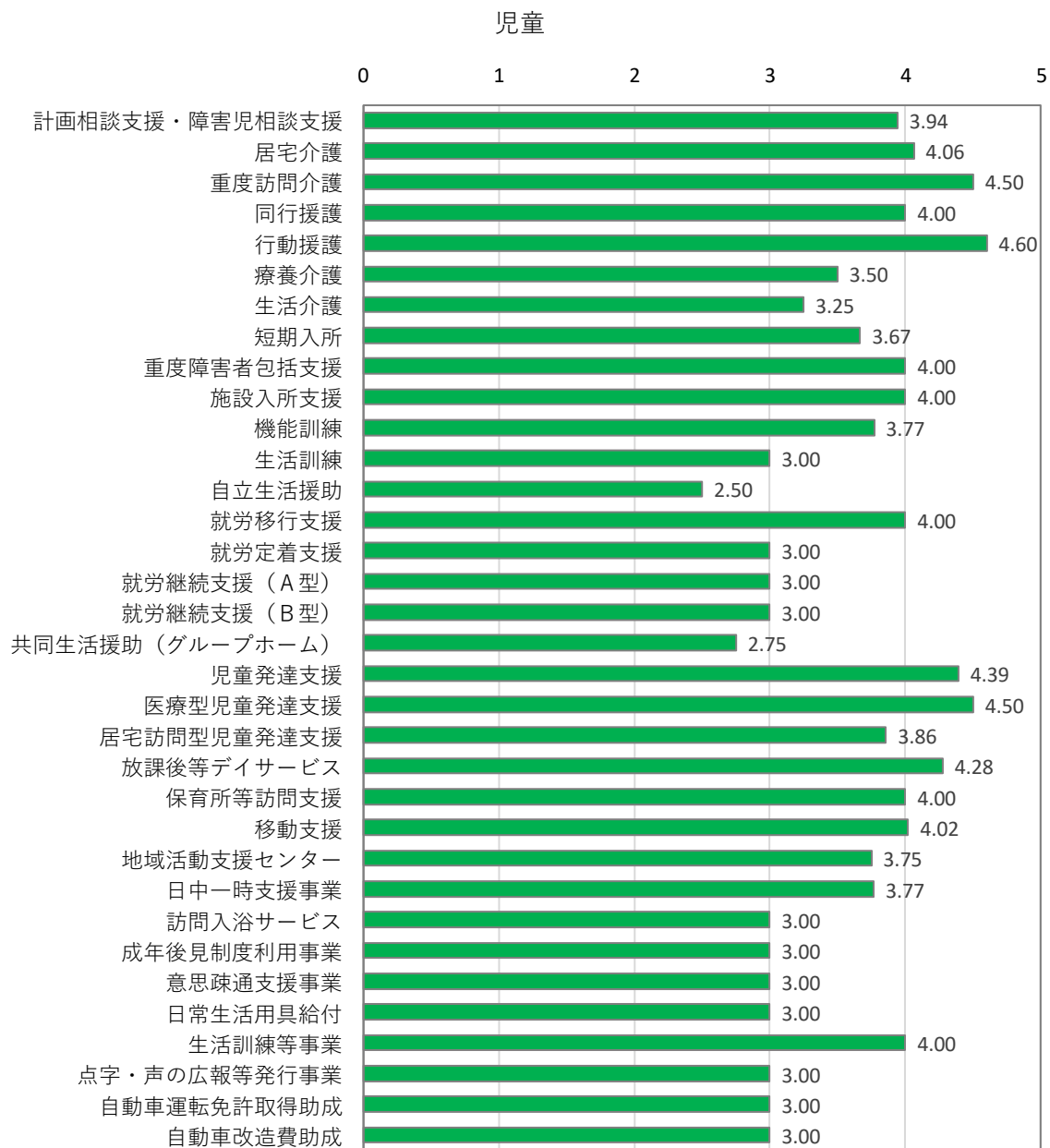
「不満足・やや不満足・どちらでもない・やや満足・満足」の回答数に、それぞれ「1・2・3・4・5」点を与え、その合計を全回答数(「無回答」を除く)で除して満足度を算出しています。したがって本設問の場合、5に近いほど満足度が高く、1に近いほど満足度が低いとみることができます。



※選択肢を新設

【児童】

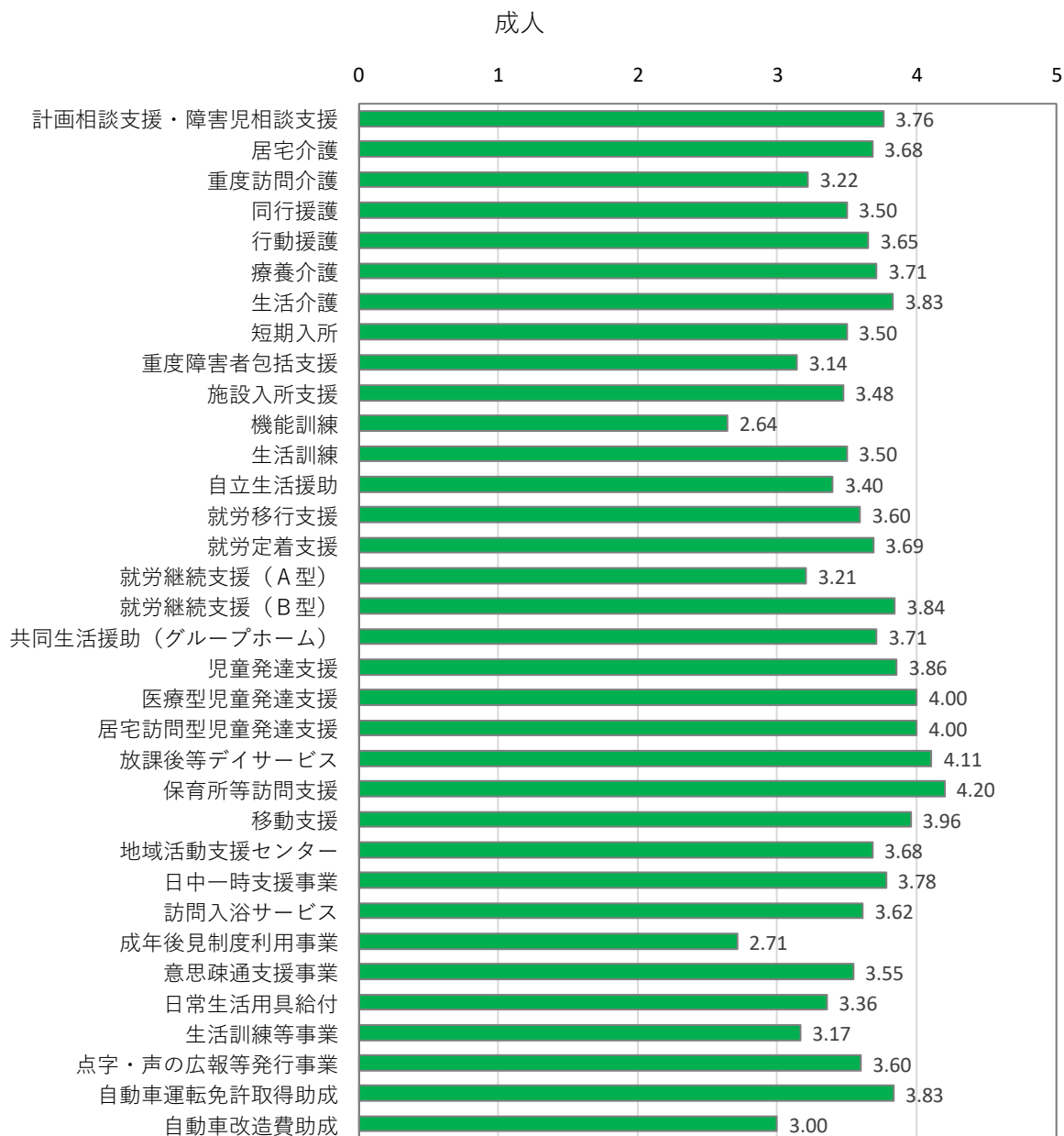
児童では、全体と同様の傾向に加え、「行動援護」が多くなっています。



【成人】

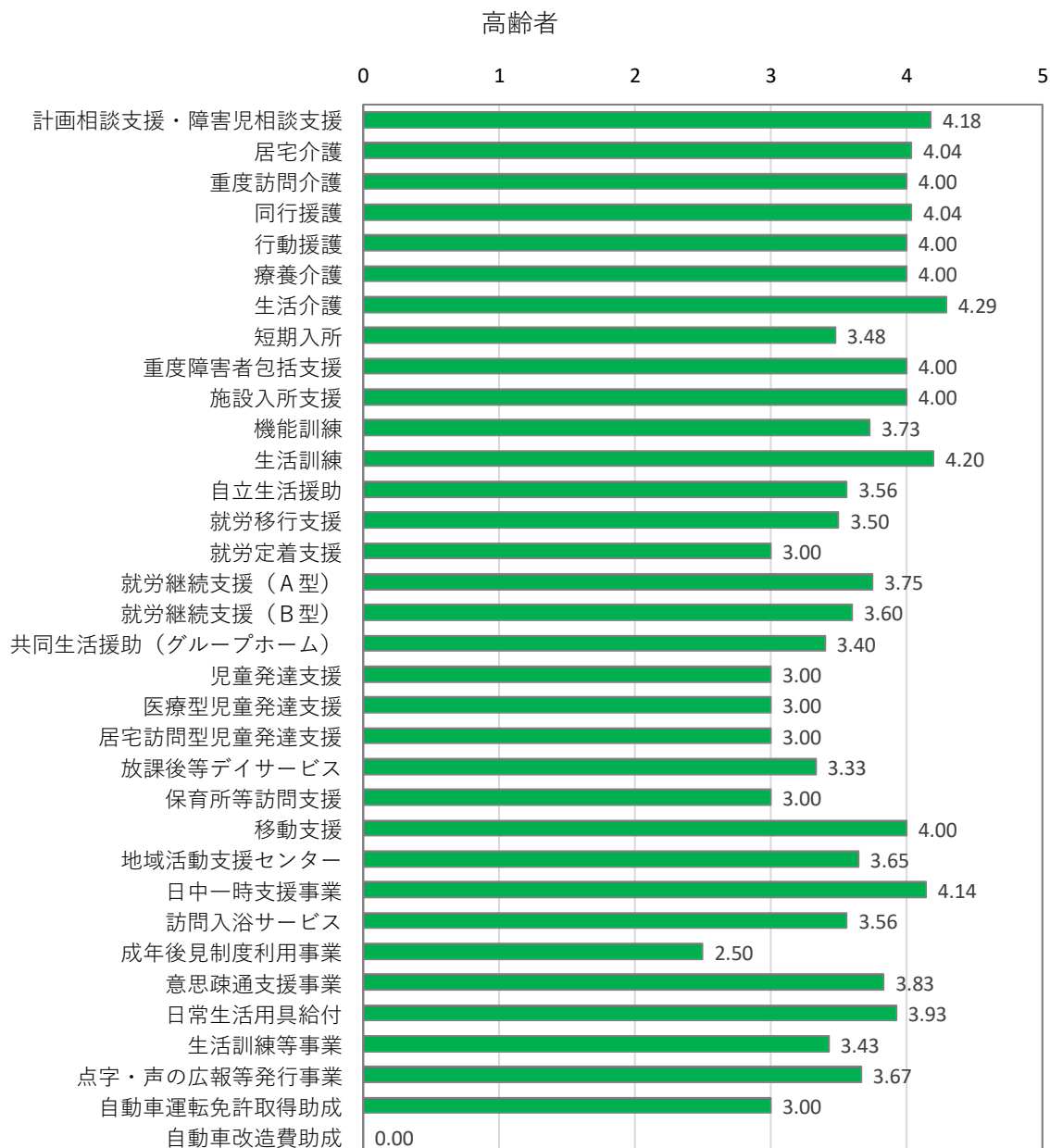
成人では、「就労継続支援（B型）」 「生活介護」 「自動車運転免許取得助成」の満足度が高い傾向がみられます。

（保育所等訪問支援を始めとする児童に関連するサービスについては、分析の対象外としています。）



【高齢者】

高齢者では「生活介護」「生活訓練」「計画相談・障害児相談支援」の満足度が高い傾向がみられます。



満足度	全体	児童	成人	高齢者
計画相談支援・障害児相談支援	3.89	3.94	3.76	4.18
居宅介護	3.87	4.06	3.68	4.04
重度訪問介護	3.69	4.50	3.22	4.00
同行援護	3.84	4.00	3.50	4.04
行動援護	3.93	4.60	3.65	4.00
療養介護	3.82	3.50	3.71	4.00
生活介護	3.89	3.25	3.83	4.29
短期入所	3.54	3.67	3.50	3.48
重度障害者包括支援	3.50	4.00	3.14	4.00
施設入所支援	3.68	4.00	3.48	4.00
機能訓練	3.45	3.77	2.64	3.73
生活訓練	3.60	3.00	3.50	4.20
自立生活援助	3.38	2.50	3.40	3.56
就労移行支援	3.60	4.00	3.60	3.50
就労定着支援	3.65	3.00	3.69	3.00
就労継続支援（A型）	3.28	3.00	3.21	3.75
就労継続支援（B型）	3.82	3.00	3.84	3.60
共同生活援助（グループホーム）	3.59	2.75	3.71	3.40
児童発達支援	4.33	4.39	3.86	3.00
医療型児童発達支援	4.41	4.50	4.00	3.00
居宅訪問型児童発達支援	3.82	3.86	4.00	3.00
放課後等デイサービス	4.24	4.28	4.11	3.33
保育所等訪問支援	4.00	4.00	4.20	3.00
移動支援	3.98	4.02	3.96	4.00
地域活動支援センター	3.68	3.75	3.68	3.65
日中一時支援事業	3.79	3.77	3.78	4.14
訪問入浴サービス	3.57	3.00	3.62	3.56
成年後見制度利用事業	2.70	3.00	2.71	2.50
意思疎通支援事業	3.61	3.00	3.55	3.83
日常生活用具給付	3.49	3.00	3.36	3.93
生活訓練等事業	3.40	4.00	3.17	3.43
点字・声の広報等発行事業	3.60	3.00	3.60	3.67
自動車運転免許取得助成	3.63	3.00	3.83	3.00
自動車改造費助成	3.00	3.00	3.00	0.00
平均値	3.68	3.59	3.57	3.52

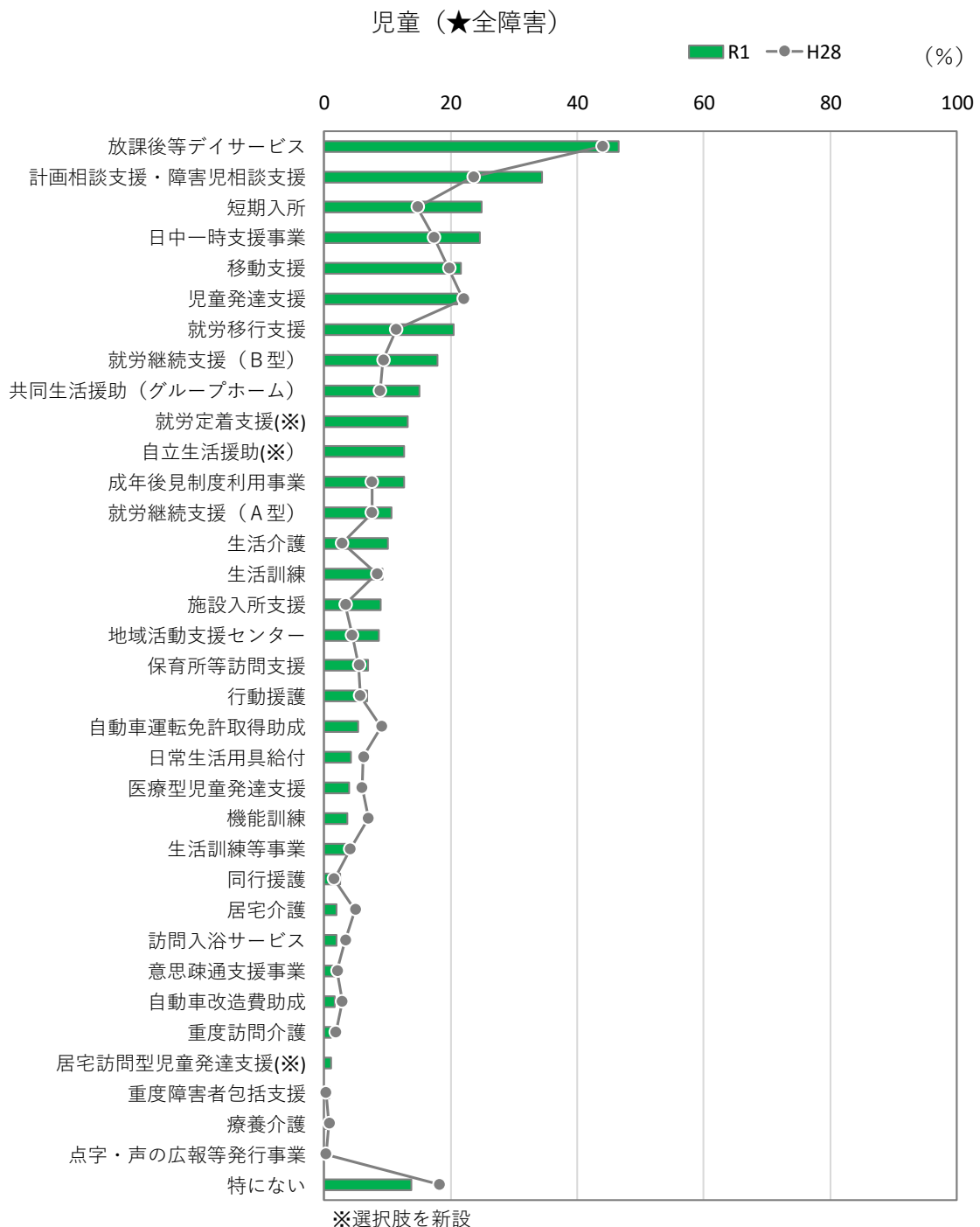
問 20. 今後どのようなサービスを利用したいですか（〇はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「放課後等デイサービス」が4割以上と最も多く、次いで「計画相談支援・障害児相談支援」が3割以上となっています。

また、発達障害は「放課後等デイサービス」が6割程度、肢体不自由は「計画相談支援・障害児相談支援」が5割程度と、それぞれ他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と選択肢が異なるため、単純には比較できませんが、「計画相談支援・障害児相談支援」が約11ポイント、「短期入所」が約10ポイント減少しています。



(単位：%)

児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	357	3	13	33	225	163	8	1	19	22	21	26
放課後等デイサービス	46.5	33.3	38.5	39.4	48.0	59.5	50.0	0.0	31.6	31.8	23.8	34.6
計画相談支援・障害児相談支援	34.5	66.7	46.2	51.5	38.7	36.2	25.0	0.0	15.8	27.3	19.0	34.6
短期入所	24.9	0.0	30.8	39.4	35.1	27.6	25.0	0.0	15.8	31.8	0.0	7.7
日中一時支援事業	24.6	33.3	38.5	42.4	33.8	25.2	12.5	0.0	15.8	22.7	0.0	11.5
移動支援	21.6	0.0	38.5	27.3	28.4	23.3	25.0	0.0	15.8	13.6	0.0	15.4
児童発達支援	21.0	0.0	23.1	24.2	13.8	23.3	25.0	0.0	21.1	9.1	33.3	42.3
就労移行支援	20.4	33.3	30.8	3.0	24.9	25.2	50.0	0.0	0.0	4.5	4.8	11.5
就労継続支援（B型）	17.9	33.3	15.4	9.1	24.4	17.8	12.5	0.0	0.0	9.1	0.0	7.7
共同生活援助（グループホーム）	15.1	0.0	15.4	9.1	21.8	14.7	25.0	100.0	5.3	9.1	0.0	7.7
就労定着支援	13.2	33.3	15.4	0.0	16.0	14.7	12.5	0.0	10.5	4.5	0.0	11.5
自立生活援助	12.6	0.0	15.4	3.0	17.8	11.7	25.0	0.0	10.5	13.6	0.0	19.2
成年後見制度利用事業	12.6	0.0	15.4	0.0	18.2	13.5	12.5	0.0	0.0	9.1	0.0	11.5
就労継続支援（A型）	10.6	0.0	15.4	0.0	14.2	11.7	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	7.7
生活介護	10.1	33.3	23.1	21.2	15.6	10.4	12.5	0.0	10.5	9.1	0.0	3.8
生活訓練	9.2	33.3	30.8	24.2	13.3	8.6	25.0	0.0	10.5	9.1	0.0	11.5
施設入所支援	9.0	33.3	15.4	12.1	12.9	9.8	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8
地域活動支援センター	8.7	0.0	15.4	12.1	11.6	9.2	25.0	0.0	5.3	13.6	0.0	7.7
保育所等訪問支援	7.0	0.0	0.0	12.1	2.7	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	23.1
行動援護	6.7	0.0	15.4	6.1	9.3	9.8	12.5	0.0	0.0	4.5	0.0	11.5
自動車運転免許取得助成	5.3	0.0	0.0	6.1	5.3	4.3	12.5	0.0	5.3	0.0	0.0	3.8
日常生活用具給付	4.2	0.0	7.7	24.2	6.2	2.5	12.5	0.0	5.3	13.6	0.0	3.8
医療型児童発達支援	3.9	0.0	23.1	15.2	4.0	1.8	12.5	0.0	0.0	4.5	4.8	11.5
機能訓練	3.6	0.0	38.5	24.2	5.3	1.8	12.5	0.0	15.8	4.5	0.0	7.7
生活訓練等事業	3.4	0.0	7.7	3.0	3.6	1.8	12.5	0.0	5.3	0.0	4.8	15.4
同行援護	2.5	0.0	0.0	0.0	3.1	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8
居宅介護	2.0	0.0	7.7	12.1	3.1	1.8	12.5	0.0	5.3	9.1	0.0	3.8
訪問入浴サービス	2.0	33.3	0.0	21.2	2.2	0.6	0.0	0.0	5.3	4.5	0.0	0.0
意思疎通支援事業	1.7	0.0	7.7	3.0	2.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
自動車改造費助成	1.7	0.0	0.0	12.1	1.8	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0
重度訪問介護	1.1	0.0	0.0	9.1	1.3	1.2	12.5	0.0	5.3	9.1	0.0	3.8
居宅訪問型児童発達支援	1.1	0.0	15.4	3.0	0.9	0.6	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
重度障害者包括支援	0.8	0.0	0.0	6.1	1.3	0.0	12.5	0.0	5.3	9.1	0.0	0.0
療養介護	0.6	0.0	0.0	3.0	0.9	0.6	12.5	0.0	5.3	4.5	0.0	0.0
点字・声の広報等発行事業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特になし	13.7	0.0	0.0	0.0	5.3	7.4	12.5	0.0	31.6	45.5	47.6	34.6

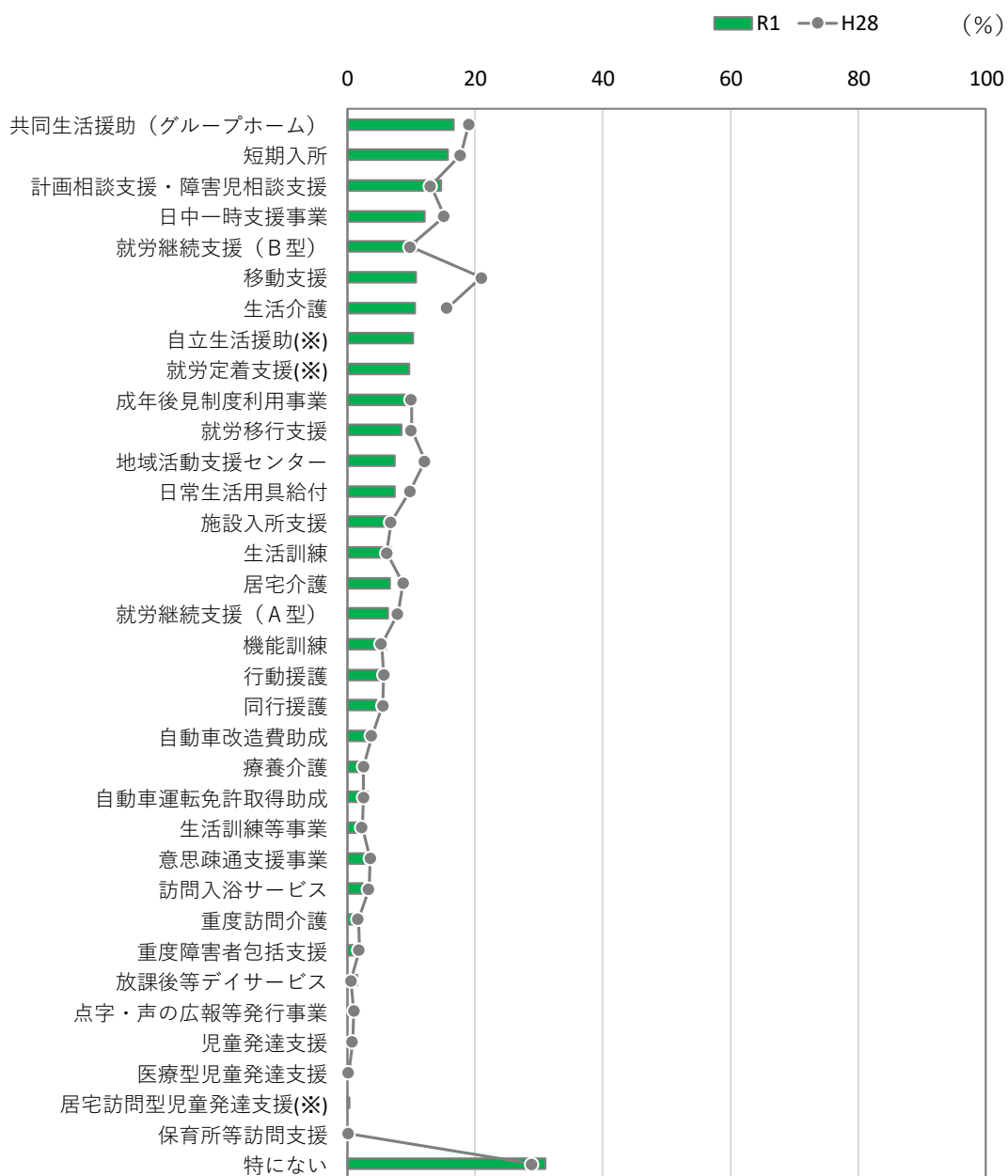
【成人】

成人全体では、「特にない」が3割程度で最も多くなっています。希望するサービスとしては、「共同生活援助（グループホーム）」「短期入所」「計画相談支援・障害児相談支援」が1割以上となっています。

また、知的障害と発達障害は「共同生活援助（グループホーム）」、肢体不自由と知的障害は「短期入所」、発達障害は「計画相談支援・障害児相談支援」がそれぞれ他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と選択肢が異なるため、単純には比較できませんが、「移動支援」が約10ポイント減少しています。

成人（★全障害）



※選択肢を新設

(単位：%)

成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	746	31	49	98	260	87	245	15	30	98	18	35
共同生活援助(グループホーム)	16.6	29.0	10.2	17.3	36.5	31.0	10.2	13.3	10.0	4.1	5.6	11.4
短期入所	15.8	25.8	12.2	26.5	32.3	20.7	8.6	33.3	16.7	11.2	5.6	8.6
計画相談支援・障害児相談支援	14.7	22.6	12.2	21.4	20.4	25.3	12.7	13.3	6.7	6.1	5.6	8.6
日中一時支援事業	12.2	16.1	14.3	16.3	26.9	14.9	5.7	13.3	10.0	10.2	0.0	2.9
就労継続支援(B型)	10.7	6.5	6.1	2.0	15.4	14.9	11.0	13.3	6.7	6.1	5.6	5.7
移動支援	10.7	16.1	12.2	24.5	16.9	17.2	4.9	13.3	6.7	7.1	0.0	11.4
生活介護	10.6	22.6	10.2	21.4	17.7	6.9	8.6	20.0	13.3	13.3	0.0	2.9
自立生活援助	10.3	9.7	6.1	6.1	11.2	13.8	15.9	20.0	3.3	3.1	5.6	22.9
就労定着支援	9.7	6.5	4.1	1.0	8.1	18.4	15.1	13.3	6.7	5.1	11.1	8.6
成年後見制度利用事業	9.1	6.5	6.1	8.2	16.5	19.5	6.9	0.0	3.3	2.0	0.0	2.9
就労移行支援	8.4	6.5	8.2	2.0	6.9	13.8	13.5	20.0	3.3	7.1	11.1	5.7
地域活動支援センター	7.5	3.2	2.0	5.1	9.6	19.5	7.3	13.3	0.0	3.1	0.0	2.9
日常生活用具給付	7.5	22.6	30.6	23.5	5.0	1.1	3.7	13.3	10.0	4.1	0.0	2.9
施設入所支援	7.2	19.4	8.2	10.2	16.5	9.2	5.3	6.7	10.0	4.1	5.6	2.9
生活訓練	6.8	3.2	10.2	4.1	10.4	6.9	9.0	6.7	3.3	4.1	0.0	2.9
居宅介護	6.7	29.0	12.2	19.4	7.3	3.4	6.1	6.7	6.7	13.3	5.6	5.7
就労継続支援(A型)	6.4	3.2	12.2	2.0	5.0	4.6	8.6	6.7	3.3	5.1	0.0	2.9
機能訓練	6.0	16.1	14.3	20.4	7.7	3.4	4.5	26.7	13.3	11.2	11.1	5.7
行動援護	5.5	12.9	6.1	4.1	7.3	9.2	8.2	13.3	6.7	1.0	0.0	5.7
同行援護	4.6	22.6	8.2	5.1	6.5	9.2	4.9	20.0	3.3	4.1	0.0	2.9
自動車改造費助成	3.4	0.0	10.2	10.2	2.7	0.0	1.2	6.7	3.3	3.1	0.0	5.7
療養介護	3.2	9.7	4.1	9.2	5.8	1.1	2.4	6.7	10.0	4.1	11.1	0.0
自動車運転免許取得助成	3.2	0.0	10.2	1.0	4.2	1.1	2.4	0.0	0.0	1.0	0.0	5.7
生活訓練等事業	2.9	0.0	8.2	1.0	3.1	3.4	2.9	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
意思疎通支援事業	2.8	0.0	20.4	1.0	2.3	0.0	1.2	6.7	0.0	2.0	0.0	2.9
訪問入浴サービス	2.4	12.9	8.2	8.2	3.8	2.3	2.4	6.7	3.3	5.1	0.0	2.9
重度訪問介護	1.9	6.5	4.1	6.1	3.5	1.1	1.6	6.7	3.3	3.1	0.0	0.0
重度障害者包括支援	1.7	9.7	4.1	4.1	3.5	1.1	1.6	6.7	3.3	1.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	1.6	6.5	4.1	1.0	1.9	2.3	1.6	6.7	3.3	2.0	0.0	2.9
点字・声の広報等発行事業	1.3	9.7	2.0	1.0	2.3	1.1	1.2	6.7	3.3	2.0	0.0	2.9
児童発達支援	1.2	3.2	2.0	1.0	2.3	2.3	1.2	6.7	3.3	2.0	0.0	0.0
医療型児童発達支援	0.7	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.8	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
居宅訪問型児童発達支援	0.3	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保育所等訪問支援	0.3	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特になし	31.1	19.4	16.3	22.4	10.0	20.7	35.9	20.0	56.7	55.1	72.2	37.1

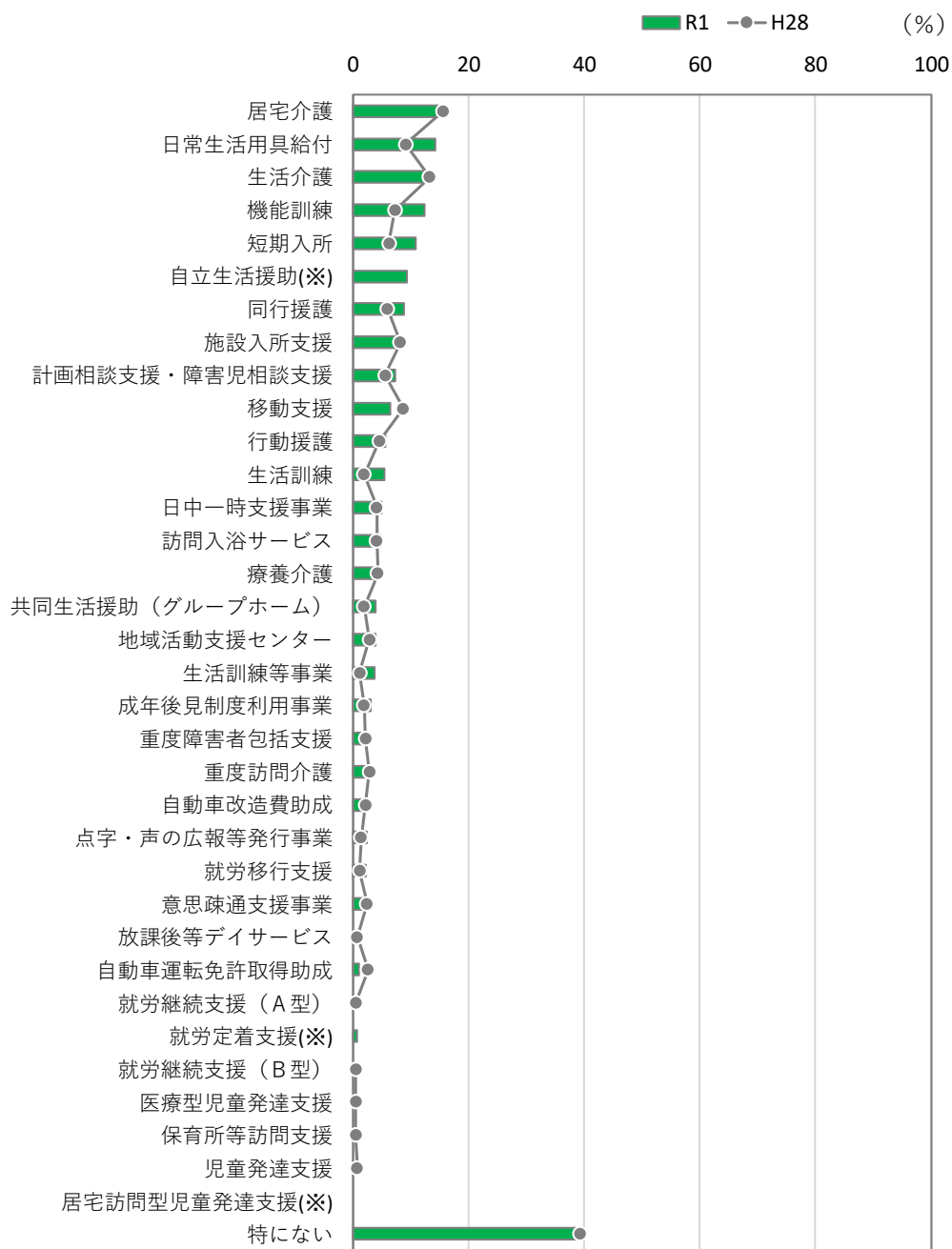
【高齢者】

高齢者全体では、「特にない」が4割近くと最も多くなっています。希望するサービスとしては、「居宅介護」「日常生活用具給付」「生活介護」「機能訓練」が1割以上となっています。

また、視覚障害は「居宅介護」と「同行援護」、難病は「機能訓練」について、それぞれ他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と選択肢が異なるため、単純には比較できませんが、大きな傾向の違いは見られません。

高齢者（★全障害）



※選択肢を新設

(単位：%)

高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	461	46	57	125	11	4	49	8	104	101	17	32
居宅介護	14.8	23.9	8.8	15.2	18.2	0.0	4.1	12.5	13.5	18.8	11.8	15.6
日常生活用具給付	14.3	21.7	19.3	18.4	9.1	25.0	4.1	12.5	12.5	15.8	23.5	9.4
生活介護	12.4	10.9	12.3	9.6	45.5	25.0	6.1	12.5	10.6	12.9	11.8	18.8
機能訓練	12.4	2.2	14.0	17.6	18.2	0.0	6.1	25.0	7.7	23.8	0.0	9.4
短期入所	10.8	15.2	7.0	9.6	18.2	0.0	10.2	12.5	9.6	16.8	23.5	3.1
自立生活援助	9.3	2.2	7.0	8.8	27.3	25.0	20.4	12.5	7.7	9.9	0.0	3.1
同行援護	8.9	39.1	3.5	11.2	27.3	25.0	4.1	12.5	1.9	5.9	5.9	6.3
施設入所支援	7.8	10.9	7.0	4.8	36.4	25.0	12.2	0.0	3.8	10.9	11.8	6.3
計画相談支援・障害児相談支援	7.4	6.5	10.5	8.0	18.2	0.0	8.2	0.0	6.7	7.9	11.8	3.1
移動支援	6.5	4.3	8.8	11.2	18.2	25.0	2.0	25.0	5.8	8.9	11.8	3.1
行動援護	5.6	8.7	0.0	2.4	45.5	50.0	8.2	0.0	4.8	4.0	0.0	9.4
生活訓練	5.4	0.0	5.3	2.4	27.3	25.0	12.2	0.0	3.8	6.9	0.0	6.3
日中一時支援事業	5.0	4.3	10.5	5.6	9.1	0.0	2.0	0.0	3.8	6.9	5.9	3.1
訪問入浴サービス	4.8	0.0	5.3	8.0	9.1	0.0	2.0	0.0	3.8	9.9	5.9	6.3
療養介護	4.1	4.3	5.3	3.2	0.0	0.0	4.1	0.0	4.8	8.9	5.9	6.3
共同生活援助(グループホーム)	3.9	2.2	0.0	0.8	18.2	50.0	14.3	12.5	1.9	1.0	5.9	3.1
地域活動支援センター	3.9	8.7	3.5	2.4	0.0	0.0	2.0	0.0	5.8	4.0	5.9	6.3
生活訓練等事業	3.7	4.3	5.3	0.0	18.2	50.0	4.1	0.0	1.9	5.0	5.9	6.3
成年後見制度利用事業	3.0	0.0	0.0	0.0	9.1	50.0	12.2	0.0	2.9	3.0	0.0	3.1
重度障害者包括支援	2.8	6.5	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	5.0	0.0	3.1
重度訪問介護	2.6	2.2	0.0	2.4	9.1	0.0	2.0	0.0	2.9	5.0	0.0	6.3
自動車改造費助成	2.6	0.0	1.8	2.4	0.0	0.0	0.0	12.5	2.9	2.0	0.0	6.3
点字・声の広報等発行事業	2.4	21.7	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0
就労移行支援	2.2	0.0	3.5	2.4	18.2	50.0	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
意思疎通支援事業	2.0	0.0	8.8	0.0	9.1	50.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	3.1
放課後等デイサービス	1.1	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	4.0	5.9	0.0
自動車運転免許取得助成	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.9	1.0	0.0	3.1
就労継続支援(A型)	0.9	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	4.1	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
就労定着支援	0.7	0.0	1.8	0.8	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
就労継続支援(B型)	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療型児童発達支援	0.4	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
保育所等訪問支援	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
児童発達支援	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
居宅訪問型児童発達支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特になし	38.6	28.3	26.3	32.8	0.0	0.0	36.7	25.0	48.1	33.7	52.9	50.0

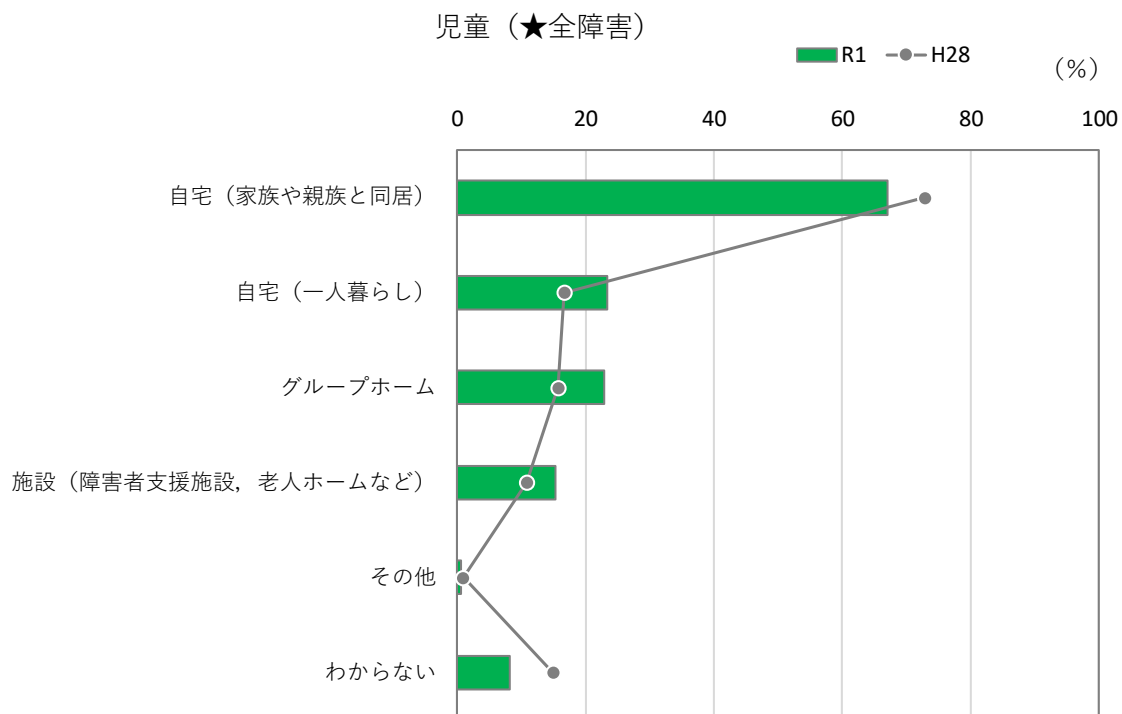
問 21. 将来どこで暮らしたいですか (〇はいくつでも)。

【児童】

児童全体では、「自宅（家族や親族と同居）」が7割近くで、最も多くなっています。

また、知的障害と発達障害については、他の障害と比べ、「グループホーム」を希望する割合が多くなっています。

前回調査と比べて、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

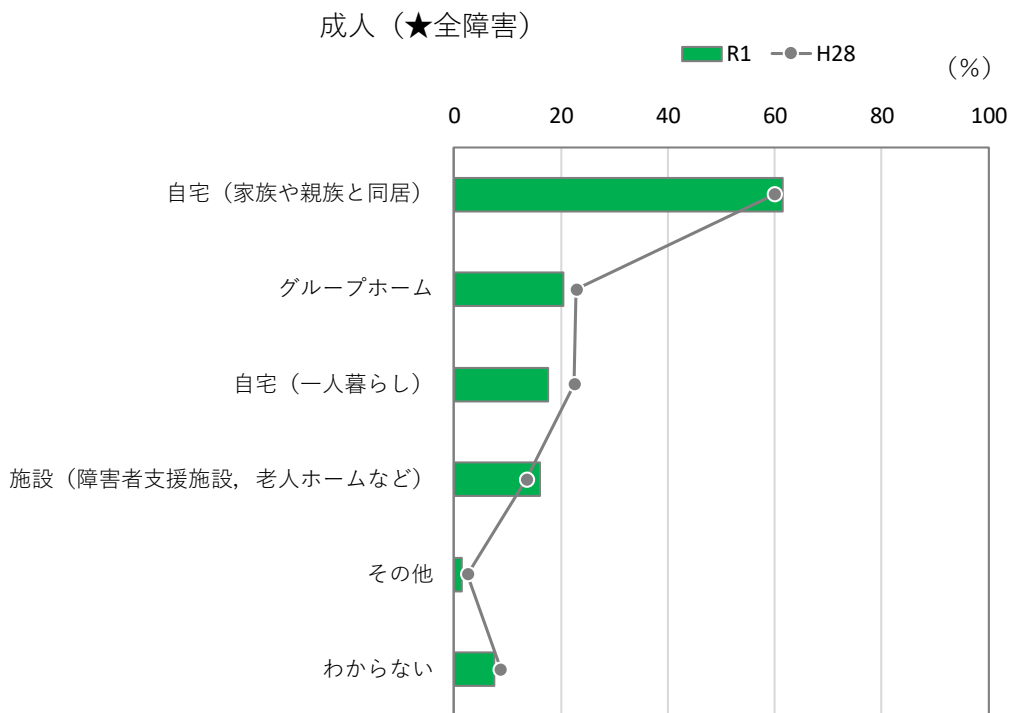
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	380	3	13	33	242	171	8	1	20	22	22	28
自宅（家族や親族と同居）	67.1	0.0	84.6	84.8	69.4	63.2	75.0	0.0	80.0	72.7	81.8	57.1
自宅（一人暮らし）	23.4	33.3	0.0	3.0	19.8	22.8	12.5	0.0	25.0	31.8	36.4	25.0
グループホーム	22.9	33.3	46.2	21.2	31.8	27.5	25.0	100.0	0.0	13.6	0.0	14.3
施設（障害者支援施設, 老人ホームなど）	15.3	33.3	15.4	24.2	22.3	18.1	0.0	0.0	5.0	9.1	0.0	3.6
その他	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
わからない	8.2	33.3	0.0	9.1	6.2	8.8	12.5	0.0	0.0	9.1	4.5	21.4

【成人】

成人全体では、「自宅（家族や親族と同居）」が最も多く、6割程度となっています。次いで、「グループホーム」「自宅（一人暮らし）」となっています。

他の障害と比べ、知的障害と発達障害は「グループホーム」を希望する割合が高い傾向がみられます。

前回調査と比べて、大きな傾向の違いは見られません。



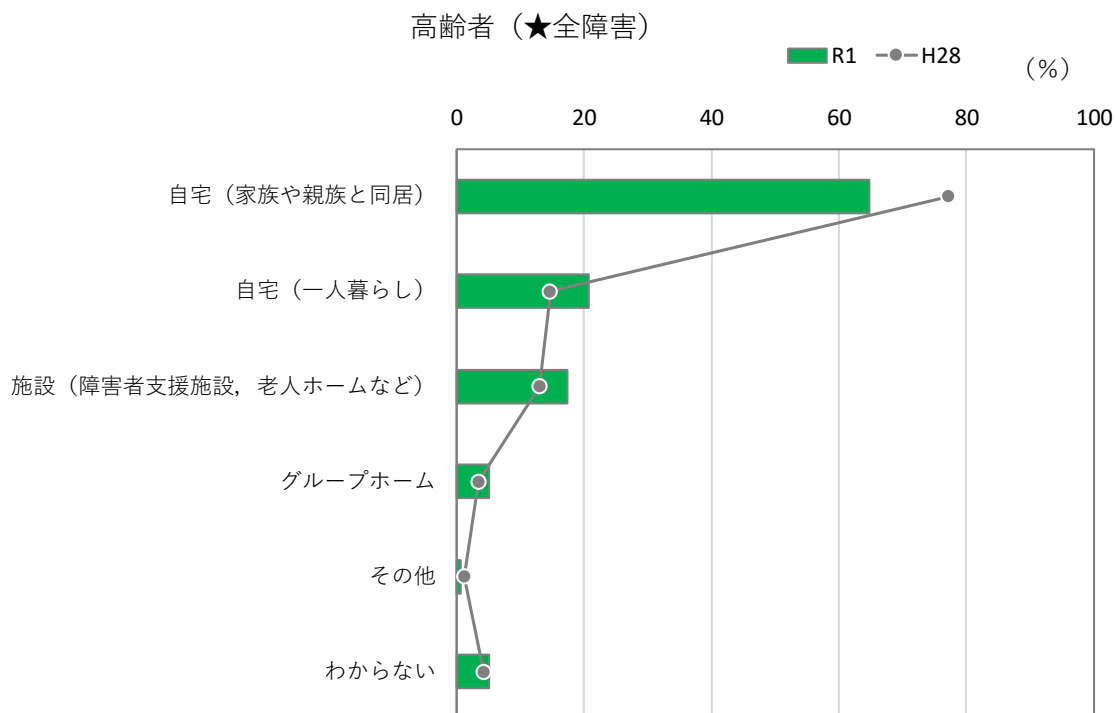
(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	816	33	55	103	281	95	270	15	33	108	20	38
自宅（家族や親族と同居）	61.5	48.5	58.2	59.2	50.9	51.6	63.3	80.0	78.8	70.4	95.0	73.7
グループホーム	20.5	30.3	9.1	22.3	40.6	37.9	14.1	20.0	12.1	8.3	0.0	10.5
自宅（一人暮らし）	17.6	21.2	25.5	14.6	11.7	22.1	24.4	20.0	9.1	19.4	10.0	15.8
施設（障害者支援施設, 老人ホームなど）	16.1	39.4	16.4	23.3	29.5	18.9	10.7	13.3	18.2	11.1	15.0	13.2
その他	1.3	0.0	1.8	1.0	1.4	2.1	1.9	0.0	0.0	1.9	0.0	2.6
わからない	7.6	9.1	12.7	9.7	4.6	6.3	7.8	6.7	6.1	10.2	0.0	7.9

【高齢者】

高齢者全体では、全体として「自宅（家族や親族と同居）」の割合が6割以上と最も多くなっています。

前回調査と比較すると、「自宅（家族や親族と同居）」の割合が約13ポイント減少しています。



(単位：%)

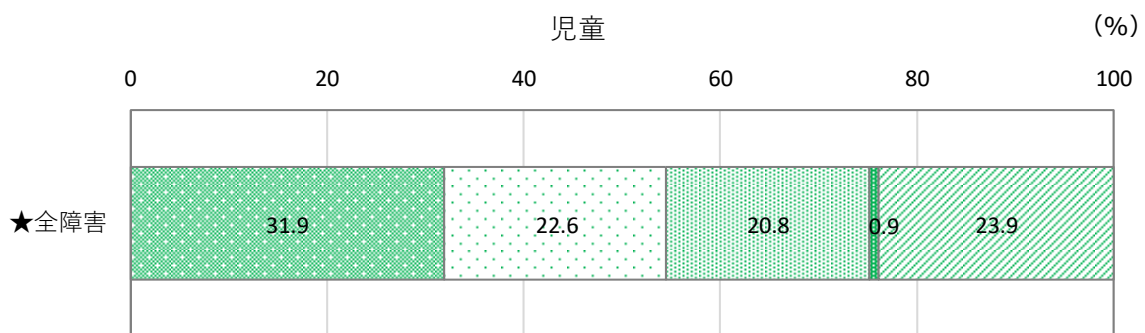
高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	540	52	67	143	14	4	57	9	133	112	17	41
自宅（家族や親族と同居）	64.8	63.5	68.7	68.5	57.1	25.0	45.6	77.8	69.2	71.4	76.5	61.0
自宅（一人暮らし）	20.7	21.2	13.4	21.7	7.1	25.0	24.6	11.1	20.3	17.9	5.9	17.1
施設（障害者支援施設, 老人ホームなど）	17.4	19.2	16.4	18.2	28.6	50.0	28.1	11.1	16.5	16.1	5.9	12.2
グループホーム	5.2	1.9	1.5	3.5	35.7	25.0	14.0	0.0	4.5	0.0	5.9	4.9
その他	0.7	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	1.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
わからない	5.2	9.6	10.4	1.4	0.0	0.0	8.8	11.1	4.5	4.5	5.9	9.8

問 22. (問 21 で「1. 自宅 (家族や親族と同居)」と答えた方のみお答えください)
 将来, 親や親族が病気などで一緒に生活できなくなった時は, どのような生活を希望
 しますか (○はひとつ)。

【児童】

児童全体では, 「一人暮らし」と「グループホームでの生活」を合計した 4 割以上の方が地
 域での生活を希望する結果となっています。また, 「施設」の割合は 3 割程度となっています。

障害種別でみると, 肢体不自由が「施設」の割合が 7 割程度で他の障害と比べ多くなっ
 ています。また, 知的障害については「グループホームでの生活」と回答した人が, 他の障害よ
 りも多い傾向がみられます。



■施設 (障害者支援施設, 老人ホームなど) での生活 □グループホームでの生活 ▨一人暮らし ■その他 □わからない

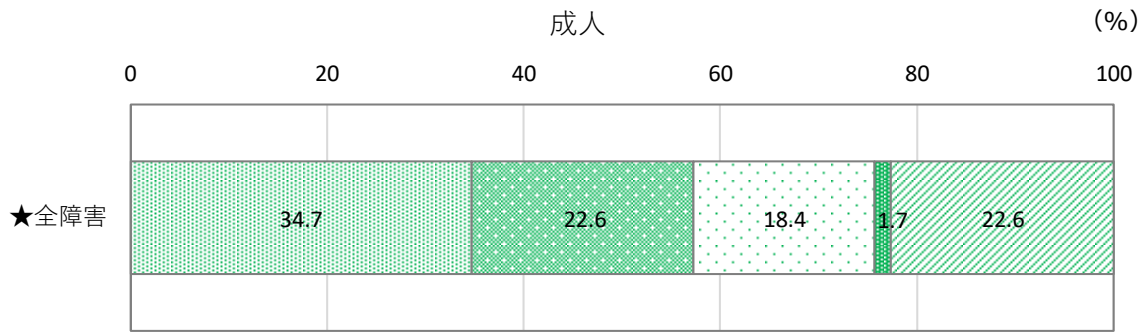
(単位: %)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他
有効回答数 (人)	226	0	11	26	145	91	6	0	16	15	16	14
施設 (障害者支援施設, 老人ホームなど) での生活	31.9	0.0	45.5	69.2	42.1	33.0	33.3	0.0	43.8	40.0	0.0	7.1
グループホームでの生活	22.6	0.0	45.5	11.5	29.7	22.0	16.7	0.0	6.3	13.3	0.0	21.4
一人暮らし	20.8	0.0	0.0	11.5	7.6	14.3	16.7	0.0	37.5	26.7	68.8	28.6
その他	0.9	0.0	0.0	0.0	0.7	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
わからない	23.9	0.0	9.1	7.7	20.0	28.6	33.3	0.0	12.5	20.0	31.3	35.7

【成人】

成人全体では、「一人暮らし」と「グループホームでの生活」を合計した5割以上が地域での生活を希望する結果となっています。また、「施設」の割合は2割程度となっています。

障害種別で見ると、精神障害、難病は「一人暮らし」、知的障害と発達障害は「グループホームでの生活」が他の障害よりも多い傾向がみられます。



□一人暮らし □施設 (障害者支援施設, 老人ホームなど) での生活 □グループホームでの生活 □その他 □わからない

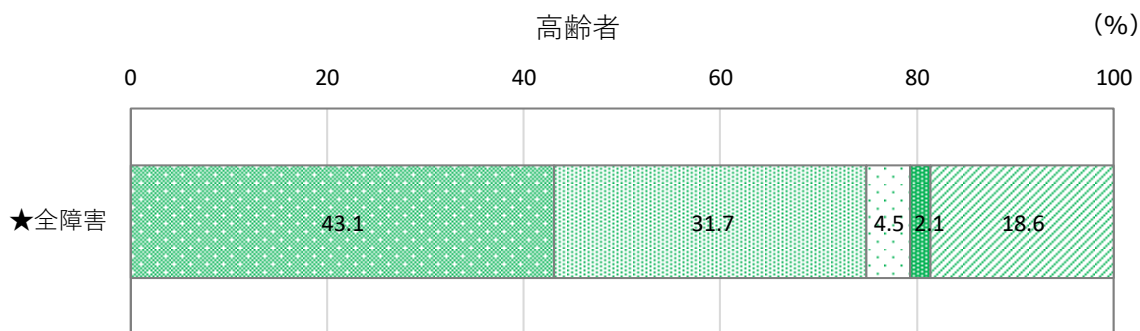
(単位: %)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	473	15	32	60	131	46	161	11	24	73	19	26
一人暮らし	34.7	13.3	40.6	36.7	14.5	28.3	45.3	18.2	41.7	41.1	36.8	26.9
施設 (障害者支援施設, 老人ホームなど) での生活	22.6	40.0	25.0	30.0	25.2	21.7	14.9	27.3	37.5	28.8	21.1	26.9
グループホームでの生活	18.4	6.7	9.4	20.0	42.7	30.4	13.7	9.1	8.3	5.5	5.3	7.7
その他	1.7	6.7	3.1	1.7	1.5	0.0	1.9	9.1	0.0	2.7	0.0	3.8
わからない	22.6	33.3	21.9	11.7	16.0	19.6	24.2	36.4	12.5	21.9	36.8	34.6

【高齢者】

高齢者全体では、「施設」が最も多く4割以上となっており、すべての障害種別で「施設」が最も多い結果となっています。

また、「一人暮らし」と「グループホームでの生活」を合計した地域での生活を希望する割合は3割以上となっています。



■施設（障害者支援施設、老人ホームなど）での生活 ■一人暮らし ■グループホームでの生活 ■その他 ■わからない

(単位：%)

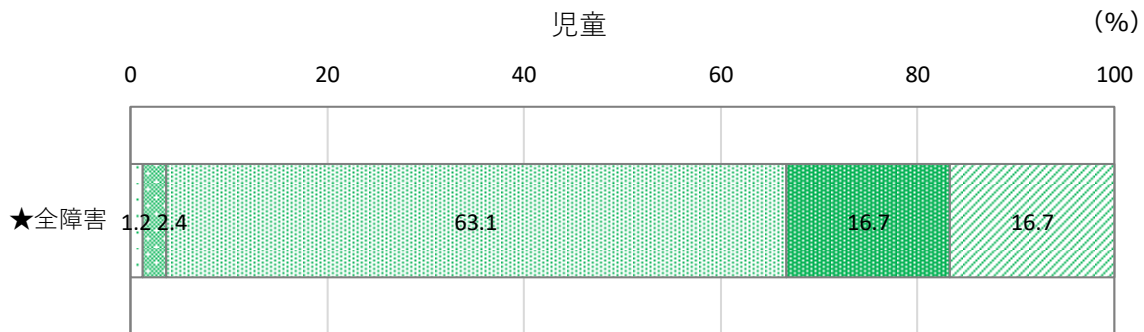
高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	334	32	44	94	6	0	25	6	87	78	13	25
施設（障害者支援施設、老人ホームなど）での生活	43.1	56.3	38.6	42.6	83.3	0.0	36.0	50.0	41.4	51.3	53.8	32.0
一人暮らし	31.7	28.1	22.7	38.3	0.0	0.0	20.0	0.0	32.2	30.8	15.4	20.0
グループホームでの生活	4.5	3.1	0.0	2.1	16.7	0.0	12.0	0.0	8.0	0.0	15.4	16.0
その他	2.1	3.1	6.8	3.2	0.0	0.0	0.0	16.7	1.1	0.0	0.0	4.0
わからない	18.6	9.4	31.8	13.8	0.0	0.0	32.0	33.3	17.2	17.9	15.4	28.0

問 23. (問 21 で「4. グループホーム」と答えた方のみお答えください)
 いつ施設を利用したいですか (○はひとつ)。

【児童】

児童全体では、「時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい」が6割以上と最も多くなっています。

「その他」の回答は、「子どもが成人したら」などがありました。



□ いますぐに入りたい (1ヶ月以内) ■ できるだけ早く入りたい (半年以内)
 ▨ 時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい ■ わからない
 ▨ その他

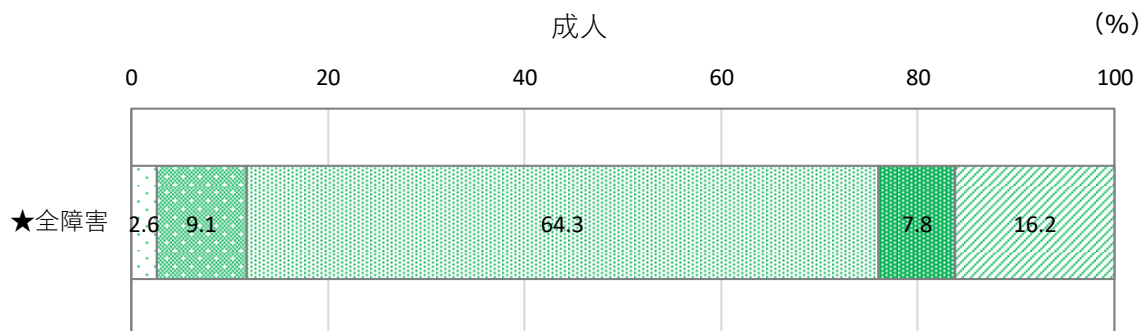
(単位：％)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	84	1	6	7	74	45	2	1	0	3	0	3
いますぐに入りたい (1ヶ月以内)	1.2	0.0	0.0	14.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
できるだけ早く入りたい (半年以内)	2.4	100.0	0.0	14.3	2.7	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい	63.1	0.0	100.0	57.1	62.2	62.2	50.0	100.0	0.0	66.7	0.0	66.7
わからない	16.7	0.0	0.0	14.3	16.2	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
その他	16.7	0.0	0.0	0.0	17.6	15.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【成人】

成人全体についても、「時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい」が6割以上と最も多くなっています。

「その他」の回答は、「現在利用している」のほか、「親亡き後」などがありました。



- いますぐに入りたい (1ヶ月以内)
- ▨ できるだけ早く入りたい (半年以内)
- ▩ 時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい
- わからない
- ▧ その他

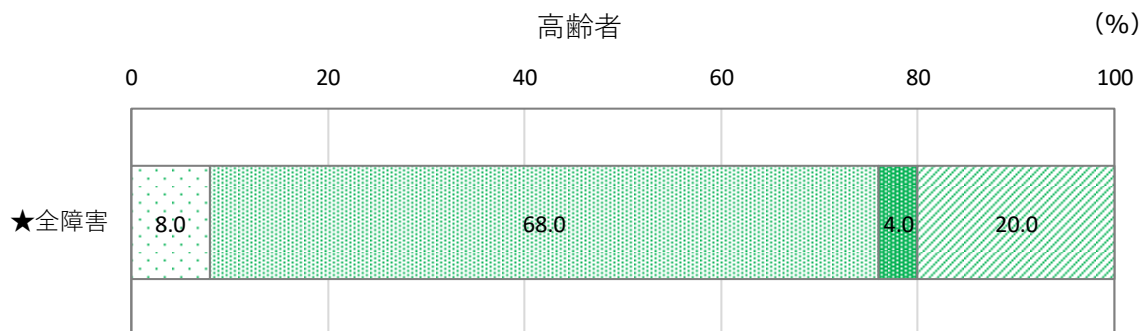
(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	154	9	4	21	105	33	36	1	3	7	0	4
いますぐに入りたい (1ヶ月以内)	2.6	0.0	0.0	0.0	3.8	6.1	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
できるだけ早く入りたい (半年以内)	9.1	0.0	0.0	14.3	8.6	6.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい	64.3	88.9	100.0	57.1	63.8	63.6	58.3	100.0	66.7	57.1	0.0	75.0
わからない	7.8	0.0	0.0	4.8	4.8	6.1	8.3	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0
その他	16.2	11.1	0.0	23.8	19.0	18.2	19.4	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

【高齢者】

高齢者全体についても、「時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい」が7割近くと最も多くなっています。

「その他」の回答は、「現在利用中」などがありました。



- いますぐに入りたい (1ヶ月以内)
- できるだけ早く入りたい (半年以内)
- ▨ 時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい
- わからない
- その他

(単位：%)

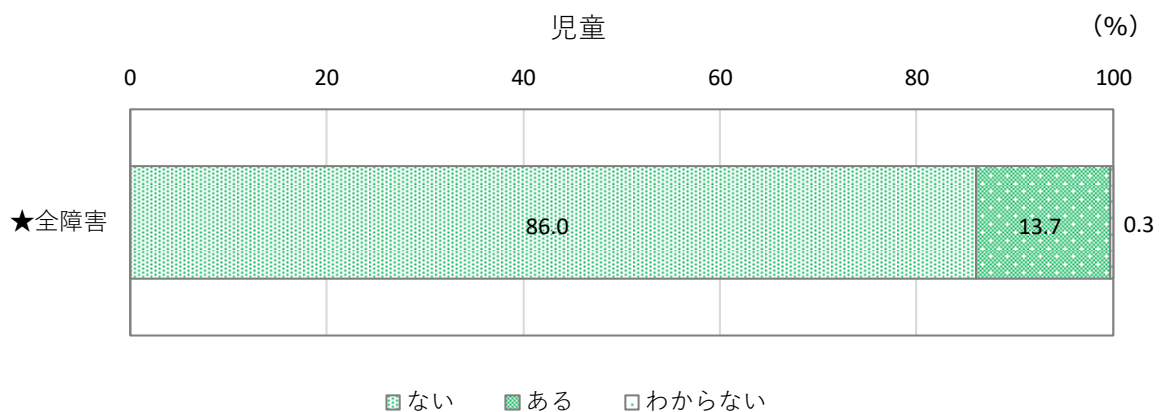
高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	25	1	1	4	4	0	7	0	6	0	1	2
いますぐに入りたい (1ヶ月以内)	8.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
できるだけ早く入りたい (半年以内)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい	68.0	100.0	100.0	75.0	25.0	0.0	71.4	0.0	66.7	0.0	100.0	100.0
わからない	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
その他	20.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	14.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0

問 24 . 短期入所（ショートステイ）のサービスを利用したことがありますか（○はひとつ）。

【児童】

児童全体では、8割以上が短期入所（ショートステイ）のサービスを利用したことが「ない」と回答しています。

障害種別でみると、知的障害は「ある」と回答した人が2割程度で、他の障害と比べ多い傾向がみられます。



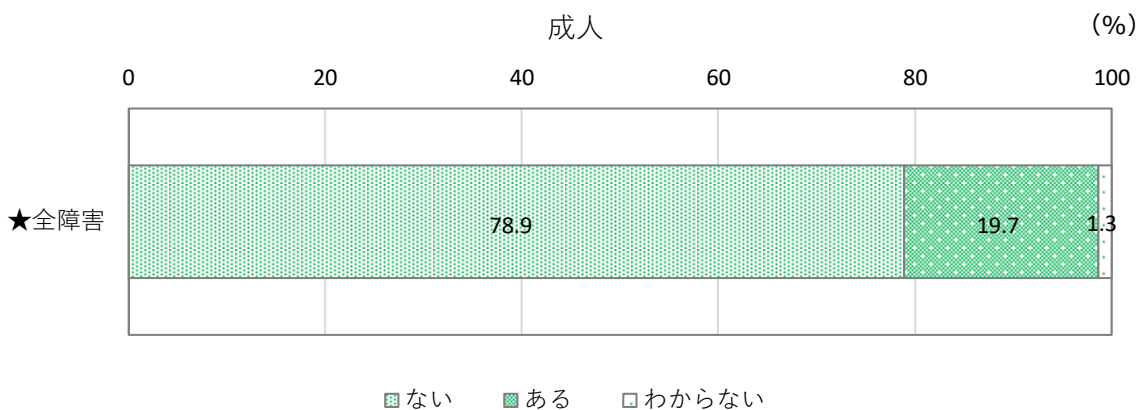
(単位：％)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数 (人)	372	3	13	33	238	167	8	1	20	22	21	26
ない	86.0	100.0	84.6	87.9	79.4	85.0	62.5	100.0	95.0	86.4	100.0	100.0
ある	13.7	0.0	15.4	12.1	20.2	14.4	37.5	0.0	5.0	13.6	0.0	0.0
わからない	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【成人】

成人全体では、8割近くが短期入所（ショートステイ）のサービスを利用したことが「ない」と回答しています。

障害種別で見ると、肢体不自由と発達障害では「ある」と回答した人が3割以上、知的障害では4割以上と他の障害と比べ多い傾向がみられます。



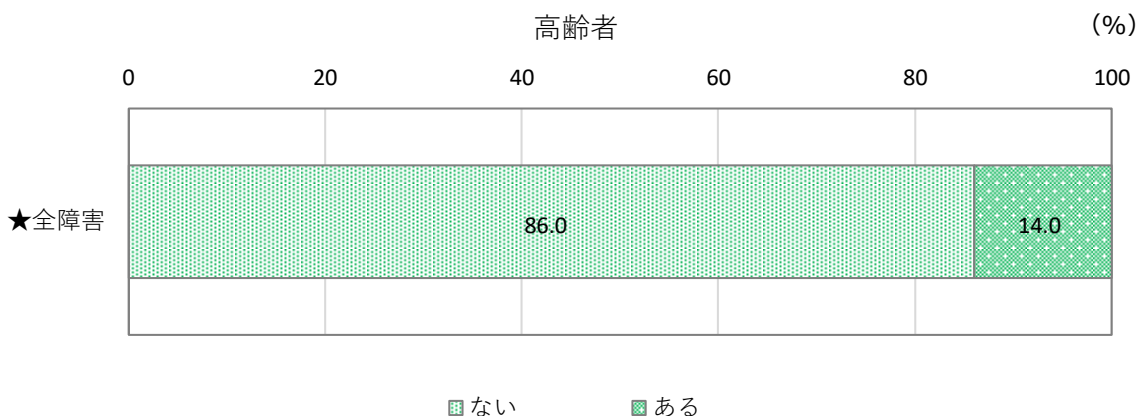
(単位：％)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数(人)	816	34	56	104	281	96	267	15	33	108	20	38
ない	78.9	70.6	80.4	65.4	55.2	65.6	88.8	66.7	90.9	95.4	100.0	92.1
ある	19.7	26.5	17.9	33.7	42.7	34.4	10.1	33.3	9.1	4.6	0.0	7.9
わからない	1.3	2.9	1.8	1.0	2.1	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【高齢者】

高齢者全体では、8割以上が短期入所（ショートステイ）のサービスを利用したことが「ない」と回答しています。

障害種別でみると、肢体不自由は「ある」と回答した人が2割近くで、他の障害と比べ多い傾向がみられます。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	536	52	66	143	13	4	57	9	131	112	17	39
ない	86.0	84.6	83.3	80.4	38.5	75.0	82.5	22.2	91.6	82.1	100.0	92.3
ある	14.0	15.4	16.7	19.6	61.5	25.0	17.5	77.8	8.4	17.9	0.0	7.7
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

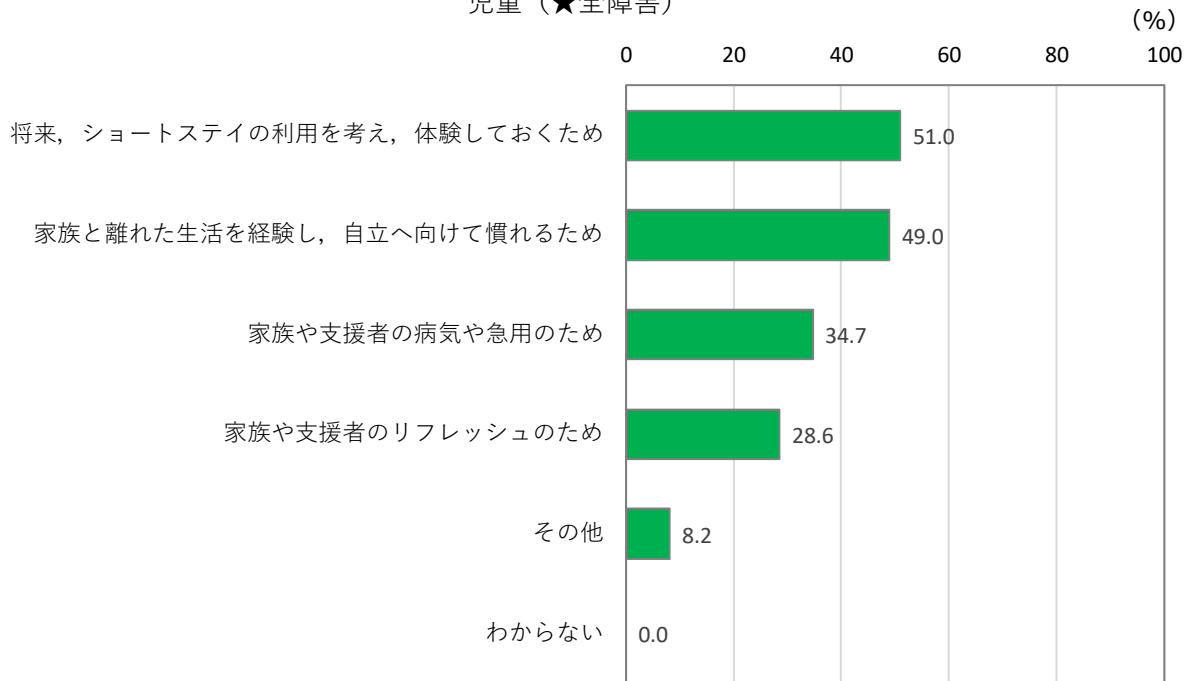
問 25. (問 24 で「2. ある」と答えた方のみお答えください)

短期入所(ショートステイ)のサービスを利用したことがある方はどのような目的で利用しましたか(〇はいくつでも)。

【児童】

児童全体では、「将来、ショートステイの利用を考え、体験しておくため」「家族と離れた生活を経験し、自立へ向けて慣れるため」が5割程度と多くなっています。

児童(★全障害)



(単位: %)

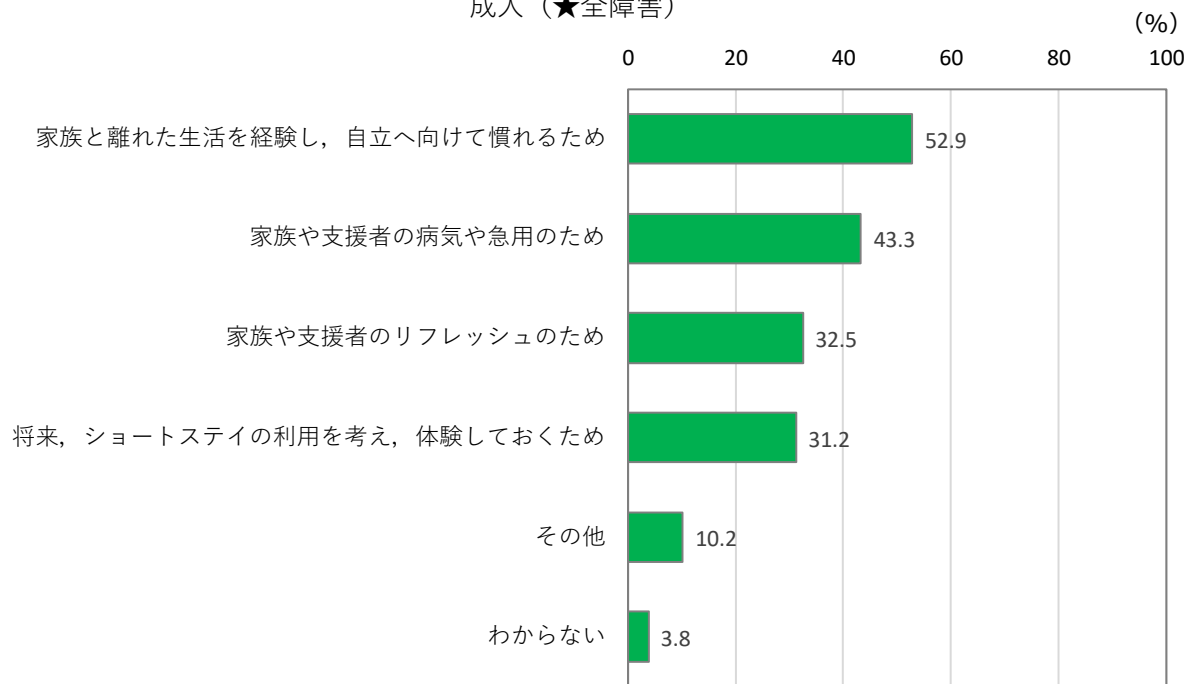
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数(人)	49	0	2	4	46	23	3	0	1	3	0	0
将来、ショートステイの利用を考え、体験しておくため	51.0	0.0	50.0	50.0	52.2	47.8	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
家族と離れた生活を経験し、自立へ向けて慣れるため	49.0	0.0	50.0	25.0	47.8	56.5	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
家族や支援者の病気や急用のため	34.7	0.0	0.0	100.0	34.8	30.4	33.3	0.0	100.0	66.7	0.0	0.0
家族や支援者のリフレッシュのため	28.6	0.0	100.0	25.0	28.3	30.4	66.7	0.0	100.0	33.3	0.0	0.0
その他	8.2	0.0	0.0	0.0	6.5	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【成人】

成人全体では、「家族と離れた生活を経験し、自立へ向けて慣れるため」が5割程度と最も多く、次いで「家族や支援者の病気や急用のため」が4割以上と多くなっています。

「その他」の回答は、「家族が仕事のため」などがありました。

成人（★全障害）



(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数（人）	157	9	10	34	117	33	25	5	3	5	0	3
家族と離れた生活を経験し、自立へ向けて慣れるため	52.9	22.2	50.0	55.9	58.1	60.6	32.0	40.0	66.7	40.0	0.0	66.7
家族や支援者の病気や急用のため	43.3	55.6	40.0	58.8	46.2	36.4	24.0	40.0	0.0	40.0	0.0	66.7
家族や支援者のリフレッシュのため	32.5	55.6	50.0	47.1	30.8	36.4	24.0	20.0	33.3	40.0	0.0	33.3
将来、ショートステイの利用を考え、体験しておくため	31.2	55.6	40.0	38.2	31.6	45.5	16.0	60.0	33.3	60.0	0.0	33.3
その他	10.2	0.0	0.0	5.9	10.3	3.0	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
わからない	3.8	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	12.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

【高齢者】

高齢者全体では「家族や支援者の病気や急用のため」が6割程度と最も多く、次いで「家族や支援者のリフレッシュのため」となっています。

高齢者（★全障害）



(単位：%)

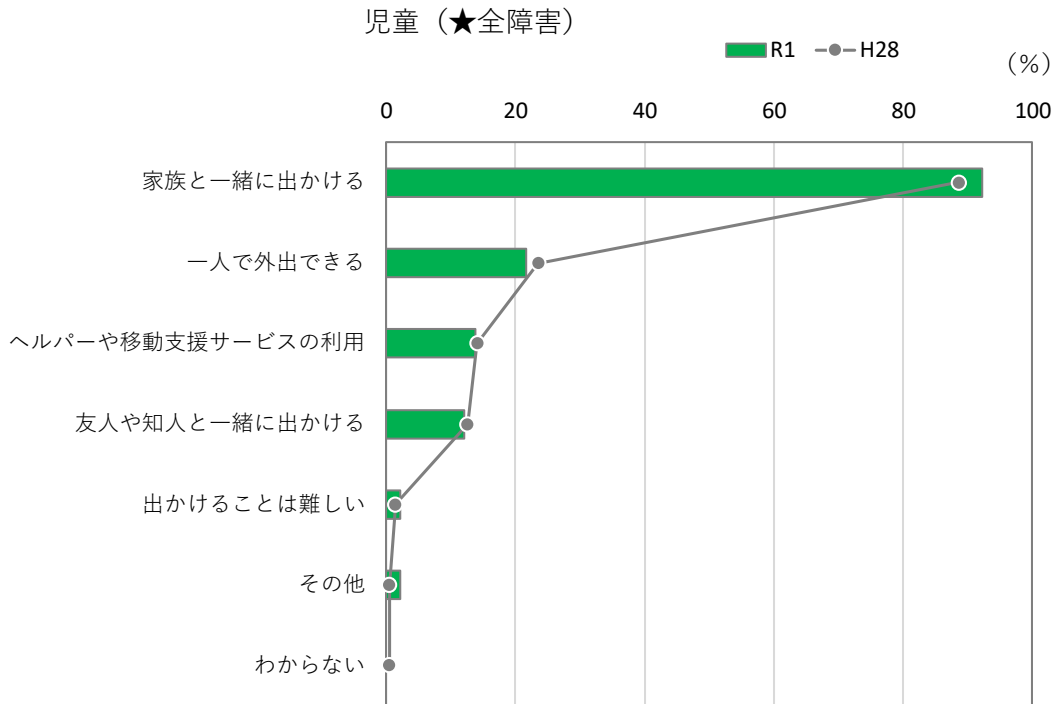
高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数（人）	68	8	9	24	8	1	9	7	9	20	0	3
家族や支援者の病気や急用のため	61.8	75.0	33.3	79.2	75.0	100.0	44.4	57.1	66.7	65.0	0.0	33.3
家族や支援者のリフレッシュのため	29.4	37.5	66.7	41.7	25.0	0.0	0.0	42.9	11.1	35.0	0.0	33.3
将来、ショートステイの利用を考え、体験しておくため	19.1	12.5	44.4	16.7	37.5	0.0	22.2	28.6	0.0	15.0	0.0	0.0
家族と離れた生活を経験し、自立へ向けて慣れるため	16.2	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	44.4	14.3	11.1	10.0	0.0	0.0
その他	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	10.0	0.0	0.0
わからない	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

問 26. 外出する際はどのような手段を使いますか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、前回調査と同様に「家族と一緒に出かける」という回答がほとんどであり、9割以上となっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

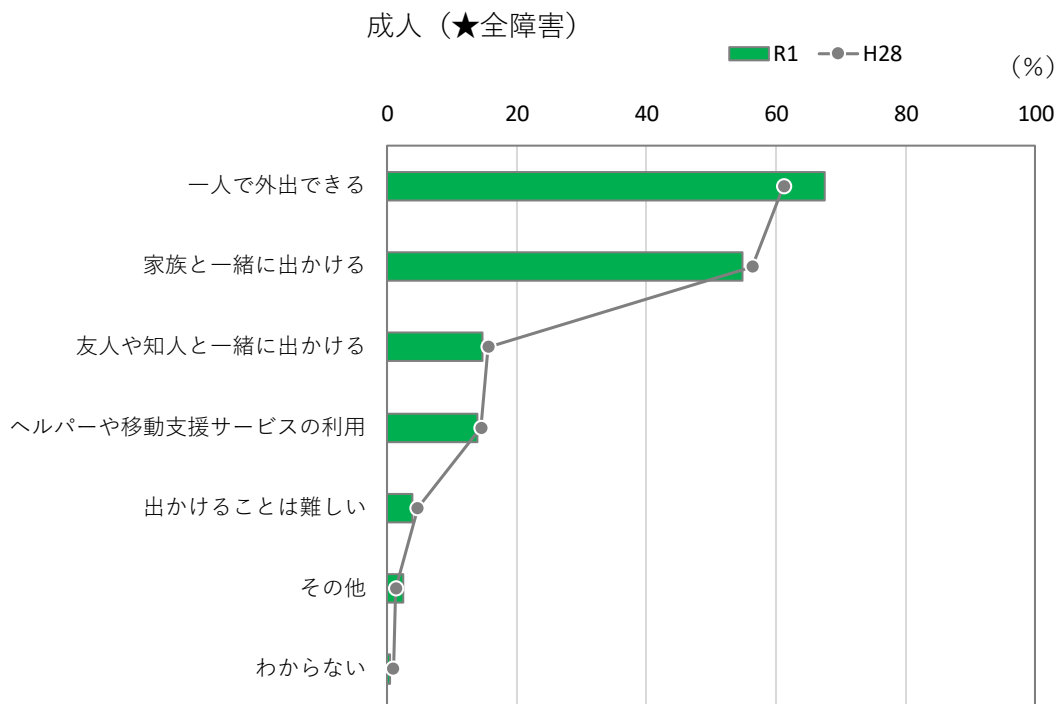
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ そ の 他 ・ わ か ら な い
有効回答数（人）	375	3	13	33	238	169	8	1	20	22	22	28
家族と一緒に出かける	92.3	100.0	100.0	100.0	92.9	92.9	100.0	0.0	95.0	81.8	90.9	96.4
一人で外出できる	21.6	33.3	7.7	3.0	19.3	17.2	37.5	100.0	30.0	40.9	27.3	14.3
ヘルパーや移動支援サービスの利用	13.9	0.0	23.1	15.2	18.5	17.2	37.5	0.0	10.0	22.7	0.0	3.6
友人や知人と一緒に出かける	12.0	33.3	7.7	6.1	11.8	7.7	25.0	0.0	30.0	18.2	18.2	17.9
出かけることは難しい	2.1	0.0	0.0	0.0	2.9	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	2.1	0.0	0.0	3.0	2.5	3.6	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【成人】

成人全体では、「一人で外出できる」が最も多く7割近くとなっています。次いで、「家族と一緒に出かける」が5割以上となっています。

障害種別でみると、肢体不自由、知的障害では、他の障害と比べ、「一人で外出できる」が少なく、「ヘルパーや移動支援サービスの利用」が多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

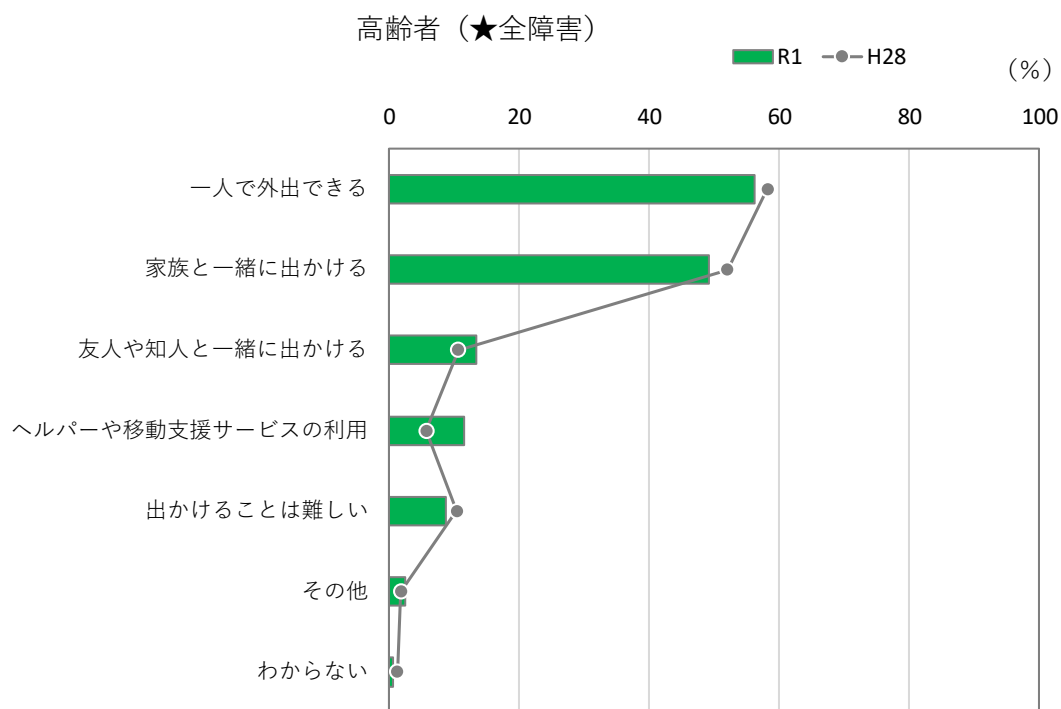
成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	817	35	57	106	283	96	269	16	33	108	20	37
一人で外出できる	67.4	42.9	68.4	42.5	41.3	65.6	79.9	56.3	78.8	82.4	95.0	78.4
家族と一緒に出かける	54.8	68.6	59.6	68.9	75.3	65.6	47.2	81.3	42.4	36.1	45.0	54.1
友人や知人と一緒に出かける	14.7	17.1	22.8	15.1	12.0	13.5	15.2	37.5	15.2	13.9	30.0	10.8
ヘルパーや移動支援サービスの利用	14.0	28.6	15.8	33.0	28.3	21.9	5.9	12.5	12.1	7.4	0.0	5.4
出かけることは難しい	3.9	2.9	5.3	7.5	3.5	2.1	4.8	6.3	0.0	1.9	0.0	5.4
その他	2.4	2.9	1.8	1.9	2.8	0.0	3.0	0.0	0.0	2.8	0.0	5.4
わからない	0.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	5.4

【高齢者】

高齢者全体についても、「一人で外出できる」が最も多く5割以上、次いで、「家族と一緒に出かけ」が5割近くとなっています。

障害種別でみると、視覚障害については、「家族と一緒に出かけ」が最も多く、「ヘルパーや移動支援サービスの利用」の割合も他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	532	51	62	144	12	4	57	8	131	111	16	38
一人で外出できる	56.2	21.6	62.9	47.9	25.0	75.0	57.9	12.5	61.1	54.1	81.3	73.7
家族と一緒に出かけ	49.2	62.7	53.2	48.6	83.3	50.0	38.6	75.0	49.6	49.5	37.5	42.1
友人や知人と一緒に出かけ	13.3	19.6	14.5	14.6	8.3	0.0	5.3	0.0	16.0	11.7	6.3	2.6
ヘルパーや移動支援サービスの利用	11.5	43.1	12.9	14.6	41.7	50.0	3.5	0.0	6.9	11.7	12.5	7.9
出かけることは難しい	8.6	7.8	8.1	13.2	25.0	0.0	15.8	37.5	6.1	12.6	0.0	5.3
その他	2.4	2.0	3.2	2.1	0.0	0.0	1.8	0.0	5.3	2.7	0.0	0.0
わからない	0.6	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.8	0.0	0.0

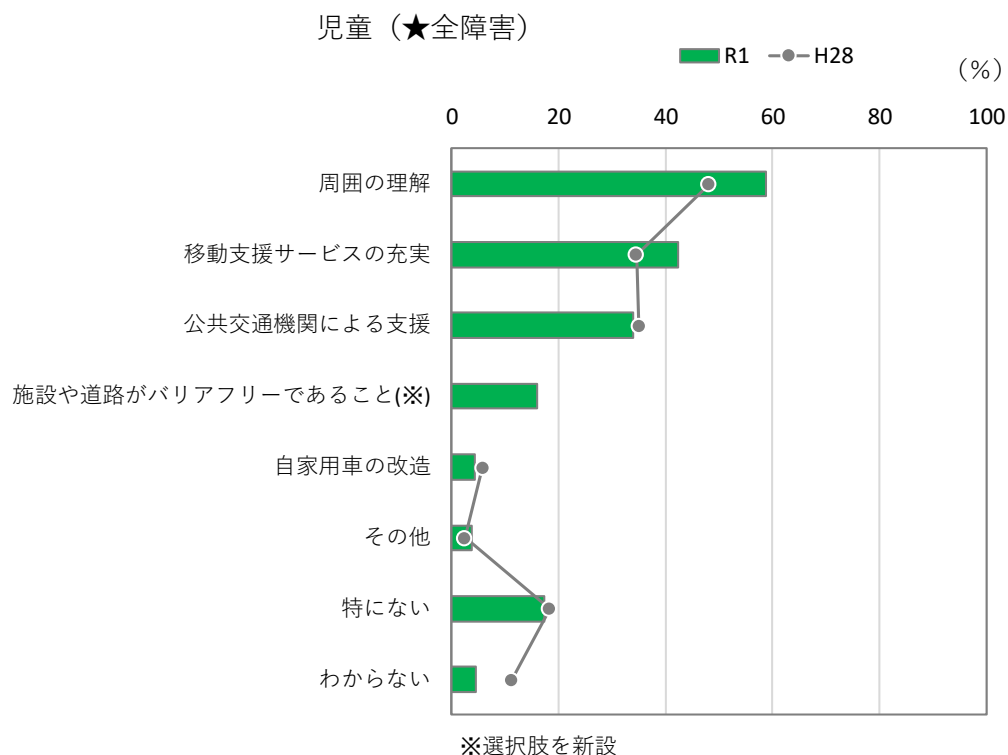
問 27. 外出するために必要だと思うことは何ですか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「周囲の理解」が6割近くと最も多くなっています。

障害種別で見ると、肢体不自由は「施設や道路がバリアフリーであること」が7割以上となっており、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

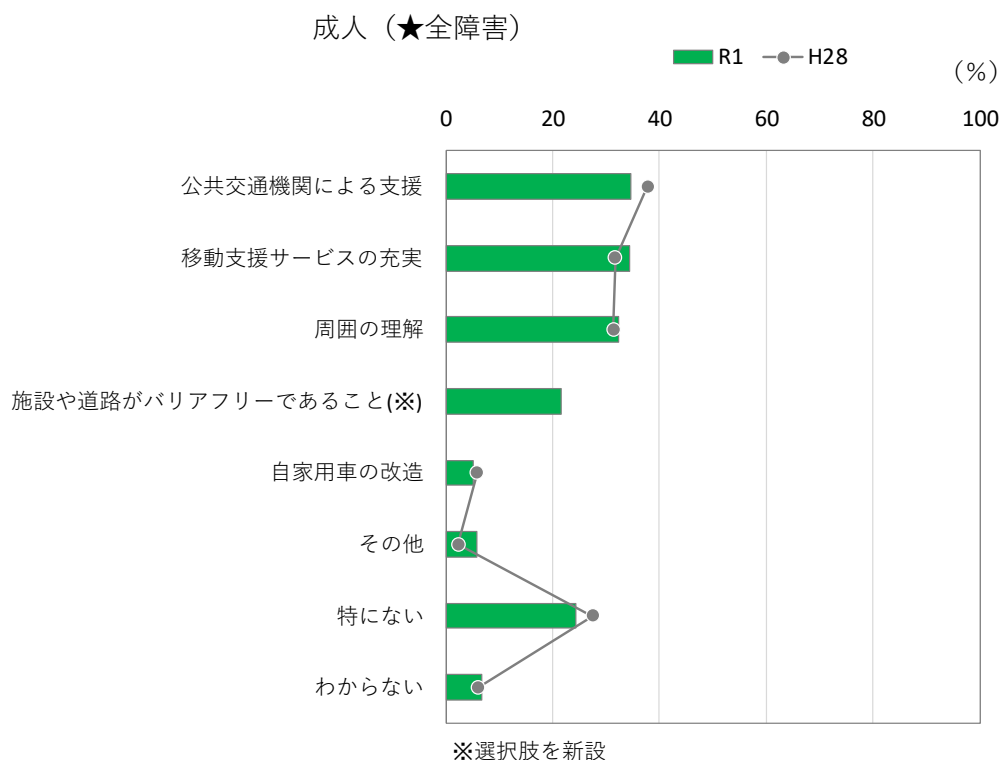
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	371	3	12	32	235	167	8	1	20	22	22	27
周囲の理解	58.8	66.7	75.0	65.6	65.1	68.9	75.0	0.0	60.0	59.1	18.2	33.3
移動支援サービスの充実	42.3	33.3	75.0	62.5	51.9	47.3	50.0	100.0	40.0	40.9	4.5	25.9
公共交通機関による支援	34.0	33.3	58.3	46.9	37.9	35.3	37.5	0.0	35.0	22.7	4.5	14.8
施設や道路がバリアフリーであること	15.9	0.0	33.3	75.0	17.9	9.6	25.0	0.0	40.0	27.3	9.1	18.5
自家用車の改造	4.3	0.0	16.7	25.0	5.1	3.6	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	3.7
その他	3.8	0.0	0.0	15.6	3.8	3.0	0.0	0.0	5.0	9.1	4.5	7.4
特にない	17.3	0.0	0.0	3.1	8.5	10.2	12.5	0.0	10.0	31.8	59.1	40.7
わからない	4.6	0.0	0.0	3.1	3.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	18.5

【成人】

成人全体では、「公共交通機関による支援」「移動支援サービスの充実」「周囲の理解」がそれぞれ3割以上となっています。

障害種別でみると、発達障害については、「周囲の理解」が4割以上で、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査との比較では、大きな傾向の違いは見られません。



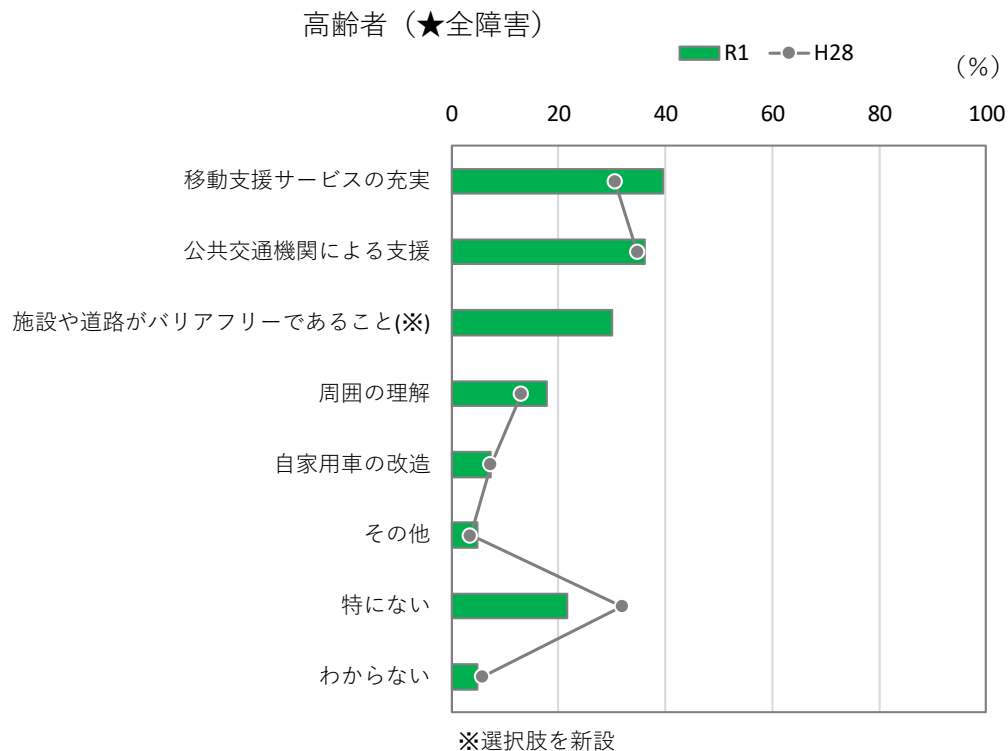
(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	798	35	54	104	275	90	263	15	33	108	20	36
公共交通機関による支援	34.6	34.3	44.4	41.3	34.9	38.9	36.5	60.0	24.2	29.6	25.0	38.9
移動支援サービスの充実	34.5	62.9	38.9	59.6	48.7	44.4	26.2	33.3	42.4	34.3	15.0	25.0
周囲の理解	32.5	31.4	35.2	35.6	37.1	45.6	28.1	46.7	18.2	22.2	20.0	36.1
施設や道路がバリアフリーであること	21.6	51.4	33.3	63.5	19.3	12.2	12.5	60.0	33.3	35.2	5.0	11.1
自家用車の改造	5.0	5.7	5.6	19.2	4.4	0.0	3.0	0.0	0.0	6.5	5.0	8.3
その他	5.8	14.3	5.6	9.6	2.9	5.6	7.2	26.7	3.0	10.2	0.0	13.9
特にない	24.4	8.6	24.1	4.8	16.0	22.2	27.4	6.7	30.3	28.7	55.0	19.4
わからない	6.6	2.9	5.6	0.0	5.8	4.4	9.5	0.0	6.1	6.5	5.0	11.1

【高齢者】

高齢者全体では、「移動支援サービスの充実」が4割近くで最も多く、次いで「公共交通機関による支援」が3割以上となっています。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いは見られませんが、「移動支援サービスの充実」が約9ポイント増加しています。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	519	50	66	134	13	4	54	8	124	111	16	37
移動支援サービスの充実	39.5	72.0	33.3	44.0	69.2	50.0	29.6	50.0	34.7	44.1	31.3	32.4
公共交通機関による支援	36.2	40.0	37.9	38.1	61.5	25.0	29.6	25.0	35.5	36.9	43.8	24.3
施設や道路がバリアフリーであること	30.1	46.0	27.3	43.3	15.4	0.0	9.3	37.5	21.0	35.1	37.5	40.5
周囲の理解	17.7	26.0	24.2	17.9	23.1	50.0	13.0	37.5	13.7	17.1	25.0	10.8
自家用車の改造	7.3	2.0	6.1	11.9	7.7	0.0	3.7	12.5	5.6	9.0	6.3	5.4
その他	4.8	8.0	6.1	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	6.3	6.3	5.4
特になし	21.6	4.0	15.2	14.2	0.0	25.0	29.6	0.0	29.8	21.6	12.5	27.0
わからない	4.8	6.0	10.6	3.0	7.7	0.0	11.1	37.5	1.6	5.4	0.0	5.4

こども ～小学校入学前（乳幼児期）～

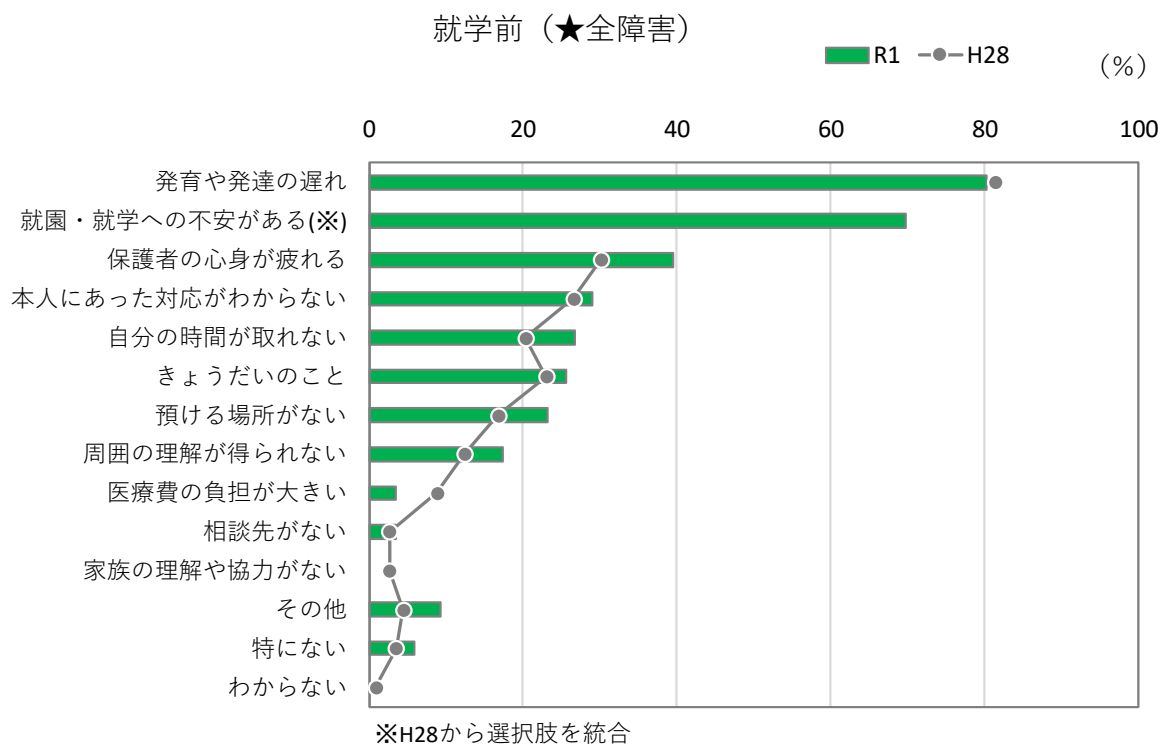
（問 28～34 は小学校入学前の方のみ回答）

問 28. 小学校入学前のお子さんのことで、現在悩んでいることや困っていることは何ですか（○はいくつでも）。

全体では、「発育や発達の遅れ」が8割程度と最も多く、次いで「就園・就学への不安がある」が7割程度となっています。

障害種別にみると、知的障害、発達障害については、「発育や発達の遅れ」と回答した人が9割程度と他の障害と比べ多い傾向がみられます。また、発達障害については、「就園・就学への不安がある」「本人にあった対応がわからない」「保護者の心身が疲れる」が、他の障害と比べ多い傾向がみられます。

前回調査と比べ、「保護者の心身が疲れる」が約9ポイント増加しています。

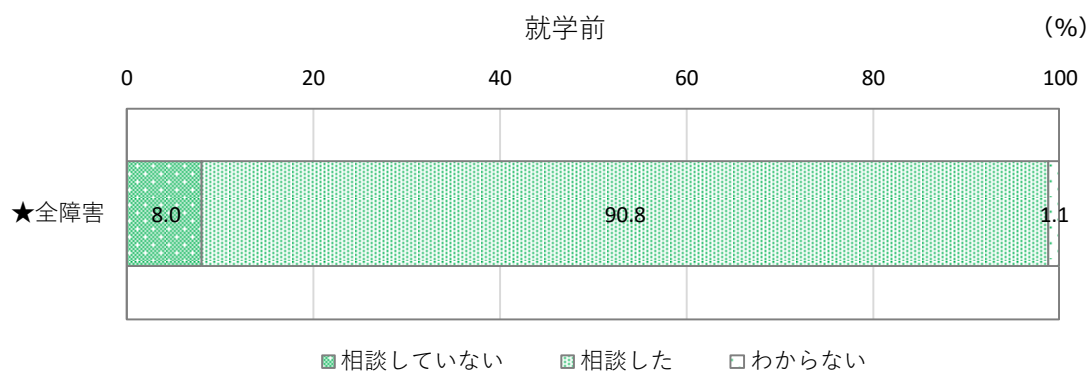


(単位：%)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他
有効回答数(人)	86	0	2	10	32	39	0	0	8	5	11	15
発育や発達の遅れ	80.2	0.0	100.0	80.0	90.6	92.3	0.0	0.0	75.0	40.0	54.5	86.7
就園・就学への不安がある	69.8	0.0	100.0	60.0	75.0	79.5	0.0	0.0	50.0	40.0	63.6	73.3
保護者の心身が疲れる	39.5	0.0	0.0	20.0	34.4	46.2	0.0	0.0	25.0	20.0	36.4	46.7
本人にあった対応がわからない	29.1	0.0	0.0	10.0	21.9	38.5	0.0	0.0	25.0	20.0	27.3	26.7
自分の時間が取れない	26.7	0.0	50.0	40.0	37.5	25.6	0.0	0.0	25.0	40.0	36.4	20.0
きょうだいのこと	25.6	0.0	50.0	50.0	34.4	28.2	0.0	0.0	12.5	40.0	18.2	26.7
預ける場所がない	23.3	0.0	50.0	50.0	31.3	23.1	0.0	0.0	50.0	20.0	18.2	13.3
周囲の理解が得られない	17.4	0.0	0.0	10.0	6.3	17.9	0.0	0.0	25.0	0.0	18.2	26.7
医療費の負担が大きい	3.5	0.0	0.0	0.0	3.1	5.1	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
相談先がない	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	6.7
家族の理解や協力が無い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	9.3	0.0	50.0	40.0	15.6	10.3	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	6.7
特になし	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	27.3	6.7
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 29. お子さんについての悩みや困っていることをどこかに相談しましたか
(○はひとつ)。

全体では、「相談した」と回答した人が9割程度になっています。



(単位：%)

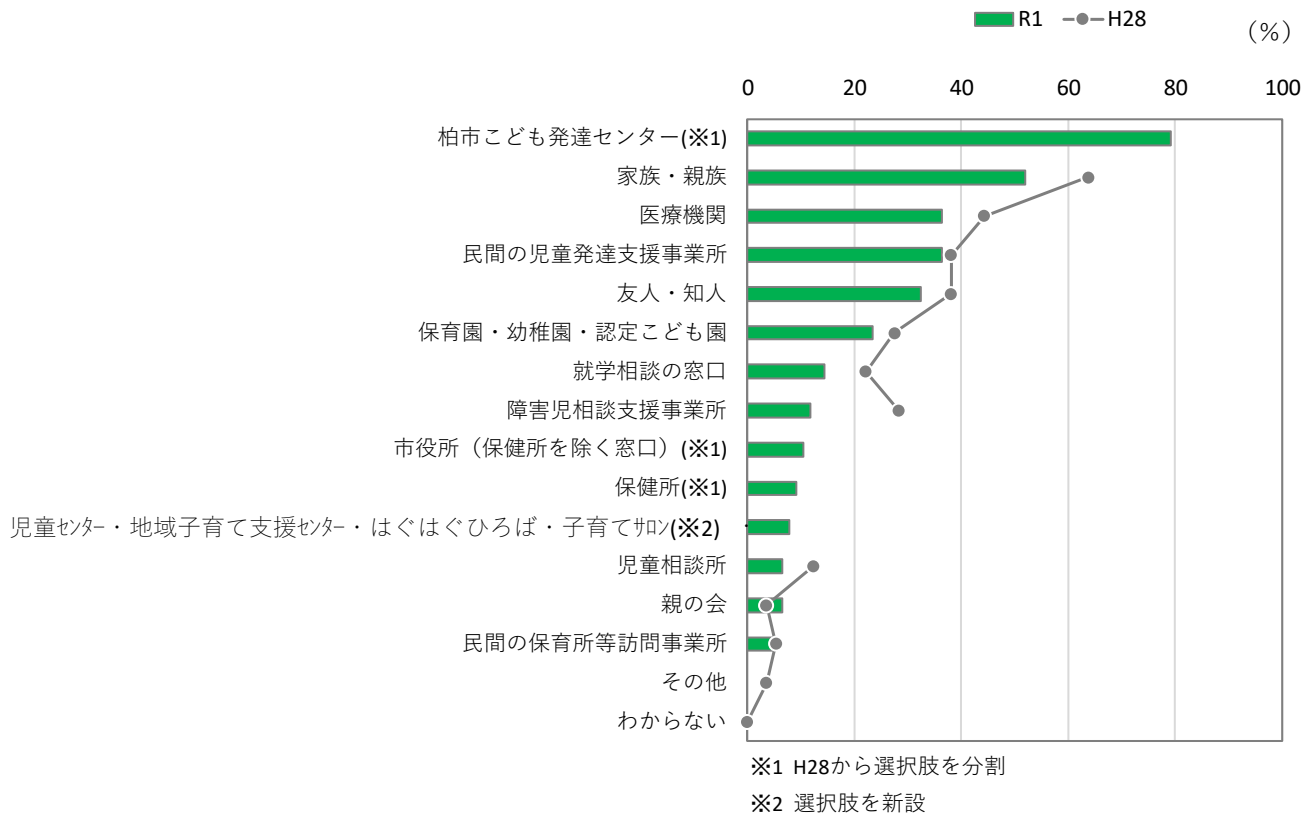
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他
有効回答数(人)	87	0	2	10	33	40	0	0	8	5	11	15
相談していない	8.0	0.0	0.0	20.0	6.1	2.5	0.0	0.0	12.5	20.0	18.2	0.0
相談した	90.8	0.0	100.0	80.0	93.9	95.0	0.0	0.0	87.5	80.0	81.8	100.0
わからない	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 30. (問 29 で「2. 相談した」と答えた方のみお答えください) お子さんについての悩みや困っていることをどこに相談しましたか (○はいくつでも)。

全体では、「柏市こども発達センター」が 8 割近くと、最も多くなっています。次いで、「家族・親族」が 5 割程度となっています。

前回調査と比べると、「家族・親族」が約 12 ポイント、「障害児相談支援事業所」が約 16 ポイント減少しています。

就学前 (★全障害)



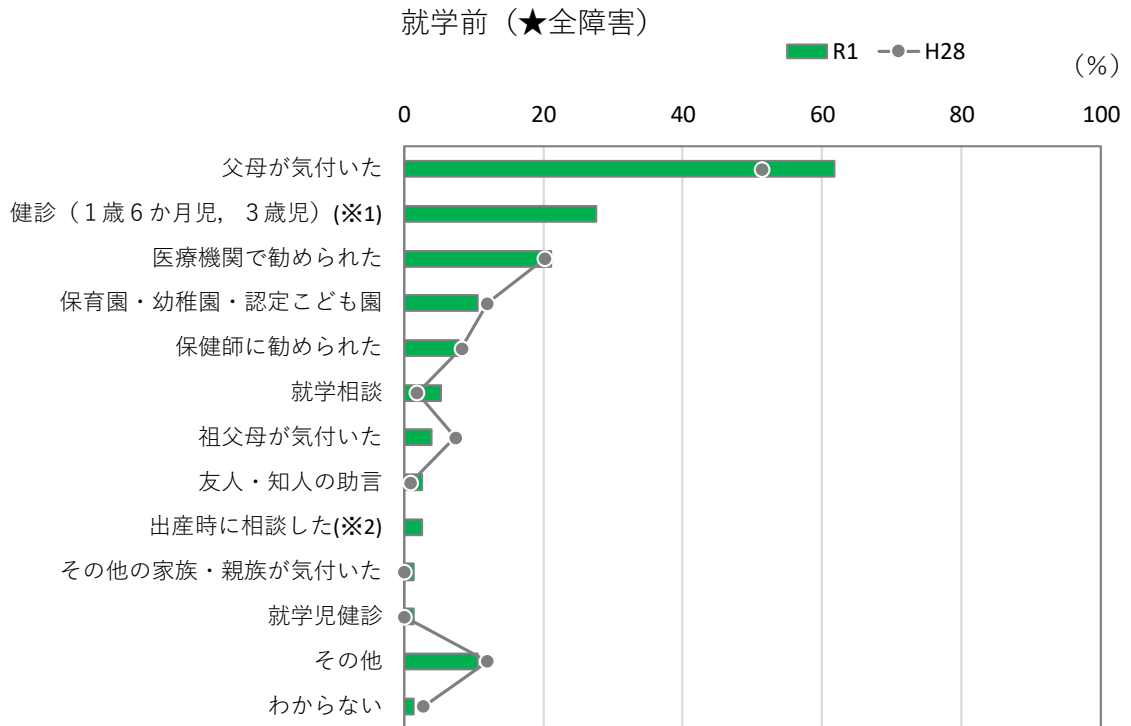
(単位：%)

児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	77	0	2	8	30	37	0	0	7	4	9	15
柏市こども発達センター	79.2	0.0	100.0	100.0	93.3	86.5	0.0	0.0	28.6	50.0	88.9	80.0
家族・親族	51.9	0.0	100.0	37.5	53.3	62.2	0.0	0.0	42.9	0.0	55.6	40.0
医療機関	36.4	0.0	100.0	25.0	40.0	45.9	0.0	0.0	42.9	50.0	33.3	26.7
民間の児童発達支援事業所	36.4	0.0	50.0	50.0	40.0	43.2	0.0	0.0	28.6	25.0	44.4	26.7
友人・知人	32.5	0.0	50.0	37.5	30.0	37.8	0.0	0.0	28.6	0.0	33.3	20.0
保育園・幼稚園・認定こども園	23.4	0.0	0.0	0.0	13.3	18.9	0.0	0.0	0.0	50.0	66.7	26.7
就学相談の窓口	14.3	0.0	50.0	12.5	23.3	18.9	0.0	0.0	28.6	25.0	11.1	0.0
障害児相談支援事業所	11.7	0.0	0.0	25.0	16.7	13.5	0.0	0.0	14.3	0.0	11.1	0.0
市役所（保健所を除く窓口）	10.4	0.0	0.0	0.0	10.0	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	13.3
保健所	9.1	0.0	0.0	0.0	3.3	5.4	0.0	0.0	28.6	25.0	11.1	13.3
児童センター・地域子育て支援センター・はぐはぐひろば・子育てサロン	7.8	0.0	0.0	12.5	6.7	5.4	0.0	0.0	14.3	0.0	11.1	13.3
児童相談所	6.5	0.0	0.0	0.0	6.7	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	6.7
親の会	6.5	0.0	0.0	12.5	10.0	2.7	0.0	0.0	28.6	25.0	0.0	0.0
民間の保育所等訪問事業所	5.2	0.0	0.0	0.0	6.7	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	6.7
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 31. (問 29 で「2. 相談した」と答えた方のみお答えください)
 相談に至ったきっかけは何ですか (○はいくつでも)。

全体では、「父母が気付いた」が最も多く、6割程度となっています。次いで、「健診」「医療機関で勧められた」となっています。

「その他」の回答は、「自分(回答者)が気になったため」などがありました。
 前回調査と比べ、「父母が気付いた」が約10ポイント増加しています。



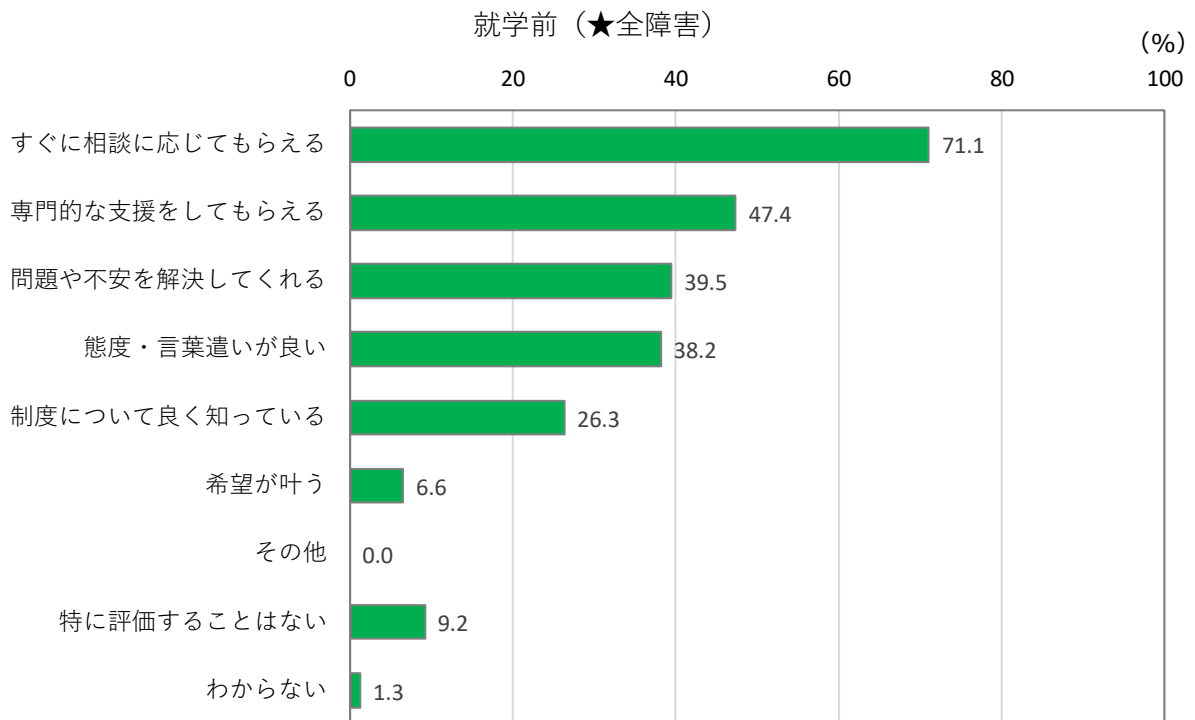
※1 H28から選択肢を統合
 ※2 選択肢を新設

(単位：%)

児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	76	0	2	8	29	36	0	0	7	4	9	15
父母が気付いた	61.8	0.0	100.0	25.0	55.2	69.4	0.0	0.0	42.9	0.0	66.7	80.0
健診(1歳6か月児, 3歳児)	27.6	0.0	50.0	0.0	27.6	33.3	0.0	0.0	0.0	25.0	44.4	26.7
医療機関で勧められた	21.1	0.0	50.0	75.0	31.0	22.2	0.0	0.0	14.3	75.0	11.1	26.7
保育園・幼稚園・認定こども園	10.5	0.0	0.0	0.0	6.9	13.9	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	6.7
保健師に勧められた	7.9	0.0	0.0	0.0	10.3	8.3	0.0	0.0	0.0	25.0	11.1	6.7
就学相談	5.3	0.0	0.0	25.0	10.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	11.1	0.0
祖父母が気付いた	3.9	0.0	0.0	0.0	3.4	2.8	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	6.7
友人・知人の助言	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
出産時に相談した	2.6	0.0	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	6.7
その他の家族・親族が気付いた	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就学児健診	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
その他	10.5	0.0	0.0	25.0	13.8	8.3	0.0	0.0	0.0	25.0	11.1	13.3
わからない	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0

問 32. (問 29 で「2. 相談した」と答えた方のみお答えください)
 利用している相談先に関して評価していることはありますか (〇はいくつでも)。

全体では、「すぐに相談に応じてもらえる」が7割程度と最も多くなっています。次いで、「専門的な支援をしてもらえる」が5割近くとなっています。
 障害種別でみると、発達障害では、「専門的な支援をしてもらえる」と回答した人の割合が、他の障害と比べ、多い傾向がみられます。



(単位 : %)

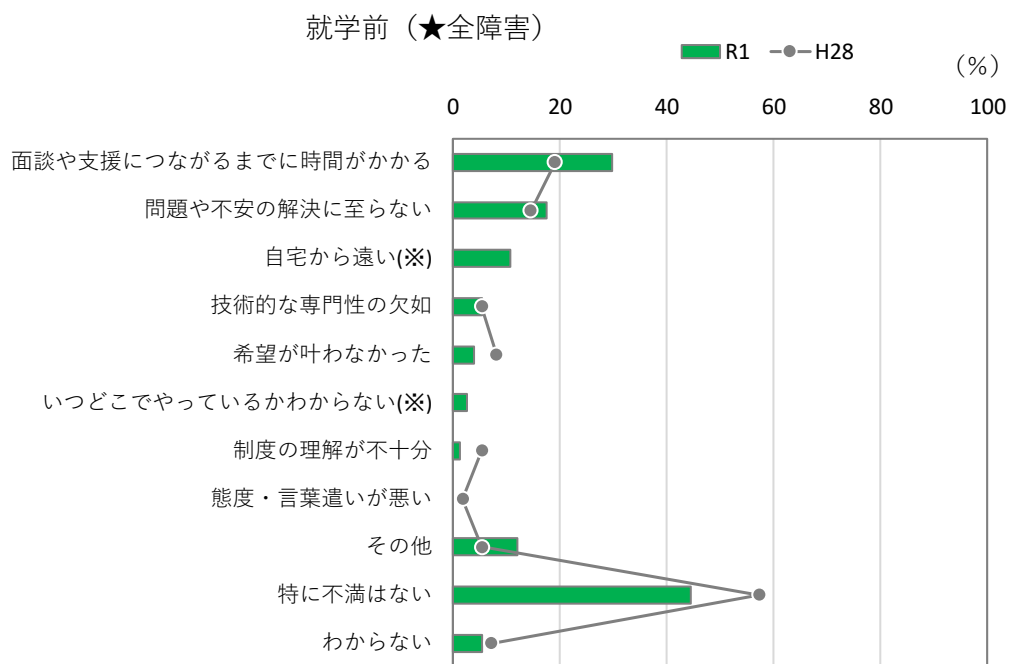
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	76	0	2	8	29	36	0	0	7	4	9	14
すぐに相談に応じてもらえる	71.1	0.0	100.0	87.5	72.4	72.2	0.0	0.0	71.4	100.0	77.8	64.3
専門的な支援をしてもらえる	47.4	0.0	50.0	50.0	58.6	61.1	0.0	0.0	28.6	25.0	22.2	57.1
問題や不安を解決してくれる	39.5	0.0	0.0	0.0	31.0	44.4	0.0	0.0	14.3	50.0	44.4	57.1
態度・言葉遣いが良い	38.2	0.0	50.0	37.5	37.9	38.9	0.0	0.0	14.3	0.0	44.4	57.1
制度について良く知っている	26.3	0.0	0.0	37.5	31.0	36.1	0.0	0.0	14.3	25.0	11.1	21.4
希望が叶う	6.6	0.0	0.0	0.0	6.9	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	14.3
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特に評価することはない	9.2	0.0	0.0	0.0	10.3	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	14.3
わからない	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0

問 33. (問 29 で「2. 相談した」と答えた方のみお答えください)
 利用している相談先に関する不満はありますか (〇はいくつでも)。

全体では、「特に不満はない」が4割以上で最も多く、次いで「面談や支援につながるまでに時間がかかる」が3割程度となっています。

「その他」の回答は、「相談後、医療機関への予約に時間がかかる」「職員の配慮が不十分」などがありました。

前回調査との比較では、「特に不満はない」が約12ポイント減少し、一方「面談や支援につながるまでに時間がかかる」が約11ポイント増加しています。



※ 選択肢を新設

(単位: %)

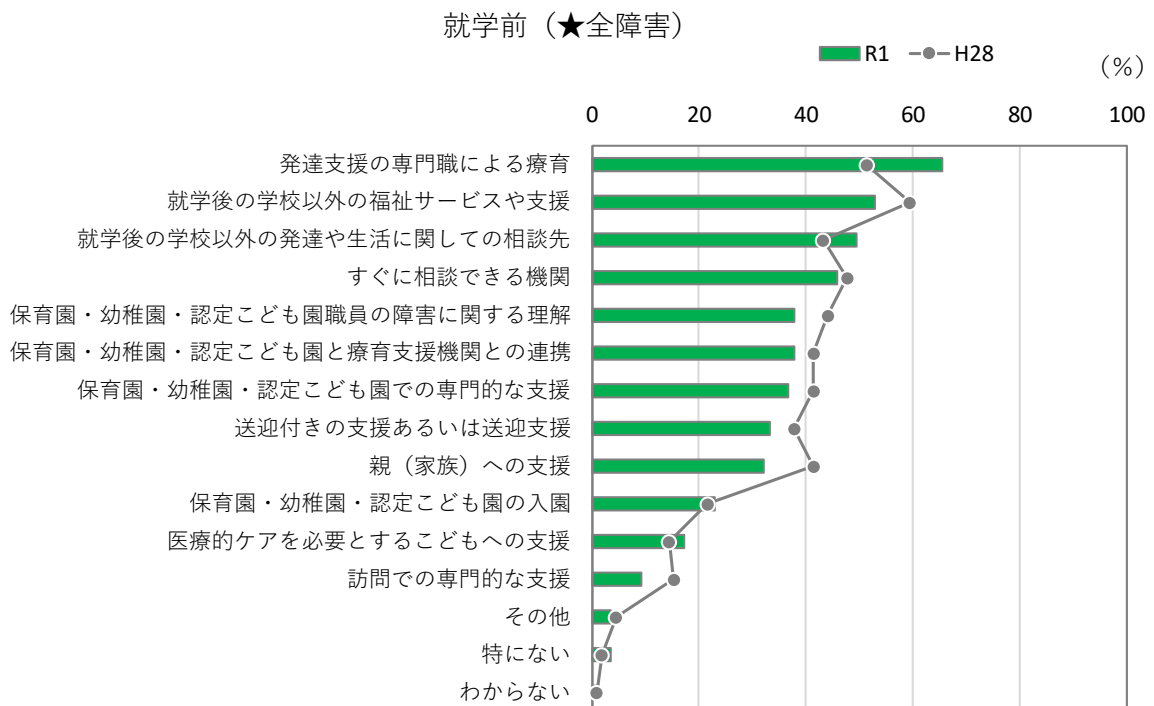
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	74	0	2	8	29	37	0	0	7	3	9	13
面談や支援につながるまでに時間がかかる	29.7	0.0	50.0	0.0	27.6	37.8	0.0	0.0	14.3	0.0	22.2	38.5
問題や不安の解決に至らない	17.6	0.0	0.0	0.0	20.7	21.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	23.1
自宅から遠い	10.8	0.0	50.0	12.5	10.3	8.1	0.0	0.0	14.3	33.3	0.0	15.4
技術的な専門性の欠如	5.4	0.0	0.0	0.0	3.4	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
希望が叶わなかった	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
いつどこでやっているかわからない	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	7.7
制度の理解が不十分	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	11.1	0.0
態度・言葉遣いが悪い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	12.2	0.0	0.0	25.0	13.8	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	7.7
特に不満はない	44.6	0.0	50.0	50.0	41.4	43.2	0.0	0.0	57.1	33.3	44.4	53.8
わからない	5.4	0.0	0.0	12.5	6.9	5.4	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0

問 34. 今後充実してほしい支援・サービスは何ですか（〇はいくつでも）。

全体では、「発達支援の専門職による療育」が6割以上と最も多くなっています。次いで、「就学後の学校以外の福祉サービスや支援」が5割程度となっています。

障害種別で見ると、発達障害では「発達支援の専門職による療育」「就学後の学校以外の福祉サービスや支援」「就学後の学校以外の発達や生活に関する相談先」が他の障害と比べ多い傾向がみられます。

前回調査と比較すると、「発達支援の専門職による療育」が約14ポイント増加しています。



(単位：%)

児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	87	0	2	10	32	40	0	0	8	5	11	15
発達支援の専門職による療育	65.5	0.0	100.0	60.0	65.6	75.0	0.0	0.0	50.0	40.0	63.6	66.7
就学後の学校以外の福祉サービ スや支援	52.9	0.0	50.0	60.0	65.6	70.0	0.0	0.0	25.0	60.0	27.3	33.3
就学後の学校以外の発達や生 活に関する相談先	49.4	0.0	50.0	40.0	56.3	65.0	0.0	0.0	12.5	20.0	45.5	46.7
すぐに相談できる機関	46.0	0.0	0.0	50.0	46.9	47.5	0.0	0.0	12.5	40.0	54.5	53.3
保育園・幼稚園・認定こども園 職員の障害に関する理解	37.9	0.0	50.0	50.0	34.4	45.0	0.0	0.0	25.0	20.0	18.2	46.7
保育園・幼稚園・認定こども園と 療育支援機関との連携	37.9	0.0	50.0	50.0	31.3	40.0	0.0	0.0	12.5	20.0	45.5	46.7
保育園・幼稚園・認定こども園で の専門的な支援	36.8	0.0	50.0	40.0	25.0	40.0	0.0	0.0	12.5	20.0	45.5	46.7
送迎付きの支援あるいは送迎支 援	33.3	0.0	100.0	70.0	50.0	35.0	0.0	0.0	37.5	20.0	9.1	20.0
親（家族）への支援	32.2	0.0	50.0	40.0	53.1	42.5	0.0	0.0	25.0	60.0	0.0	26.7
保育園・幼稚園・認定こども園の 入園	23.0	0.0	50.0	30.0	28.1	32.5	0.0	0.0	37.5	20.0	0.0	13.3
医療的ケアを必要とするこどもへ の支援	17.2	0.0	0.0	30.0	15.6	10.0	0.0	0.0	100.0	20.0	0.0	6.7
訪問での専門的な支援	9.2	0.0	0.0	0.0	9.4	10.0	0.0	0.0	12.5	0.0	9.1	0.0
その他	3.4	0.0	0.0	10.0	6.3	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
特になし	3.4	0.0	0.0	0.0	3.1	2.5	0.0	0.0	0.0	20.0	9.1	0.0
わからない	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	6.7

こども ～小学校入学後（学齡期）～

（問 35～39 は小学校入学後の方のみ回答）

問 35.（※保護者の方がお答えください）

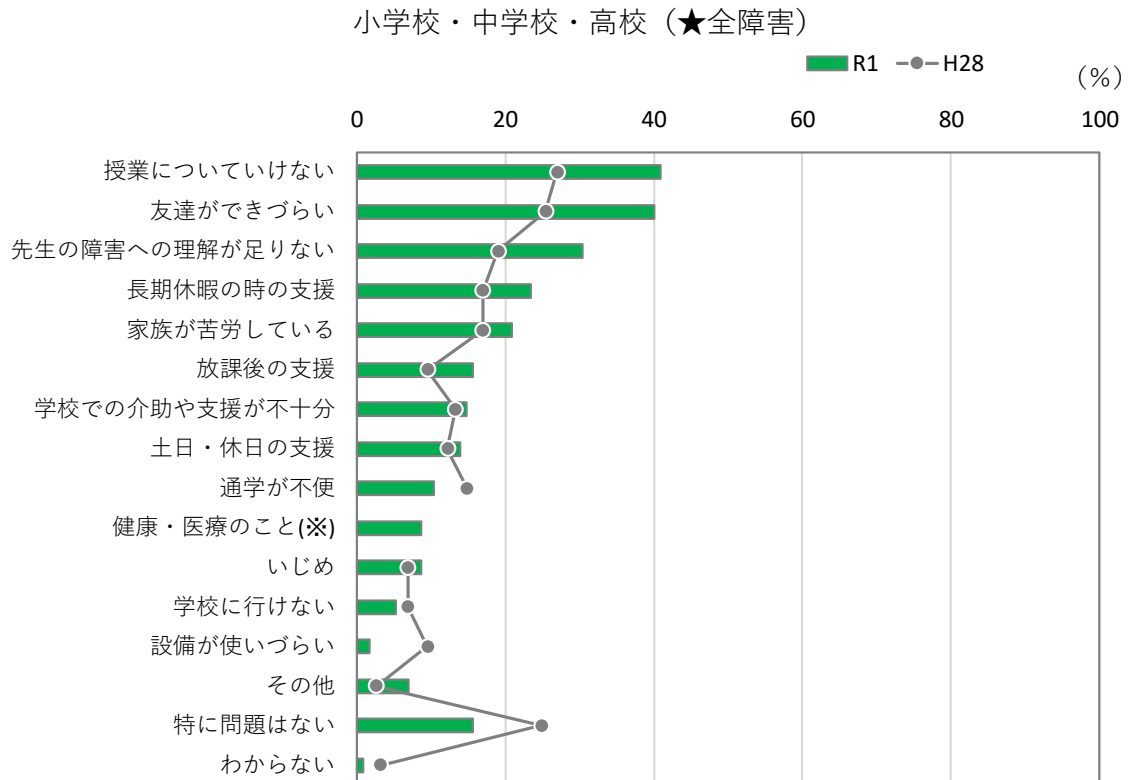
学校生活で困った，困っていることはありますか（〇はいくつでも）。

【小学校・中学校・高校（普通学級または特別支援学級）】

「授業についていけない」「友達ができづらい」が4割程度と多く，次いで「先生の障害への理解が足りない」が3割程度となっています。

障害種別でみると，発達障害では「友達ができづらい」「先生の障害への理解が足りない」の割合が，他の障害と比べ多い傾向がみられます。

前回調査と比べ，「授業についていけない」が約14ポイント，「友達ができづらい」が約15ポイント増加しています。



(単位：%)

小学校・中学校・高校	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	115	1	1	4	61	56	3	0	6	5	12	8
授業についていけない	40.9	100.0	0.0	0.0	36.1	39.3	33.3	0.0	33.3	40.0	75.0	62.5
友達ができづらい	40.0	100.0	100.0	50.0	37.7	60.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	25.0
先生の障害への理解が足りない	30.4	0.0	0.0	25.0	32.8	41.1	33.3	0.0	0.0	20.0	16.7	37.5
長期休暇の時の支援	23.5	100.0	0.0	0.0	23.0	33.9	0.0	0.0	16.7	40.0	16.7	25.0
家族が苦労している	20.9	100.0	0.0	0.0	23.0	28.6	33.3	0.0	16.7	20.0	16.7	25.0
放課後の支援	15.7	0.0	100.0	25.0	16.4	21.4	0.0	0.0	0.0	20.0	16.7	12.5
学校での介助や支援が不十分	14.8	0.0	0.0	25.0	16.4	19.6	33.3	0.0	0.0	0.0	8.3	25.0
土日・休日の支援	13.9	0.0	100.0	25.0	16.4	17.9	0.0	0.0	0.0	20.0	8.3	0.0
通学が不便	10.4	0.0	0.0	25.0	14.8	12.5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	12.5
健康・医療のこと	8.7	100.0	100.0	25.0	8.2	7.1	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	25.0
いじめ	8.7	100.0	0.0	0.0	6.6	8.9	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	12.5
学校に行けない	5.2	0.0	0.0	0.0	6.6	1.8	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	12.5
設備が使いづらい	1.7	0.0	0.0	25.0	3.3	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7.0	0.0	0.0	0.0	9.8	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
特に問題はない	15.7	0.0	0.0	25.0	16.4	7.1	33.3	0.0	50.0	40.0	0.0	12.5
わからない	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

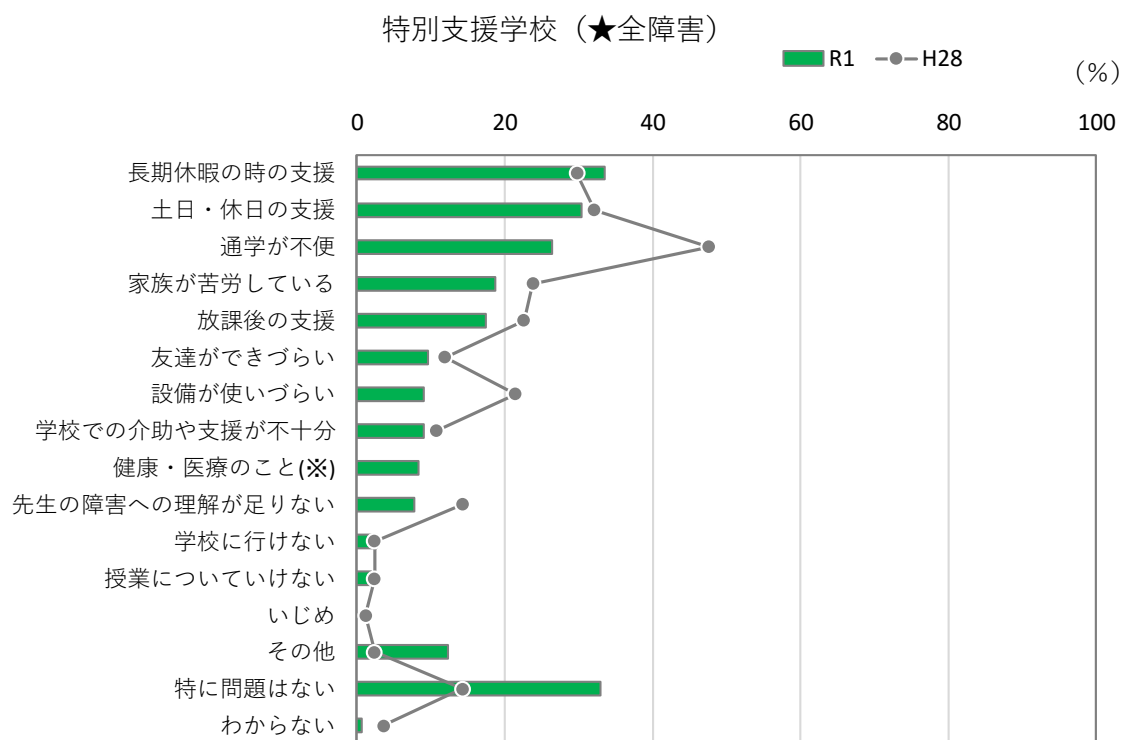
【特別支援学校の小学部・中学部・高等部】

「長期休暇の時の支援」「土日・休日の支援」と回答した人が多く、それぞれ3割程度となっています。

障害種別で見ると、発達障害は「長期休暇の時の支援」の割合が、肢体不自由は「通学が不便」の割合が、他の障害と比べ多い傾向がみられます。

「その他」の回答は、「校舎の老朽化」「学校の設備が古い」といった学校の施設整備に関することなどがありました。

前回調査と比べ、「通学が不便」が約 21 ポイント減少し、「特に問題はない」が約 19 ポイント増加しています。



※H28から選択肢を統合

(単位：%)

特別支援学校	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	155	2	10	19	135	70	3	0	5	7	0	5
長期休暇の時の支援	33.5	50.0	10.0	31.6	33.3	44.3	66.7	0.0	20.0	57.1	0.0	40.0
土日・休日の支援	30.3	0.0	40.0	31.6	31.9	34.3	33.3	0.0	20.0	42.9	0.0	20.0
通学が不便	26.5	50.0	10.0	47.4	25.2	22.9	0.0	0.0	40.0	71.4	0.0	60.0
家族が苦労している	18.7	50.0	10.0	26.3	20.7	20.0	33.3	0.0	20.0	14.3	0.0	20.0
放課後の支援	17.4	50.0	10.0	21.1	17.8	15.7	66.7	0.0	20.0	42.9	0.0	20.0
友達ができづらい	9.7	0.0	20.0	5.3	10.4	11.4	33.3	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0
設備が使いづらい	9.0	0.0	0.0	10.5	9.6	10.0	0.0	0.0	20.0	14.3	0.0	0.0
学校での介助や支援が不十分	9.0	0.0	10.0	21.1	10.4	11.4	0.0	0.0	20.0	28.6	0.0	40.0
健康・医療のこと	8.4	0.0	20.0	10.5	8.1	11.4	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0
先生の障害への理解が足りない	7.7	0.0	0.0	10.5	8.9	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0
学校に行けない	2.6	0.0	0.0	0.0	3.0	4.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
授業についていけない	1.9	0.0	0.0	5.3	1.5	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
いじめ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	12.3	0.0	0.0	15.8	10.4	11.4	0.0	0.0	40.0	14.3	0.0	20.0
特に問題はない	32.9	50.0	40.0	15.8	33.3	30.0	33.3	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0
わからない	0.6	0.0	0.0	5.3	0.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 36. (※保護者の方がお答えください)

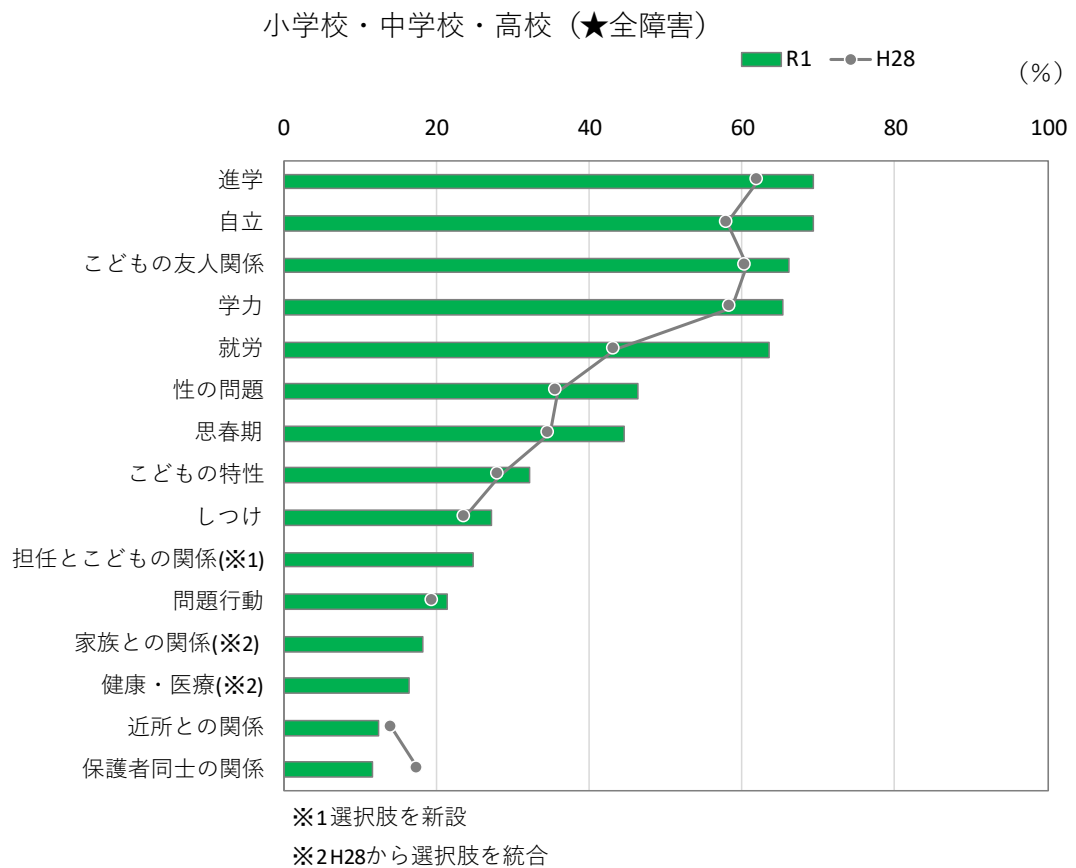
学齢期に子育てをするうえでどのようなことに不安がありますか (○はいくつでも)。

【小学校・中学校・高校 (普通学級または特別支援学級)】

「進学」「自立」が7割程度と最も多く、次いで「こどもの友人関係」「学力」「就労」が6割以上となっています。

障害種別でみると、発達障害では、「進学」が8割程度と、他の障害と比べ多くなっており、全体的に、様々な不安があることがうかがえます。

前回調査と比べ、「自立」が約12ポイント、「就労」が約20ポイント増加しています。



(単位：%)

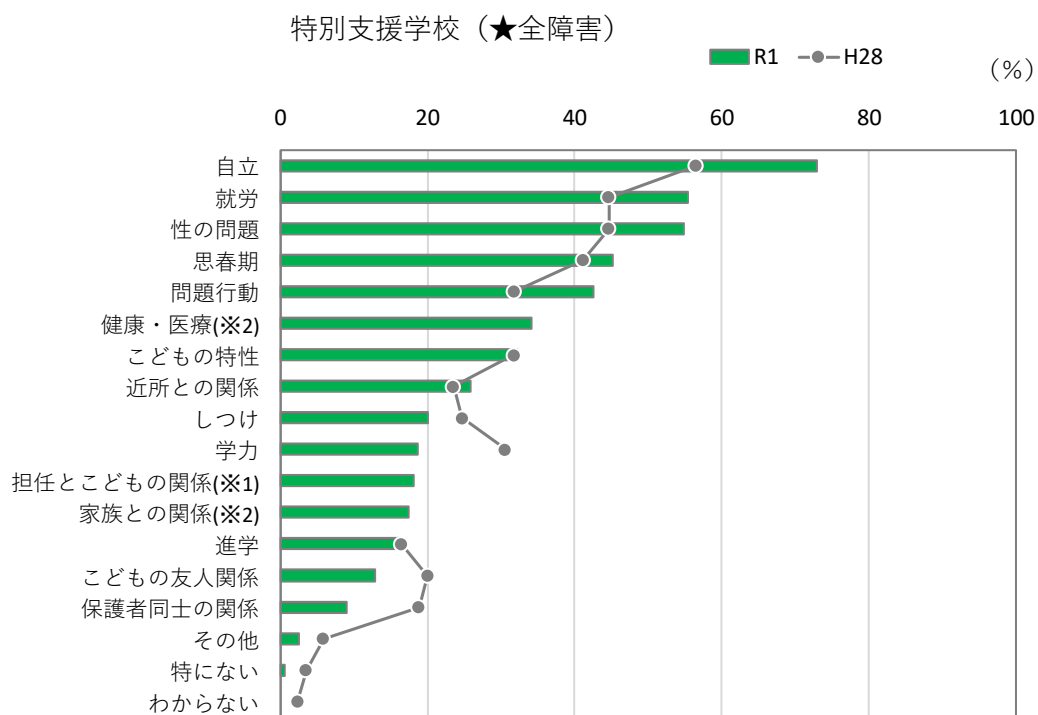
小学校・中学校・高校	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	121	1	1	4	63	59	3	0	6	7	12	8
進学	69.4	100.0	100.0	75.0	68.3	81.4	66.7	0.0	50.0	28.6	75.0	50.0
自立	69.4	100.0	100.0	75.0	74.6	74.6	66.7	0.0	66.7	57.1	58.3	25.0
こどもの友人関係	66.1	100.0	0.0	75.0	58.7	74.6	66.7	0.0	66.7	71.4	75.0	50.0
学力	65.3	100.0	100.0	75.0	60.3	74.6	33.3	0.0	50.0	42.9	83.3	37.5
就労	63.6	100.0	100.0	75.0	73.0	76.3	66.7	0.0	16.7	28.6	50.0	25.0
性の問題	46.3	100.0	0.0	0.0	58.7	66.1	0.0	0.0	0.0	14.3	25.0	25.0
思春期	44.6	100.0	0.0	0.0	46.0	57.6	0.0	0.0	33.3	42.9	41.7	37.5
こどもの特性	32.2	100.0	100.0	25.0	28.6	49.2	33.3	0.0	33.3	14.3	25.0	37.5
しつけ	27.3	100.0	0.0	0.0	36.5	27.1	0.0	0.0	16.7	28.6	33.3	12.5
担任とこどもの関係	24.8	100.0	0.0	25.0	30.2	30.5	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	50.0
問題行動	21.5	0.0	0.0	0.0	20.6	32.2	0.0	0.0	0.0	14.3	16.7	12.5
家族との関係	18.2	100.0	0.0	0.0	17.5	23.7	0.0	0.0	16.7	28.6	16.7	0.0
健康・医療	16.5	100.0	100.0	25.0	17.5	13.6	33.3	0.0	66.7	42.9	0.0	12.5
近所との関係	12.4	0.0	0.0	0.0	14.3	20.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	12.5
保護者同士の関係	11.6	100.0	0.0	0.0	9.5	18.6	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	25.0
その他	3.3	0.0	0.0	0.0	6.3	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特になし	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	14.3	0.0	0.0
わからない	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【特別支援学校の小学部・中学部・高等部】

「自立」が7割程度と最も多くなっています。次いで、「就労」「性の問題」が全体の5割以上となっています。

発達障害については、「問題行動」と答えた人が6割以上と他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、「自立」が約16ポイント増加し、「学力」が約12ポイント減少しています。



※1 選択肢を新設

※2 H28から選択肢を統合

(単位：%)

特別支援学校	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	155	2	10	19	135	70	3	0	5	7	0	5
自立	72.9	100.0	60.0	52.6	74.8	71.4	66.7	0.0	80.0	42.9	0.0	60.0
就労	55.5	50.0	50.0	26.3	57.0	54.3	66.7	0.0	60.0	42.9	0.0	80.0
性の問題	54.8	100.0	40.0	36.8	55.6	62.9	33.3	0.0	40.0	28.6	0.0	60.0
思春期	45.2	0.0	20.0	36.8	44.4	52.9	66.7	0.0	60.0	28.6	0.0	20.0
問題行動	42.6	0.0	50.0	15.8	42.2	65.7	66.7	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
健康・医療	34.2	0.0	30.0	57.9	37.0	27.1	33.3	0.0	100.0	85.7	0.0	40.0
こどもの特性	32.3	0.0	30.0	15.8	32.6	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
近所との関係	25.8	50.0	10.0	10.5	28.9	32.9	0.0	0.0	20.0	28.6	0.0	60.0
しつけ	20.0	50.0	20.0	31.6	22.2	21.4	0.0	0.0	20.0	14.3	0.0	20.0
学力	18.7	50.0	30.0	15.8	17.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	40.0
担任とこどもの関係	18.1	0.0	0.0	26.3	18.5	20.0	33.3	0.0	40.0	14.3	0.0	60.0
家族との関係	17.4	100.0	0.0	15.8	17.8	18.6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
進学	16.1	50.0	10.0	10.5	14.1	21.4	33.3	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0
こどもの友人関係	12.9	0.0	10.0	10.5	11.1	15.7	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0
保護者同士の関係	9.0	0.0	10.0	5.3	9.6	10.0	33.3	0.0	40.0	14.3	0.0	20.0
その他	2.6	0.0	0.0	15.8	3.0	1.4	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
特にない	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 37. (※保護者の方がお答えください)

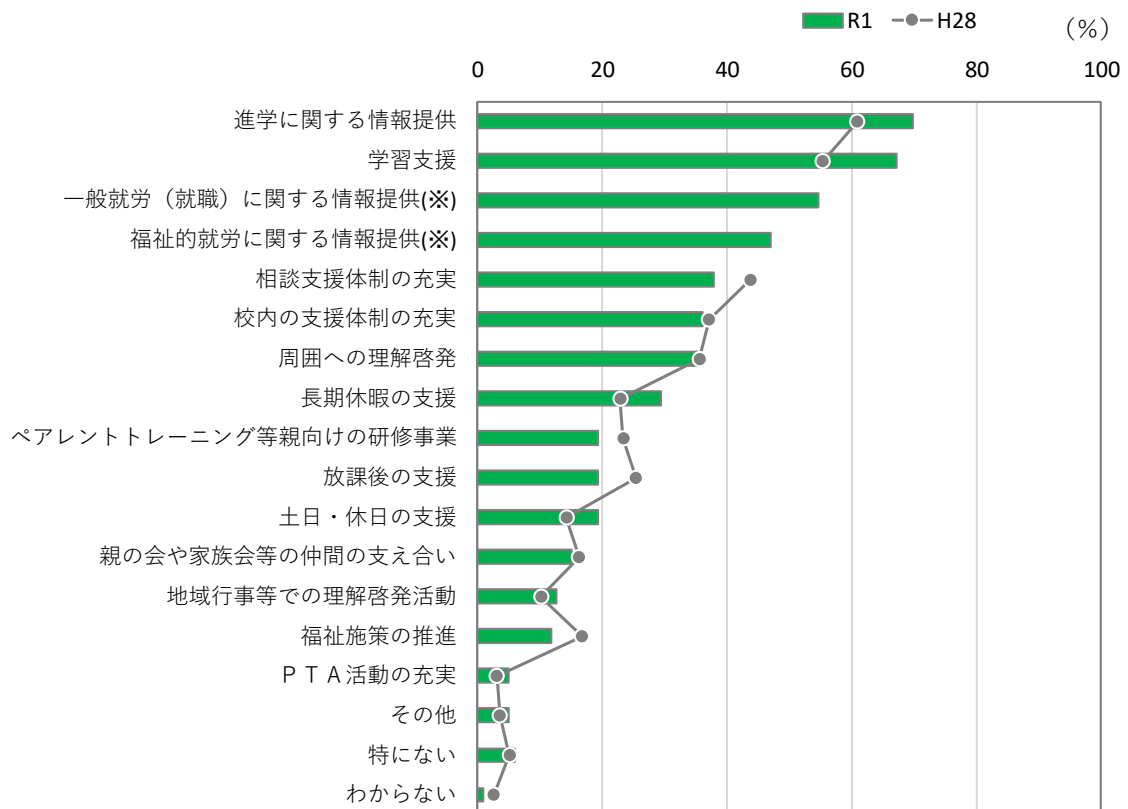
学齢期に子育てをするうえでどんな援助を希望しますか (○はいくつでも)。

【小学校・中学校・高校 (普通学級または特別支援学級)】

「通学に関する情報提供」「学習支援」が7割程度と最も多く、次いで「一般就労 (就職) に関する情報提供」が5割以上となっています。

前回調査と比べ、「進学に関する情報提供」が約9ポイント、「学習支援」が約12ポイント増加しています。

小学校・中学校・高校 (★全障害)



※H28から選択肢を分離

(単位：%)

小学校・中学校・高校	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	119	1	1	4	62	59	3	0	6	7	11	8
進学に関する情報提供	69.7	100.0	0.0	50.0	72.6	81.4	66.7	0.0	66.7	57.1	54.5	37.5
学習支援	67.2	100.0	100.0	75.0	71.0	74.6	33.3	0.0	50.0	57.1	63.6	50.0
一般就労(就職)に関する 情報提供	54.6	100.0	100.0	75.0	59.7	61.0	66.7	0.0	33.3	71.4	45.5	25.0
福祉的就労に関する情報提 供	47.1	100.0	100.0	50.0	64.5	59.3	66.7	0.0	16.7	28.6	9.1	12.5
相談支援体制の充実	37.8	0.0	0.0	50.0	41.9	47.5	66.7	0.0	16.7	28.6	27.3	12.5
校内の支援体制の充実	36.1	100.0	100.0	50.0	35.5	54.2	0.0	0.0	16.7	14.3	18.2	25.0
周囲への理解啓発	35.3	0.0	0.0	25.0	38.7	49.2	0.0	0.0	16.7	0.0	18.2	37.5
長期休暇の支援	29.4	100.0	100.0	25.0	33.9	40.7	0.0	0.0	16.7	28.6	9.1	12.5
ペアレントトレーニング等親向け の研修事業	19.3	0.0	0.0	0.0	22.6	30.5	33.3	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
放課後の支援	19.3	0.0	100.0	50.0	22.6	23.7	0.0	0.0	0.0	14.3	9.1	0.0
土日・休日の支援	19.3	0.0	100.0	25.0	22.6	23.7	0.0	0.0	0.0	14.3	9.1	0.0
親の会や家族会等の仲間の 支え合い	15.1	0.0	0.0	0.0	16.1	20.3	0.0	0.0	16.7	14.3	9.1	0.0
地域行事等での理解啓発活 動	12.6	0.0	0.0	25.0	17.7	15.3	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	12.5
福祉施策の推進	11.8	0.0	0.0	0.0	14.5	16.9	0.0	0.0	16.7	14.3	0.0	0.0
P T A 活動の充実	5.0	0.0	0.0	0.0	4.8	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
その他	5.0	0.0	0.0	25.0	4.8	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
特にない	5.9	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	33.3	0.0	16.7	28.6	9.1	37.5
わからない	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0

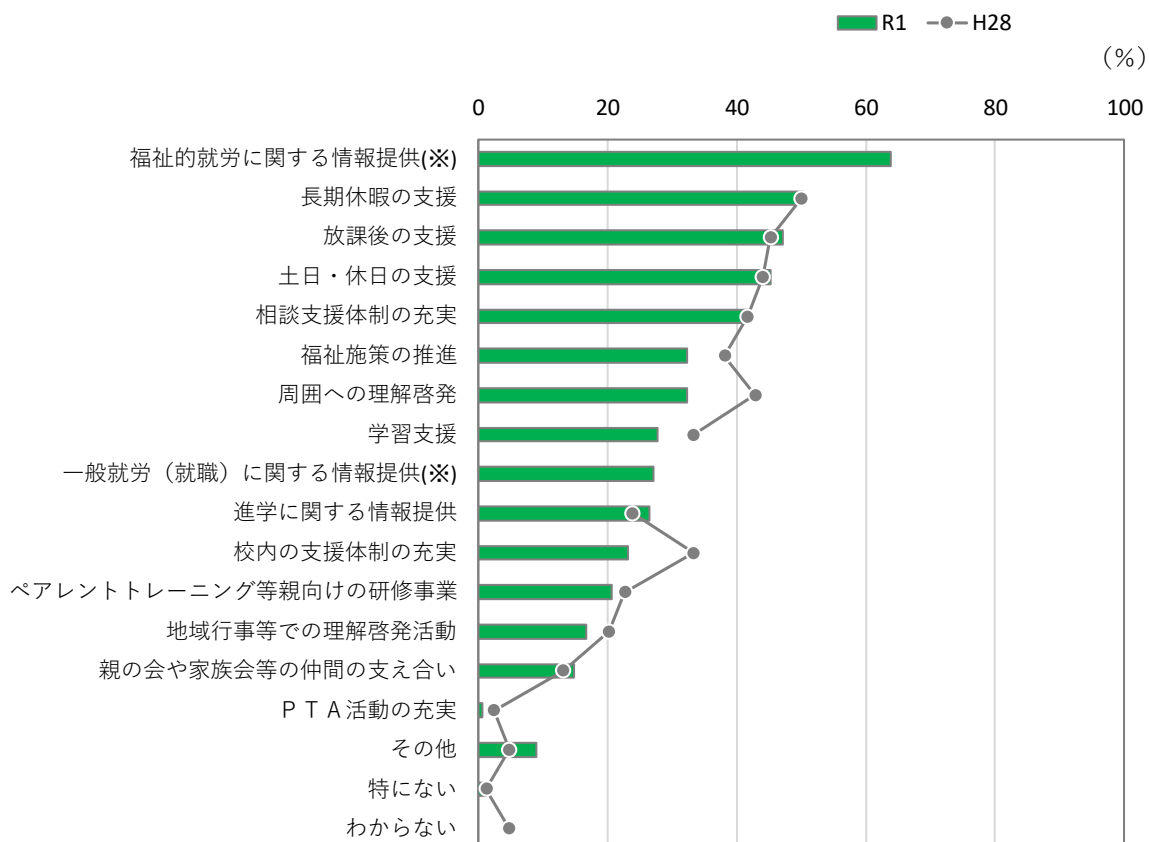
【特別支援学校の小学部・中学部・高等部】

「福祉的就労に関する情報提供」が6割以上と最も多く、次いで、「長期休暇の支援」が5割程度となっています。

発達障害については、「長期休暇の支援」と回答した人の割合が、他の障害と比べ、比較的多くなっています。

前回調査と比べ、「周囲への理解啓発」が約12ポイント、「校内の支援体制の充実」が約10ポイント減少しています。

特別支援学校（★全障害）



※H28から選択肢を分離

(単位：%)

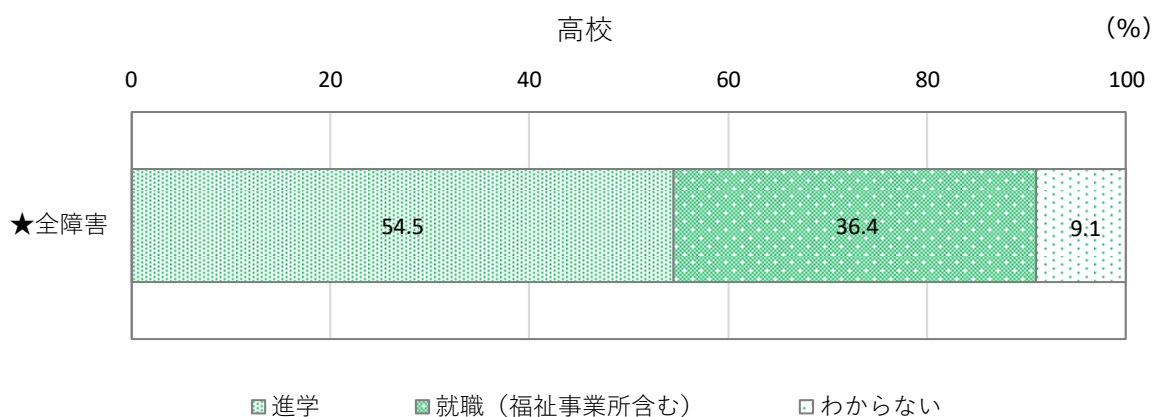
特別支援学校	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	155	2	10	19	135	70	3	0	5	7	0	5
福祉的就労に関する情報提供	63.9	50.0	50.0	52.6	64.4	68.6	33.3	0.0	60.0	28.6	0.0	80.0
長期休暇の支援	50.3	100.0	40.0	47.4	51.9	61.4	100.0	0.0	20.0	57.1	0.0	40.0
放課後の支援	47.1	100.0	50.0	42.1	49.6	48.6	100.0	0.0	20.0	71.4	0.0	20.0
土日・休日の支援	45.2	50.0	50.0	47.4	47.4	55.7	66.7	0.0	20.0	42.9	0.0	20.0
相談支援体制の充実	41.9	50.0	60.0	36.8	42.2	42.9	33.3	0.0	40.0	28.6	0.0	40.0
福祉施策の推進	32.3	0.0	20.0	21.1	33.3	37.1	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	20.0
周囲への理解啓発	32.3	0.0	30.0	21.1	34.8	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
学習支援	27.7	50.0	40.0	21.1	25.9	32.9	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0	60.0
一般就労（就職）に関する 情報提供	27.1	0.0	30.0	10.5	28.1	24.3	33.3	0.0	40.0	0.0	0.0	60.0
進学に関する情報提供	26.5	50.0	20.0	26.3	23.7	34.3	33.3	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0
校内の支援体制の充実	23.2	0.0	20.0	31.6	24.4	28.6	66.7	0.0	40.0	28.6	0.0	40.0
ペアレントトレーニング等親向け の研修事業	20.6	0.0	10.0	21.1	21.5	27.1	0.0	0.0	20.0	14.3	0.0	20.0
地域行事等での理解啓発活 動	16.8	0.0	0.0	21.1	16.3	18.6	0.0	0.0	20.0	14.3	0.0	40.0
親の会や家族会等の仲間の 支え合い	14.8	0.0	30.0	5.3	16.3	17.1	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
P T A 活動の充実	0.6	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	9.0	0.0	10.0	26.3	8.9	4.3	33.3	0.0	0.0	42.9	0.0	20.0
特にない	1.3	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(問 38 と問 39 は高等部 (または高等学校) に在籍している方のみ回答)
 問 38. 学校卒業後, どんな進路を希望していますか (○はひとつ)。

【高校 (普通学級または特別支援学級)】

「進学」が5割以上と最も多くなっています。

障害種別でみると, 内部障害と難病で「進学」, 知的障害, 発達障害, 精神障害で「就職 (福祉作業所含む)」と回答しています。

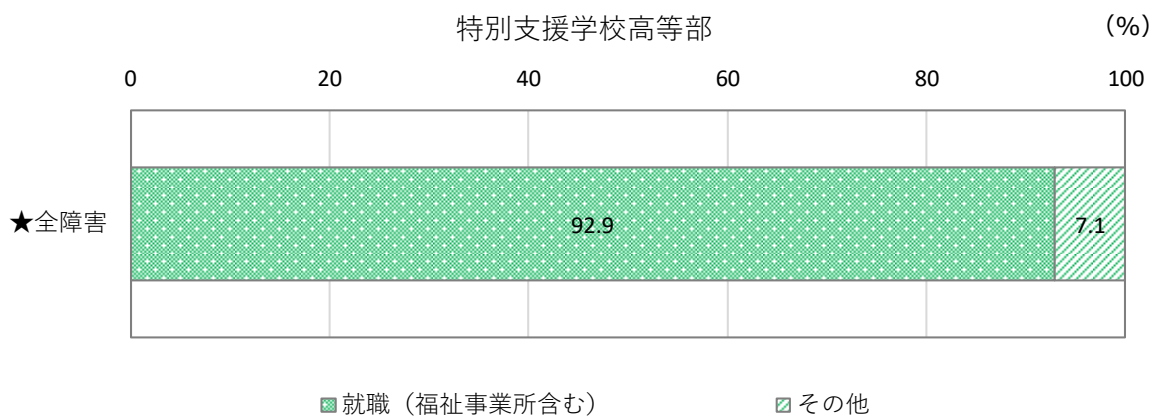


(単位: %)

高校	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数 (人)	11	0	0	0	3	3	1	0	3	4	0	0
進学	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
就職 (福祉事業所含む)	36.4	0.0	0.0	0.0	100.0	66.7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自営業の手伝い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
進学も就職もするつもりはない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【特別支援学校の高等部】

「就職（福祉事業所含む）」が9割以上ととなっています。



(単位：%)

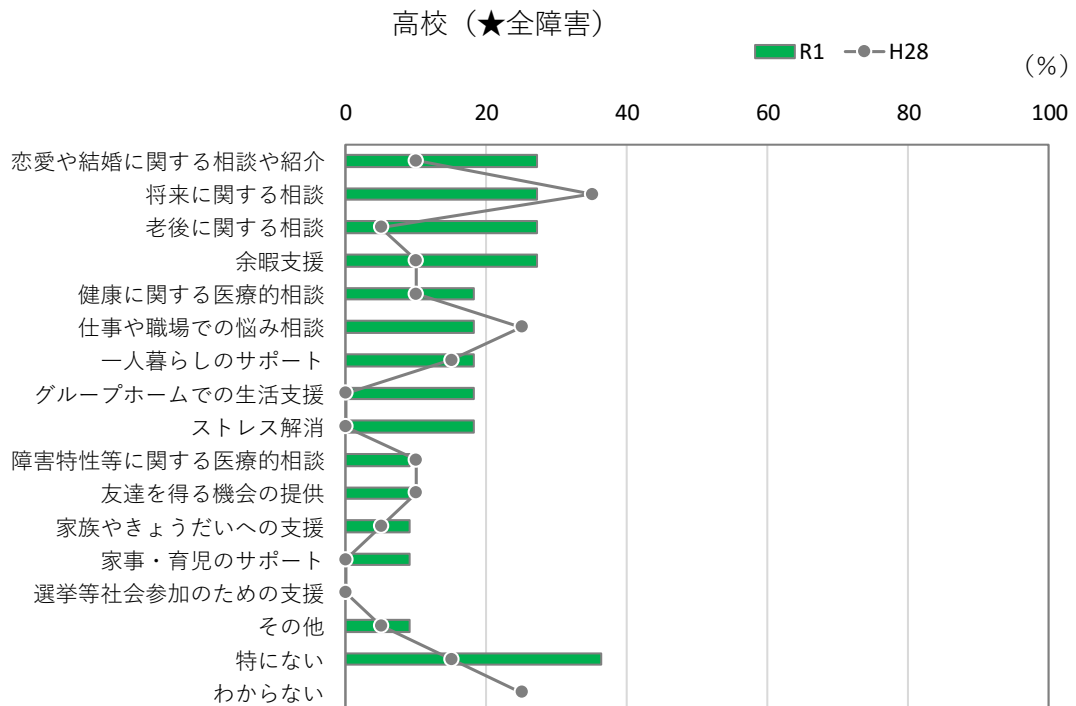
特別支援学校高等部	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数（人）	56	1	4	3	51	21	1	0	0	0	0	2
就職（福祉事業所含む）	92.9	100.0	100.0	100.0	92.2	90.5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
進学	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自営業の手伝い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
進学も就職もするつもりはない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7.1	0.0	0.0	0.0	7.8	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 39. 学校卒業後、どんな支援を希望しますか（○はいくつでも）。

【高校（普通学級または特別支援学級）】

「特にない」が4割近くと最も多く、希望する支援としては「恋愛や結婚に関する相談や紹介」「将来に関する相談」「老後に関する相談」「余暇支援」が3割近くとなっています。

母数が少ないため、単純な比較はできませんが、「老後に関する相談」が約22ポイント、「特にない」が約20ポイント増加しています。



(単位：%)

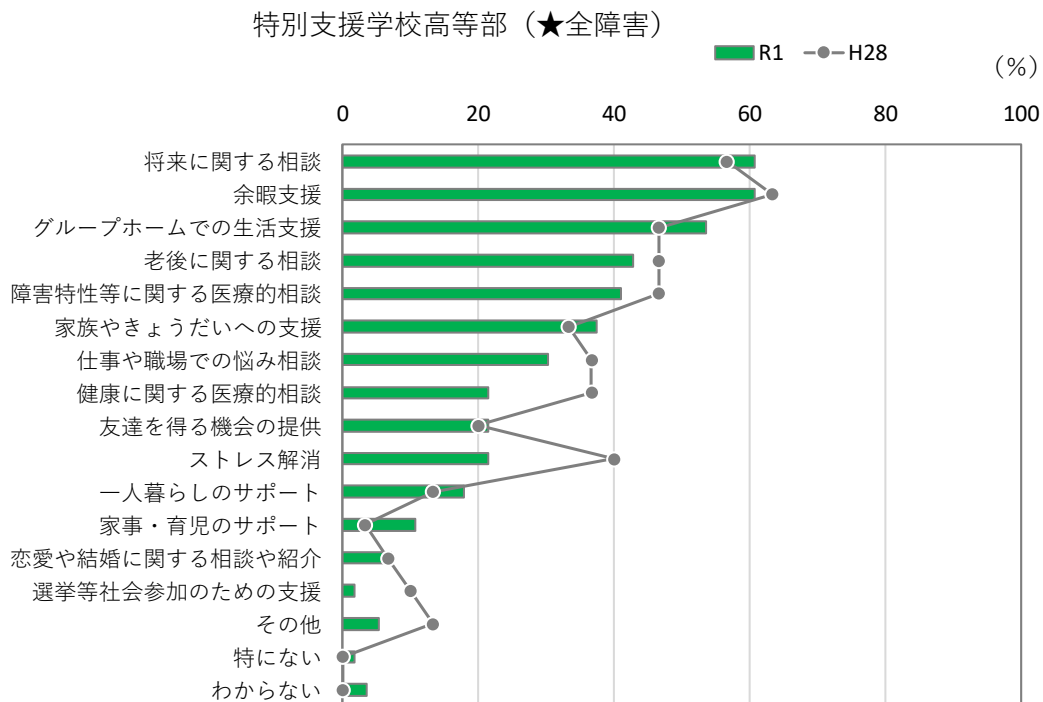
高校	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数（人）	11	0	0	0	3	3	1	0	3	3	1	0
恋愛や結婚に関する相談や紹介	27.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
将来に関する相談	27.3	0.0	0.0	0.0	66.7	66.7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
老後に関する相談	27.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
余暇支援	27.3	0.0	0.0	0.0	66.7	66.7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
健康に関する医療的相談	18.2	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
仕事や職場での悩み相談	18.2	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
一人暮らしのサポート	18.2	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホームでの生活支援	18.2	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ストレス解消	18.2	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
障害特性等に関する医療的相談	9.1	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
友達を得る機会の提供	9.1	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族やきょうだいの支援	9.1	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家事・育児のサポート	9.1	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
選挙等社会参加のための支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
特になし	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【特別支援学校の高等部】

「将来に関する相談」「余暇支援」が6割程度と最も多くなっています。

障害種別で見ると、発達障害で「余暇支援」と回答した人の割合が、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、「健康に関する医療的相談」が約15ポイント、「ストレス解消」が約19ポイント減少しています。



(単位：%)

特別支援学校高等部	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	56	1	4	3	51	21	1	0	0	0	0	2
将来に関する相談	60.7	100.0	75.0	66.7	60.8	61.9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
余暇支援	60.7	100.0	100.0	33.3	62.7	71.4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
グループホームでの生活支援	53.6	100.0	75.0	33.3	58.8	42.9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
老後に関する相談	42.9	0.0	75.0	0.0	45.1	42.9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
障害特性等に関する医療的 相談	41.1	0.0	50.0	66.7	41.2	47.6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
家族やきょうだいへの支援	37.5	0.0	75.0	33.3	37.3	47.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
仕事や職場での悩み相談	30.4	0.0	25.0	0.0	31.4	33.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
健康に関する医療的相談	21.4	0.0	0.0	0.0	21.6	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
友達を得る機会の提供	21.4	0.0	25.0	0.0	23.5	23.8	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ストレス解消	21.4	0.0	50.0	33.3	23.5	23.8	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
一人暮らしのサポート	17.9	0.0	0.0	0.0	19.6	19.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
家事・育児のサポート	10.7	0.0	0.0	33.3	9.8	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
恋愛や結婚に関する相談や紹 介	7.1	0.0	0.0	0.0	5.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
選挙等社会参加のための支 援	1.8	0.0	0.0	0.0	2.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	5.4	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特になし	1.8	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	3.6	0.0	0.0	0.0	2.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

就労・社会参加

(問 40～51 は 18 歳以上の方のみ回答)

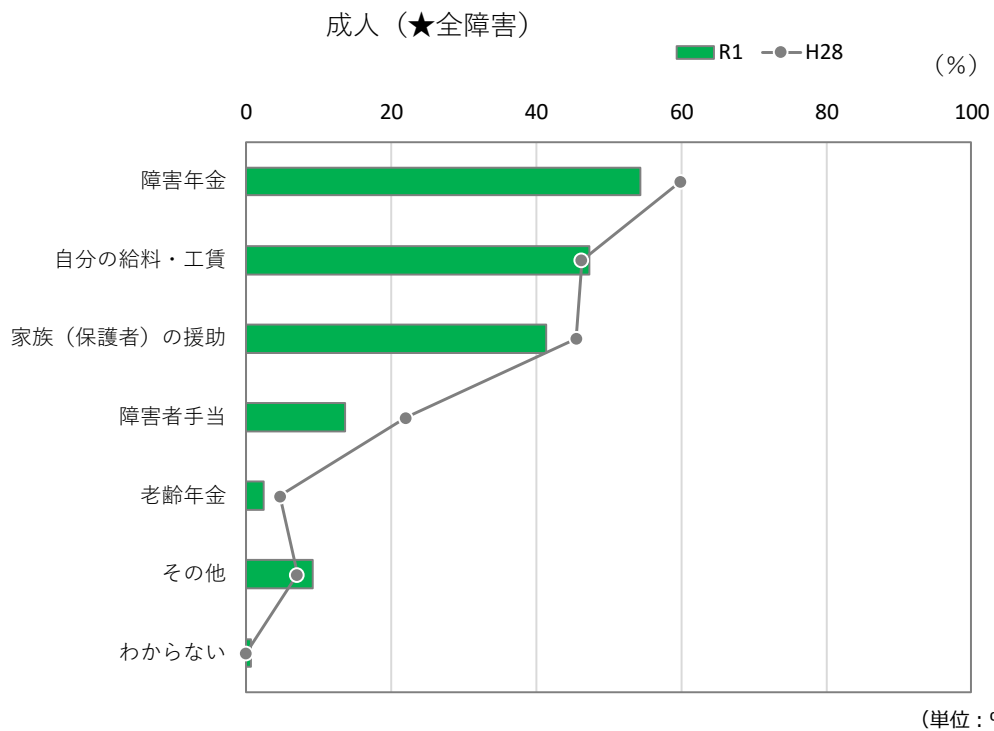
問 40. 収入源は何ですか (○はいくつでも)。

【成人】

成人全体では、「障害年金」が 5 割以上で最も多く、次いで「自分の給料・工賃」「家族（保護者）の援助」となっています。

知的障害の 8 割以上が「障害年金」，発達障害と難病の 6 割程度は「自分の給料・工賃」が主な収入源となっています。

前回調査との比較では、「障害者手当」が約 9 ポイント減少しています。



成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	787	33	52	101	272	92	258	15	32	105	20	35
障害年金	54.4	66.7	53.8	65.3	83.5	68.5	50.8	66.7	43.8	17.1	0.0	42.9
自分の給料・工賃	47.3	39.4	44.2	35.6	46.7	60.9	38.0	40.0	65.6	58.1	50.0	28.6
家族（保護者）の援助	41.4	48.5	36.5	41.6	44.5	52.2	42.2	33.3	21.9	42.9	30.0	48.6
障害者手当	13.6	30.3	28.8	27.7	26.5	16.3	5.8	20.0	12.5	6.7	0.0	5.7
老齢年金	2.4	3.0	1.9	4.0	1.5	0.0	0.8	6.7	3.1	4.8	5.0	5.7
その他	9.1	6.1	15.4	6.9	2.2	4.3	14.3	6.7	9.4	8.6	25.0	11.4
わからない	0.6	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	5.0	2.9

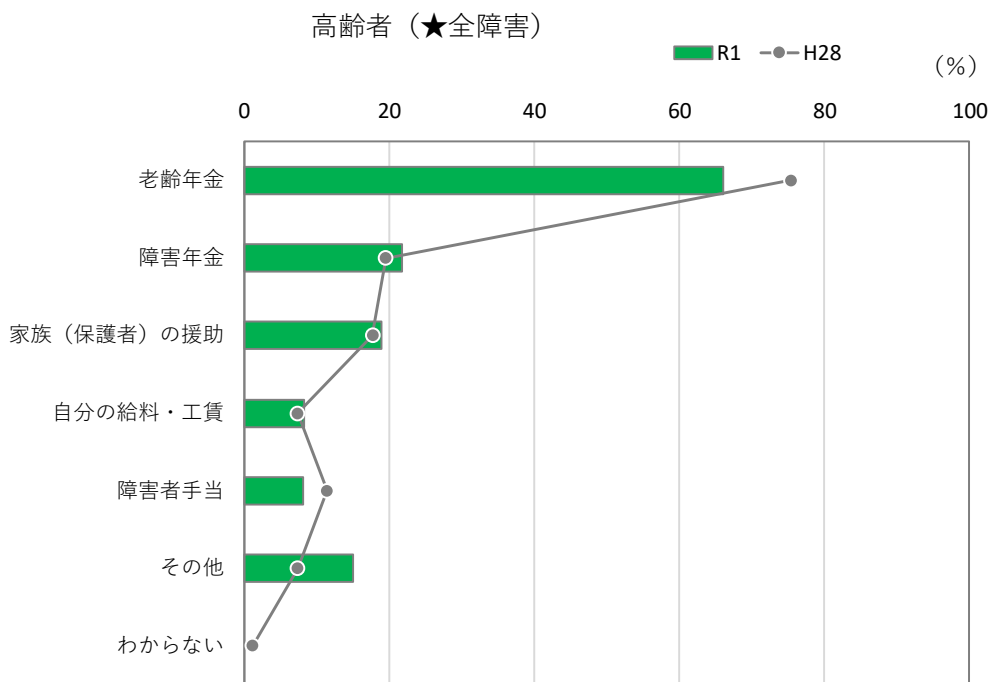
【高齢者】

高齢者全体では「老齢年金」が最も多く、6割以上となっています。

障害種別でみると、視覚障害と精神障害では「障害年金」が5割近く、また精神障害は「家族（保護者）の援助」も3割以上となっています。

「その他」の回答は、「生活保護」などがありました。

前回調査との比較では、「老齢年金」が約9ポイント減少しています。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	433	38	56	112	13	4	53	8	102	99	14	29
老齢年金	66.1	47.4	71.4	77.7	15.4	0.0	37.7	75.0	65.7	80.8	85.7	58.6
障害年金	21.7	47.4	19.6	19.6	76.9	75.0	47.2	12.5	12.7	6.1	0.0	6.9
家族（保護者）の援助	18.9	18.4	16.1	16.1	38.5	75.0	35.8	37.5	10.8	14.1	28.6	13.8
自分の給料・工賃	8.3	5.3	0.0	5.4	30.8	25.0	5.7	0.0	14.7	5.1	14.3	10.3
障害者手当	8.1	15.8	12.5	12.5	15.4	25.0	5.7	0.0	11.8	7.1	0.0	10.3
その他	15.0	10.5	17.9	11.6	7.7	25.0	17.0	12.5	20.6	14.1	14.3	34.5
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

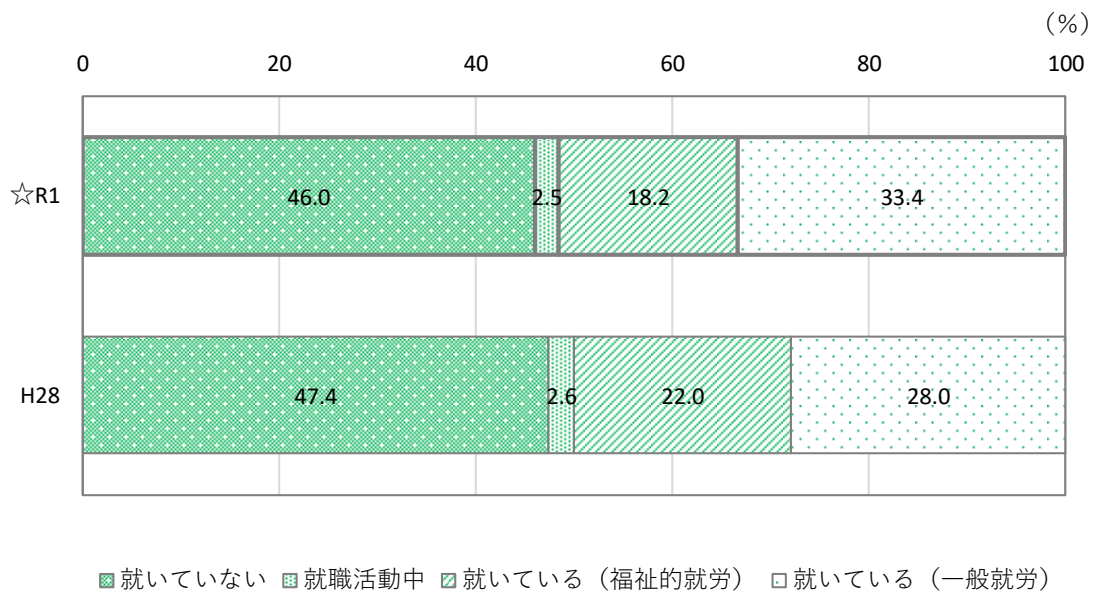
問 41. 現在、仕事に就いていますか（○はひとつだけ）。

【成人】

成人全体では、「就いている（一般就労）」が3割以上、「就いている（福祉的就労）」が2割近くであり、全体で5割程度が「仕事に就いている」という結果です。一方、「就いていない」も4割以上となっています。

障害種別で見ると、難病は「就いている（一般就労）」が5割以上となっています。前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

成人（★全障害）



(単位：%)

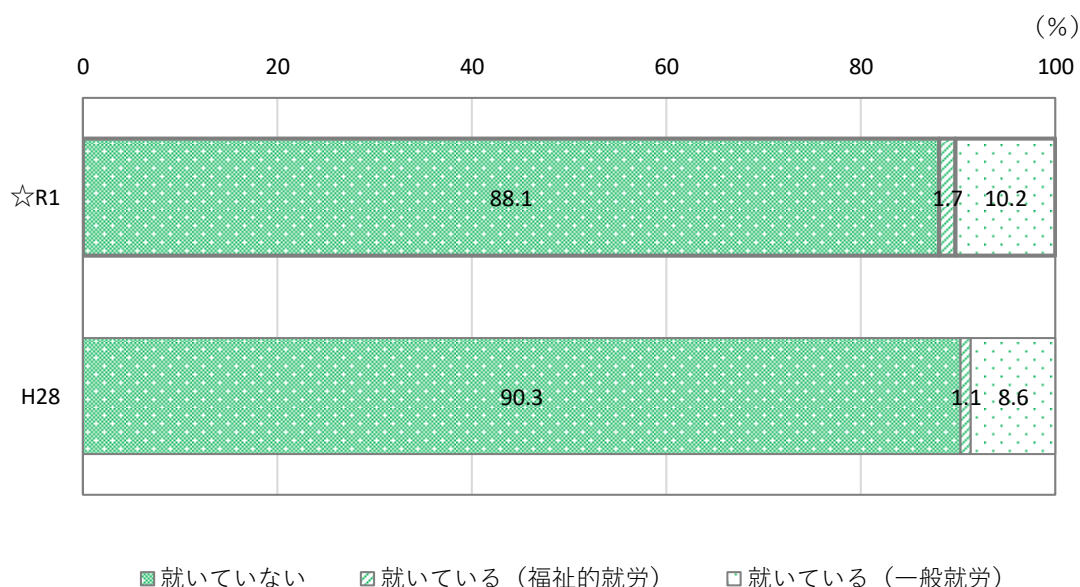
成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数（人）	770	32	50	98	259	89	258	14	32	104	20	35
就いていない	46.0	56.3	56.0	63.3	43.2	32.6	58.1	64.3	37.5	36.5	45.0	51.4
就職活動中	2.5	0.0	0.0	2.0	1.5	5.6	2.7	0.0	3.1	1.9	0.0	8.6
就いている（福祉的就労）	18.2	18.8	6.0	8.2	35.1	36.0	9.7	14.3	3.1	5.8	10.0	11.4
就いている（一般就労）	33.4	25.0	38.0	26.5	20.1	25.8	29.5	21.4	56.3	55.8	45.0	28.6

【高齢者】

高齢者全体では、「就いていない」が9割近くとなっています。「就いている（一般就労）」と「就いている（福祉的就労）」を合計しても1割程度です。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

高齢者（★全障害）



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数(人)	411	39	51	105	13	3	49	7	100	93	12	28
就いていない	88.1	92.3	100.0	89.5	69.2	33.3	89.8	100.0	86.0	89.2	83.3	85.7
就職活動中	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就いている（福祉的就労）	1.7	0.0	0.0	0.0	30.8	66.7	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就いている（一般就労）	10.2	7.7	0.0	10.5	0.0	0.0	6.1	0.0	14.0	10.8	16.7	14.3

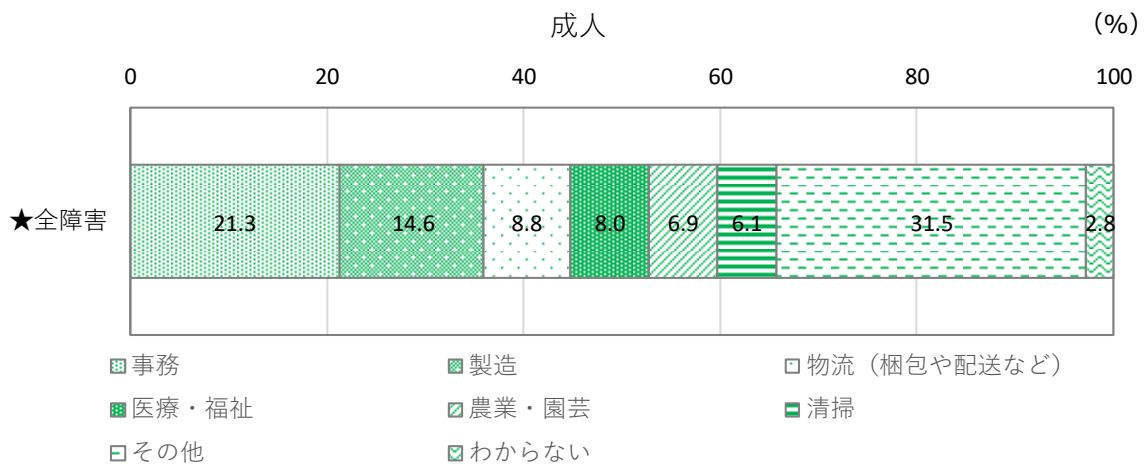
問 42. (問 41 で仕事に「3. 就いている(福祉的就労)」、「4. 就いている(一般就労)」と答えた方のみお答えください) 仕事内容は何ですか (〇はひとつだけ)。

【成人】

成人全体では、「その他」が3割程度、「事務」が2割程度となり、次いで「製造」が1割以上となっています。

「その他」の回答は、「軽作業(内職)」「調理(調理補助)」などがありました。

障害種別でみると、知的障害と発達障害は「製造」「農業・園芸」が他の障害と比べ多い傾向がみられます。



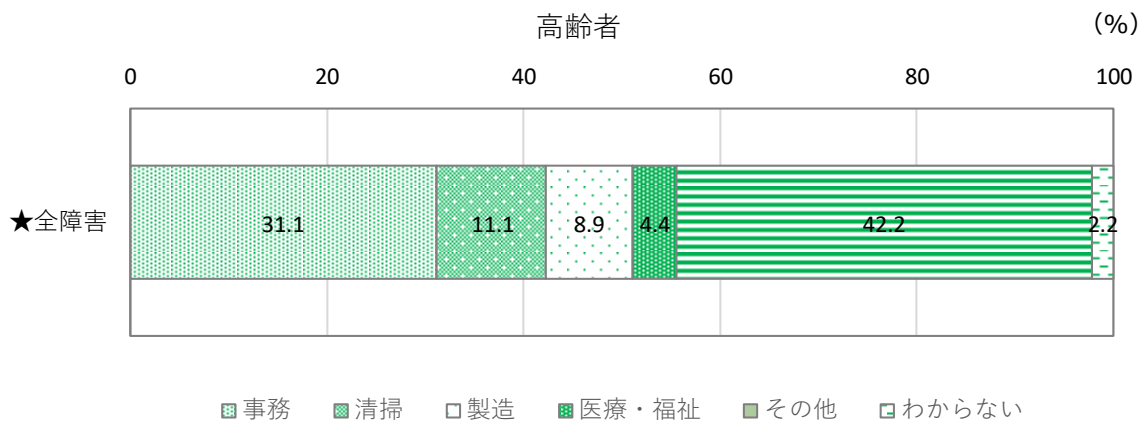
(単位：％)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	362	11	21	30	127	49	93	4	16	57	11	13
事務	21.3	18.2	47.6	36.7	3.9	18.4	30.1	25.0	37.5	26.3	9.1	0.0
製造	14.6	9.1	19.0	13.3	18.9	22.4	16.1	50.0	12.5	7.0	18.2	0.0
物流(梱包や配送など)	8.8	9.1	4.8	6.7	8.7	12.2	10.8	0.0	0.0	5.3	9.1	23.1
医療・福祉	8.0	0.0	9.5	10.0	3.1	2.0	8.6	0.0	6.3	19.3	18.2	7.7
農業・園芸	6.9	0.0	0.0	0.0	18.1	14.3	1.1	0.0	6.3	0.0	0.0	7.7
清掃	6.1	0.0	4.8	0.0	12.6	8.2	5.4	0.0	0.0	0.0	9.1	7.7
その他	31.5	63.6	14.3	33.3	30.7	20.4	24.7	0.0	37.5	40.4	36.4	46.2
わからない	2.8	0.0	0.0	0.0	3.9	2.0	3.2	25.0	0.0	1.8	0.0	7.7

【高齢者】

高齢者全体についても、「その他」が4割程度、「事務」が3割程度となり、次いで「清掃」が1割程度となっています。

「その他」の回答は、「建物の設備管理（清掃含む）」などがありました。



(単位：％)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他・
有効回答数 (人)	45	2	0	10	2	1	5	0	14	10	2	4
事務	31.1	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	42.9	10.0	50.0	50.0
清掃	11.1	0.0	0.0	10.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	50.0	25.0
製造	8.9	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0
医療・福祉	4.4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0
物流 (梱包や配送など)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
農業・園芸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	42.2	50.0	0.0	30.0	0.0	0.0	40.0	0.0	50.0	60.0	0.0	25.0
わからない	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

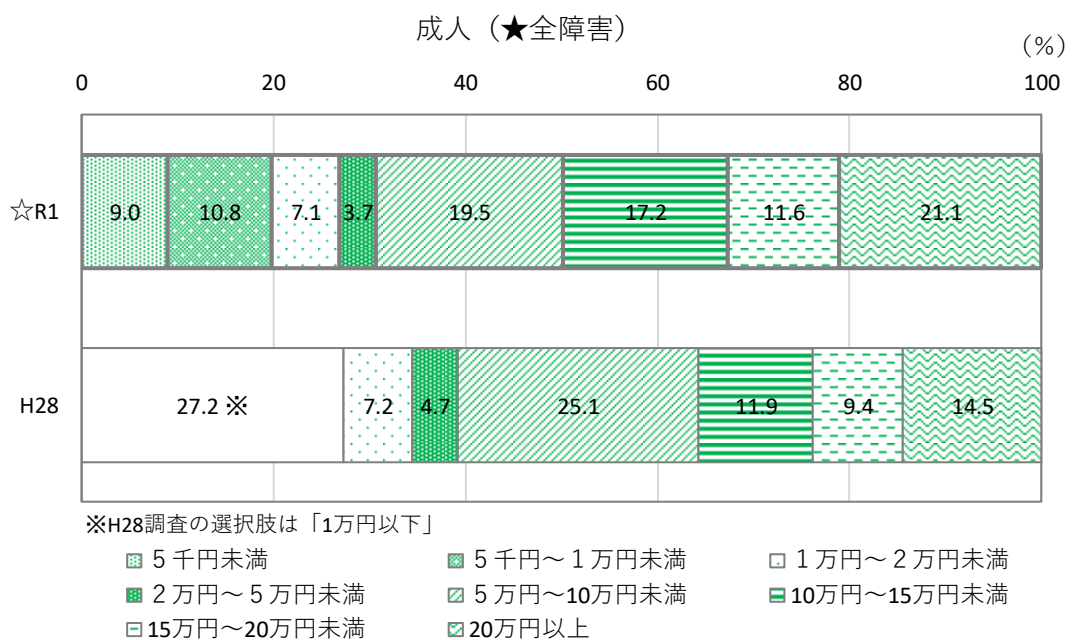
問 43. (問 41 で仕事に「3. 就いている(福祉的就労)」, 「4. 就いている(一般就労)」と答えた方のみお答えください)
賃金・工賃は平均でいくらですか(月額でお答えください)(〇はひとつだけ)。

【成人】

成人全体では、「20万円以上」が2割以上、次いで「5万円～10万円未満」「10万円～15万円未満」となっています。また1万円未満の回答は合わせて2割近くとなっています。

障害種別でみると、難病の5割近く、肢体不自由の3割以上が「20万円以上」と回答しています。また、知的障害と発達障害は「1万円未満」の割合が、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査との比較では「20万円以上」が約7ポイント増加しています。「1万円未満」の割合については約7ポイント減少しています。



(単位: %)

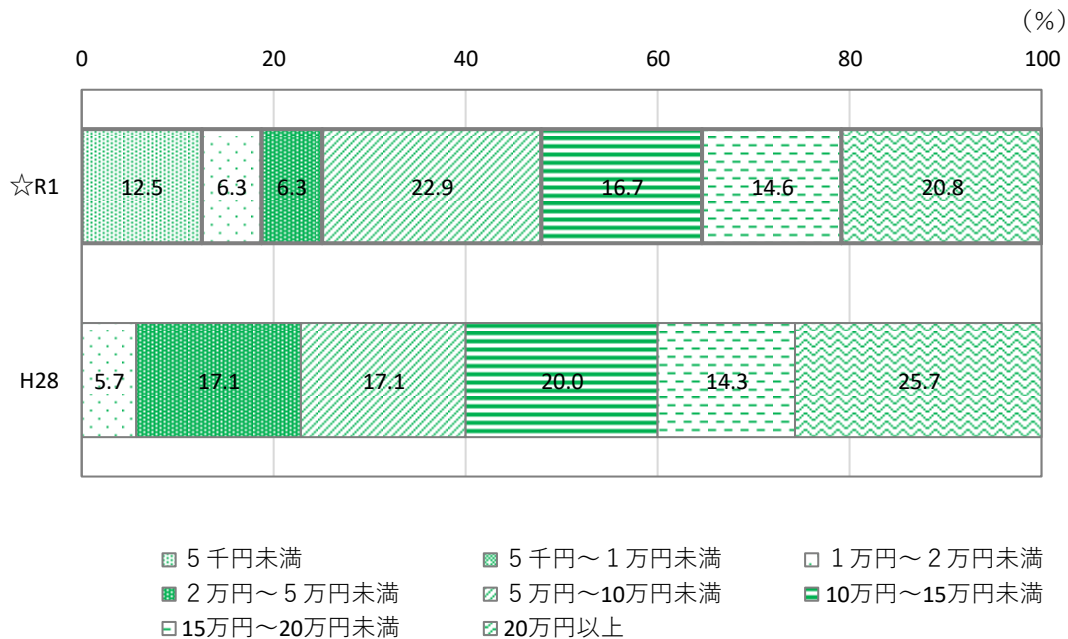
成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	379	14	21	33	142	53	96	5	16	60	10	13
5千円未満	9.0	0.0	4.8	9.1	16.9	15.1	4.2	0.0	0.0	1.7	0.0	23.1
5千円～1万円未満	10.8	42.9	0.0	9.1	21.8	13.2	4.2	40.0	6.3	3.3	10.0	7.7
1万円～2万円未満	7.1	7.1	4.8	3.0	7.0	9.4	8.3	0.0	0.0	3.3	10.0	0.0
2万円～5万円未満	3.7	0.0	4.8	0.0	3.5	3.8	4.2	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0
5万円～10万円未満	19.5	7.1	14.3	9.1	21.1	20.8	25.0	0.0	6.3	15.0	20.0	30.8
10万円～15万円未満	17.2	0.0	28.6	15.2	24.6	18.9	13.5	20.0	18.8	6.7	10.0	23.1
15万円～20万円未満	11.6	14.3	23.8	18.2	4.2	13.2	14.6	0.0	12.5	18.3	0.0	0.0
20万円以上	21.1	28.6	19.0	36.4	0.7	5.7	26.0	40.0	56.3	48.3	50.0	15.4

【高齢者】

高齢者全体では、「5万円～10万円未満」と「20万円以上」がそれぞれ2割以上となっています。

前回調査と比べ、「5万円～10万円未満」が約6ポイント増加し、「20万円以上」は約5ポイント減少しています。

高齢者（★全障害）



(単位：%)

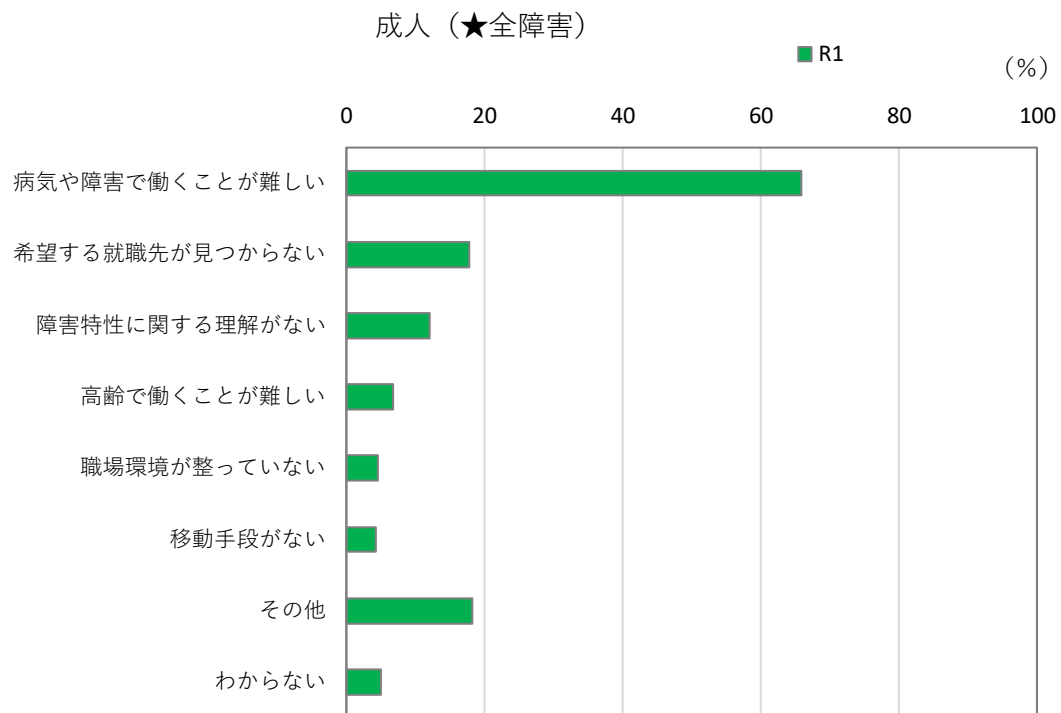
高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	48	3	0	10	4	2	5	0	13	10	2	3
5千円未満	12.5	33.3	0.0	10.0	75.0	50.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5千円～1万円未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1万円～2万円未満	6.3	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2万円～5万円未満	6.3	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
5万円～10万円未満	22.9	33.3	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	23.1	30.0	0.0	33.3
10万円～15万円未満	16.7	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	15.4	30.0	50.0	33.3
15万円～20万円未満	14.6	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	23.1	10.0	50.0	0.0
20万円以上	20.8	33.3	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.5	10.0	0.0	33.3

問 44. (問 41 で仕事に「1. 就いていない」, 「2. 就職活動中」と答えた方のみお答えください) 就労することが難しい, または就労をしていない理由は何ですか (〇はいくつでも)。

【成人】

成人全体では, 「病気や障害で働くことが難しい」が6割以上で, 主たる理由となっています。「その他」の回答は, 「外や人が怖い」などがありました。

障害種別でみると, 発達障害は「障害特性に関する理解がない」が他の障害と比べ多い傾向がみられます。



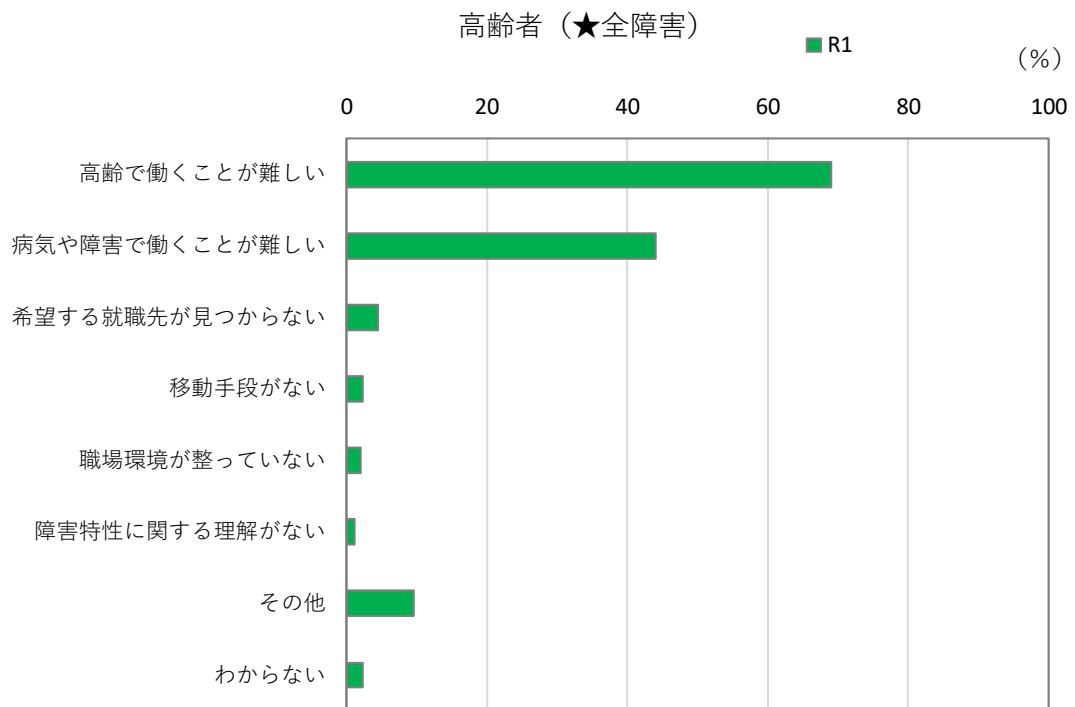
(単位 : %)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	355	18	28	62	105	34	151	9	13	39	9	20
病気や障害で働くことが難しい	65.9	77.8	71.4	75.8	70.5	47.1	70.2	77.8	61.5	61.5	44.4	70.0
希望する就職先が見つからない	17.7	11.1	14.3	12.9	11.4	17.6	19.9	22.2	7.7	15.4	33.3	25.0
障害特性に関する理解がない	12.1	0.0	17.9	6.5	11.4	20.6	12.6	0.0	7.7	7.7	0.0	30.0
高齢で働くことが難しい	6.8	11.1	0.0	3.2	3.8	2.9	6.0	11.1	7.7	5.1	33.3	10.0
職場環境が整っていない	4.5	0.0	3.6	1.6	3.8	2.9	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0
移動手段がない	4.2	16.7	7.1	3.2	4.8	2.9	2.6	11.1	0.0	0.0	11.1	5.0
その他	18.3	16.7	14.3	12.9	13.3	35.3	17.2	11.1	7.7	20.5	22.2	35.0
わからない	5.1	0.0	3.6	3.2	6.7	2.9	4.6	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0

【高齢者】

高齢者全体では、「高齢で働くことが難しい」が7割程度、次いで「病気や障害で働くことが難しい」が4割以上となっています。

障害種別でみると、精神障害は「病気や障害で働くことが難しい」が最も多く、「高齢で働くことが難しい」より多くなっています。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	336	30	48	86	9	1	43	7	78	79	10	19
高齢で働くことが難しい	69.0	66.7	72.9	79.1	55.6	100.0	41.9	71.4	76.9	69.6	100.0	73.7
病気や障害で働くことが難しい	44.0	33.3	29.2	52.3	66.7	0.0	65.1	14.3	48.7	45.6	10.0	10.5
希望する就職先が見つからない	4.5	6.7	0.0	3.5	11.1	0.0	2.3	0.0	6.4	5.1	0.0	0.0
移動手段がない	2.4	6.7	0.0	3.5	11.1	0.0	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0
職場環境が整っていない	2.1	10.0	2.1	2.3	11.1	0.0	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0
障害特性に関する理解がない	1.2	0.0	4.2	1.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	9.5	10.0	10.4	8.1	0.0	100.0	11.6	14.3	3.8	6.3	0.0	26.3
わからない	2.4	3.3	2.1	0.0	0.0	0.0	4.7	14.3	1.3	3.8	0.0	0.0

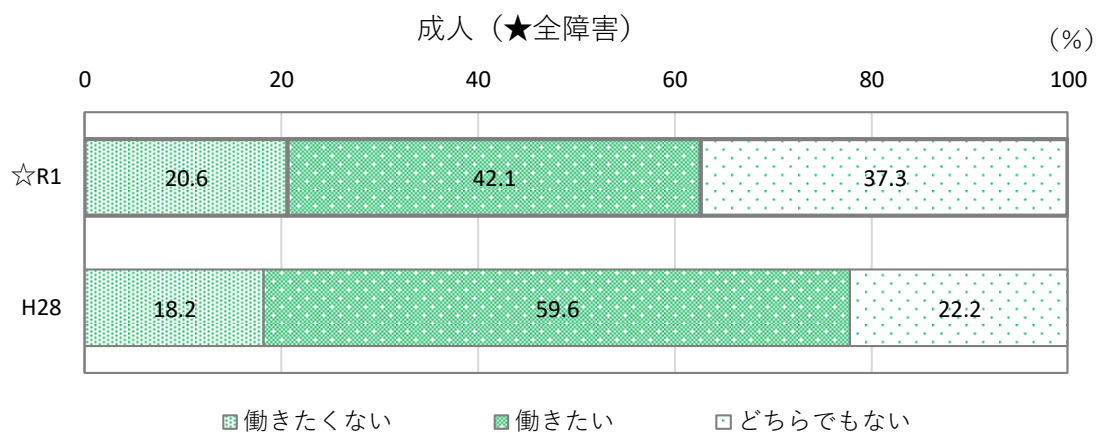
問 45. (問 41 で仕事に「1. 就いていない」, 「2. 就職活動中」と答えた方のみお答えください)
 今後、働きたいですか (○はひとつだけ)。

【成人】

成人全体では、「働きたい」が4割以上となっています。

障害種別でみると、発達障害と精神障害の5割以上が「働きたい」と回答し、他の障害と比べて多くなっています。

前回調査とは回答対象者が異なる(前回の回答対象者:成人全体)ため、単純な比較はできませんが、前回調査との比較では、「働きたい」が約18ポイント減少しています。



(単位: %)

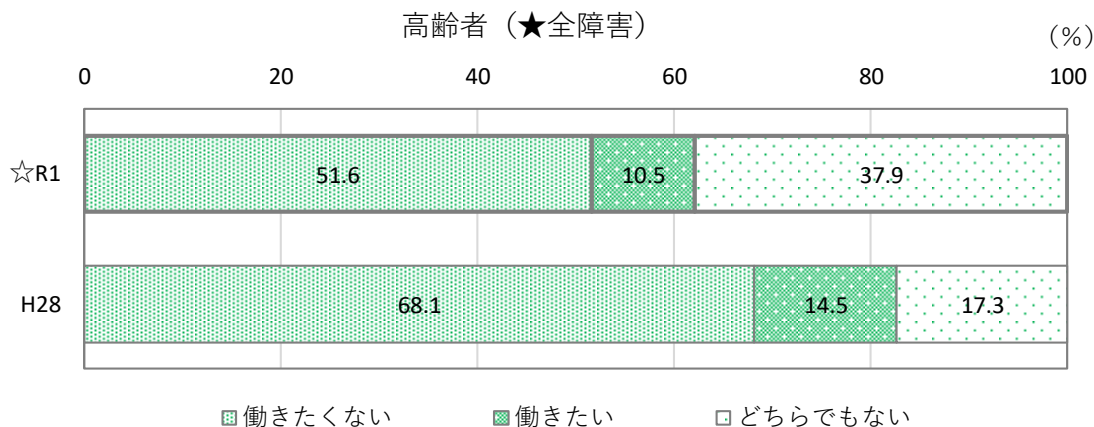
成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	316	13	22	45	84	30	145	7	13	37	9	16
働きたくない	20.6	15.4	13.6	20.0	21.4	10.0	20.0	42.9	23.1	24.3	11.1	37.5
働きたい	42.1	30.8	36.4	26.7	28.6	53.3	52.4	28.6	23.1	27.0	66.7	31.3
どちらでもない	37.3	53.8	50.0	53.3	50.0	36.7	27.6	28.6	53.8	48.6	22.2	31.3

【高齢者】

高齢者全体では、「働きたくない」が5割程度となっています。

障害種別では、どの障害においても「働きたくない」「どちらでもない」の回答が「働きたい」より多くなっています。

前回調査とは回答対象者が異なる（前回の回答対象者：高齢者全体）ため、単純な比較はできませんが、前回調査との比較では、「働きたくない」は約17ポイント減少しています。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	285	27	38	70	5	1	37	5	64	65	8	17
働きたくない	51.6	44.4	47.4	48.6	20.0	100.0	45.9	20.0	59.4	53.8	62.5	64.7
働きたい	10.5	7.4	0.0	4.3	0.0	0.0	13.5	20.0	9.4	20.0	0.0	5.9
どちらでもない	37.9	48.1	52.6	47.1	80.0	0.0	40.5	60.0	31.3	26.2	37.5	29.4

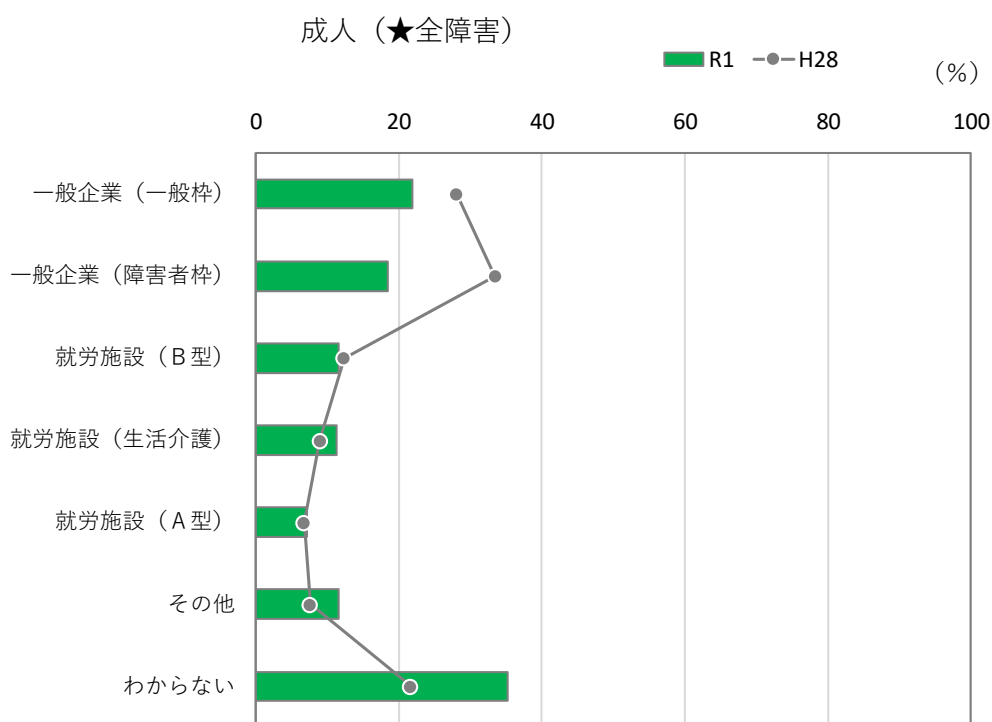
問 46. (問 41 で仕事に「1. 就いていない」, 「2. 就職活動中」と答えた方のみお答えください) どこで働きたいですか (○はいくつでも)。

【成人】

成人全体では、「わからない」が3割以上と最も多くなっています。次いで「一般企業（一般枠）」「一般企業（障害者枠）」がそれぞれ2割程度となっています。「その他」の回答は、「障害や病気のため働くことは難しい」「在宅でできる仕事」などがありました。

障害種別でみると、発達障害では「一般企業（障害者枠）」「就労施設（B型）」が他の障害と比べ多い傾向がみられます。

前回調査とは回答対象者が異なる（前回の回答対象者：成人全体）ため、単純な比較はできませんが、前回調査との比較では、「一般企業（一般枠）」が約6ポイント、「一般企業（障害者枠）」が約15ポイント減少しています。



(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	292	12	20	38	83	28	138	5	10	29	8	17
一般企業（一般枠）	21.9	8.3	25.0	10.5	3.6	17.9	26.1	20.0	10.0	27.6	62.5	23.5
一般企業（障害者枠）	18.5	16.7	15.0	15.8	9.6	35.7	21.7	40.0	20.0	3.4	12.5	11.8
就労施設（B型）	11.6	0.0	5.0	7.9	22.9	32.1	10.9	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0
就労施設（生活介護）	11.3	16.7	20.0	15.8	32.5	10.7	6.5	0.0	10.0	6.9	0.0	11.8
就労施設（A型）	7.2	0.0	10.0	7.9	9.6	7.1	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	11.6	25.0	5.0	13.2	4.8	10.7	13.0	20.0	10.0	24.1	0.0	29.4
わからない	35.3	41.7	45.0	47.4	33.7	14.3	31.2	40.0	50.0	37.9	37.5	41.2

【高齢者】

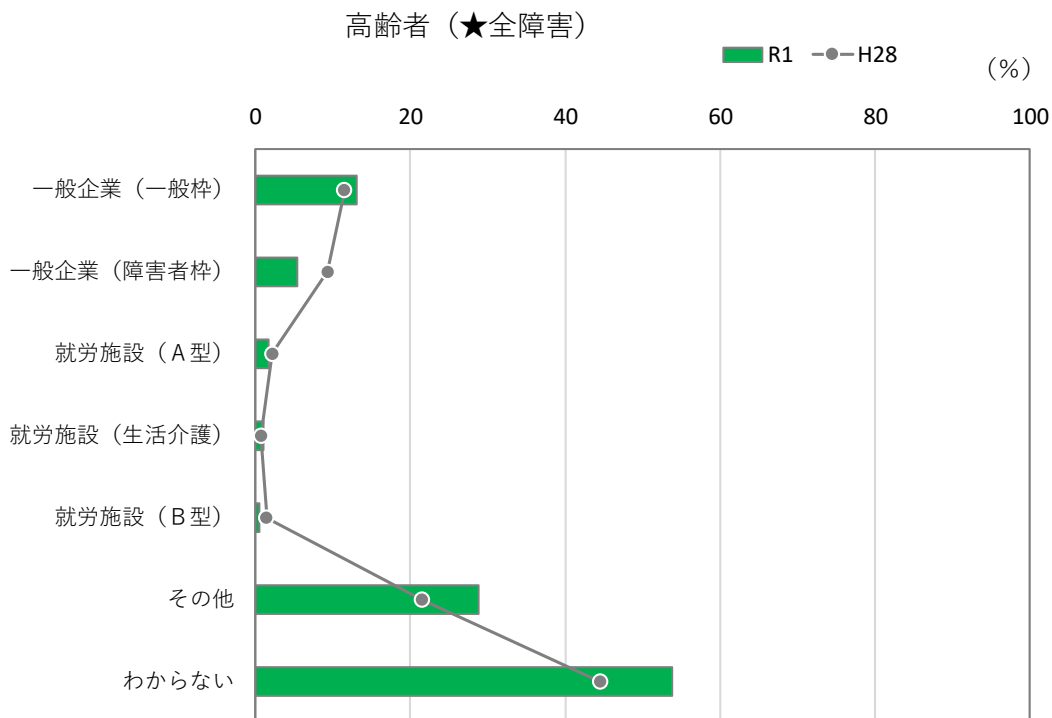
高齢者全体では、「わからない」が5割以上となっています。

「その他」の回答は、「病気や高齢のため働くことは難しい」などがありました。

障害種別でも、「わからない」が多数となっています。

前回調査とは回答対象者が異なる（前回の回答対象者：高齢者全体）ため、単純な比較はできませんが、前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

なお、本設問については、高齢者の5割近くが無回答でした。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他
有効回答数(人)	184	12	19	45	3	1	28	2	41	46	4	10
一般企業（一般枠）	13.0	8.3	10.5	15.6	0.0	0.0	7.1	0.0	9.8	17.4	0.0	20.0
一般企業（障害者枠）	5.4	0.0	15.8	4.4	0.0	0.0	3.6	0.0	4.9	6.5	0.0	0.0
就労施設（A型）	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労施設（生活介護）	1.1	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労施設（B型）	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	28.8	41.7	10.5	33.3	0.0	100.0	32.1	0.0	29.3	26.1	75.0	40.0
わからない	53.8	50.0	68.4	48.9	33.3	0.0	50.0	100.0	61.0	54.3	25.0	40.0

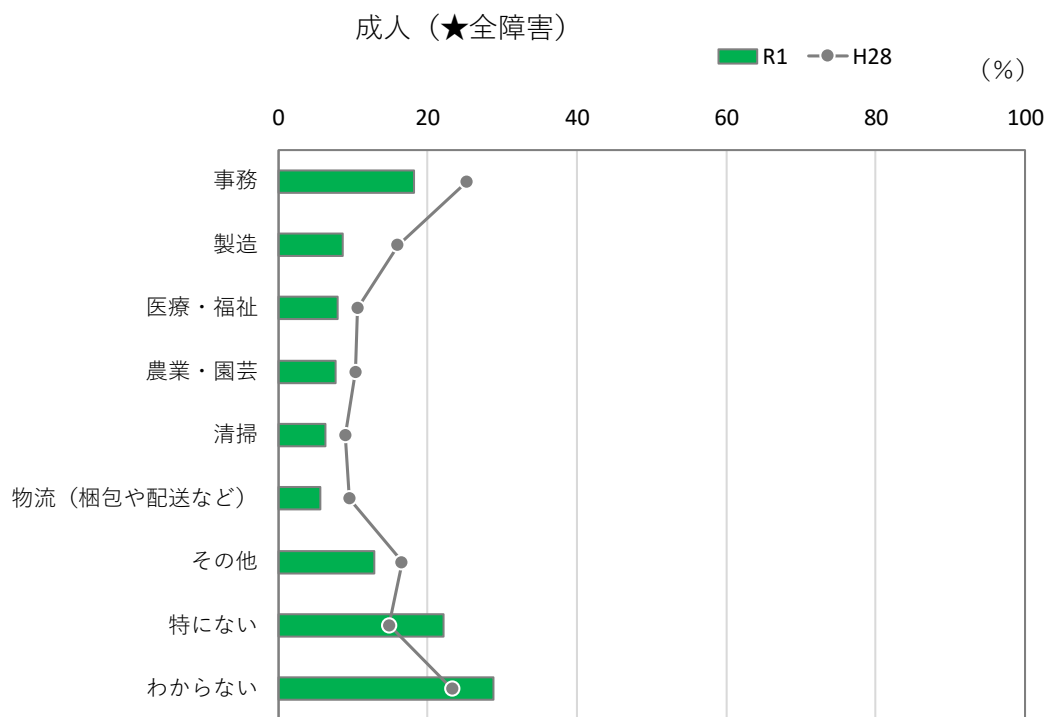
問 47. (問 41 で仕事に「1. 就いていない」, 「2. 就職活動中」と答えた方のみお答えください) 希望する仕事内容は何ですか (〇はいくつでも)。

【成人】

成人全体では「事務」が 2 割近くとなっています。「その他」の回答は、「障害などで働くことが難しい」「スキルや得意分野を生かせる仕事」などがありました。

障害種別では、発達障害と精神障害の 2 割以上が「事務」を希望しています。

前回調査とは回答対象者が異なる (前回の回答対象者 : 成人全体) ため、単純な比較はできませんが、前回調査との比較では、「事務」「製造」がそれぞれ 7 ポイント減少しています。



(単位 : %)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	302	15	21	36	80	28	142	7	11	33	8	17
事務	18.2	13.3	14.3	13.9	3.8	25.0	23.9	42.9	27.3	18.2	25.0	17.6
製造	8.6	6.7	19.0	8.3	7.5	7.1	11.3	0.0	9.1	6.1	12.5	5.9
医療・福祉	7.9	0.0	4.8	5.6	6.3	14.3	8.5	0.0	0.0	12.1	12.5	5.9
農業・園芸	7.6	6.7	9.5	2.8	12.5	14.3	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清掃	6.3	0.0	14.3	2.8	6.3	10.7	9.2	0.0	0.0	0.0	12.5	5.9
物流 (梱包や配送など)	5.6	0.0	4.8	0.0	6.3	3.6	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
その他	12.9	13.3	9.5	13.9	10.0	14.3	15.5	28.6	0.0	15.2	25.0	35.3
特になし	22.2	33.3	9.5	33.3	23.8	10.7	14.1	28.6	54.5	39.4	25.0	17.6
わからない	28.8	33.3	38.1	25.0	41.3	32.1	25.4	0.0	18.2	15.2	37.5	29.4

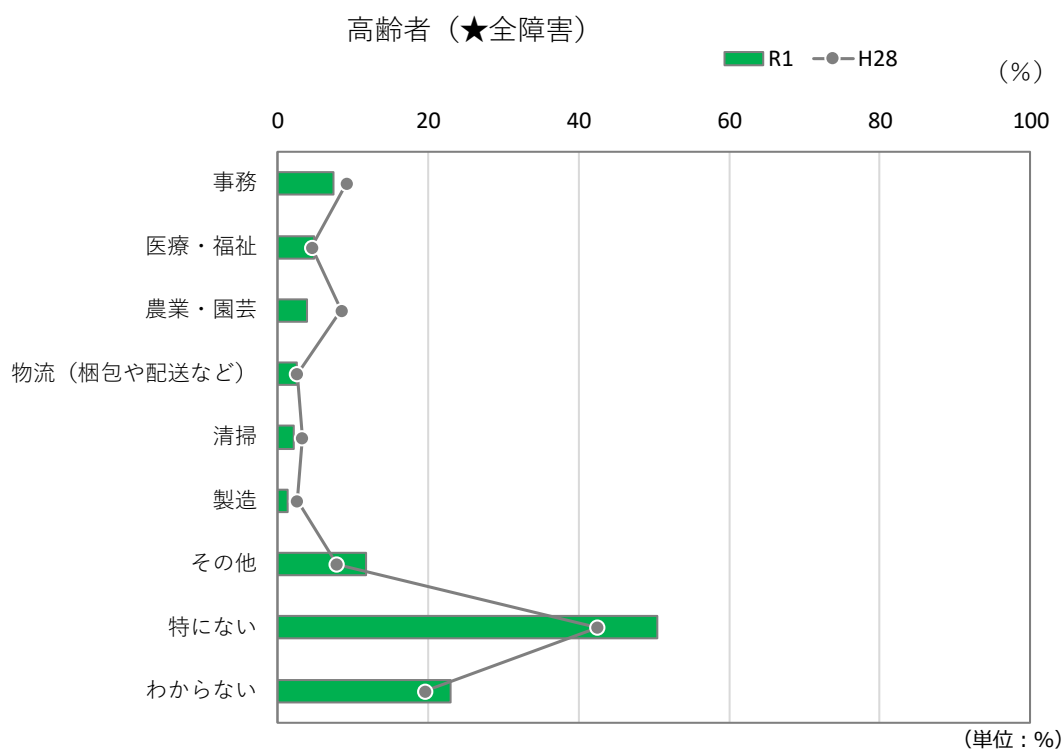
【高齢者】

高齢者全体では、「特にない」「わからない」が多くなっています。「その他」の回答は、高齢のため「働くことは難しい」、「就労は希望しない」などがありました。

障害種別でも、すべての障害で「特にない」「わからない」の割合が多くなっています。

前回調査とは回答対象者が異なる（前回の回答対象者：高齢者全体）ため、単純な比較はできませんが、前回調査と比べ、大きな違いは見られません。

なお、本設問については、高齢者の3割以上が無回答でした。



高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他・
有効回答数(人)	230	20	29	56	2	1	31	3	53	56	4	13
事務	7.4	10.0	3.4	5.4	0.0	0.0	6.5	0.0	7.5	8.9	0.0	7.7
医療・福祉	4.8	5.0	3.4	3.6	0.0	0.0	3.2	0.0	1.9	7.1	0.0	7.7
農業・園芸	3.9	5.0	6.9	5.4	50.0	0.0	3.2	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0
物流（梱包や配送など）	2.6	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	1.9	3.6	0.0	0.0
清掃	2.2	5.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	0.0	0.0	0.0
製造	1.3	5.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0
その他	11.7	15.0	10.3	14.3	0.0	100.0	12.9	0.0	13.2	16.1	0.0	7.7
特にない	50.4	55.0	44.8	50.0	0.0	0.0	41.9	66.7	58.5	46.4	75.0	69.2
わからない	23.0	15.0	31.0	23.2	50.0	0.0	32.3	33.3	17.0	21.4	25.0	15.4

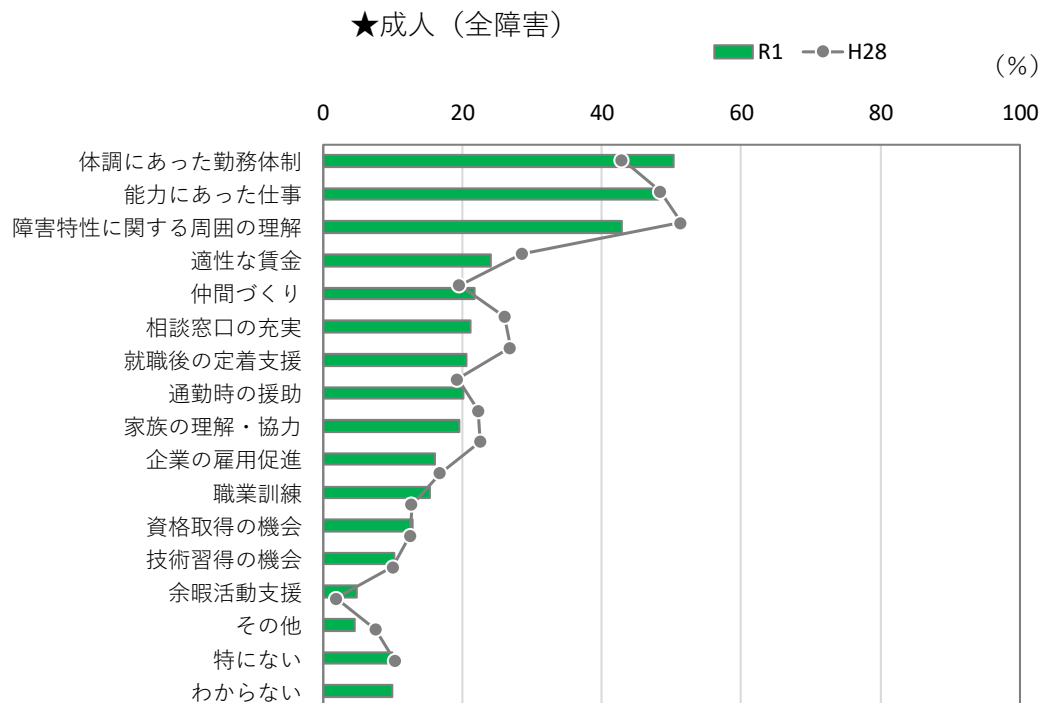
問 48. (問 41 で仕事に「1. 就いていない」, 「2. 就職活動中」と答えた方のみお答えください) 就職するために必要だと思うことは何ですか (〇はいくつでも)。

【成人】

成人全体では、「体調にあった勤務体制」「能力にあった仕事」が 5 割程度と多く、次いで「障害特性に関する周囲の理解」が 4 割程度となっています。

障害種別で見ると、発達障害では上記 3 つ以外に加え「適正な賃金」「相談窓口の充実」「就職後の定着支援」が 4 割以上で、他の障害と比べ多い傾向がみられます。

前回調査とは回答対象者が異なる (前回の回答対象者：成人全体) ため、単純な比較はできませんが、前回調査との比較では、「体調にあった勤務体制」は約 8 ポイント、「障害特性に関する周囲の理解」は約 9 ポイント減少しています。



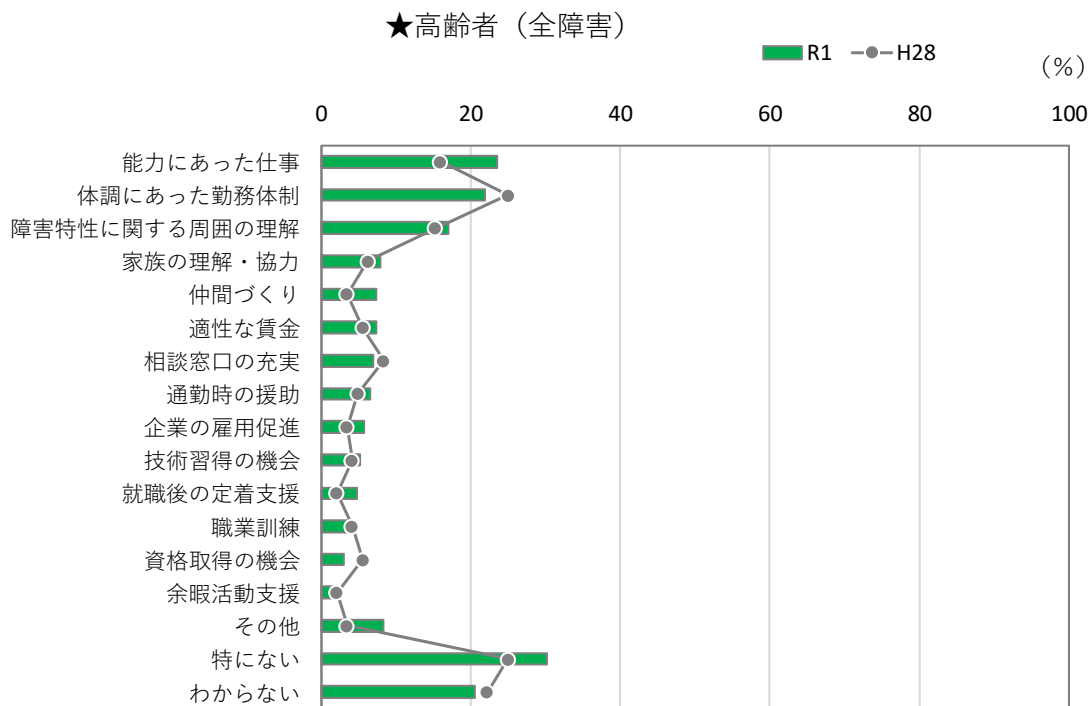
(単位：%)

成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	312	14	22	35	86	30	146	6	11	33	8	16
体調にあった勤務体制	50.3	21.4	54.5	42.9	27.9	50.0	64.4	100.0	54.5	54.5	62.5	62.5
能力にあった仕事	48.1	50.0	45.5	28.6	50.0	76.7	50.0	100.0	36.4	39.4	75.0	37.5
障害特性に関する周囲の理解	42.9	42.9	63.6	45.7	38.4	63.3	48.6	66.7	45.5	36.4	12.5	43.8
適性な賃金	24.0	7.1	13.6	17.1	11.6	43.3	31.5	50.0	18.2	18.2	50.0	31.3
仲間づくり	21.8	7.1	18.2	11.4	20.9	36.7	27.4	33.3	9.1	12.1	12.5	6.3
相談窓口の充実	21.2	0.0	13.6	11.4	17.4	46.7	26.7	16.7	18.2	3.0	37.5	18.8
就職後の定着支援	20.5	7.1	13.6	14.3	14.0	43.3	27.4	33.3	9.1	21.2	25.0	6.3
通勤時の援助	20.2	35.7	27.3	25.7	24.4	30.0	23.3	50.0	0.0	9.1	0.0	18.8
家族の理解・協力	19.6	7.1	13.6	8.6	14.0	20.0	24.7	33.3	18.2	9.1	25.0	12.5
企業の雇用促進	16.0	7.1	18.2	17.1	9.3	30.0	15.8	33.3	18.2	6.1	37.5	25.0
職業訓練	15.4	14.3	9.1	8.6	12.8	33.3	18.5	33.3	0.0	9.1	12.5	6.3
資格取得の機会	12.8	7.1	9.1	5.7	5.8	26.7	14.4	0.0	0.0	15.2	37.5	31.3
技術習得の機会	10.3	7.1	4.5	5.7	8.1	20.0	11.0	0.0	0.0	12.1	37.5	18.8
余暇活動支援	4.8	0.0	0.0	0.0	3.5	30.0	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
その他	4.5	0.0	0.0	2.9	0.0	6.7	6.8	16.7	0.0	3.0	0.0	12.5
特にない	9.9	21.4	0.0	17.1	14.0	0.0	7.5	0.0	18.2	18.2	12.5	0.0
わからない	9.9	21.4	18.2	25.7	19.8	3.3	5.5	0.0	0.0	6.1	0.0	12.5

【高齢者】

高齢者全体では、「特にない」「わからない」が多くなっています。就職に必要な支援としては、「能力にあった仕事」「体調にあった勤務体制」が2割以上となっています。

前回調査とは回答対象者が異なる（前回の回答対象者：高齢者全体）ため、単純な比較はできませんが、前回調査との比較では、「能力にあった仕事」は約8ポイント増加しています。



(単位：%)

高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	229	19	28	58	2	1	32	3	53	54	7	13
能力にあった仕事	23.6	15.8	14.3	17.2	50.0	100.0	31.3	33.3	20.8	29.6	14.3	23.1
体調にあった勤務体制	21.8	10.5	7.1	19.0	50.0	100.0	28.1	33.3	15.1	33.3	0.0	7.7
障害特性に関する周囲の理解	17.0	15.8	25.0	17.2	50.0	100.0	18.8	0.0	9.4	22.2	0.0	7.7
家族の理解・協力	7.9	5.3	3.6	3.4	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	18.5	28.6	15.4
仲間づくり	7.4	5.3	10.7	1.7	50.0	100.0	15.6	33.3	3.8	7.4	0.0	0.0
適性な賃金	7.4	5.3	10.7	6.9	0.0	100.0	12.5	0.0	1.9	13.0	0.0	0.0
相談窓口の充実	7.0	15.8	3.6	6.9	0.0	0.0	6.3	0.0	3.8	7.4	14.3	15.4
通勤時の援助	6.6	5.3	0.0	8.6	50.0	0.0	6.3	33.3	0.0	13.0	0.0	0.0
企業の雇用促進	5.7	5.3	0.0	5.2	0.0	0.0	3.1	0.0	7.5	11.1	0.0	0.0
技術習得の機会	5.2	5.3	3.6	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	11.1	0.0	7.7
就職後の定着支援	4.8	5.3	3.6	5.2	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	9.3	0.0	7.7
職業訓練	3.9	5.3	0.0	5.2	0.0	0.0	3.1	33.3	1.9	7.4	0.0	0.0
資格取得の機会	3.1	10.5	0.0	1.7	0.0	0.0	3.1	0.0	1.9	5.6	0.0	0.0
余暇活動支援	2.2	5.3	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	5.6	0.0	0.0
その他	8.3	21.1	3.6	15.5	0.0	100.0	12.5	0.0	13.2	3.7	0.0	0.0
特になし	30.1	15.8	32.1	32.8	0.0	0.0	15.6	0.0	35.8	31.5	42.9	46.2
わからない	20.5	31.6	21.4	19.0	50.0	0.0	21.9	33.3	18.9	14.8	28.6	23.1

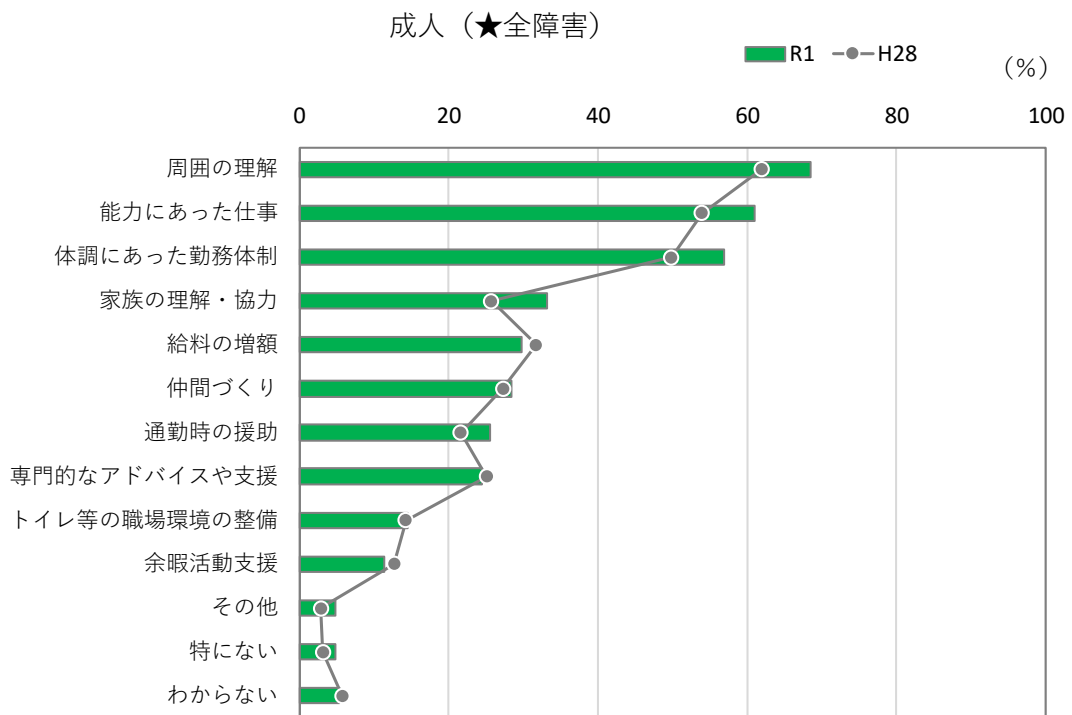
問 49. 長期的に働くためにはどのようなことが必要ですか（○はいくつでも）。

【成人】

成人全体では、「周囲の理解」が7割近くと最も多く、次いで「能力にあった仕事」「体調にあった勤務体制」となっています。

障害種別でみると、発達障害は、「周囲の理解」「能力にあった仕事」が、それぞれ他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

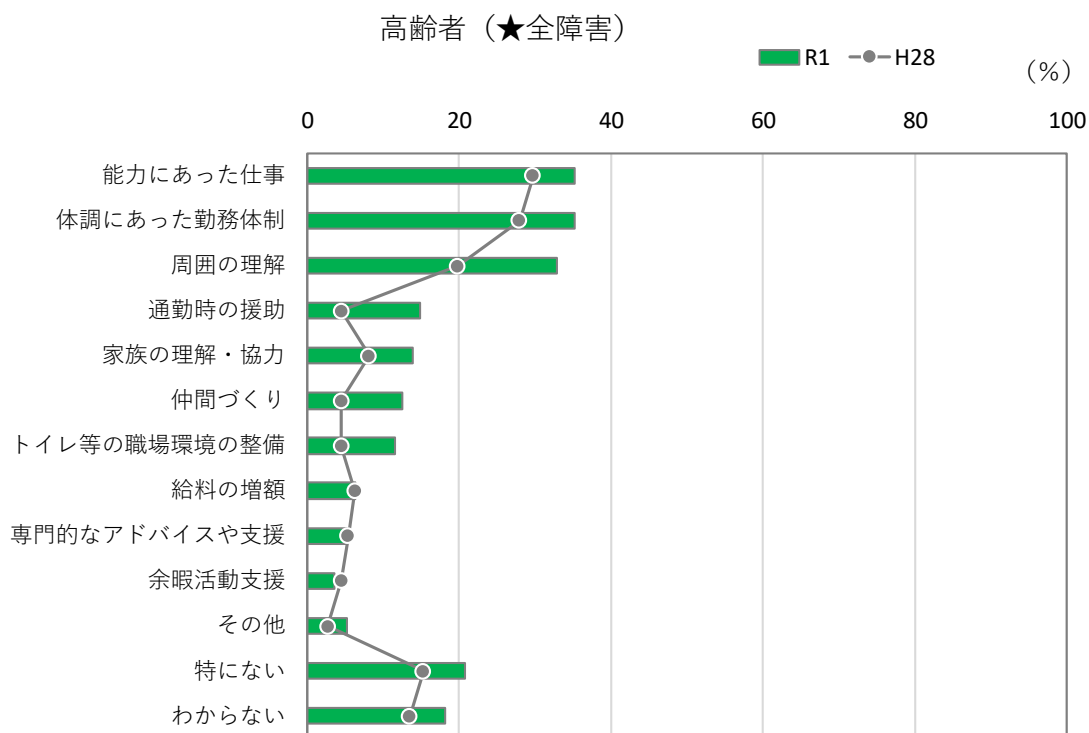
成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数(人)	712	27	46	75	228	85	251	13	31	95	19	29
周囲の理解	68.5	63.0	73.9	64.0	69.7	84.7	68.1	100.0	64.5	73.7	31.6	62.1
能力にあった仕事	61.0	51.9	54.3	49.3	69.7	83.5	62.2	84.6	61.3	46.3	57.9	44.8
体調にあった勤務体制	56.9	40.7	37.0	58.7	35.1	51.8	74.9	92.3	77.4	73.7	78.9	65.5
家族の理解・協力	33.1	25.9	30.4	28.0	34.6	36.5	32.7	53.8	32.3	34.7	42.1	34.5
給料の増額	29.8	25.9	26.1	26.7	24.1	38.8	35.5	23.1	22.6	33.7	21.1	27.6
仲間づくり	28.4	22.2	28.3	21.3	31.1	34.1	35.1	46.2	12.9	22.1	10.5	24.1
通勤時の援助	25.6	55.6	23.9	44.0	30.3	28.2	21.1	69.2	29.0	21.1	15.8	24.1
専門的なアドバイスや支援	24.4	33.3	21.7	22.7	27.6	47.1	28.7	46.2	16.1	9.5	21.1	31.0
トイレ等の職場環境の整備	14.5	18.5	10.9	33.3	14.5	16.5	12.0	30.8	19.4	22.1	5.3	24.1
余暇活動支援	11.4	3.7	4.3	6.7	19.3	30.6	10.4	7.7	6.5	5.3	0.0	10.3
その他	4.8	7.4	2.2	4.0	3.5	8.2	7.2	15.4	0.0	4.2	0.0	10.3
特になし	4.8	7.4	2.2	10.7	4.8	1.2	4.0	0.0	9.7	5.3	0.0	3.4
わからない	5.3	11.1	10.9	9.3	9.6	1.2	3.6	0.0	0.0	2.1	0.0	13.8

【高齢者】

高齢者全体では、「能力にあった仕事」「体調にあった勤務体制」「周囲の理解」が3割以上となっています。

障害種別にみると、難病では、上記3つに加えて、「家族の理解・協力」「トイレ等の職場環境の整備」が他の障害と比べ多くなっています。

前回調査との比較では、「周囲の理解」が約13ポイント、「通勤時の援助」が約10ポイント増加しています。



(単位：%)

高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	304	23	33	75	6	2	44	4	72	67	12	17
能力にあった仕事	35.2	34.8	27.3	33.3	66.7	100.0	38.6	50.0	31.9	32.8	25.0	35.3
体調にあった勤務体制	35.2	34.8	15.2	33.3	33.3	50.0	43.2	25.0	27.8	41.8	50.0	17.6
周囲の理解	32.9	26.1	48.5	26.7	50.0	100.0	36.4	50.0	23.6	38.8	33.3	29.4
通勤時の援助	14.8	30.4	3.0	12.0	33.3	50.0	11.4	25.0	6.9	19.4	25.0	17.6
家族の理解・協力	13.8	17.4	9.1	8.0	16.7	0.0	15.9	0.0	2.8	22.4	25.0	23.5
仲間づくり	12.5	13.0	12.1	5.3	50.0	100.0	25.0	25.0	4.2	13.4	16.7	5.9
トイレ等の職場環境の整備	11.5	17.4	0.0	17.3	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	20.9	8.3	11.8
給料の増額	6.3	13.0	0.0	6.7	0.0	0.0	6.8	0.0	5.6	10.4	16.7	5.9
専門的なアドバイスや支援	5.3	13.0	0.0	2.7	33.3	50.0	11.4	0.0	1.4	4.5	8.3	0.0
余暇活動支援	3.6	4.3	9.1	2.7	0.0	0.0	0.0	25.0	1.4	4.5	0.0	11.8
その他	5.3	13.0	3.0	12.0	0.0	50.0	9.1	0.0	5.6	1.5	0.0	11.8
特にない	20.7	13.0	18.2	24.0	0.0	0.0	11.4	25.0	25.0	22.4	16.7	17.6
わからない	18.1	26.1	24.2	17.3	16.7	0.0	18.2	25.0	22.2	13.4	25.0	11.8

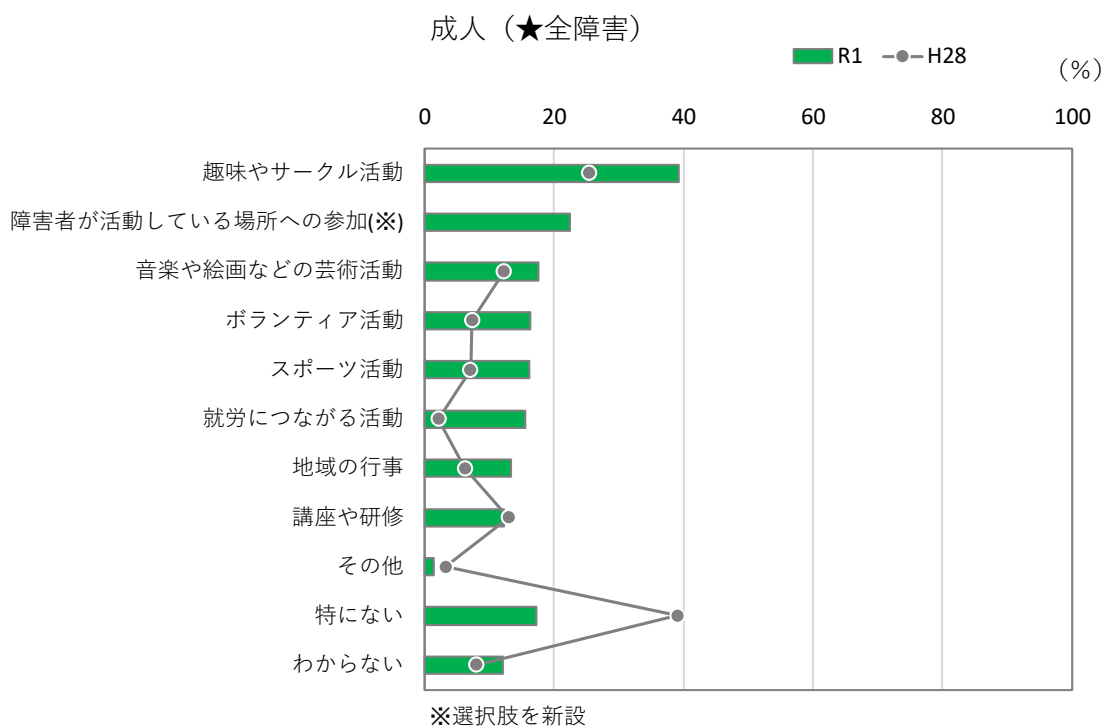
問 50. 今後社会参加するとしたら、どんな活動に参加したいですか
 (○はいくつでも)。

【成人】

成人全体では、「趣味やサークル活動」が4割近くと最も多く、次いで「障害者が活動している場所への参加」が2割以上となっています。

障害種別で見ると、上記の2つ以外では、精神障害は「就労につながる活動」が他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、「趣味やサークル活動」が約14ポイント、「就労につながる活動」が約13ポイント増加し、「特にない」が約22ポイント減少しています。



(単位：%)

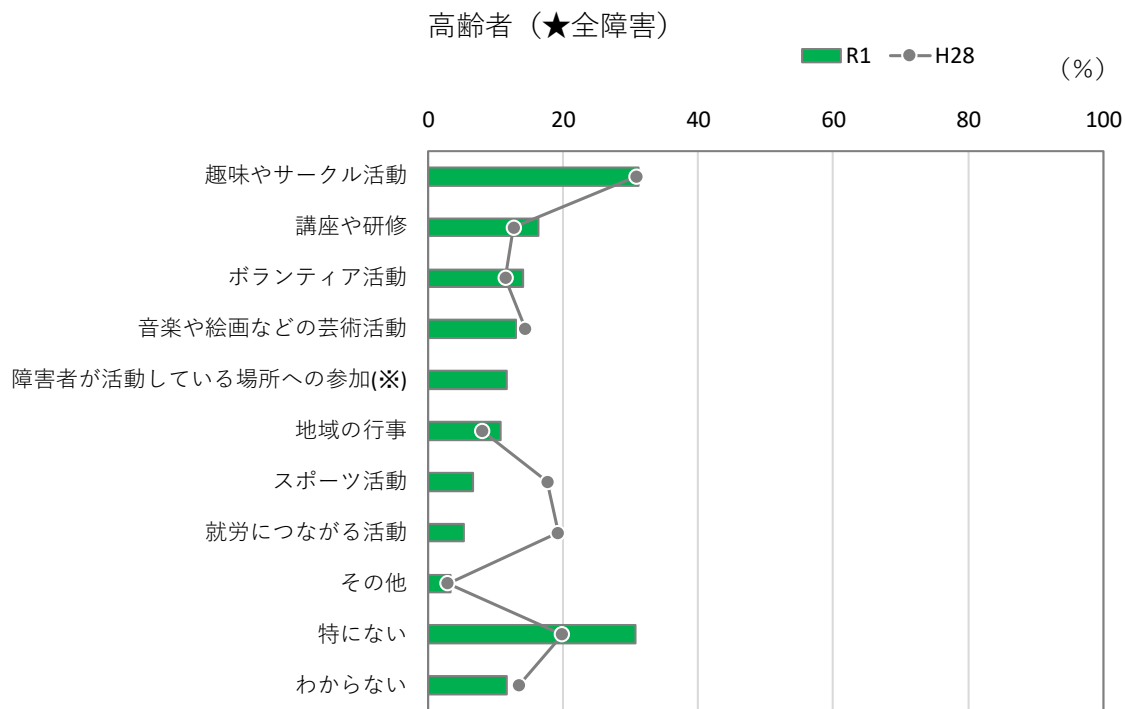
成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	747	31	48	90	250	85	251	13	32	102	20	34
趣味やサークル活動	39.2	45.2	56.3	32.2	31.2	48.2	39.0	30.8	40.6	44.1	45.0	47.1
障害者が活動している場所への参加	22.5	32.3	31.3	27.8	32.4	35.3	24.3	15.4	9.4	8.8	0.0	5.9
音楽や絵画などの芸術活動	17.7	22.6	18.8	17.8	18.4	24.7	16.3	46.2	18.8	19.6	20.0	11.8
ボランティア活動	16.3	19.4	25.0	17.8	8.4	15.3	20.7	30.8	21.9	21.6	5.0	8.8
スポーツ活動	16.2	9.7	20.8	7.8	17.2	21.2	18.3	23.1	18.8	12.7	15.0	8.8
就労につながる活動	15.5	9.7	6.3	5.6	12.8	17.6	22.7	15.4	9.4	14.7	15.0	5.9
地域の行事	13.4	16.1	18.8	20.0	19.6	14.1	8.0	15.4	15.6	13.7	20.0	8.8
講座や研修	12.2	16.1	18.8	15.6	4.4	11.8	13.5	23.1	3.1	16.7	15.0	5.9
その他	1.3	6.5	0.0	2.2	1.6	0.0	1.6	7.7	0.0	1.0	0.0	0.0
特になし	17.3	16.1	2.1	21.1	14.8	10.6	17.1	15.4	18.8	21.6	20.0	29.4
わからない	12.0	3.2	10.4	8.9	15.2	12.9	11.2	7.7	6.3	10.8	10.0	17.6

【高齢者】

高齢者全体では「趣味やサークル活動」「特にない」が3割程度と多くなっています。

障害種別でみると、精神障害は「音楽や絵画などの芸術活動」の割合が他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、「スポーツ活動」が約11ポイント、「就労につながる活動」が14ポイント減少しています。



※選択肢を新設

(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他
有効回答数（人）	362	29	46	87	11	3	45	5	88	80	13	22
趣味やサークル活動	31.2	37.9	34.8	32.2	27.3	33.3	26.7	20.0	28.4	27.5	38.5	40.9
講座や研修	16.3	27.6	17.4	10.3	18.2	33.3	6.7	0.0	20.5	13.8	0.0	9.1
ボランティア活動	14.1	17.2	19.6	8.0	9.1	66.7	13.3	0.0	19.3	12.5	7.7	13.6
音楽や絵画などの芸術活動	13.0	20.7	15.2	11.5	18.2	33.3	20.0	20.0	8.0	12.5	0.0	18.2
障害者が活動している場所への参加	11.6	13.8	19.6	18.4	36.4	33.3	6.7	0.0	8.0	2.5	0.0	4.5
地域の行事	10.8	17.2	10.9	8.0	9.1	33.3	6.7	40.0	11.4	13.8	15.4	4.5
スポーツ活動	6.6	6.9	8.7	4.6	18.2	33.3	2.2	0.0	10.2	5.0	0.0	0.0
就労につながる活動	5.2	3.4	0.0	4.6	18.2	0.0	11.1	0.0	4.5	3.8	0.0	0.0
その他	3.3	3.4	2.2	5.7	9.1	33.3	4.4	0.0	1.1	5.0	7.7	0.0
特にない	30.7	34.5	28.3	32.2	9.1	0.0	28.9	20.0	34.1	26.3	30.8	36.4
わからない	11.6	6.9	13.0	9.2	18.2	0.0	17.8	40.0	9.1	15.0	7.7	13.6

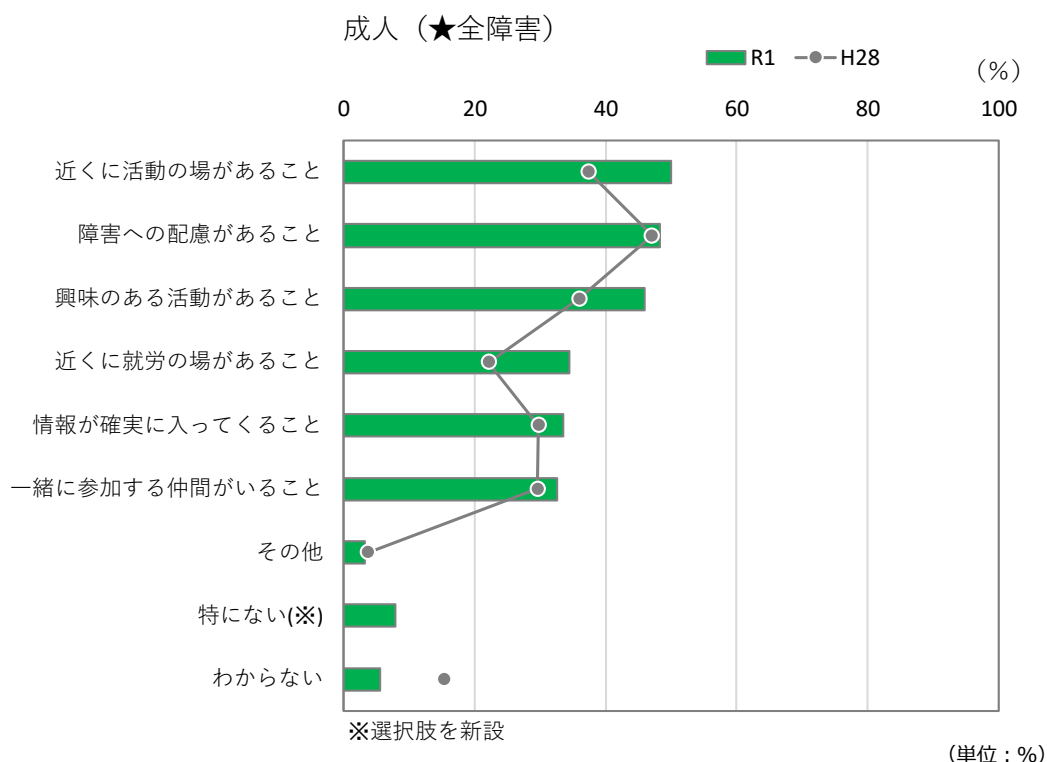
問 51. 社会参加するに当たってどのようなことが必要ですか（○はいくつでも）。

【成人】

成人全体では、「近くに活動の場があること」「障害への配慮があること」が5割程度となっています。

障害種別で見ると、発達障害は「障害への配慮があること」が7割以上と、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査より、「近くに活動の場があること」は約13ポイント、「近くに就労の場があること」は約12ポイント増加しています。



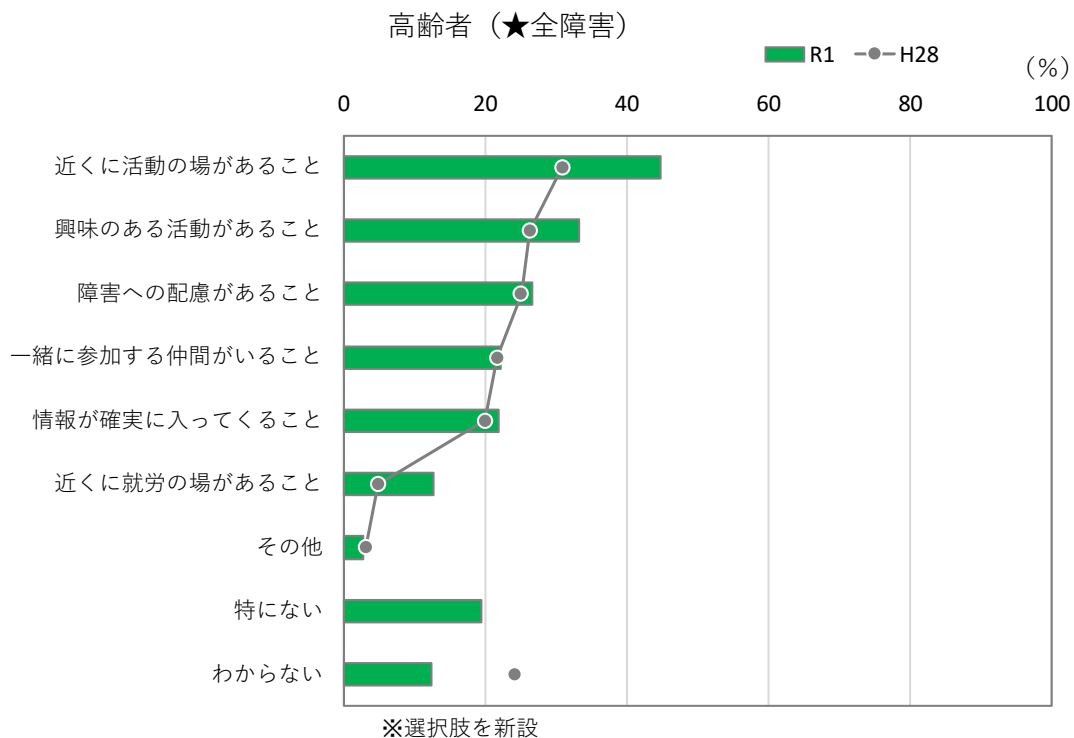
成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	747	31	47	89	248	86	252	14	32	102	19	34
近くに活動の場があること	49.9	38.7	61.7	52.8	43.5	54.7	55.6	64.3	31.3	54.9	57.9	50.0
障害への配慮があること	48.3	67.7	66.0	49.4	60.9	73.3	46.0	42.9	53.1	34.3	5.3	35.3
興味のある活動があること	45.9	54.8	46.8	36.0	41.5	61.6	45.6	42.9	56.3	50.0	52.6	61.8
近くに就労の場があること	34.4	29.0	25.5	27.0	28.2	39.5	46.4	50.0	21.9	31.4	21.1	35.3
情報が確実に入ってくること	33.5	51.6	42.6	31.5	31.0	38.4	36.1	28.6	25.0	31.4	26.3	41.2
一緒に参加する仲間がいること	32.7	51.6	46.8	33.7	39.5	40.7	31.0	28.6	34.4	24.5	10.5	26.5
その他	3.2	3.2	2.1	4.5	2.4	4.7	5.6	21.4	0.0	2.0	0.0	0.0
特にない	7.9	9.7	2.1	9.0	8.9	4.7	6.0	7.1	6.3	6.9	15.8	8.8
わからない	5.5	3.2	10.6	10.1	7.7	2.3	4.4	0.0	3.1	2.9	5.3	11.8

【高齢者】

高齢者全体では、「近くに活動の場があること」が4割以上と最も多く、次いで「興味のある活動があること」「障害への配慮があること」となっています。

前回調査と比べ、「近くに活動の場があること」が約14ポイント、「近くに就労の場があること」が約8ポイント増加しています。

なお、本設問については、高齢者の3割以上が無回答でした。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	364	30	45	84	9	3	45	5	90	80	13	24
近くに活動の場があること	44.8	50.0	53.3	42.9	44.4	33.3	31.1	60.0	42.2	46.3	30.8	50.0
興味のある活動があること	33.2	26.7	31.1	34.5	44.4	66.7	28.9	20.0	33.3	32.5	30.8	37.5
障害への配慮があること	26.6	26.7	37.8	36.9	55.6	66.7	28.9	20.0	20.0	20.0	7.7	8.3
一緒に参加する仲間がいること	22.3	23.3	15.6	25.0	55.6	66.7	24.4	20.0	17.8	25.0	7.7	12.5
情報が確実に入ってくること	22.0	23.3	28.9	17.9	33.3	66.7	15.6	40.0	20.0	17.5	30.8	29.2
近くに就労の場があること	12.6	16.7	4.4	10.7	55.6	33.3	11.1	20.0	11.1	15.0	15.4	12.5
その他	2.7	3.3	0.0	6.0	0.0	33.3	4.4	0.0	3.3	1.3	0.0	4.2
特にない	19.5	16.7	22.2	20.2	11.1	0.0	15.6	20.0	20.0	21.3	23.1	16.7
わからない	12.4	20.0	11.1	7.1	11.1	0.0	17.8	20.0	12.2	15.0	15.4	12.5

相談体制

問 52. 主に相談したい内容は何か（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「将来のこと」が5割以上、次いで「学校や教育関係のこと」「福祉サービスのこと」が4割以上となっています。

障害種別で見ると、肢体不自由については「福祉サービスのこと」「医療や健康のこと」が他の障害と比べ多い傾向がみられます。



(単位：%)

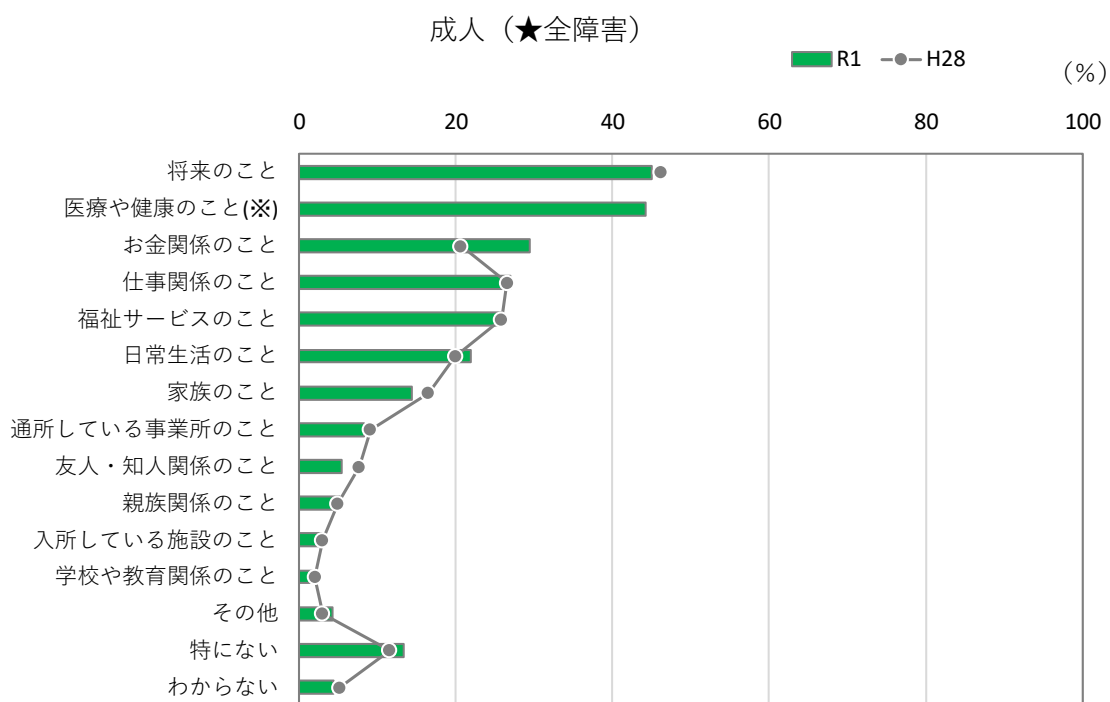
児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数(人)	372	2	13	33	237	167	8	1	19	22	23	28
将来のこと	56.2	0.0	76.9	60.6	63.7	62.3	62.5	0.0	31.6	54.5	30.4	42.9
学校や教育関係のこと	43.8	0.0	46.2	42.4	37.6	52.1	50.0	0.0	47.4	50.0	43.5	60.7
福祉サービスのこと	41.9	50.0	76.9	75.8	52.7	44.3	37.5	100.0	31.6	36.4	4.3	25.0
日常生活のこと	33.3	50.0	46.2	39.4	33.8	42.5	50.0	0.0	21.1	31.8	17.4	28.6
医療や健康のこと	29.6	50.0	38.5	42.4	34.2	25.1	50.0	100.0	57.9	40.9	8.7	28.6
お金関係のこと	22.3	0.0	38.5	30.3	26.6	22.8	37.5	0.0	31.6	27.3	13.0	14.3
仕事関係のこと	17.2	0.0	23.1	3.0	20.3	18.6	12.5	0.0	21.1	9.1	8.7	7.1
家族のこと	11.6	0.0	7.7	9.1	13.9	15.6	37.5	0.0	5.3	9.1	4.3	7.1
通所している事業所のこと	8.6	50.0	15.4	15.2	12.2	9.6	0.0	0.0	5.3	4.5	4.3	3.6
友人・知人関係のこと	7.3	0.0	7.7	0.0	5.1	11.4	25.0	0.0	5.3	4.5	8.7	7.1
親族関係のこと	2.4	0.0	0.0	3.0	2.5	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0
入所している施設のこと	2.2	50.0	0.0	9.1	3.4	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1.1	0.0	0.0	6.1	0.8	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0
特になし	7.3	0.0	0.0	0.0	6.3	2.4	12.5	0.0	5.3	18.2	13.0	14.3
わからない	2.7	0.0	0.0	0.0	2.1	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	3.6

【成人】

成人全体では、「将来のこと」「医療や健康のこと」が4割以上となっています。

障害種別で見ると、発達障害は「将来のこと」が7割近くと、他の障害と比べ多くなっています。また、発達障害と精神障害は「お金関係のこと」「仕事関係のこと」「日常生活のこと」が、難病は「医療や健康のこと」が他の障害と比べ多くなっています。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、「お金関係のこと」が約9ポイント増加しています。



※H28から選択肢を統合

(単位：%)

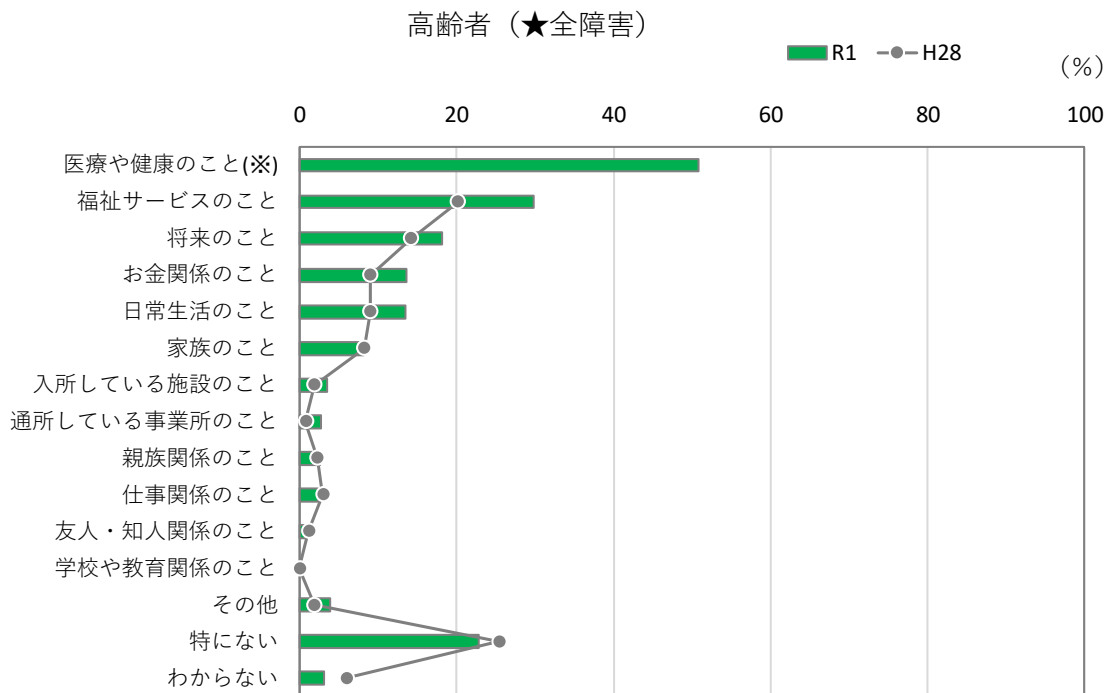
成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数(人)	811	34	54	101	272	94	270	16	32	109	21	36
将来のこと	45.0	55.9	38.9	44.6	57.4	67.0	46.3	43.8	31.3	25.7	38.1	44.4
医療や健康のこと	44.3	38.2	51.9	55.4	34.9	47.9	52.6	37.5	50.0	55.0	47.6	41.7
お金関係のこと	29.5	20.6	22.2	20.8	23.2	42.6	43.0	37.5	21.9	24.8	33.3	22.2
仕事関係のこと	27.0	14.7	22.2	12.9	18.8	41.5	38.9	31.3	21.9	20.2	33.3	33.3
福祉サービスのこと	25.8	50.0	33.3	40.6	28.7	37.2	27.4	25.0	34.4	19.3	4.8	16.7
日常生活のこと	21.8	23.5	20.4	19.8	21.7	40.4	30.7	25.0	18.8	14.7	4.8	16.7
家族のこと	14.3	11.8	13.0	9.9	9.6	16.0	24.8	31.3	12.5	8.3	19.0	11.1
通所している事業所のこと	8.3	8.8	7.4	9.9	15.1	13.8	7.0	12.5	3.1	2.8	0.0	5.6
友人・知人関係のこと	5.4	5.9	7.4	2.0	5.5	8.5	8.1	0.0	3.1	0.0	9.5	8.3
親族関係のこと	5.2	2.9	5.6	3.0	3.3	6.4	10.0	0.0	3.1	0.0	9.5	2.8
入所している施設のこと	2.8	0.0	3.7	5.9	7.0	5.3	1.9	12.5	3.1	0.0	0.0	0.0
学校や教育関係のこと	2.0	0.0	7.4	1.0	0.0	3.2	1.5	0.0	0.0	0.9	14.3	2.8
その他	4.2	2.9	5.6	5.0	3.7	5.3	7.0	12.5	0.0	3.7	0.0	8.3
特にない	13.3	11.8	13.0	9.9	8.1	4.3	8.9	12.5	25.0	23.9	38.1	22.2
わからない	4.3	2.9	5.6	2.0	5.9	1.1	4.8	6.3	6.3	2.8	0.0	0.0

【高齢者】

高齢者全体では、「医療や健康のこと」が5割程度と最も多く、次いで「福祉サービスのこと」となっています。

障害種別でみると、聴覚障害は「福祉サービスのこと」が、精神障害は「将来のこと」が他の障害と比べ、多くなっています。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、「福祉サービスのこと」が約10ポイント減少しています。



(単位：%)

高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数(人)	512	46	61	133	12	4	54	6	122	112	17	39
医療や健康のこと	50.8	45.7	59.0	49.6	66.7	75.0	50.0	33.3	54.9	48.2	52.9	46.2
福祉サービスのこと	29.9	32.6	42.6	33.1	16.7	25.0	24.1	16.7	25.4	26.8	41.2	30.8
将来のこと	18.2	15.2	24.6	18.8	25.0	25.0	29.6	0.0	9.8	18.8	17.6	15.4
お金関係のこと	13.7	13.0	8.2	15.0	8.3	0.0	22.2	16.7	12.3	12.5	23.5	12.8
日常生活のこと	13.5	15.2	9.8	13.5	16.7	0.0	16.7	16.7	10.7	19.6	17.6	12.8
家族のこと	8.2	10.9	9.8	6.8	8.3	0.0	11.1	0.0	6.6	10.7	5.9	5.1
入所している施設のこと	3.5	4.3	4.9	4.5	16.7	0.0	7.4	16.7	2.5	2.7	0.0	5.1
通所している事業所のこと	2.7	4.3	3.3	3.8	33.3	25.0	3.7	33.3	0.8	0.9	0.0	0.0
親族関係のこと	2.5	2.2	3.3	2.3	8.3	0.0	1.9	0.0	3.3	2.7	0.0	2.6
仕事関係のこと	2.3	2.2	0.0	1.5	16.7	25.0	3.7	0.0	2.5	0.9	5.9	0.0
友人・知人関係のこと	0.8	2.2	1.6	0.8	0.0	25.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学校や教育関係のこと	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3.9	4.3	3.3	3.0	0.0	25.0	7.4	0.0	4.1	6.3	5.9	2.6
特になし	22.9	30.4	14.8	21.8	16.7	0.0	9.3	33.3	24.6	21.4	23.5	35.9
わからない	3.1	2.2	4.9	4.5	0.0	0.0	1.9	16.7	3.3	4.5	0.0	0.0

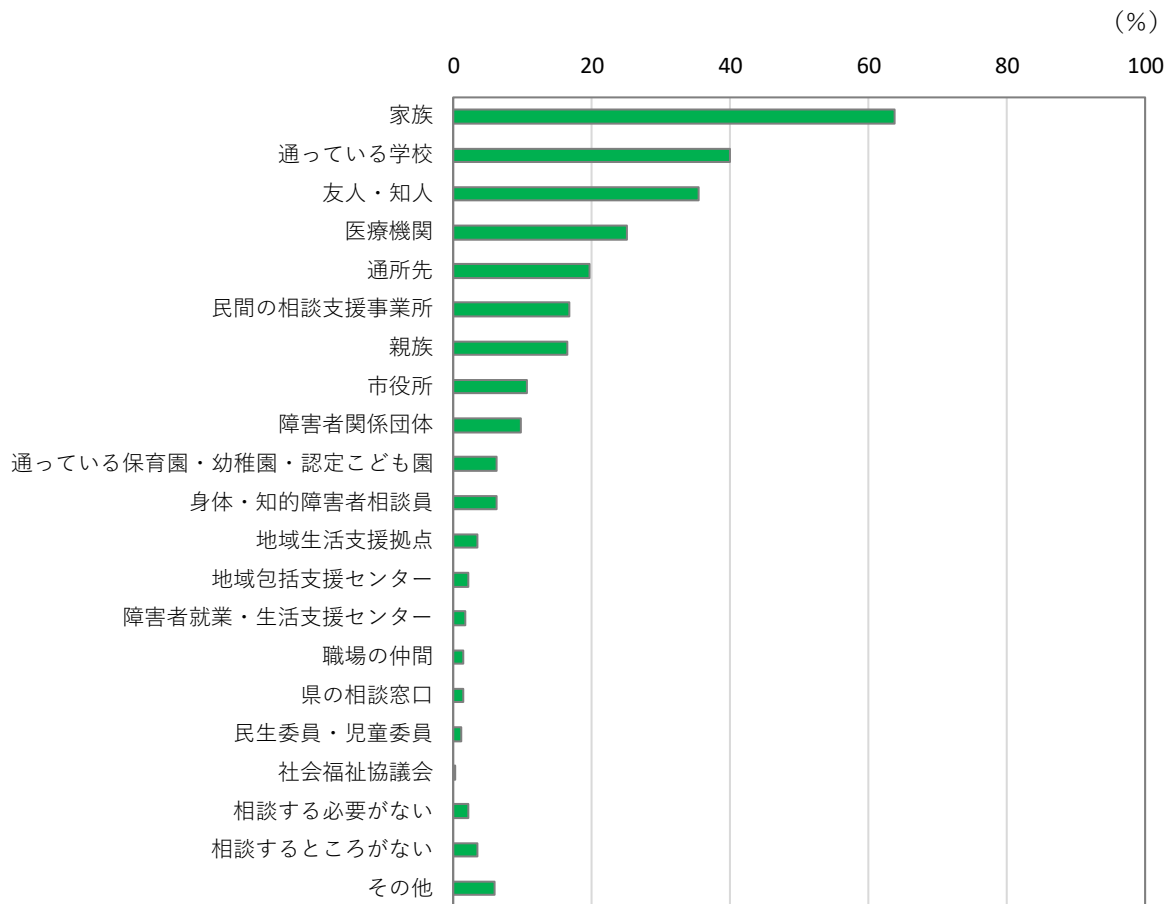
問 53. 主に誰（どこ）に相談していますか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「家族」が6割以上と最も多く、次いで「通っている学校」「友人・知人」となっています。

障害別で見ると、肢体不自由は「医療機関」が他の障害に比べ多くなっています。

児童（★全障害）



(単位：%)

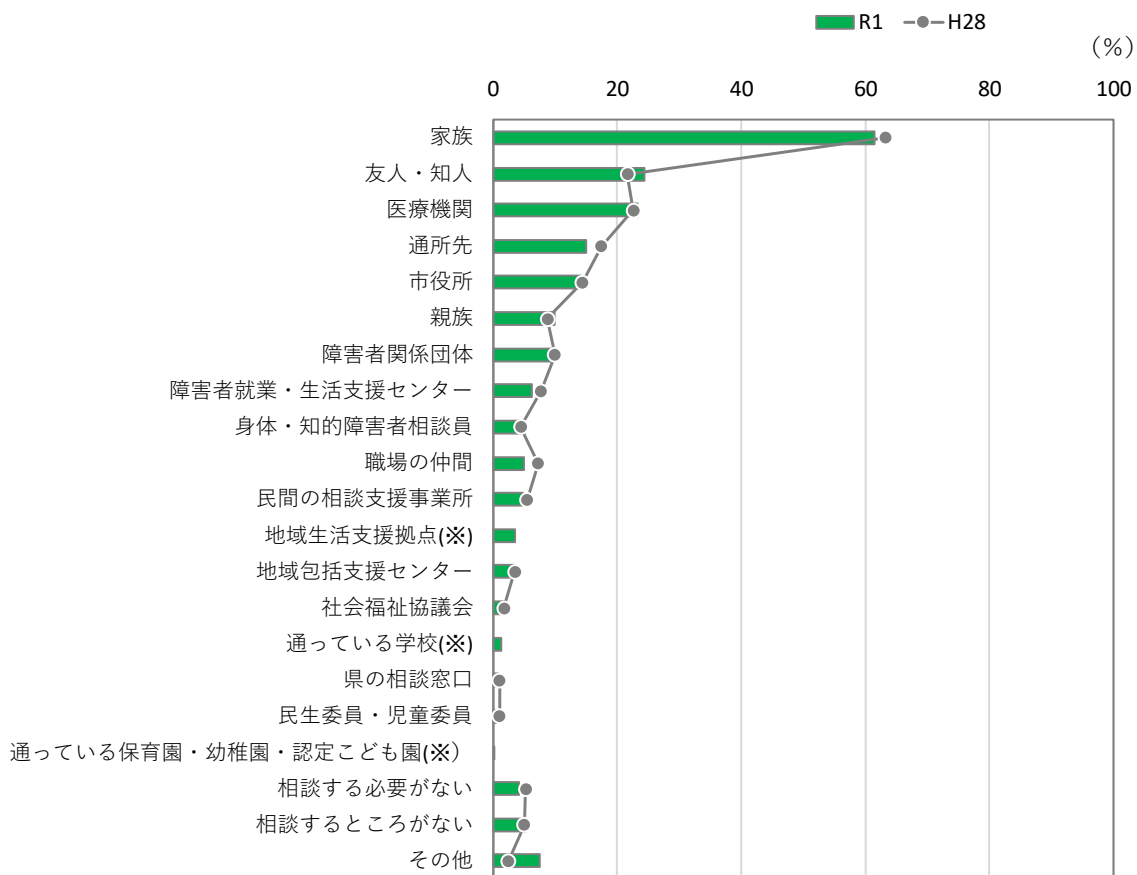
児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	370	2	13	33	236	165	8	1	20	22	22	28
家族	63.8	50.0	84.6	60.6	60.6	69.7	62.5	100.0	65.0	72.7	72.7	46.4
通っている学校	40.0	50.0	46.2	24.2	45.3	44.8	50.0	0.0	30.0	18.2	18.2	10.7
友人・知人	35.4	0.0	46.2	45.5	39.0	38.2	12.5	0.0	60.0	22.7	22.7	17.9
医療機関	25.1	0.0	30.8	42.4	25.4	26.7	12.5	100.0	35.0	40.9	9.1	17.9
通所先	19.7	50.0	15.4	21.2	21.2	23.6	0.0	0.0	5.0	0.0	13.6	17.9
民間の相談支援事業所	16.8	50.0	15.4	24.2	18.2	23.6	25.0	0.0	10.0	13.6	4.5	3.6
親族	16.5	0.0	7.7	12.1	15.7	20.6	12.5	100.0	15.0	36.4	13.6	7.1
市役所	10.5	50.0	7.7	12.1	12.3	9.1	12.5	0.0	0.0	4.5	4.5	7.1
障害者関係団体	9.7	0.0	38.5	6.1	12.7	10.9	12.5	0.0	15.0	13.6	0.0	0.0
通っている保育園・幼稚園・認定こども園	6.2	0.0	0.0	3.0	2.1	6.7	0.0	0.0	0.0	9.1	22.7	17.9
身体・知的障害者相談員	6.2	0.0	23.1	6.1	9.3	4.8	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
地域生活支援拠点	3.5	0.0	0.0	6.1	5.5	6.7	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
地域包括支援センター	2.2	0.0	0.0	0.0	2.5	1.2	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	3.6
障害者就業・生活支援センター	1.6	0.0	0.0	0.0	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
職場の仲間	1.4	0.0	0.0	3.0	1.3	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	4.5	0.0
県の相談窓口	1.4	0.0	0.0	0.0	2.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
民生委員・児童委員	1.1	0.0	0.0	3.0	1.7	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
社会福祉協議会	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相談する必要がない	2.2	0.0	0.0	0.0	2.1	0.6	0.0	0.0	0.0	9.1	4.5	3.6
相談するところがない	3.5	0.0	0.0	3.0	3.4	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	14.3
その他	5.9	0.0	0.0	9.1	5.5	5.5	25.0	0.0	10.0	9.1	4.5	10.7

【成人】

成人全体では、「家族」が6割程度と最も多く、次いで「友人・知人」「医療機関」が2割以上となっています。

前回調査と比べると、大きな傾向の違いは見られません。

成人（★全障害）



※選択肢を新設

(単位：%)

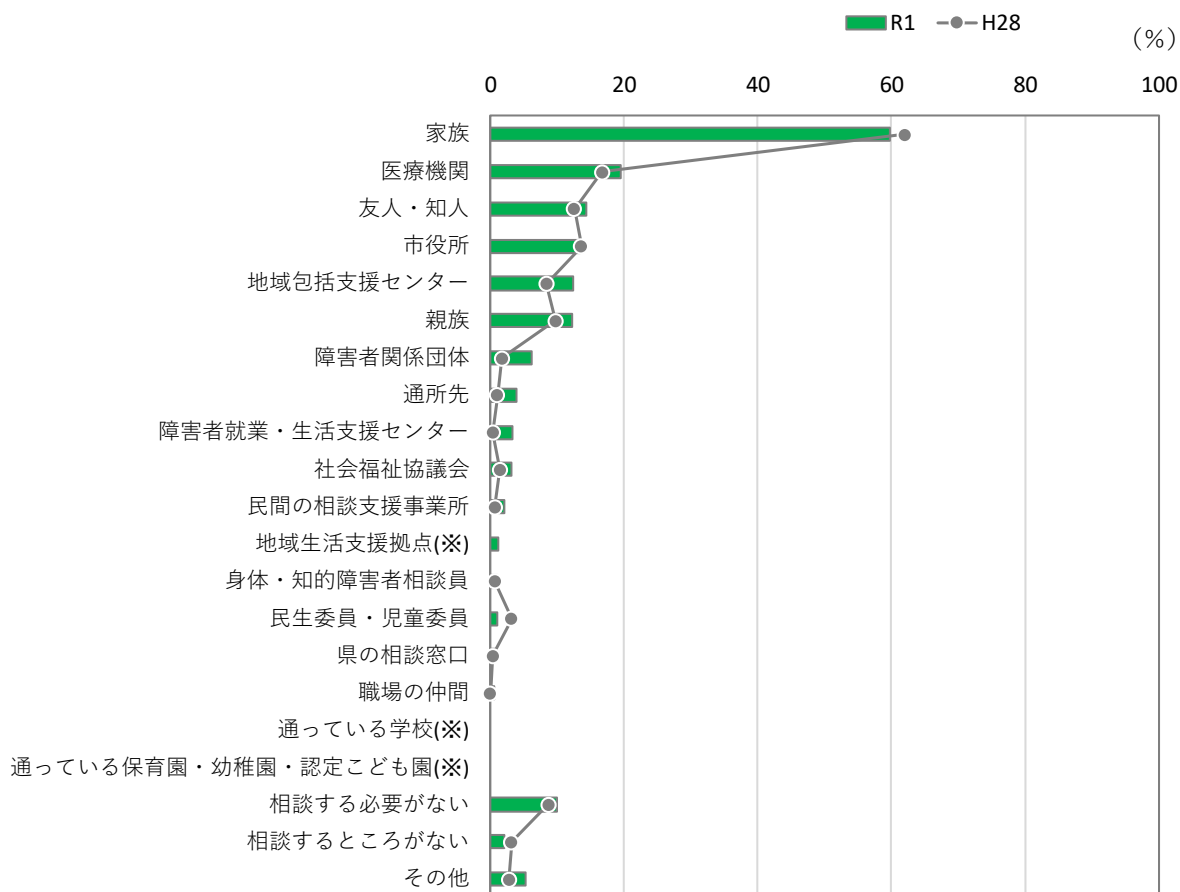
成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	801	34	55	104	269	93	267	16	32	110	21	35
家族	61.4	50.0	65.5	60.6	62.1	61.3	64.0	75.0	65.6	59.1	66.7	60.0
友人・知人	24.5	26.5	32.7	29.8	16.0	14.0	24.7	31.3	25.0	35.5	28.6	28.6
医療機関	23.3	14.7	16.4	19.2	13.0	25.8	35.2	18.8	40.6	27.3	28.6	22.9
通所先	15.0	26.5	7.3	26.0	32.3	20.4	8.2	12.5	6.3	6.4	4.8	2.9
市役所	14.2	17.6	25.5	14.4	15.6	12.9	17.6	0.0	18.8	6.4	9.5	11.4
親族	9.9	14.7	14.5	12.5	5.2	4.3	13.1	25.0	18.8	13.6	4.8	8.6
障害者関係団体	9.9	20.6	20.0	13.5	16.0	10.8	8.6	6.3	6.3	4.5	4.8	8.6
障害者就業・生活支援センター	6.2	2.9	5.5	2.9	8.2	9.7	9.0	6.3	3.1	1.8	0.0	0.0
身体・知的障害者相談員	5.1	0.0	3.6	6.7	13.4	5.4	1.1	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0
職場の仲間	5.0	11.8	9.1	5.8	4.1	8.6	4.5	6.3	15.6	5.5	0.0	2.9
民間の相談支援事業所	4.7	5.9	7.3	6.7	8.6	6.5	3.7	0.0	3.1	1.8	0.0	2.9
地域生活支援拠点	3.5	5.9	1.8	1.0	6.7	5.4	2.6	6.3	0.0	1.8	0.0	2.9
地域包括支援センター	3.5	5.9	9.1	8.7	3.7	3.2	3.7	0.0	0.0	1.8	0.0	2.9
社会福祉協議会	1.9	0.0	5.5	1.9	3.3	1.1	0.7	0.0	0.0	0.9	0.0	2.9
通っている学校	1.2	0.0	3.6	0.0	0.4	2.2	1.1	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0
県の相談窓口	0.7	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.9	4.8	0.0
民生委員・児童委員	0.5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
通っている保育園・幼稚園・認定こども園	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相談する必要がある	4.1	2.9	1.8	2.9	1.1	2.2	3.4	0.0	6.3	6.4	19.0	2.9
相談するところがない	5.2	5.9	1.8	1.0	2.6	4.3	7.5	6.3	3.1	6.4	4.8	8.6
その他	7.5	5.9	3.6	4.8	5.2	7.5	9.4	12.5	0.0	3.6	4.8	22.9

【高齢者】

高齢者全体では、「家族」が6割近くと最も多くなっています。次いで「医療機関」「友人・知人」となっています。

前回調査と比べると、大きな傾向の違いは見られません。

高齢者（★全障害）



※選択肢を新設

(単位：%)

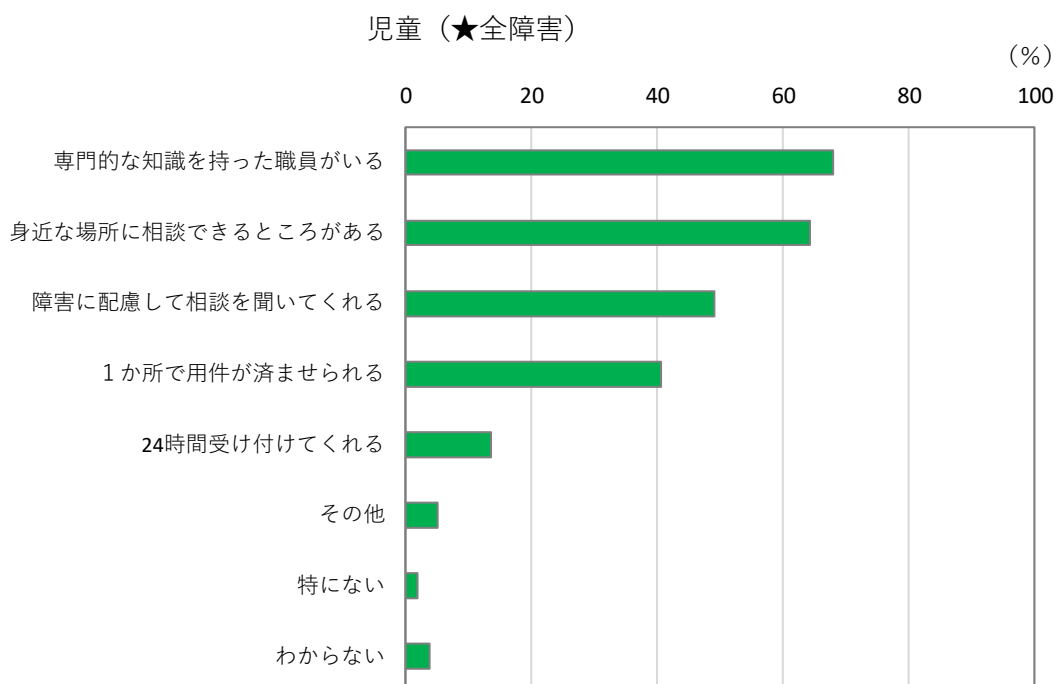
高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他
有効回答数(人)	515	48	64	133	12	4	54	7	122	114	17	38
家族	59.8	47.9	67.2	65.4	50.0	50.0	53.7	71.4	59.8	57.9	82.4	60.5
医療機関	19.4	14.6	20.3	15.8	8.3	0.0	33.3	14.3	23.8	21.1	29.4	18.4
友人・知人	14.4	20.8	15.6	20.3	8.3	25.0	14.8	0.0	12.3	12.3	17.6	10.5
市役所	13.4	25.0	20.3	8.3	50.0	25.0	14.8	14.3	12.3	13.2	5.9	5.3
地域包括支援センター	12.4	18.8	18.8	15.8	0.0	0.0	5.6	28.6	8.2	14.9	11.8	13.2
親族	12.2	8.3	15.6	16.5	16.7	0.0	7.4	0.0	10.7	9.6	11.8	15.8
障害者関係団体	6.2	10.4	10.9	5.3	16.7	25.0	14.8	0.0	0.8	0.9	0.0	5.3
通所先	3.9	2.1	3.1	4.5	33.3	25.0	7.4	42.9	1.6	2.6	5.9	2.6
障害者就業・生活支援センター	3.3	2.1	3.1	1.5	8.3	50.0	0.0	0.0	5.7	3.5	5.9	2.6
社会福祉協議会	3.1	8.3	4.7	3.0	25.0	25.0	3.7	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0
民間の相談支援事業所	2.1	4.2	1.6	3.8	0.0	0.0	1.9	0.0	2.5	3.5	5.9	0.0
地域生活支援拠点	1.2	2.1	0.0	1.5	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.9	0.0	2.6
身体・知的障害者相談員	1.0	2.1	0.0	3.0	8.3	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
民生委員・児童委員	1.0	4.2	0.0	0.8	0.0	0.0	1.9	0.0	0.8	0.0	5.9	0.0
県の相談窓口	0.8	2.1	1.6	0.8	0.0	0.0	1.9	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0
職場の仲間	0.6	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0
通っている学校	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通っている保育園・幼稚園・認定こども園	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相談する必要がない	9.9	14.6	1.6	6.8	8.3	0.0	7.4	0.0	12.3	5.3	11.8	15.8
相談するところがない	2.1	2.1	1.6	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	4.4	0.0	0.0
その他	5.2	4.2	4.7	6.0	0.0	25.0	5.6	0.0	5.7	7.0	5.9	10.5

問 54. あなたが必要な時に気軽に相談するためにどのようなことが必要だと思いますか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「専門的な知識を持った職員がいる」が7割近くで最も多く、次いで「身近な場所に相談できるところがある」「障害に配慮して相談を聞いてくれる」となっています。

障害種別でみると、肢体不自由は「1か所で用件が済ませられる」が5割以上と、他の障害と比べ多くなっています。



(単位：%)

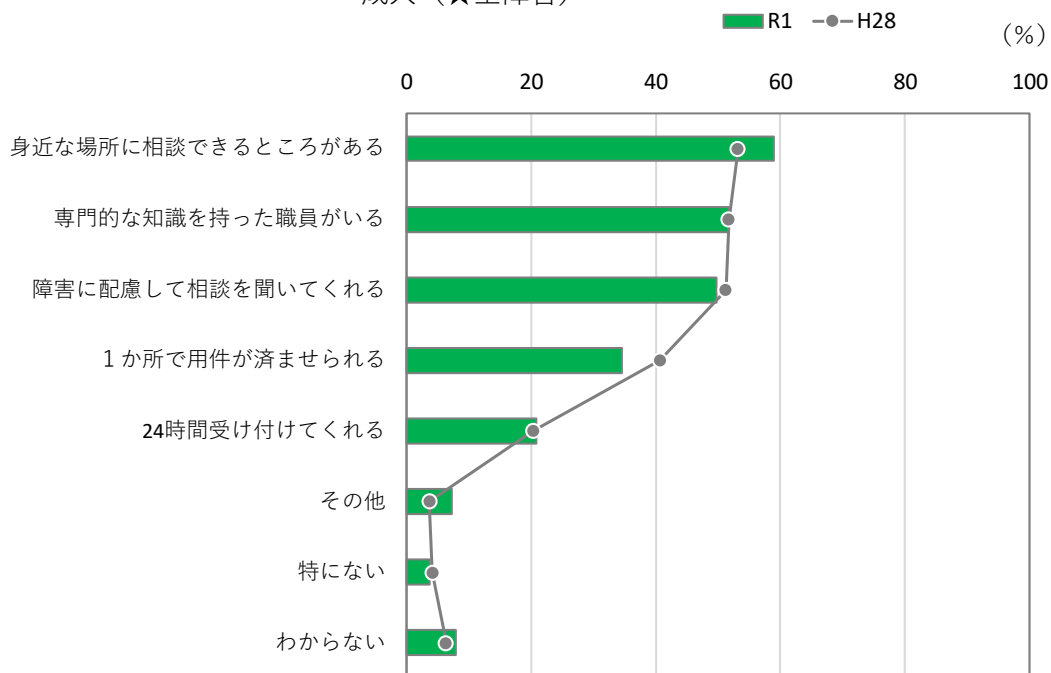
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない その他
有効回答数(人)	375	2	13	33	240	168	8	1	20	22	21	28
専門的な知識を持った職員がいる	68.0	50.0	61.5	81.8	70.0	74.4	62.5	100.0	55.0	54.5	47.6	71.4
身近な場所に相談できるところがある	64.3	50.0	84.6	63.6	65.4	67.3	62.5	0.0	50.0	54.5	76.2	50.0
障害に配慮して相談を聞いてくれる	49.1	50.0	61.5	48.5	52.5	57.1	50.0	0.0	30.0	36.4	23.8	42.9
1か所で用件が済ませられる	40.5	50.0	61.5	54.5	43.8	33.9	62.5	100.0	30.0	50.0	33.3	60.7
24時間受け付けてくれる	13.6	0.0	0.0	12.1	13.3	14.3	25.0	100.0	5.0	13.6	9.5	14.3
その他	5.1	0.0	7.7	9.1	5.0	4.8	0.0	0.0	10.0	4.5	0.0	7.1
特にない	1.9	0.0	0.0	0.0	1.3	0.6	0.0	0.0	10.0	13.6	0.0	3.6
わからない	3.7	0.0	0.0	0.0	2.5	3.6	12.5	0.0	5.0	4.5	4.8	14.3

【成人】

成人全体では、「身近な場所に相談できるところがある」が6割程度と最も多く、次いで「専門的な知識を持った職員がいる」「障害に配慮して相談を聞いてくれる」が5割程度となっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

成人（★全障害）



(単位：%)

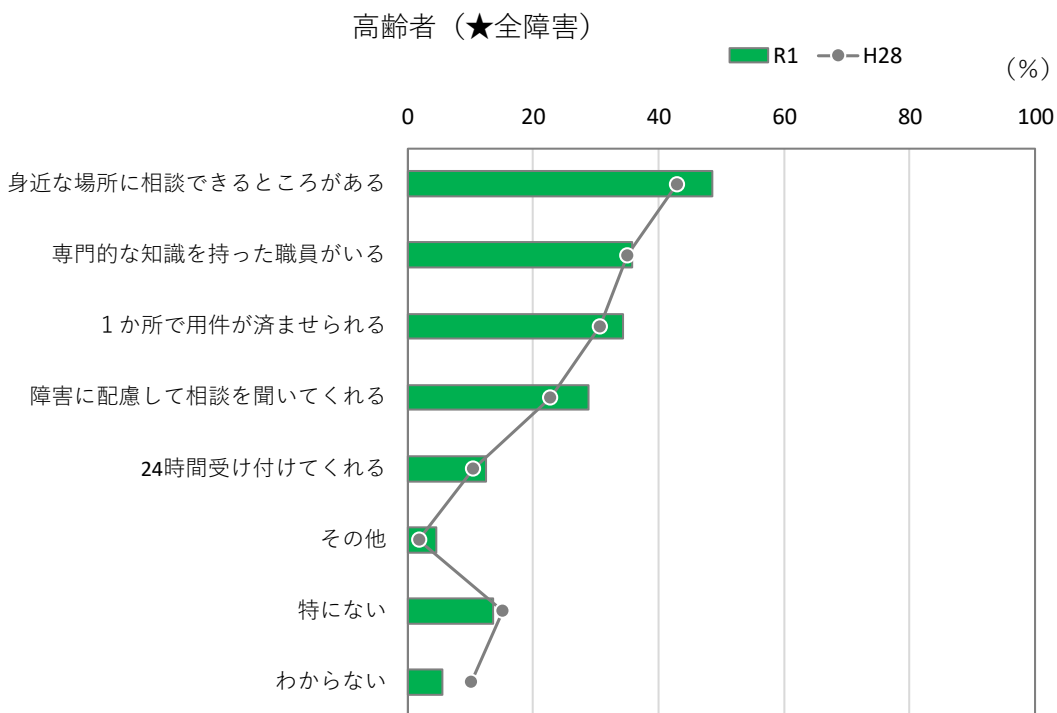
成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	その他・わからない
有効回答数（人）	808	35	54	102	271	95	268	16	32	109	21	35
身近な場所に相談できるところがある	58.9	57.1	55.6	60.8	62.0	69.5	61.6	62.5	62.5	56.0	71.4	45.7
専門的な知識を持った職員がいる	51.7	60.0	50.0	62.7	52.8	56.8	54.1	37.5	53.1	52.3	52.4	45.7
障害に配慮して相談を聞いてくれる	49.8	68.6	66.7	54.9	62.0	67.4	51.9	50.0	37.5	32.1	4.8	42.9
1か所で用件が済ませられる	34.5	37.1	38.9	39.2	31.7	36.8	39.9	37.5	40.6	37.6	33.3	28.6
24時間受け付けてくれる	20.9	17.1	24.1	25.5	18.8	27.4	28.0	25.0	21.9	14.7	14.3	22.9
その他	7.3	8.6	11.1	5.9	3.7	12.6	10.1	25.0	0.0	4.6	4.8	17.1
特にない	3.7	2.9	0.0	6.9	1.8	0.0	3.4	12.5	6.3	4.6	4.8	5.7
わからない	7.9	2.9	3.7	2.9	7.0	6.3	9.0	6.3	9.4	11.9	9.5	5.7

【高齢者】

高齢者全体では、「身近な場所に相談できるところがある」が5割程度と最も多く、次いで「専門的な知識を持った職員がいる」「1か所で用件が済ませられる」が3割以上となっています。

障害種別でみると、視覚障害は「1か所で用件が済ませられる」が6割程度と、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	512	47	64	130	12	4	52	8	122	112	18	40
身近な場所に相談できるところがある	48.6	44.7	53.1	46.9	41.7	50.0	40.4	50.0	51.6	38.4	55.6	65.0
専門的な知識を持った職員がいる	35.7	34.0	31.3	34.6	41.7	75.0	36.5	50.0	36.1	38.4	38.9	30.0
1か所で用件が済ませられる	34.4	59.6	32.8	36.2	16.7	0.0	19.2	12.5	29.5	38.4	50.0	35.0
障害に配慮して相談を聞いてくれる	28.9	46.8	39.1	30.0	50.0	50.0	42.3	37.5	17.2	21.4	5.6	20.0
24時間受け付けてくれる	12.5	14.9	14.1	10.8	16.7	0.0	9.6	12.5	12.3	10.7	22.2	15.0
その他	4.5	4.3	3.1	2.3	8.3	25.0	7.7	12.5	4.1	7.1	5.6	5.0
特にない	13.7	23.4	12.5	13.1	8.3	0.0	7.7	12.5	10.7	17.9	0.0	15.0
わからない	5.5	2.1	7.8	4.6	8.3	0.0	7.7	25.0	5.7	4.5	16.7	7.5

健康・医療

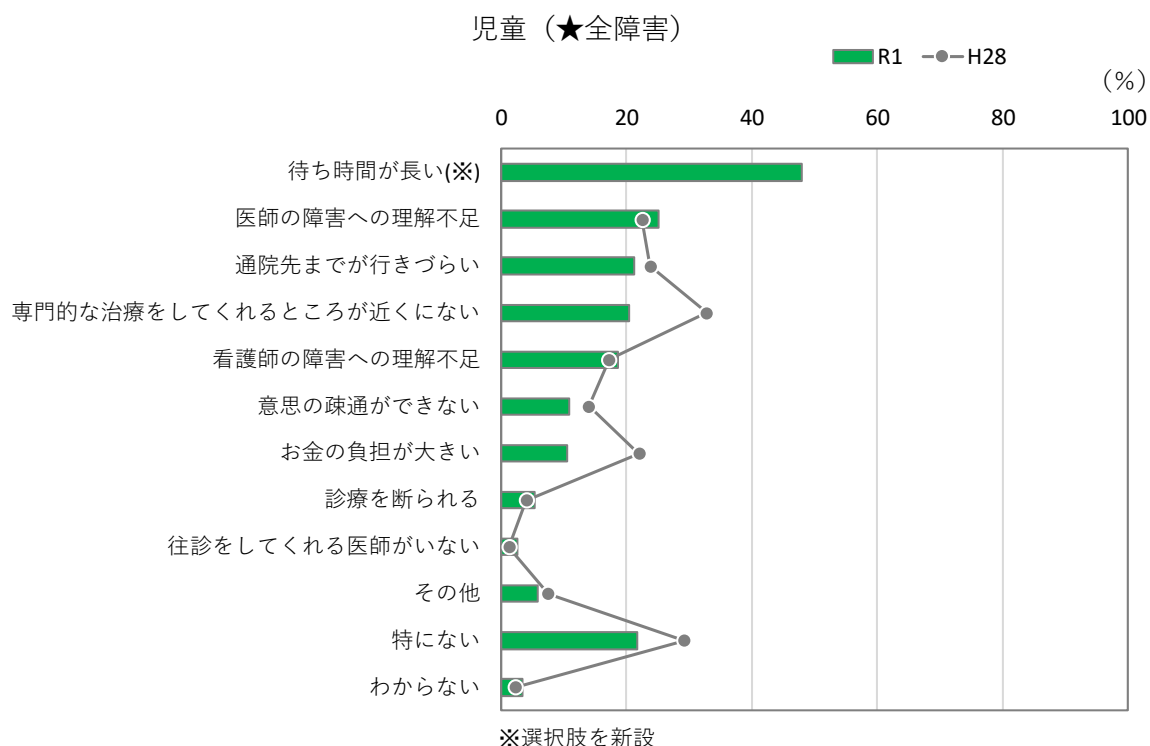
問 55. 医療を利用するうえで困ったことはありますか（〇はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「待ち時間が長い」が5割近くとなっています。次いで「医師の障害への理解不足」「特にない」「通院先までが行きづらい」「専門的な治療をしてくれるところが近くにない」が2割以上となっています。

障害種別でみると、肢体不自由は「通院先までが行きづらい」が、発達障害は「医師の障害への理解不足」「看護師の障害への理解不足」が他の障害と比べ多くなっています。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、前回調査で最も回答が多かった「専門的な治療をしてくれるところが近くにない」は約12ポイント減少しています。



(単位：%)

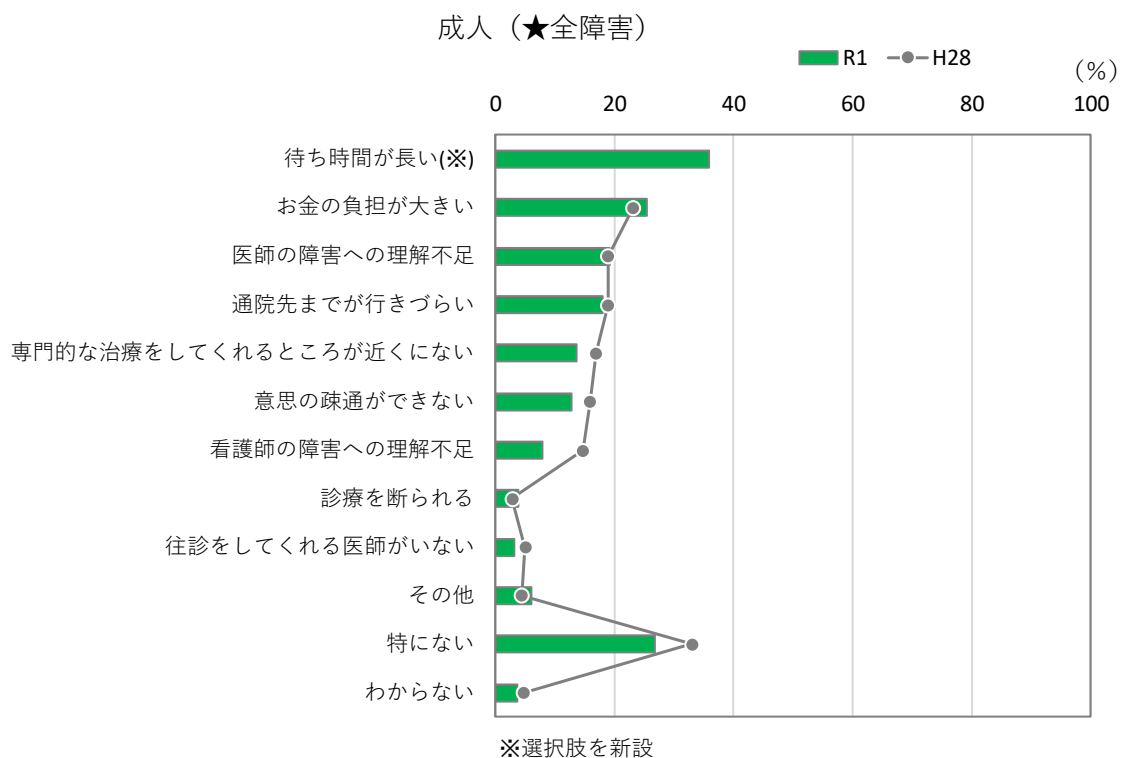
児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数（人）	377	3	13	33	241	168	8	1	20	22	22	28
待ち時間が長い	48.0	66.7	53.8	57.6	51.9	51.8	50.0	100.0	45.0	63.6	40.9	35.7
医師の障害への理解不足	25.2	0.0	15.4	15.2	28.2	34.5	25.0	0.0	20.0	0.0	13.6	7.1
通院先までが行きづらい	21.2	33.3	30.8	48.5	23.2	19.0	37.5	100.0	55.0	40.9	0.0	10.7
専門的な治療をしてくれるところが近くにない	20.4	33.3	23.1	24.2	19.9	20.8	37.5	0.0	35.0	4.5	13.6	25.0
看護師の障害への理解不足	18.6	0.0	7.7	6.1	21.6	26.2	12.5	0.0	0.0	4.5	9.1	7.1
意思の疎通ができない	10.9	0.0	23.1	6.1	14.9	11.3	0.0	0.0	5.0	4.5	4.5	3.6
お金の負担が大きい	10.6	33.3	0.0	9.1	11.6	7.1	12.5	100.0	30.0	22.7	4.5	3.6
診療を断られる	5.3	33.3	0.0	6.1	5.8	5.4	0.0	0.0	10.0	9.1	0.0	0.0
往診をしてくれる医師がいない	2.7	0.0	0.0	6.1	2.9	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
その他	5.8	0.0	7.7	15.2	7.1	6.5	0.0	0.0	10.0	13.6	0.0	3.6
特になし	21.8	0.0	7.7	15.2	17.8	14.3	12.5	0.0	20.0	13.6	45.5	46.4
わからない	3.4	33.3	0.0	0.0	2.5	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0

【成人】

成人全体についても、「待ち時間が長い」が3割以上で最も多くなっています。次いで「特
にない」「お金の負担が大きい」が2割以上、「医師の障害への理解不足」「通院先までが行き
づらい」が2割近くとなっています。

障害種別で見ると、肢体不自由は「専門的な治療をしてくれるところが近くにない」が、
難病は「お金の負担が大きい」が、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、成人全体では大きな傾向の
違いは見られません。



(単位：%)

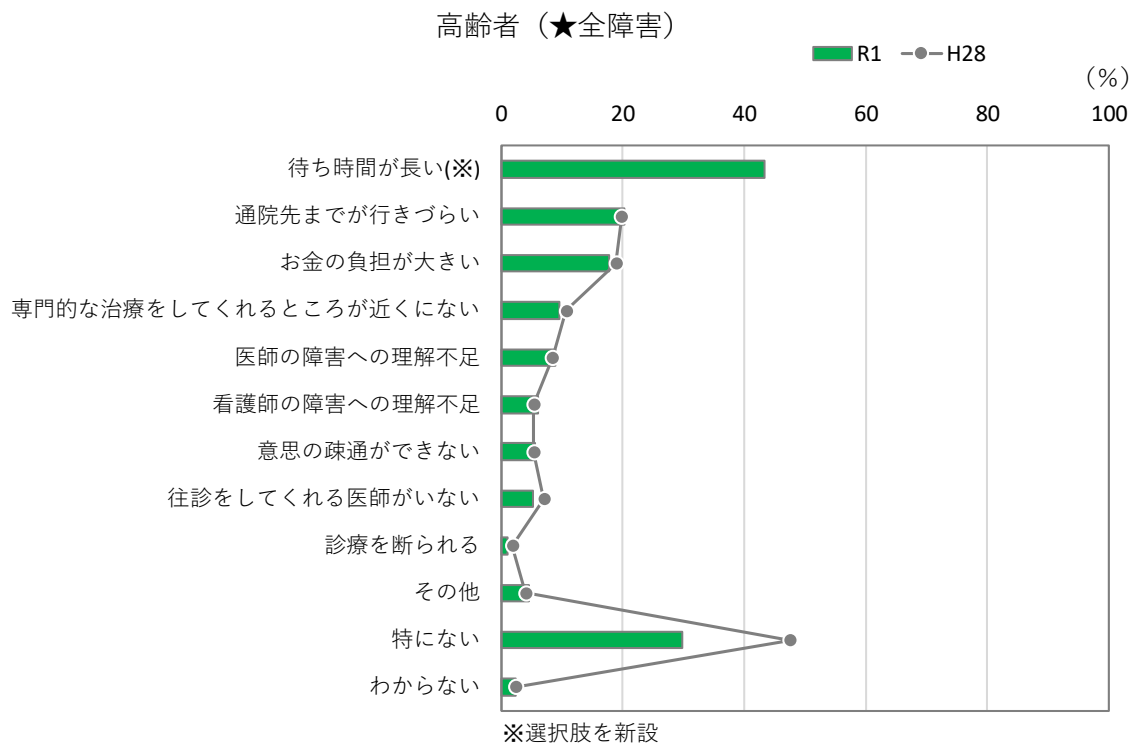
成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	802	35	59	104	267	95	265	16	32	109	20	35
待ち時間が長い	35.9	40.0	25.4	37.5	38.2	47.4	34.0	25.0	53.1	46.8	25.0	37.1
お金の負担が大きい	25.4	11.4	8.5	20.2	14.6	22.1	30.9	12.5	25.0	45.0	40.0	25.7
医師の障害への理解不足	19.2	17.1	42.4	19.2	22.1	31.6	20.0	12.5	9.4	9.2	15.0	14.3
通院先までが行きづらい	18.1	40.0	20.3	28.8	16.5	18.9	18.1	12.5	28.1	23.9	30.0	17.1
専門的な治療をしてくれるところが近くにない	13.6	34.3	16.9	26.0	16.9	16.8	12.5	37.5	21.9	17.4	25.0	2.9
意思の疎通ができない	12.8	14.3	16.9	15.4	22.5	17.9	7.5	18.8	6.3	5.5	0.0	5.7
看護師の障害への理解不足	8.0	11.4	23.7	5.8	9.7	12.6	6.0	0.0	6.3	2.8	10.0	5.7
診療を断られる	3.9	11.4	1.7	2.9	5.2	3.2	3.0	6.3	6.3	1.8	10.0	0.0
往診をしてくれる医師がいない	3.2	5.7	3.4	5.8	4.5	3.2	3.0	0.0	6.3	1.8	0.0	2.9
その他	6.1	5.7	11.9	5.8	4.5	7.4	7.9	18.8	6.3	3.7	0.0	8.6
特になし	26.8	25.7	22.0	22.1	25.1	21.1	27.5	31.3	15.6	20.2	40.0	31.4
わからない	3.7	0.0	1.7	1.9	4.5	5.3	6.0	0.0	3.1	1.8	5.0	0.0

【高齢者】

高齢者全体についても、「待ち時間が長い」が4割以上と最も多くなっています。次いで「特
にない」が3割近く、「通院先までがいきづらい」が2割程度となっています。

障害種別でも、上記3つの回答の割合が多くなっています。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、前回調査で最も多かった「特
にない」は約18ポイント減少しています。



(単位：%)

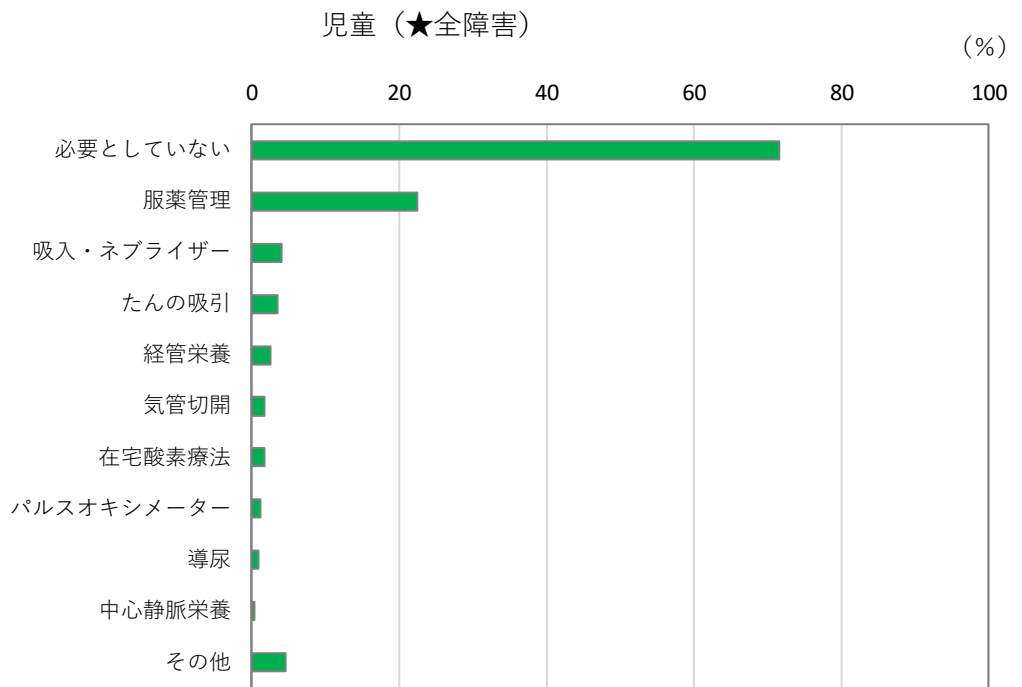
高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	503	48	65	131	13	4	51	7	123	107	17	37
待ち時間が長い	43.3	52.1	47.7	40.5	38.5	25.0	33.3	28.6	48.0	45.8	41.2	27.0
通院先までが行きづらい	20.3	22.9	20.0	19.1	15.4	50.0	23.5	28.6	15.4	28.0	23.5	16.2
お金の負担が大きい	17.7	12.5	18.5	19.8	23.1	0.0	15.7	42.9	17.1	20.6	29.4	29.7
専門的な治療をしてくれるところが近くにない	9.5	14.6	6.2	9.2	15.4	25.0	9.8	0.0	6.5	15.0	5.9	13.5
医師の障害への理解不足	8.9	14.6	13.8	6.9	23.1	25.0	19.6	0.0	4.9	4.7	5.9	8.1
看護師の障害への理解不足	6.0	12.5	7.7	3.8	7.7	0.0	11.8	0.0	2.4	4.7	11.8	8.1
意思の疎通ができない	5.6	8.3	15.4	2.3	7.7	25.0	7.8	14.3	3.3	2.8	0.0	8.1
往診をしてくれる医師がいない	5.2	6.3	3.1	2.3	7.7	0.0	3.9	14.3	5.7	4.7	5.9	16.2
診療を断られる	1.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	2.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0
その他	4.6	4.2	1.5	6.1	7.7	25.0	5.9	0.0	5.7	5.6	11.8	5.4
特になし	29.8	29.2	18.5	32.1	7.7	0.0	25.5	28.6	28.5	29.9	41.2	40.5
わからない	2.4	2.1	4.6	0.8	7.7	0.0	5.9	0.0	2.4	0.0	0.0	2.7

問 56. あなたはどのような医療的ケアを必要としていますか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、7割程度が「必要としていない」と回答しています。次いで、「服薬管理」が2割以上となっています。

障害種別でみると、肢体不自由は「服薬管理」4割程度と、他の障害と比べ多くなっています。

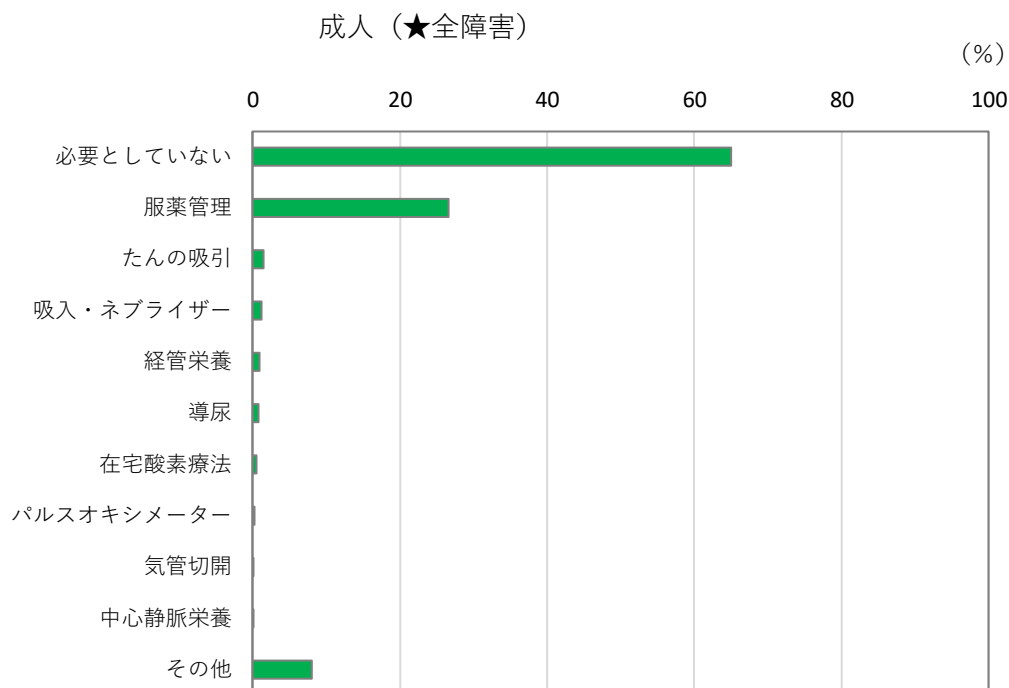


(単位：%)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	348	3	11	30	221	151	8	1	20	21	20	26
必要としていない	71.6	33.3	81.8	46.7	72.4	70.2	62.5	0.0	20.0	38.1	65.0	84.6
服薬管理	22.4	66.7	18.2	43.3	23.1	25.2	37.5	100.0	45.0	52.4	20.0	3.8
吸入・ネブライザー	4.0	0.0	9.1	23.3	3.6	2.6	12.5	0.0	25.0	14.3	5.0	7.7
たんの吸引	3.4	0.0	0.0	26.7	3.6	0.7	12.5	0.0	25.0	14.3	0.0	3.8
経管栄養	2.6	0.0	0.0	20.0	2.3	0.7	12.5	0.0	25.0	14.3	0.0	0.0
気管切開	1.7	0.0	0.0	16.7	1.4	0.0	12.5	0.0	20.0	9.5	0.0	0.0
在宅酸素療法	1.7	0.0	0.0	13.3	0.9	0.0	12.5	0.0	15.0	9.5	5.0	0.0
パルスオキシメーター	1.1	0.0	0.0	13.3	0.9	0.0	12.5	0.0	10.0	9.5	0.0	0.0
導尿	0.9	0.0	0.0	3.3	0.5	0.0	0.0	0.0	15.0	4.8	0.0	3.8
中心静脈栄養	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
咽頭エアウェイ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	4.6	0.0	0.0	10.0	3.2	3.3	0.0	0.0	15.0	4.8	10.0	7.7

【成人】

成人全体では、6割以上が「必要としていない」と回答しています。次いで、「服薬管理」が2割以上となっています。



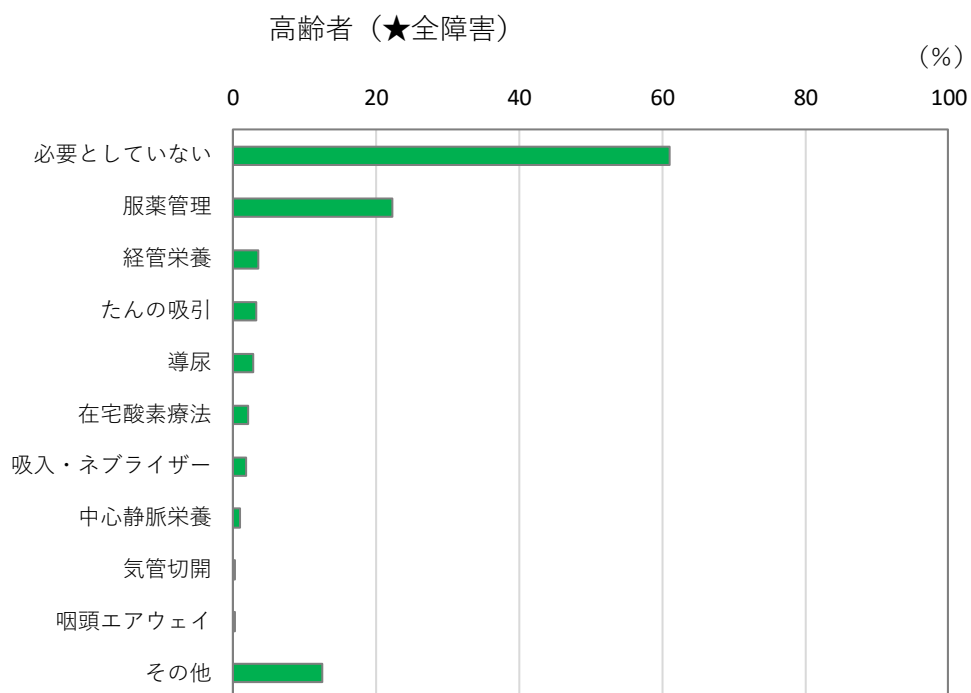
(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	736	31	43	92	247	87	253	13	29	101	20	34
必要としていない	64.9	61.3	65.1	55.4	62.3	58.6	60.1	46.2	62.1	74.3	80.0	64.7
服薬管理	26.6	32.3	23.3	34.8	30.8	35.6	29.6	30.8	24.1	19.8	10.0	23.5
たんの吸引	1.5	3.2	7.0	6.5	1.6	0.0	0.4	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
吸入・ネブライザー	1.2	0.0	4.7	2.2	1.6	0.0	1.2	0.0	3.4	1.0	0.0	0.0
経管栄養	1.0	3.2	4.7	5.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
導尿	0.8	0.0	2.3	3.3	1.2	0.0	0.8	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0
在宅酸素療法	0.5	3.2	4.7	2.2	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
パルスオキシメーター	0.3	3.2	2.3	1.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
気管切開	0.1	0.0	2.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中心静脈栄養	0.1	0.0	2.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
咽頭エアウェイ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	8.0	6.5	11.6	8.7	6.1	8.0	9.1	23.1	13.8	5.9	15.0	11.8

【高齢者】

高齢者全体では、6割程度が「必要としていない」と回答しています。次いで「服薬管理」が2割以上となっています。

「その他」の回答は、「透析」などがありました。



(単位：%)

高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数（人）	431	38	51	112	7	3	46	6	111	97	17	34
必要としていない	61.0	63.2	62.7	51.8	42.9	33.3	47.8	33.3	58.6	58.8	88.2	58.8
服薬管理	22.3	15.8	19.6	25.9	57.1	66.7	41.3	33.3	22.5	24.7	11.8	5.9
経管栄養	3.5	5.3	2.0	5.4	0.0	0.0	4.3	0.0	1.8	5.2	0.0	5.9
たんの吸引	3.2	5.3	2.0	3.6	0.0	0.0	4.3	0.0	3.6	7.2	0.0	5.9
導尿	2.8	0.0	3.9	3.6	0.0	0.0	4.3	0.0	2.7	2.1	0.0	5.9
在宅酸素療法	2.1	2.6	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	3.1	0.0	0.0
吸入・ネブライザー	1.9	2.6	3.9	1.8	0.0	0.0	2.2	0.0	2.7	2.1	0.0	0.0
中心静脈栄養	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.9	2.1	0.0	0.0
気管切開	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0
咽頭エアウェイ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
パルスオキシメーター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	12.5	18.4	15.7	19.6	14.3	0.0	8.7	33.3	11.7	10.3	0.0	23.5

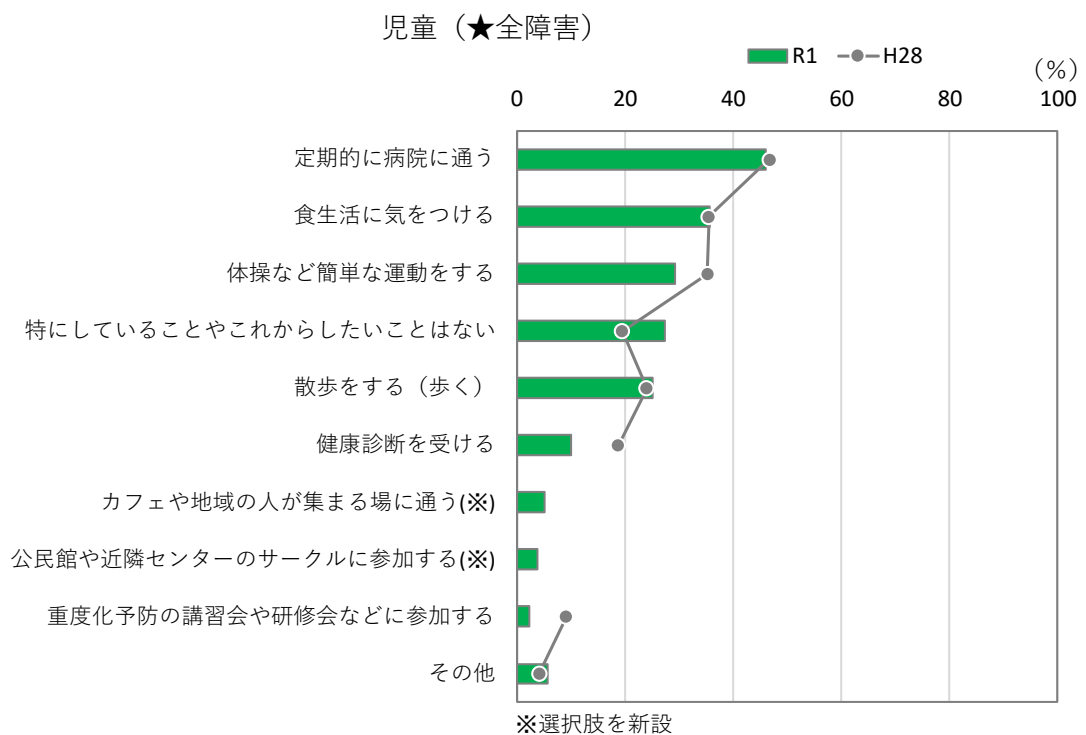
問 57. 障害の重度化予防のために何かしていることや、これからしたいことはありますか（〇はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「定期的に病院に通う」が4割以上と最も多く、次いで「食生活に気をつける」が3割以上となっています。

障害種別で見ると、肢体不自由は「定期的に病院に通う」が7割程度と、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、「健康診断を受ける」が約9ポイント減少しています。



(単位：%)

児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数(人)	369	3	13	33	238	164	8	1	20	22	19	28
定期的に病院に通う	46.1	33.3	69.2	69.7	49.2	39.6	62.5	100.0	70.0	72.7	31.6	35.7
食生活に気をつける	35.8	33.3	53.8	30.3	43.7	35.4	12.5	100.0	60.0	40.9	10.5	25.0
体操など簡単な運動をする	29.3	33.3	53.8	39.4	34.0	25.6	25.0	0.0	50.0	18.2	26.3	21.4
特にしていることやこれからしたいことはない	27.4	33.3	0.0	9.1	21.4	28.7	25.0	0.0	10.0	13.6	52.6	42.9
散歩をする(歩く)	25.2	0.0	38.5	18.2	31.9	27.4	12.5	0.0	30.0	13.6	15.8	14.3
健康診断を受ける	10.0	0.0	23.1	6.1	10.9	8.5	25.0	0.0	5.0	4.5	10.5	25.0
カフェや地域の人が集まる場に通う	5.1	0.0	0.0	6.1	5.9	4.3	12.5	0.0	0.0	4.5	10.5	3.6
公民館や近隣センターのサークルに参加する	3.8	0.0	7.7	9.1	3.8	4.3	12.5	0.0	5.0	0.0	5.3	7.1
重度化予防の講習会や研修会などに参加する	2.4	0.0	0.0	6.1	3.4	3.7	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	5.7	0.0	0.0	21.2	5.0	5.5	0.0	0.0	5.0	13.6	0.0	14.3

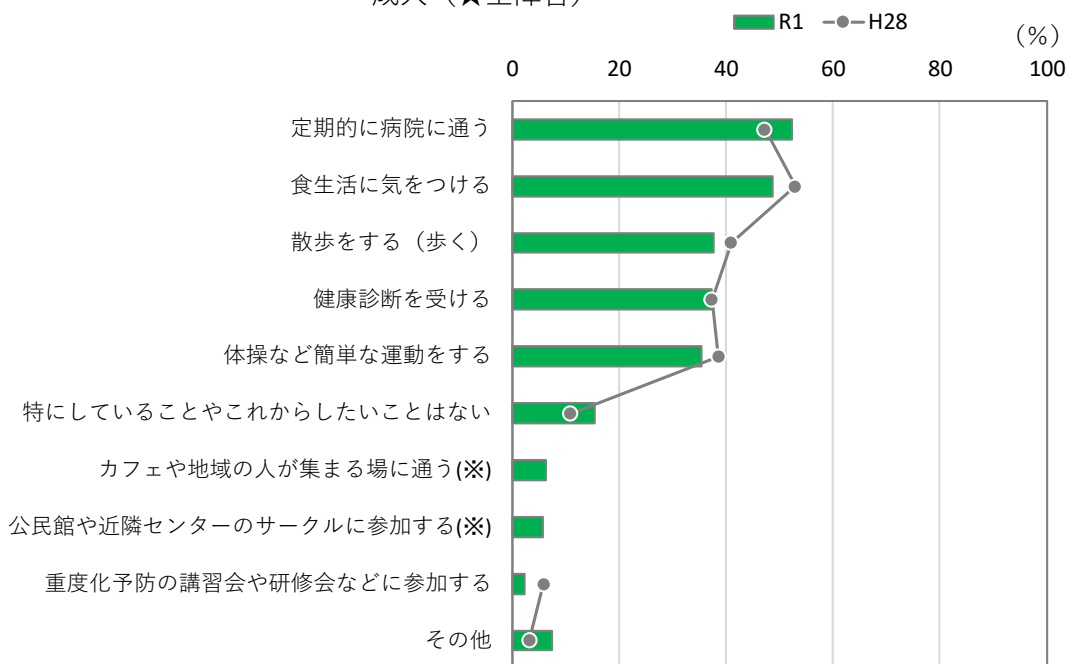
【成人】

成人全体では、「定期的に病院に通う」「食生活に気をつける」が5割程度、「散歩をする（歩く）」「健康診断を受ける」「体操など簡単な運動をする」が3割以上となっています。

障害種別についても、上記5つに回答が集中しています。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、前回調査と比べ、大きな違いは見られません。

成人（★全障害）



※選択肢を新設

(単位：%)

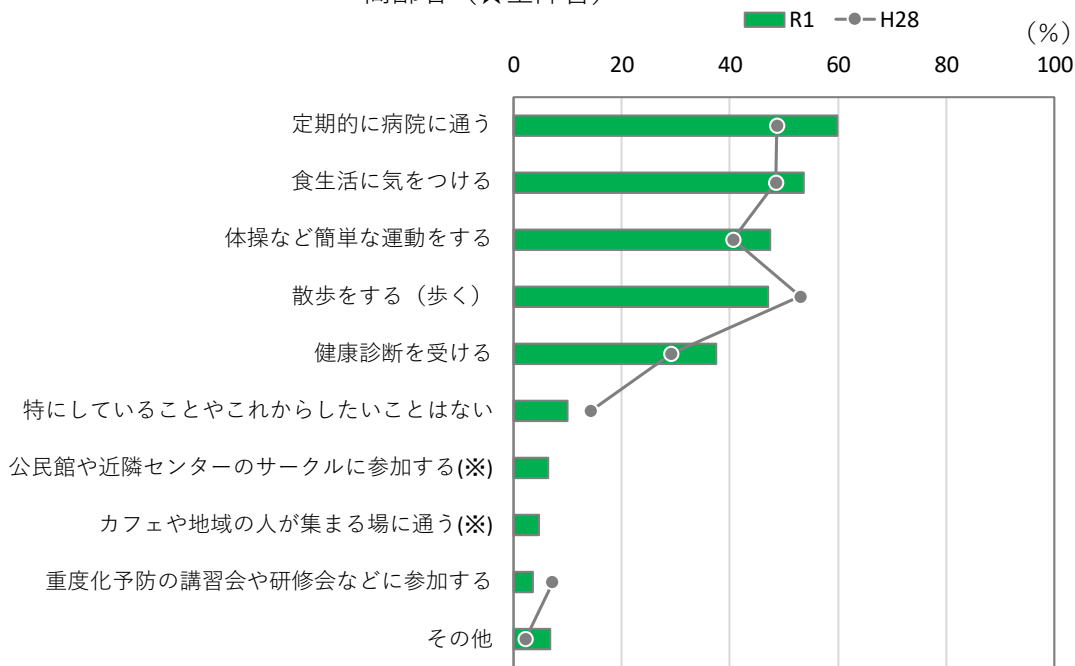
成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ そ の 他 ・ か ら な い
有効回答数（人）	799	34	58	104	263	93	268	15	32	108	20	37
定期的に病院に通う	52.4	58.8	41.4	68.3	39.9	46.2	66.4	40.0	50.0	67.6	55.0	56.8
食生活に気をつける	48.8	58.8	37.9	56.7	50.2	49.5	48.1	60.0	65.6	56.5	55.0	43.2
散歩をする（歩く）	37.7	50.0	31.0	28.8	41.4	29.0	46.3	66.7	37.5	25.9	40.0	29.7
健康診断を受ける	37.3	41.2	34.5	41.3	46.8	35.5	34.0	40.0	31.3	37.0	20.0	32.4
体操など簡単な運動をする	35.4	41.2	29.3	44.2	33.8	35.5	37.3	66.7	43.8	39.8	50.0	37.8
特にしていることやこれからはしたいことはない	15.4	14.7	20.7	5.8	16.7	20.4	12.3	0.0	12.5	12.0	25.0	8.1
カフェや地域の人が集まる場に通う	6.3	0.0	3.4	3.8	4.9	7.5	10.8	6.7	0.0	1.9	5.0	10.8
公民館や近隣センターのサークルに参加する	5.8	5.9	12.1	5.8	6.1	5.4	6.7	6.7	0.0	3.7	5.0	10.8
重度化予防の講習会や研修会などに参加する	2.4	0.0	0.0	1.0	1.9	3.2	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0	2.7
その他	7.5	14.7	12.1	12.5	6.5	6.5	9.7	13.3	3.1	6.5	0.0	10.8

【高齢者】

高齢者全体では、「定期的に病院に通う」が6割程度、「食生活に気をつける」が5割以上、「体操など簡単な運動をする」「散歩をする（歩く）」が5割近くとなっています。

前回調査と比べ、「定期的に病院に通う」は約11ポイント増加しています。

高齢者（★全障害）



※選択肢を新設

(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	516	51	66	136	12	4	50	8	128	110	18	37
定期的に病院に通う	59.9	62.7	59.1	59.6	66.7	25.0	58.0	62.5	60.2	69.1	61.1	48.6
食生活に気をつける	53.7	43.1	50.0	55.1	66.7	75.0	42.0	37.5	57.8	54.5	61.1	43.2
体操など簡単な運動をする	47.5	47.1	47.0	55.9	33.3	25.0	32.0	25.0	43.0	49.1	44.4	51.4
散歩をする（歩く）	47.1	35.3	51.5	43.4	33.3	50.0	44.0	25.0	54.7	45.5	55.6	43.2
健康診断を受ける	37.4	29.4	37.9	36.8	16.7	25.0	38.0	25.0	34.4	33.6	44.4	45.9
特に行っていることやこれからしたいことはない	10.1	13.7	10.6	7.4	25.0	25.0	10.0	12.5	11.7	7.3	11.1	8.1
公民館や近隣センターのサークルに参加する	6.4	7.8	13.6	4.4	0.0	0.0	0.0	12.5	5.5	4.5	11.1	2.7
カフェや地域の人が集まる場に通う	4.7	9.8	7.6	4.4	0.0	0.0	4.0	12.5	3.1	0.9	0.0	0.0
重度化予防の講習会や研修会などに参加する	3.7	7.8	6.1	1.5	16.7	25.0	2.0	0.0	2.3	2.7	5.6	8.1
その他	6.8	5.9	6.1	5.1	8.3	0.0	8.0	25.0	5.5	8.2	0.0	5.4

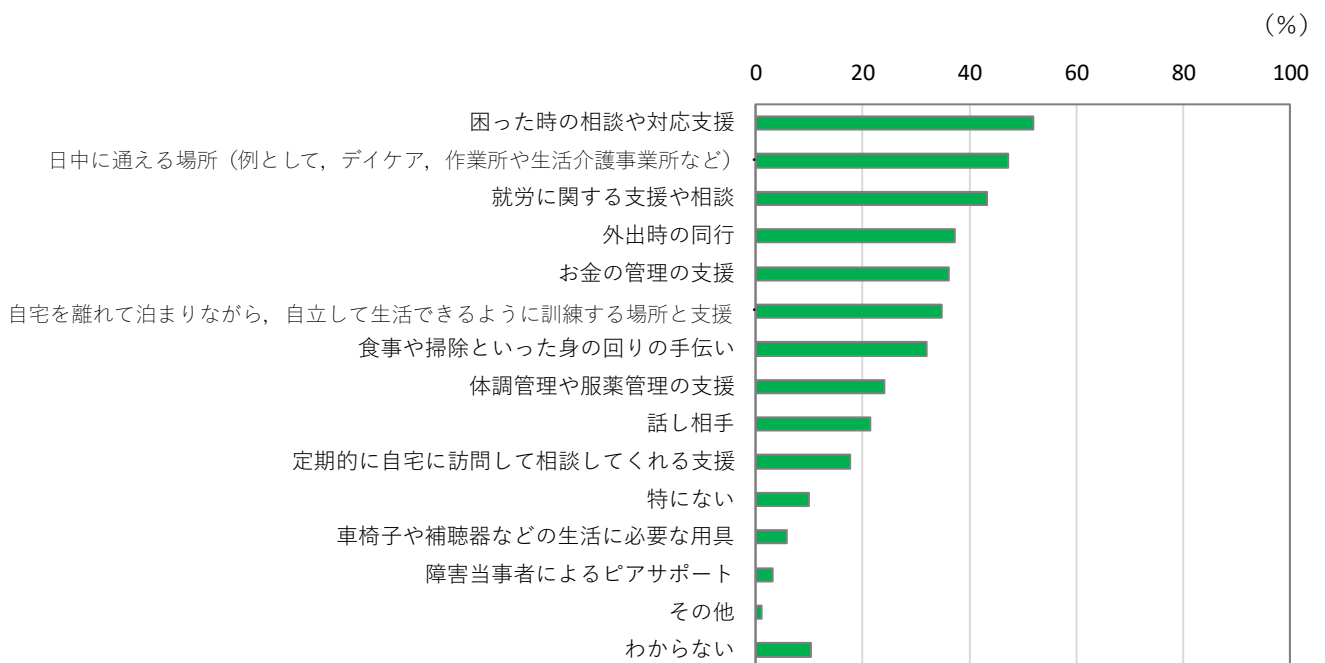
問 58. あなたが地域で自立した生活を続けていくためには、どのような支援が必要ですか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「困った時の相談や対応支援」が5割以上と最も多く、次いで「日中に通える場所（例として、デイケア、作業所や生活介護事業所など）」「就労に関する支援や相談」が4割以上となっています。

障害種別でみると、知的障害と肢体不自由は「日中に通える場所」「外出時の同行」が、他の障害と比べ多くなっています。また、肢体不自由は、「車椅子や補聴器などの生活に必要な用具」も他の障害と比べ多くなっています。

児童（★全障害）



(単位：%)

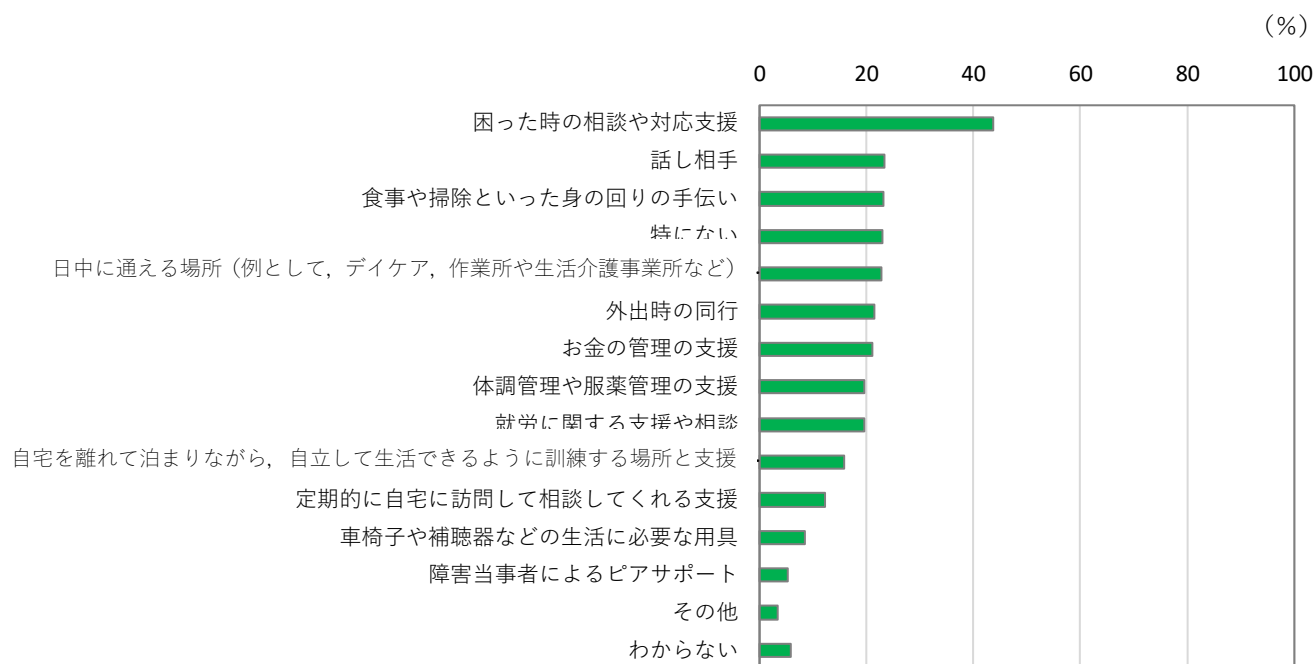
児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	379	3	13	33	242	170	8	1	20	22	21	28
困った時の相談や対応支援	52.0	33.3	69.2	42.4	57.9	57.6	37.5	0.0	25.0	31.8	28.6	53.6
日中に通える場所（例として、デイケア、作業所や生活介護事業所など）	47.2	100.0	76.9	66.7	62.8	48.2	50.0	0.0	20.0	36.4	0.0	28.6
就労に関する支援や相談	43.3	66.7	61.5	30.3	48.8	54.1	50.0	0.0	25.0	18.2	14.3	32.1
外出時の同行	37.2	66.7	92.3	57.6	50.4	41.8	12.5	100.0	20.0	31.8	4.8	17.9
お金の管理の支援	36.1	66.7	76.9	30.3	46.7	39.4	12.5	0.0	20.0	18.2	9.5	28.6
自宅を離れて泊まりながら、自立して生活できるように訓練する場所と支援	34.8	33.3	53.8	33.3	47.1	41.2	25.0	0.0	15.0	9.1	0.0	25.0
食事や掃除といった身の回りの手伝い	31.9	66.7	76.9	48.5	44.2	31.2	0.0	0.0	25.0	22.7	4.8	25.0
体調管理や服薬管理の支援	24.0	100.0	53.8	45.5	30.2	25.3	12.5	100.0	30.0	40.9	4.8	10.7
話し相手	21.4	33.3	23.1	15.2	22.3	25.9	25.0	0.0	10.0	22.7	9.5	17.9
定期的に自宅に訪問して相談してくれる支援	17.7	33.3	23.1	27.3	21.9	20.0	25.0	0.0	15.0	31.8	0.0	3.6
特になし	10.0	0.0	0.0	6.1	7.0	3.5	12.5	0.0	15.0	18.2	38.1	25.0
車椅子や補聴器などの生活に必要な用具	5.8	0.0	23.1	51.5	6.6	1.2	12.5	0.0	15.0	27.3	0.0	3.6
障害当事者によるピアサポート	3.2	0.0	7.7	0.0	4.5	2.4	12.5	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
その他	1.1	0.0	0.0	6.1	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	3.6
わからない	10.3	0.0	0.0	6.1	3.7	12.9	25.0	0.0	20.0	9.1	28.6	14.3

【成人】

成人全体では、「困った時の相談や対応支援」が4割以上と最も多く、次いで「話し相手」「食事や清掃といった身の回りの手伝い」「日中に通える場所（例として、デイケア、作業所や生活介護事業所など）」「外出時の同行」「お金の管理の支援」が2割以上となっています。

障害種別で見ると、発達障害は「困った時の相談や対応支援」「お金の管理の支援」「就労に関する支援や相談」が他の障害と比べ多くなっています。

成人（★全障害）



(単位：%)

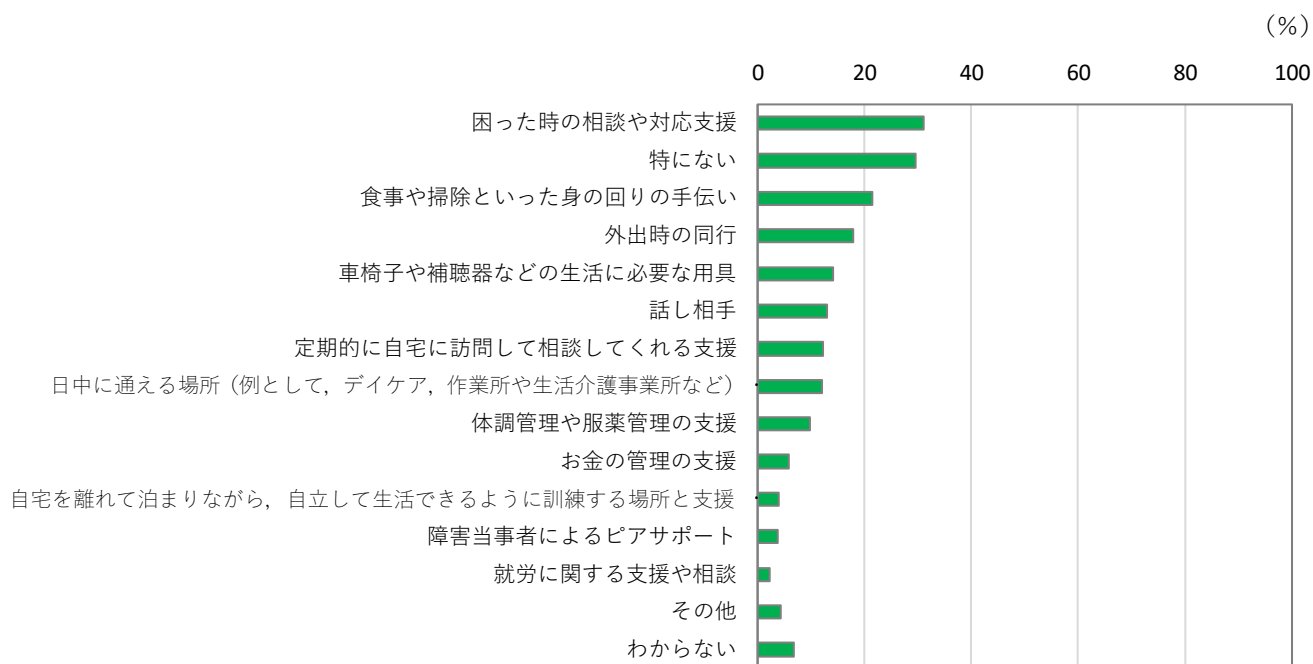
成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	798	31	53	99	265	96	268	15	32	107	20	35
困った時の相談や対応支援	43.7	54.8	41.5	44.4	48.7	64.6	49.6	66.7	25.0	28.0	35.0	51.4
話し相手	23.3	9.7	22.6	15.2	25.7	33.3	35.4	33.3	9.4	11.2	15.0	20.0
食事や掃除といった身の回りの手伝い	23.2	38.7	15.1	36.4	40.4	33.3	19.4	33.3	15.6	15.0	10.0	11.4
特になし	22.9	16.1	20.8	20.2	8.7	4.2	19.8	13.3	53.1	45.8	45.0	28.6
日中に通える場所（例として、デイケア、作業所や生活介護事業所など）	22.8	35.5	15.1	34.3	38.9	32.3	23.1	6.7	12.5	9.3	5.0	11.4
外出時の同行	21.6	45.2	26.4	38.4	39.6	30.2	14.6	40.0	15.6	14.0	10.0	11.4
お金の管理の支援	21.1	16.1	13.2	19.2	38.9	47.9	18.3	13.3	9.4	9.3	10.0	8.6
体調管理や服薬管理の支援	19.7	12.9	17.0	29.3	33.2	31.3	18.7	26.7	21.9	7.5	15.0	14.3
就労に関する支援や相談	19.5	6.5	13.2	10.1	17.4	40.6	25.7	20.0	9.4	13.1	20.0	22.9
自宅を離れて泊まりながら、自立して生活できるように訓練する場所と支援	15.8	6.5	11.3	17.2	32.5	33.3	9.0	6.7	12.5	7.5	0.0	11.4
定期的に自宅に訪問して相談してくれる支援	12.3	9.7	9.4	11.1	15.5	19.8	17.2	13.3	3.1	5.6	0.0	14.3
車椅子や補聴器などの生活に必要な用具	8.5	22.6	39.6	38.4	10.9	1.0	1.5	20.0	6.3	11.2	0.0	2.9
障害当事者によるピアサポート	5.4	9.7	13.2	5.1	4.2	6.3	7.1	6.7	3.1	1.9	0.0	0.0
その他	3.5	6.5	7.5	5.1	3.0	5.2	3.7	6.7	0.0	5.6	0.0	5.7
わからない	5.9	12.9	3.8	7.1	8.3	4.2	4.5	0.0	6.3	3.7	5.0	5.7

【高齢者】

高齢者全体では、「困った時の相談や対応支援」が3割程度と最も多くなっています。一方で、「特にない」も3割程度と多くなっています。

障害種別で見ると、視覚障害は「外出時の同行」が他の障害と比べ多くなっています。

高齢者（★全障害）



(単位：%)

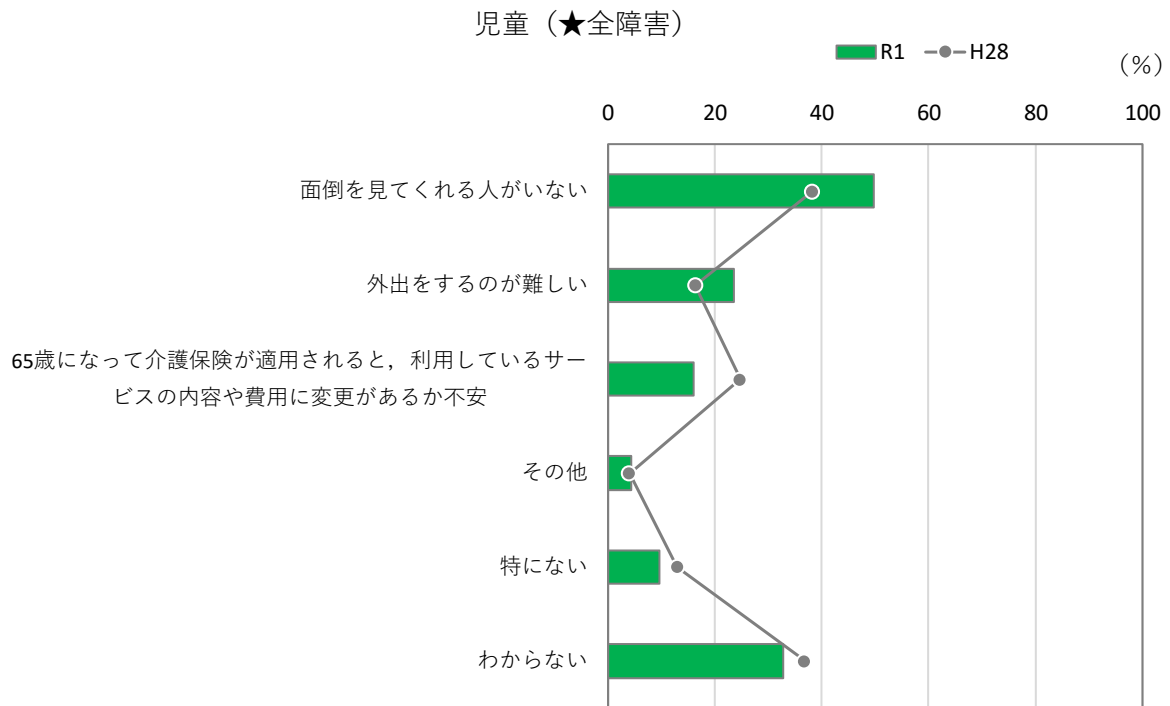
高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	512	51	61	131	12	4	51	9	129	107	18	38
困った時の相談や対応支援	31.1	39.2	29.5	29.8	41.7	75.0	41.2	33.3	24.8	31.8	16.7	21.1
特になし	29.5	27.5	19.7	26.7	8.3	0.0	13.7	22.2	35.7	31.8	38.9	28.9
食事や掃除といった身の回りの手伝い	21.5	29.4	18.0	21.4	50.0	25.0	27.5	11.1	18.6	22.4	16.7	28.9
外出時の同行	18.0	51.0	21.3	22.1	50.0	25.0	13.7	11.1	10.1	16.8	16.7	7.9
車椅子や補聴器などの生活に必要な用具	14.1	15.7	41.0	22.1	16.7	0.0	2.0	11.1	9.3	15.0	11.1	5.3
話し相手	13.1	21.6	13.1	9.2	16.7	50.0	29.4	22.2	7.0	10.3	16.7	15.8
定期的に自宅に訪問して相談してくれる支援	12.3	19.6	11.5	13.7	0.0	0.0	13.7	0.0	9.3	15.0	11.1	10.5
日中に通える場所（例として、デイケア、作業所や生活介護事業所など）	12.1	11.8	16.4	16.8	25.0	0.0	5.9	22.2	7.0	9.3	22.2	7.9
体調管理や服薬管理の支援	9.8	9.8	11.5	9.2	25.0	25.0	13.7	11.1	8.5	10.3	5.6	13.2
お金の管理の支援	5.9	3.9	4.9	3.1	33.3	0.0	19.6	11.1	1.6	3.7	0.0	5.3
自宅を離れて泊まりながら、自立して生活できるように訓練する場所と支援	3.9	3.9	3.3	4.6	16.7	25.0	5.9	0.0	2.3	0.9	5.6	0.0
障害当事者によるピアサポート	3.7	9.8	1.6	4.6	0.0	0.0	9.8	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
就労に関する支援や相談	2.3	0.0	1.6	2.3	8.3	0.0	3.9	0.0	1.6	1.9	16.7	0.0
その他	4.3	0.0	3.3	5.3	8.3	0.0	2.0	11.1	3.1	7.5	5.6	5.3
わからない	6.8	2.0	6.6	6.9	0.0	0.0	11.8	22.2	9.3	5.6	0.0	7.9

問 59. 高齢化に伴い不安なことはありますか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「面倒を見てくれる人がいない」が5割程度と最も多くなっています。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、前回調査との比較では、「面倒を見てくれる人がいない」は約 12 ポイント増加しています。



(単位：%)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	369	3	13	32	237	167	8	1	19	21	20	28
面倒を見てくれる人がいない	49.9	100.0	84.6	65.6	62.4	55.1	37.5	100.0	26.3	47.6	5.0	32.1
外出をするのが難しい	23.6	33.3	46.2	40.6	32.5	28.7	12.5	0.0	10.5	23.8	0.0	7.1
65歳になって介護保険が適用されると、利用しているサービスの内容や費用に変更があるか不安	16.0	0.0	30.8	15.6	20.7	19.8	12.5	0.0	5.3	9.5	5.0	10.7
その他	4.3	0.0	0.0	12.5	5.9	4.2	0.0	0.0	0.0	9.5	5.0	0.0
特にない	9.8	0.0	0.0	12.5	3.8	4.8	12.5	0.0	21.1	28.6	30.0	17.9
わからない	32.8	0.0	7.7	9.4	25.3	33.5	50.0	0.0	47.4	14.3	60.0	46.4

【成人】

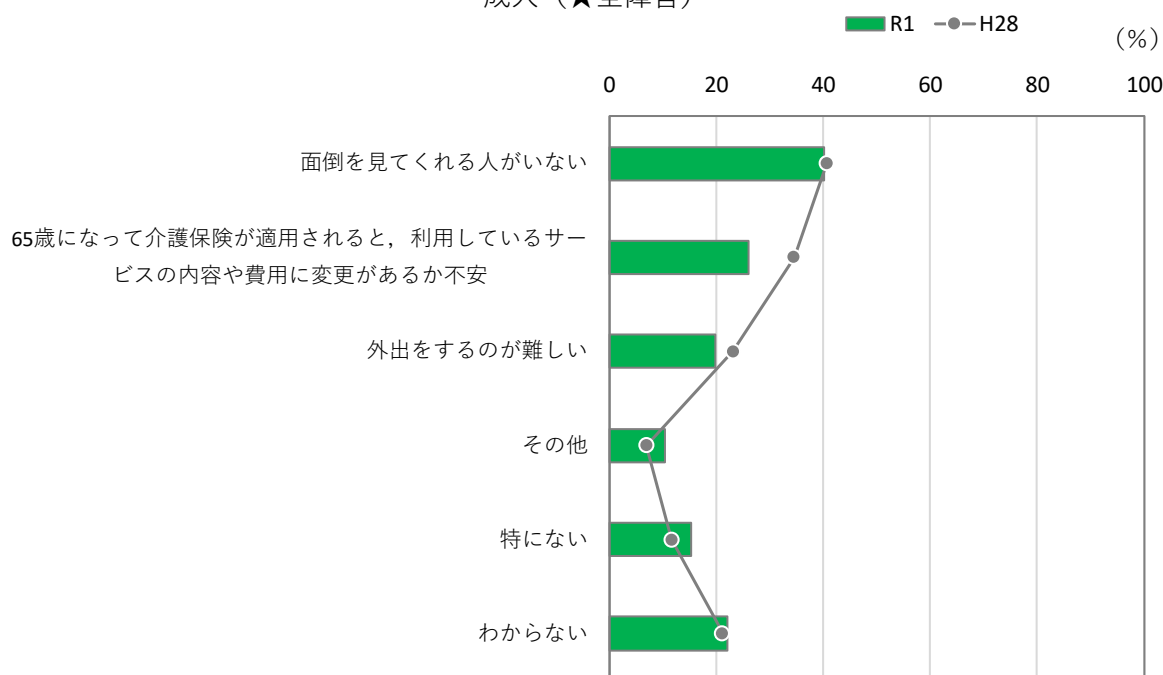
成人全体では、「面倒を見てくれる人がいない」が4割程度で、最も多くなっています。次いで、「65歳になって介護保険が適用されると、利用しているサービスの内容や費用に変更があるか不安」が2割以上となっています。

「その他」の回答は、「親亡き後のこと」「経済的な不安」などがありました。

障害種別でみると、発達障害は「面倒を見てくれる人がいない」の割合が他の障害と比べ多くなっています。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、前回調査と比べ、「65歳になって介護保険が適用されると、利用しているサービスの内容や費用に変更があるか不安」が約9ポイント減少しています。

成人（★全障害）



(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	784	32	54	98	255	94	262	16	31	108	21	34
面倒を見てくれる人がいない	40.2	40.6	31.5	45.9	51.8	55.3	42.0	37.5	45.2	30.6	9.5	29.4
65歳になって介護保険が適用されると、利用しているサービスの内容や費用に変更があるか不安	26.0	37.5	27.8	38.8	36.5	28.7	22.5	18.8	29.0	24.1	4.8	17.6
外出をするのが難しい	19.9	46.9	27.8	37.8	24.7	17.0	17.2	68.8	22.6	18.5	14.3	26.5
その他	10.5	6.3	7.4	11.2	7.8	12.8	15.6	12.5	3.2	13.9	0.0	8.8
特にない	15.4	12.5	16.7	12.2	7.1	9.6	13.7	12.5	32.3	22.2	38.1	26.5
わからない	22.1	21.9	20.4	11.2	22.7	18.1	22.5	12.5	9.7	17.6	47.6	23.5

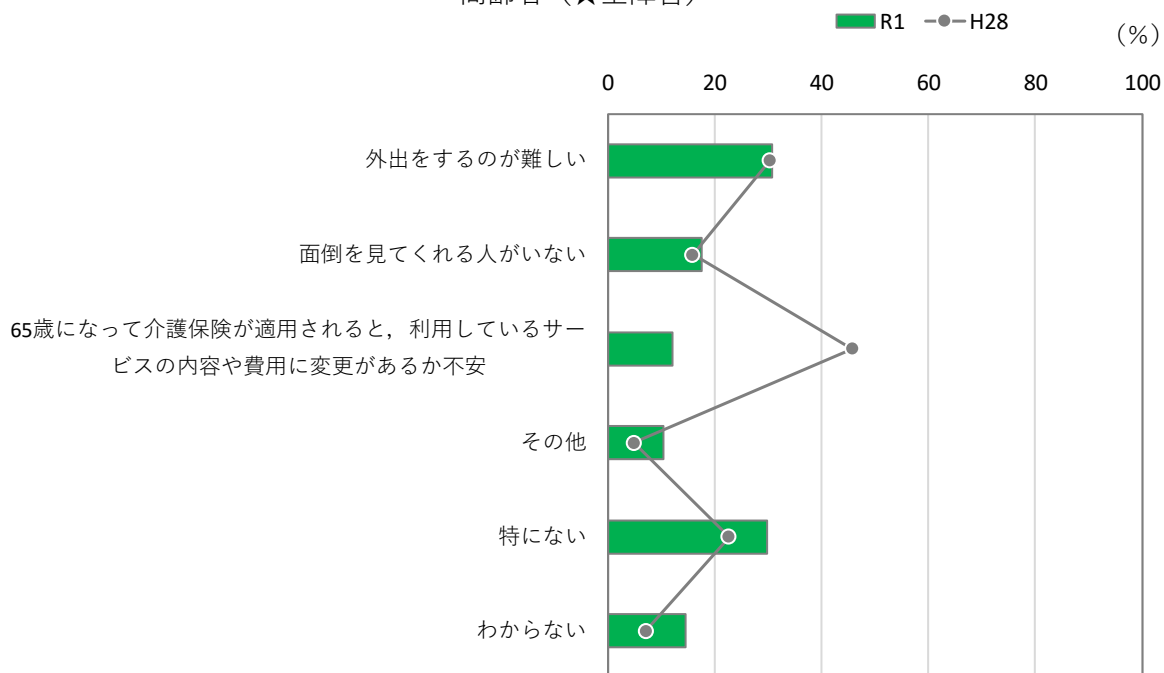
【高齢者】

高齢者全体では、「外出をするのが難しい」が3割程度と最も多くなっています。

「その他」の回答は、「経済的な不安」などがありました。

前回調査とは選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、「65歳になって介護保険が適用されると、利用しているサービスの内容や費用に変更があるか不安」が約34ポイント減少しています。

高齢者（★全障害）



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	491	46	59	129	12	3	49	7	119	104	18	37
外出をするのが難しい	30.8	41.3	40.7	34.9	25.0	0.0	16.3	28.6	28.6	36.5	16.7	27.0
面倒を見てくれる人がいない	17.5	21.7	15.3	17.1	41.7	33.3	34.7	0.0	11.8	13.5	5.6	24.3
65歳になって介護保険が適用されると、利用しているサービスの内容や費用に変更があるか不安	12.2	15.2	15.3	15.5	33.3	33.3	18.4	14.3	10.9	7.7	5.6	10.8
その他	10.4	8.7	10.2	14.7	8.3	0.0	8.2	0.0	8.4	13.5	22.2	16.2
特にない	29.9	28.3	32.2	24.0	25.0	33.3	18.4	14.3	33.6	31.7	44.4	27.0
わからない	14.7	8.7	10.2	13.2	0.0	0.0	22.4	42.9	16.0	12.5	16.7	16.2

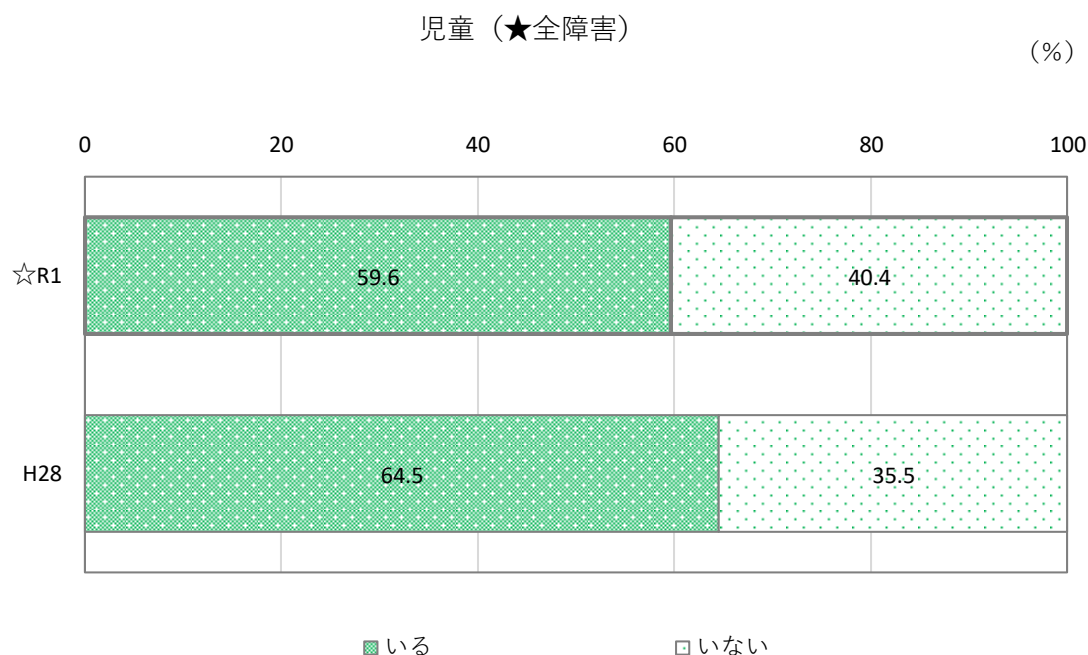
安全・安心な生活環境

問 60. 災害時に近所に助けを求められる人はいますか（○はひとつだけ）。

児童と高齢者では6割程度が、成人では5割以上が、「いる」と回答しています。

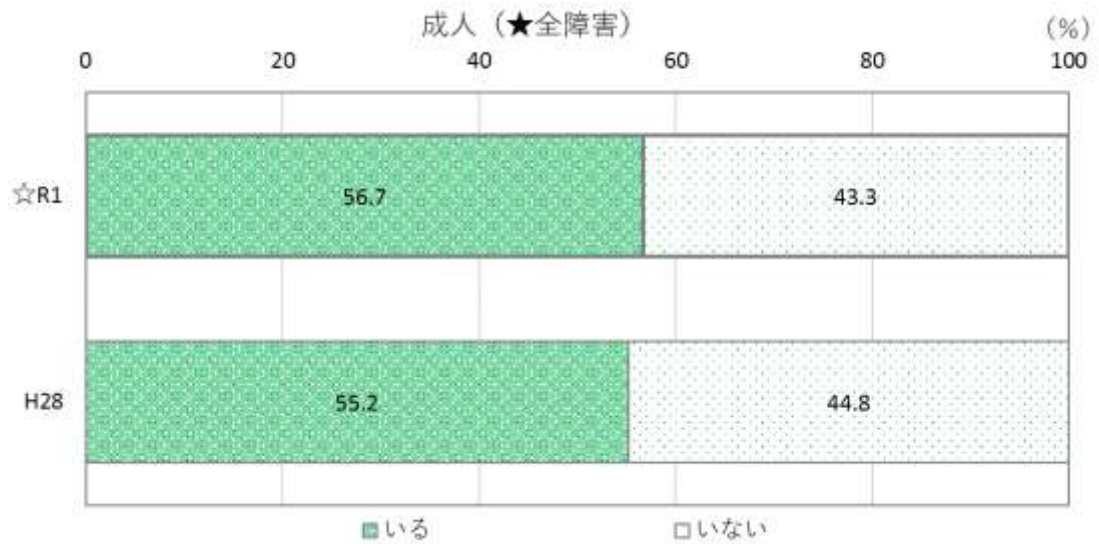
精神障害では、すべての年代で、助けを求められる人は「いない」が、他の障害と比べ多くなっています。また、高齢者では、精神障害に加え、視覚障害と聴覚障害について、「いない」の割合が5割近くと、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



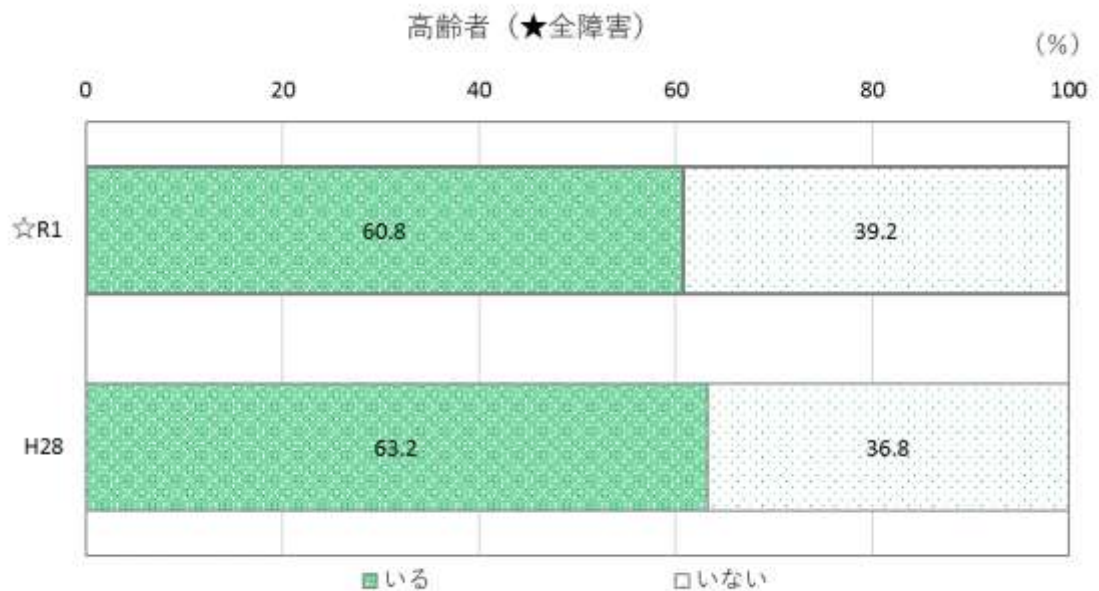
(単位：%)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数 (人)	379	3	13	33	242	169	8	1	20	22	22	28
いる	59.6	66.7	53.8	57.6	53.7	61.5	25.0	100.0	65.0	81.8	81.8	71.4
いない	40.4	33.3	46.2	42.4	46.3	38.5	75.0	0.0	35.0	18.2	18.2	28.6



(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	811	35	59	103	272	96	270	16	32	110	21	35
いる	56.7	65.7	54.2	56.3	59.6	52.1	49.3	62.5	59.4	66.4	61.9	57.1
いない	43.3	34.3	45.8	43.7	40.4	47.9	50.7	37.5	40.6	33.6	38.1	42.9

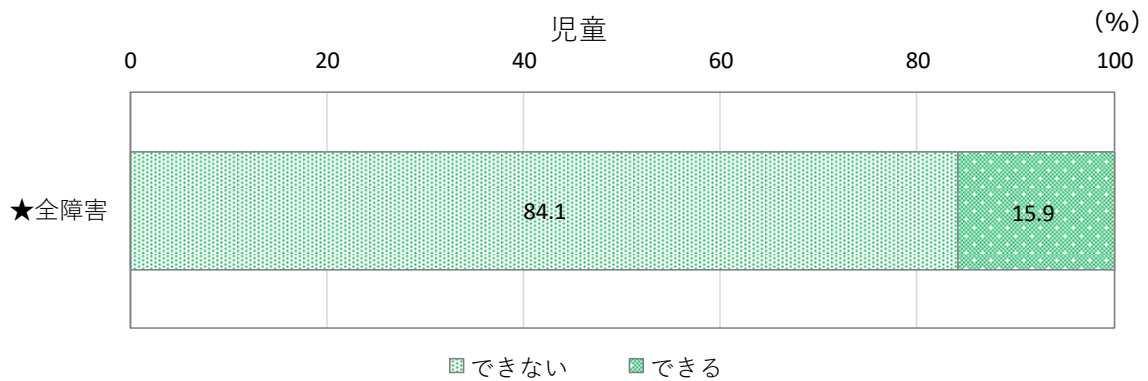


(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	515	49	67	132	12	3	53	8	129	109	18	37
いる	60.8	53.1	52.2	62.9	50.0	66.7	54.7	62.5	66.7	58.7	66.7	62.2
いない	39.2	46.9	47.8	37.1	50.0	33.3	45.3	37.5	33.3	41.3	33.3	37.8

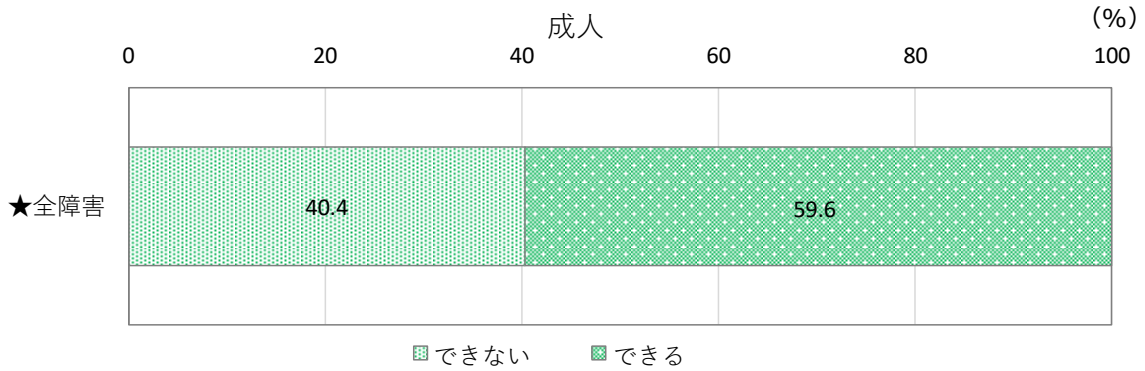
問 61. (問 60 で「1. いない」と答えた方のみお答えください。)
自分一人で避難することはできますか (○はひとつだけ)。

児童では、8割以上が「できない」と答えています。
成人では4割程度、高齢者では5割近くが「できない」と答えています。
成人全体では肢体不自由と知的障害が、高齢者全体では視覚障害と肢体不自由が、「できない」と回答した人の割合が他の障害と比べ多くなっています。



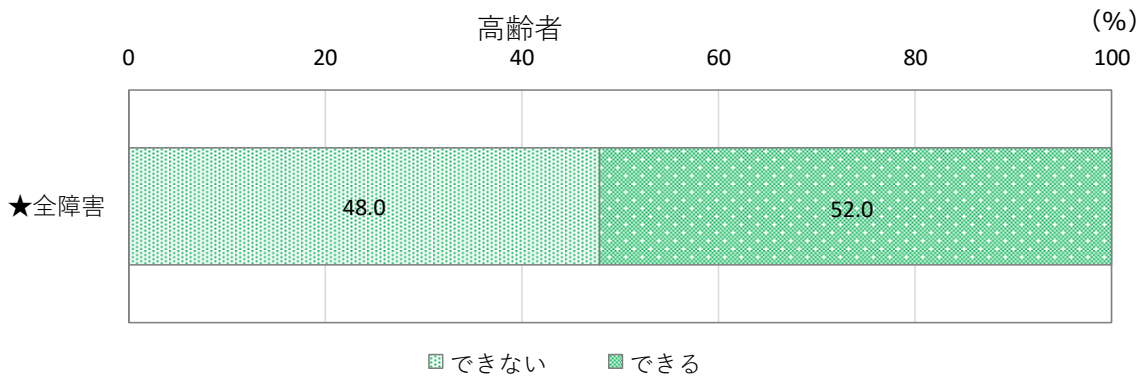
(単位：%)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	151	1	6	14	111	64	5	0	7	4	4	8
できない	84.1	100.0	100.0	100.0	84.7	85.9	80.0	0.0	100.0	75.0	75.0	62.5
できる	15.9	0.0	0.0	0.0	15.3	14.1	20.0	0.0	0.0	25.0	25.0	37.5



(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数 (人)	344	11	25	45	109	45	133	5	12	36	8	15
できない	40.4	90.9	44.0	73.3	69.7	48.9	27.1	80.0	25.0	27.8	12.5	26.7
できる	59.6	9.1	56.0	26.7	30.3	51.1	72.9	20.0	75.0	72.2	87.5	73.3



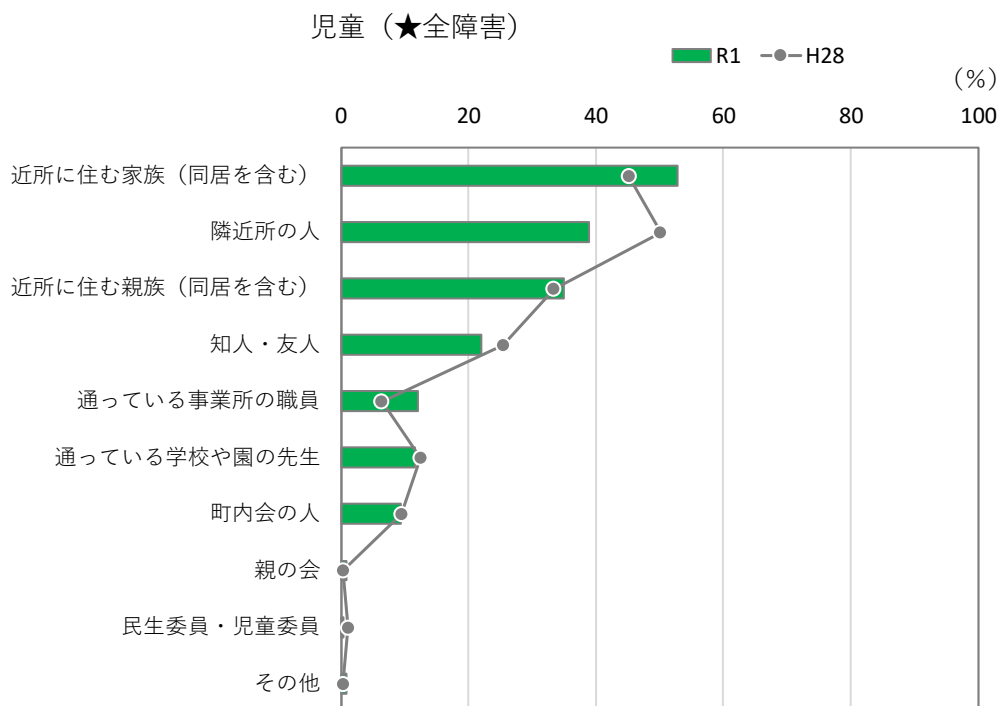
(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数 (人)	198	21	32	49	6	1	23	3	42	45	6	14
できない	48.0	76.2	53.1	71.4	83.3	100.0	39.1	100.0	31.0	42.2	33.3	35.7
できる	52.0	23.8	46.9	28.6	16.7	0.0	60.9	0.0	69.0	57.8	66.7	64.3

問 62. (問 60 で「2. いる」と答えた方のみお答えください。
 助けを求められる人は誰ですか (〇はいくつでも)。

【児童】

児童全体では、「近所に住む家族 (同居を含む)」が最も多く、5 割以上となっています。
 前回調査と比べ、「隣近所の人」が約 11 ポイント減少しています。



(単位：%)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	223	2	7	19	128	102	2	1	13	18	17	20
近所に住む家族 (同居を含む)	52.9	100.0	42.9	73.7	50.8	52.9	50.0	0.0	53.8	44.4	41.2	55.0
隣近所の人	39.0	0.0	42.9	31.6	39.8	42.2	50.0	0.0	38.5	27.8	35.3	45.0
近所に住む親族 (同居を含む)	35.0	0.0	42.9	36.8	35.9	31.4	0.0	0.0	30.8	44.4	58.8	35.0
知人・友人	22.0	0.0	14.3	15.8	23.4	18.6	50.0	0.0	15.4	50.0	23.5	25.0
通っている事業所の職員	12.1	0.0	14.3	10.5	12.5	14.7	0.0	0.0	23.1	11.1	5.9	20.0
通っている学校や園の先生	11.7	0.0	0.0	0.0	13.3	14.7	0.0	0.0	0.0	5.6	5.9	15.0
町内会の人	9.4	0.0	28.6	26.3	8.6	9.8	0.0	100.0	7.7	16.7	0.0	15.0
親の会	0.9	0.0	0.0	0.0	0.8	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
民生委員・児童委員	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.9	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

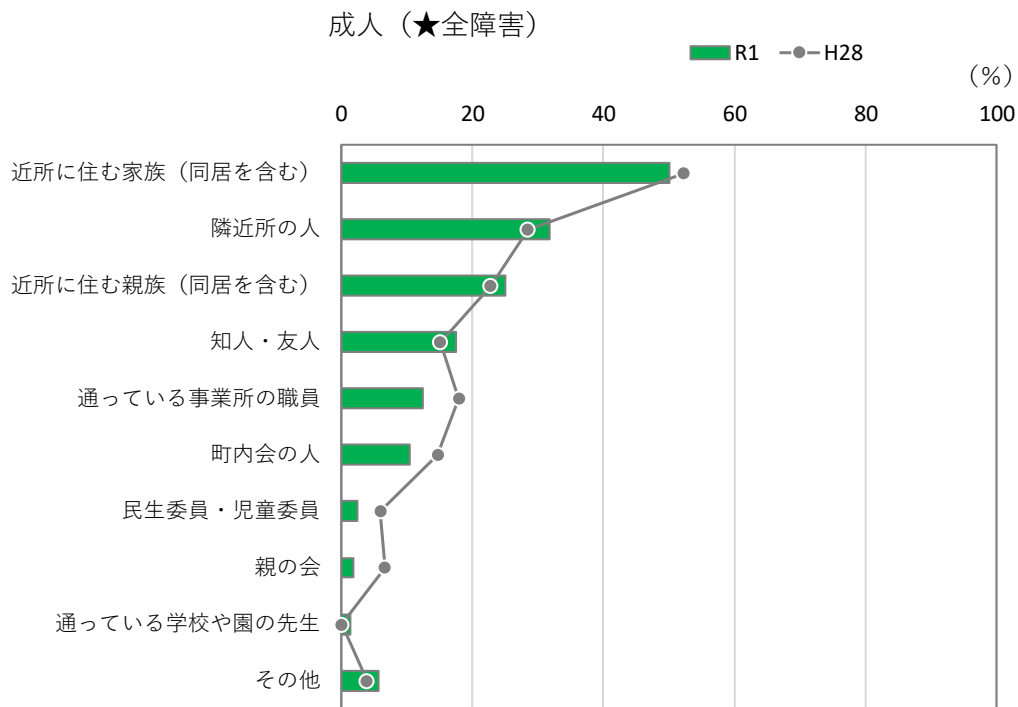
【成人】

成人全体では、「近所に住む家族（同居を含む）」が最も多く、5割となっています。次いで、「隣近所の人」が多くなっています。

障害種別でみると、難病については「隣近所の人」が4割以上と、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

【高齢者】

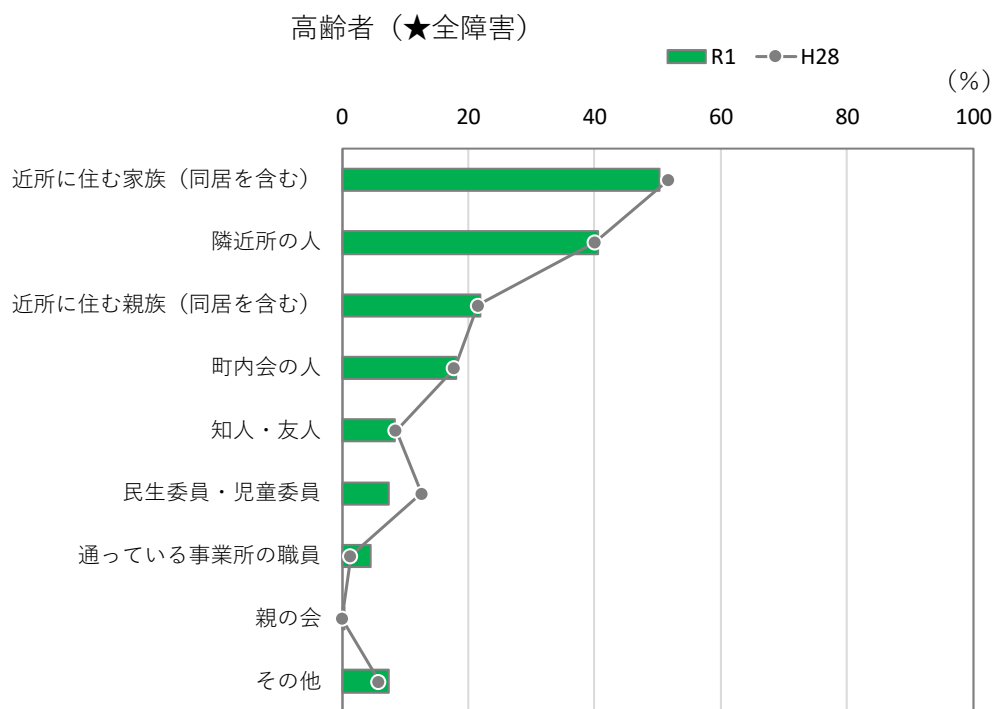


(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	452	23	32	58	160	49	127	10	19	72	13	19
近所に住む家族 (同居を含む)	50.0	47.8	46.9	50.0	53.8	59.2	44.1	50.0	42.1	51.4	53.8	47.4
隣近所の人	31.9	39.1	43.8	29.3	23.1	24.5	31.5	20.0	31.6	41.7	69.2	31.6
近所に住む親族 (同居を含む)	25.0	17.4	21.9	25.9	24.4	28.6	26.8	30.0	36.8	26.4	7.7	31.6
知人・友人	17.5	17.4	28.1	15.5	8.1	10.2	18.1	10.0	21.1	27.8	38.5	15.8
通っている事業所の職員	12.4	8.7	6.3	15.5	23.8	12.2	8.7	20.0	5.3	0.0	0.0	10.5
町内会の人	10.4	21.7	21.9	10.3	9.4	14.3	5.5	10.0	21.1	9.7	15.4	0.0
民生委員・児童委員	2.4	4.3	6.3	0.0	1.9	0.0	3.9	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0
親の会	1.8	8.7	0.0	3.4	4.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3
通っている学校や園の先生	1.3	0.0	3.1	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	5.3
その他	5.8	4.3	6.3	6.9	8.8	8.2	6.3	10.0	0.0	1.4	0.0	10.5

高齢者全体では、「近所に住む家族（同居を含む）」が最も多く、5割程度となっています。障害別にみると、難病では「近所に住む家族（同居を含む）」が他の障害に比べ多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数（人）	310	26	34	82	5	2	29	5	86	63	12	23
近所に住む家族（同居を含む）	50.3	57.7	55.9	42.7	80.0	50.0	34.5	40.0	47.7	61.9	41.7	39.1
隣近所の人	40.6	34.6	41.2	32.9	20.0	50.0	44.8	20.0	46.5	46.0	33.3	52.2
近所に住む親族（同居を含む）	21.9	23.1	17.6	25.6	60.0	50.0	20.7	0.0	23.3	22.2	33.3	17.4
町内会の人	18.1	30.8	20.6	14.6	20.0	0.0	10.3	20.0	20.9	15.9	25.0	17.4
知人・友人	8.4	7.7	8.8	9.8	0.0	0.0	10.3	0.0	8.1	6.3	0.0	8.7
民生委員・児童委員	7.4	7.7	8.8	7.3	20.0	0.0	6.9	0.0	8.1	4.8	8.3	0.0
通っている事業所の職員	4.5	0.0	2.9	7.3	40.0	0.0	13.8	40.0	2.3	0.0	8.3	4.3
親の会	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通っている学校や園の先生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7.4	3.8	5.9	12.2	0.0	0.0	10.3	20.0	7.0	3.2	8.3	17.4

問 63. K-N e t に登録していますか (○はひとつだけ)。

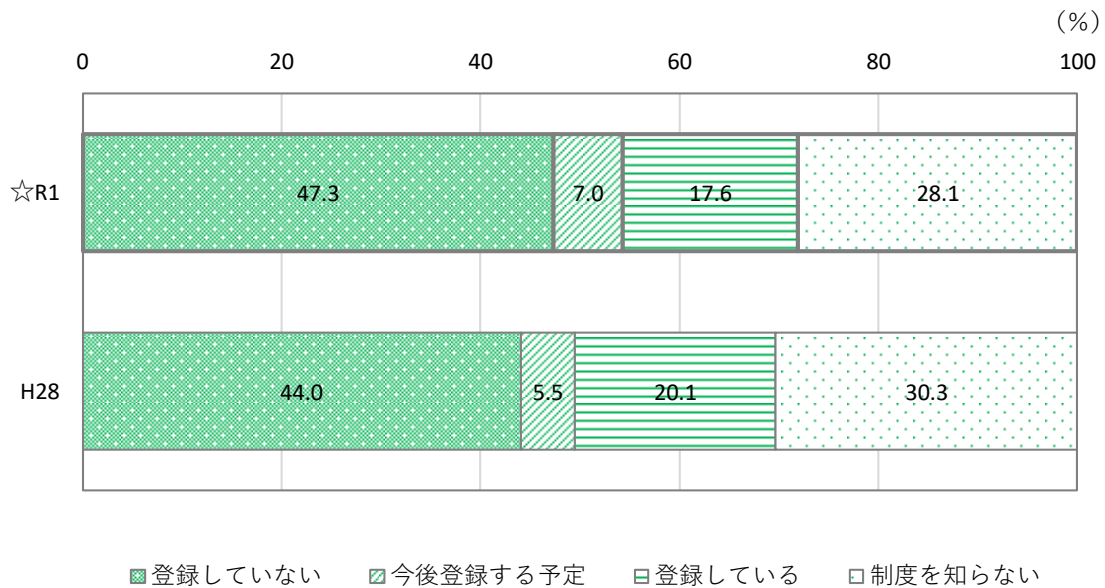
【児童】

児童全体では、「登録していない」が5割近くとなっています。

障害種別でみると、肢体不自由は「登録していない」が、他の障害と比べ低くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

児童 (★全障害)



(単位: %)

児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	374	2	13	33	237	169	8	1	20	22	21	28
登録していない	47.3	0.0	46.2	24.2	46.8	45.6	25.0	0.0	50.0	36.4	61.9	39.3
今後登録する予定	7.0	0.0	7.7	12.1	8.0	7.7	12.5	0.0	10.0	9.1	0.0	3.6
登録している	17.6	0.0	46.2	54.5	24.1	16.0	0.0	0.0	25.0	22.7	0.0	3.6
制度を知らない	28.1	100.0	0.0	9.1	21.1	30.8	62.5	100.0	15.0	31.8	38.1	53.6

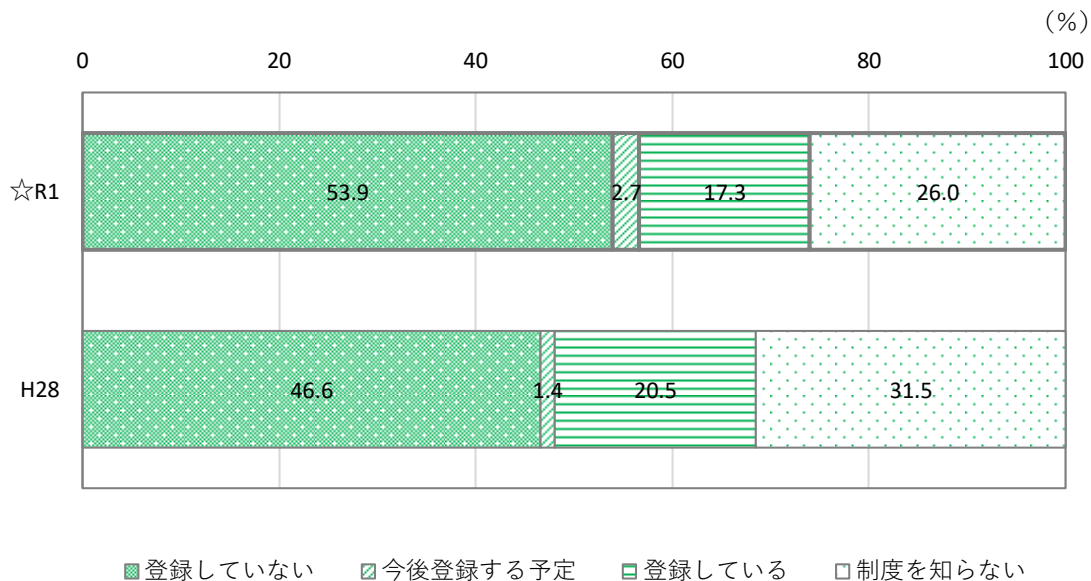
【成人】

成人全体についても、「登録していない」が5割以上となっています。

障害種別で見ると、難病については、「登録していない」が6割程度と、他の障害と比べ多くなっています。また、精神障害については、「制度を知らない」が他の障害と比べ多くなっています。

前回調査との比較では、「登録していない」は約7ポイント増加しています。

成人（★全障害）



(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数（人）	803	34	55	102	266	95	265	15	30	109	21	34
登録していない	53.9	50.0	41.8	37.3	50.4	51.6	54.3	46.7	60.0	60.6	61.9	64.7
今後登録する予定	2.7	2.9	5.5	5.9	4.5	2.1	1.5	6.7	0.0	0.9	0.0	0.0
登録している	17.3	35.3	36.4	39.2	32.3	20.0	4.5	20.0	23.3	11.0	0.0	8.8
制度を知らない	26.0	11.8	16.4	17.6	12.8	26.3	39.6	26.7	16.7	27.5	38.1	26.5

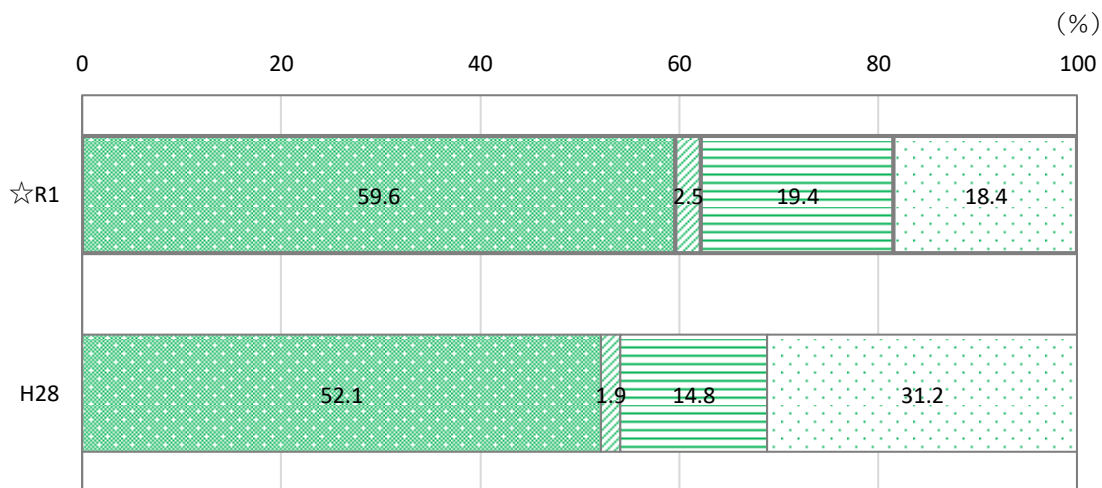
【高齢者】

高齢者全体についても、「登録していない」が6割程度となっています。

障害種別でみると、難病については、「登録していない」が、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、「制度を知らない」が約13ポイント減少しています。

高齢者（★全障害）



■登録していない ■今後登録する予定 ■登録している □制度を知らない

(単位：%)

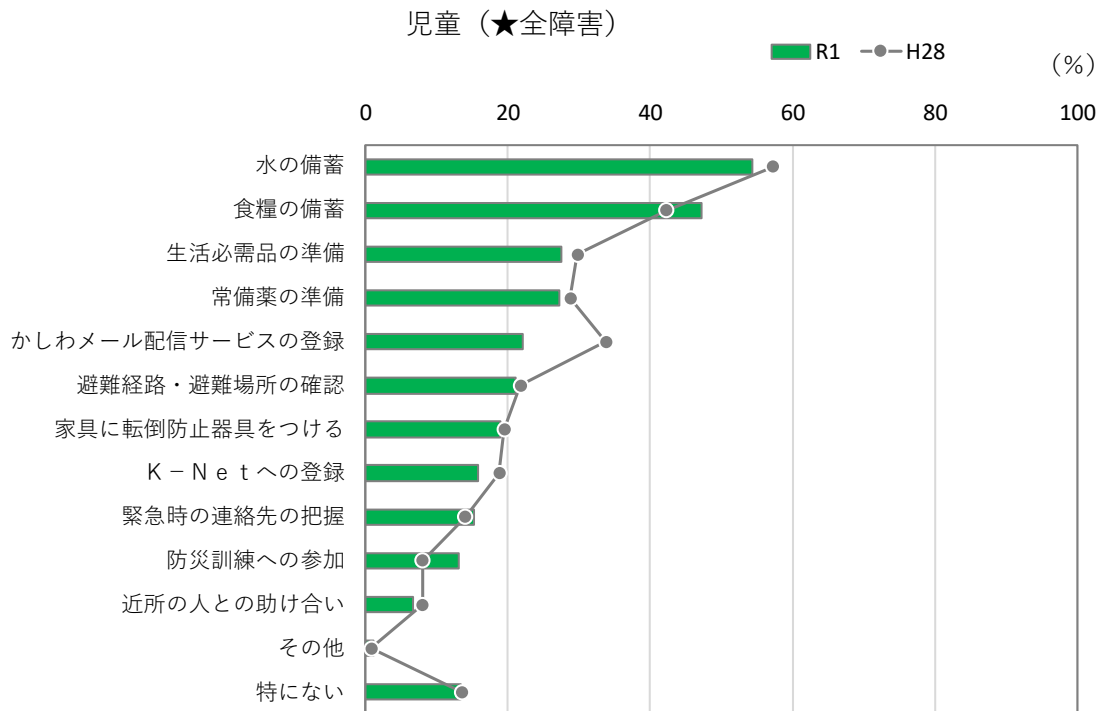
高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	510	49	64	129	14	3	53	8	125	107	17	37
登録していない	59.6	42.9	53.1	53.5	28.6	33.3	60.4	50.0	62.4	69.2	76.5	64.9
今後登録する予定	2.5	4.1	4.7	4.7	0.0	0.0	1.9	0.0	1.6	0.9	5.9	0.0
登録している	19.4	38.8	23.4	23.3	57.1	33.3	7.5	37.5	21.6	15.0	0.0	13.5
制度を知らない	18.4	14.3	18.8	18.6	14.3	33.3	30.2	12.5	14.4	15.0	17.6	21.6

問 64. 災害に備えていることはありますか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「水の備蓄」が5割以上と最も多く、次いで「食糧の備蓄」となっています。障害種別で見ると、肢体不自由については、「K-Net への登録」が、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、「かしわメール配信サービスの登録」が約 12 ポイント減少しています。

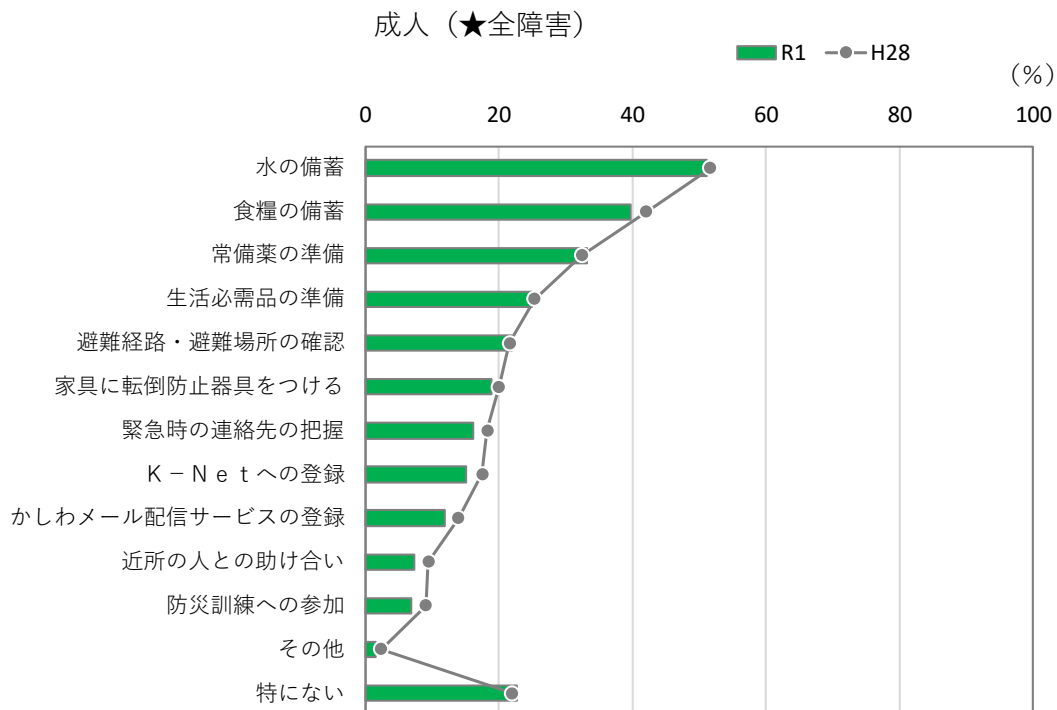


(単位：%)

児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数(人)	375	3	13	33	239	168	8	1	20	22	21	28
水の備蓄	54.4	66.7	53.8	60.6	53.6	54.2	25.0	0.0	75.0	54.5	57.1	57.1
食糧の備蓄	47.2	0.0	53.8	45.5	46.0	46.4	25.0	100.0	70.0	59.1	57.1	50.0
生活必需品の準備	27.5	33.3	46.2	33.3	30.1	26.2	12.5	0.0	50.0	40.9	19.0	32.1
常備薬の準備	27.2	33.3	7.7	33.3	23.4	22.6	12.5	100.0	80.0	63.6	14.3	32.1
かしわメール配信サービスの登録	22.1	0.0	46.2	42.4	24.7	22.0	62.5	0.0	25.0	27.3	4.8	25.0
避難経路・避難場所の確認	21.1	33.3	15.4	24.2	19.2	21.4	12.5	0.0	35.0	18.2	28.6	32.1
家具に転倒防止器具をつける	18.9	0.0	38.5	12.1	18.8	20.2	12.5	0.0	15.0	18.2	19.0	17.9
K-N e tへの登録	15.7	0.0	46.2	45.5	21.3	13.7	0.0	0.0	30.0	27.3	0.0	7.1
緊急時の連絡先の把握	15.2	33.3	15.4	15.2	13.4	16.1	12.5	0.0	25.0	9.1	4.8	25.0
防災訓練への参加	13.1	66.7	15.4	6.1	12.6	11.9	12.5	0.0	15.0	22.7	19.0	14.3
近所の人との助け合い	6.7	0.0	15.4	6.1	5.9	8.3	12.5	0.0	10.0	4.5	9.5	3.6
その他	1.1	0.0	0.0	3.0	0.8	0.6	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
特になし	13.3	0.0	7.7	3.0	11.3	14.9	25.0	0.0	0.0	9.1	19.0	10.7

【成人】

成人全体についても、「水の備蓄」が最も多く、5割程度となっています
障害種別で見ると、難病では「常備薬の準備」の割合が、肢体不自由と知的障害では「K-Netへの登録」が、他の障害と比べ多くなっています。
前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。

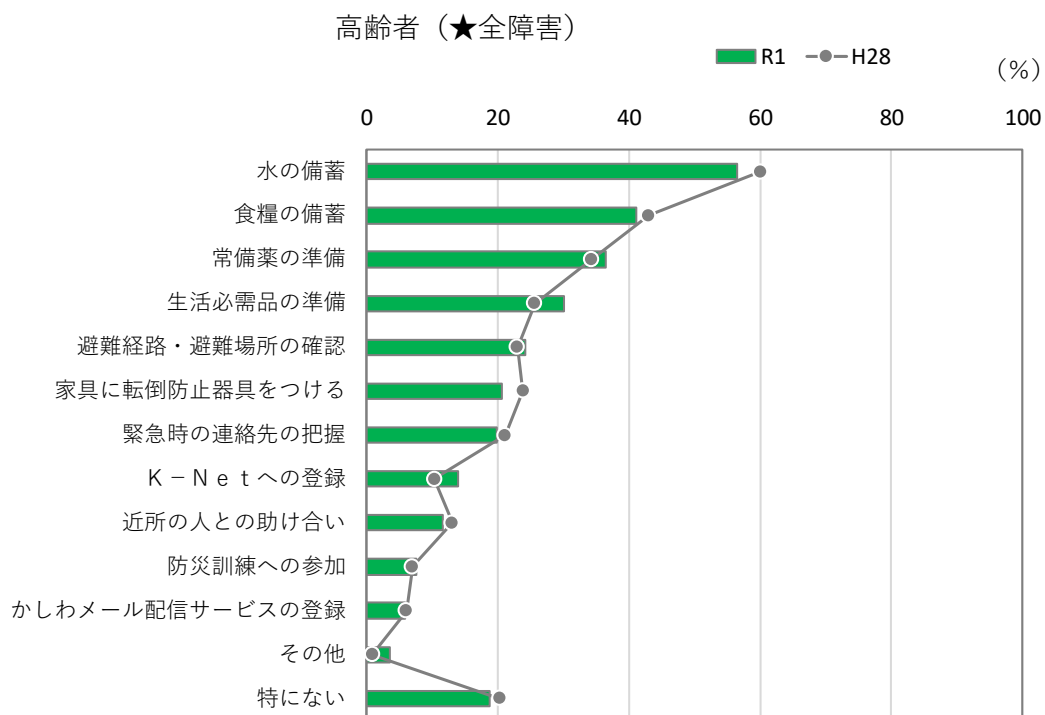


(単位：%)

成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	802	35	56	106	268	92	265	15	32	110	20	35
水の備蓄	51.1	71.4	58.9	59.4	51.5	56.5	43.4	60.0	56.3	64.5	55.0	45.7
食糧の備蓄	39.8	51.4	37.5	48.1	41.8	47.8	32.8	46.7	43.8	49.1	45.0	51.4
常備菜の準備	33.2	48.6	33.9	38.7	27.6	30.4	30.9	40.0	43.8	46.4	40.0	40.0
生活必需品の準備	25.1	42.9	21.4	34.9	25.4	29.3	22.6	26.7	21.9	30.9	25.0	28.6
避難経路・避難場所の確認	21.9	28.6	23.2	19.8	17.9	25.0	21.9	20.0	15.6	24.5	15.0	28.6
家具に転倒防止器具をつける	19.0	28.6	17.9	22.6	20.5	21.7	15.5	26.7	28.1	28.2	25.0	14.3
緊急時の連絡先の把握	16.2	22.9	21.4	17.0	11.9	15.2	14.7	6.7	9.4	20.9	10.0	20.0
K-N e tへの登録	15.1	31.4	30.4	34.9	28.4	19.6	3.8	20.0	21.9	11.8	0.0	5.7
かしわメール配信サービスの登録	11.8	14.3	19.6	17.9	11.2	10.9	7.5	0.0	9.4	14.5	15.0	11.4
近所の人との助け合い	7.4	14.3	14.3	9.4	10.1	7.6	6.0	0.0	3.1	9.1	0.0	0.0
防災訓練への参加	6.9	17.1	10.7	7.5	8.2	7.6	4.5	6.7	6.3	9.1	20.0	0.0
その他	1.5	0.0	1.8	1.9	2.2	2.2	1.5	0.0	0.0	1.8	0.0	5.7
特になし	22.7	14.3	17.9	9.4	21.3	15.2	30.6	20.0	25.0	10.9	20.0	14.3

【高齢者】

高齢者全体についても、「水の備蓄」が5割以上と最も多くなっています。
 障害別にみると、難病で「水の備蓄」「食料の備蓄」が他の障害に比べ多くなっています。
 前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	515	50	65	132	12	4	53	8	127	110	18	38
水の備蓄	56.5	38.0	61.5	53.8	41.7	25.0	60.4	37.5	56.7	65.5	61.1	73.7
食糧の備蓄	41.2	28.0	46.2	45.5	25.0	25.0	43.4	12.5	36.2	50.0	61.1	39.5
常備菜の準備	36.5	24.0	36.9	40.2	41.7	25.0	37.7	0.0	33.9	43.6	50.0	34.2
生活必需品の準備	30.1	18.0	30.8	31.8	33.3	0.0	28.3	12.5	26.0	31.8	55.6	34.2
避難経路・避難場所の確認	24.3	26.0	29.2	27.3	33.3	0.0	35.8	12.5	17.3	29.1	11.1	23.7
家具に転倒防止器具をつける	20.6	14.0	26.2	22.7	0.0	0.0	13.2	0.0	18.1	26.4	22.2	21.1
緊急時の連絡先の把握	19.8	32.0	20.0	22.0	16.7	0.0	22.6	12.5	15.7	20.9	22.2	18.4
K-N e tへの登録	14.0	30.0	13.8	18.2	41.7	50.0	7.5	0.0	14.2	10.9	0.0	7.9
近所の人との助け合い	11.7	2.0	13.8	13.6	25.0	25.0	7.5	0.0	9.4	15.5	5.6	18.4
防災訓練への参加	7.6	10.0	9.2	7.6	8.3	0.0	7.5	0.0	7.9	9.1	5.6	13.2
かしわメール配信サービスの登録	5.8	14.0	7.7	1.5	0.0	25.0	3.8	0.0	4.7	8.2	0.0	7.9
その他	3.5	0.0	4.6	4.5	16.7	25.0	3.8	0.0	4.7	1.8	0.0	5.3
特になし	18.8	20.0	15.4	15.9	33.3	0.0	22.6	37.5	23.6	11.8	11.1	13.2

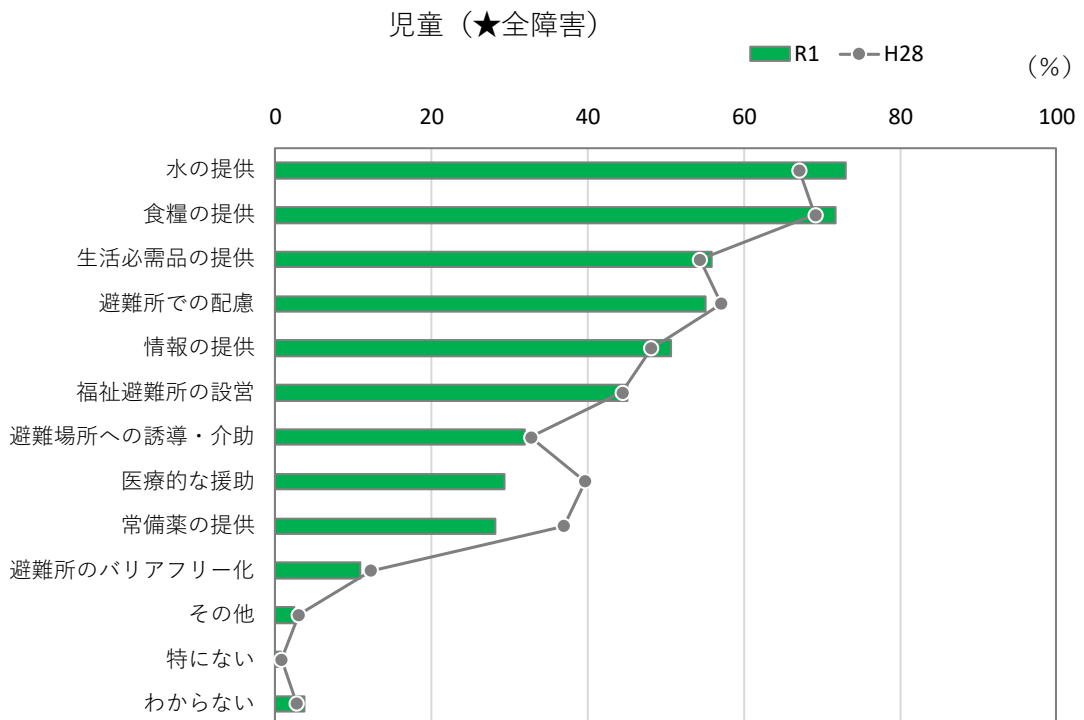
問 65. 災害が起きた時に支援してほしいことは何ですか（○はいくつでも）。

【児童】

児童全体では、「水の提供」「食糧の提供」の割合が多く、どちらも7割以上となっています。

障害種別でみると、肢体不自由は「生活必需品の提供」「避難場所への誘導・介助」「避難所のバリアフリー化」が他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、「医療的な援助」が約10ポイント、「常備薬の提供」が約9ポイント減少しています。



(単位：%)

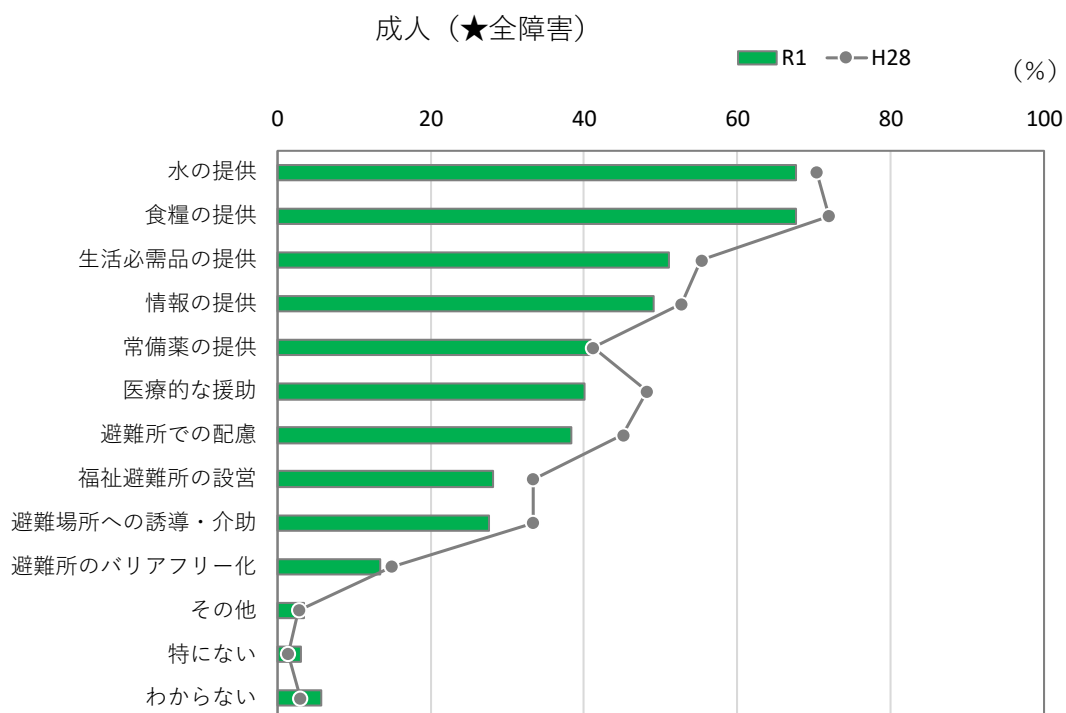
児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	379	3	13	33	241	170	8	1	20	22	22	28
水の提供	73.1	100.0	76.9	75.8	74.3	70.6	87.5	100.0	70.0	72.7	72.7	60.7
食糧の提供	71.8	100.0	69.2	66.7	73.0	71.8	87.5	100.0	70.0	59.1	77.3	60.7
生活必需品の提供	55.9	66.7	69.2	75.8	58.5	52.9	50.0	0.0	45.0	54.5	72.7	42.9
避難所での配慮	55.1	66.7	53.8	66.7	61.0	63.5	25.0	0.0	45.0	40.9	31.8	39.3
情報の提供	50.7	33.3	69.2	66.7	51.0	54.7	50.0	0.0	35.0	50.0	50.0	50.0
福祉避難所の設営	45.1	33.3	53.8	66.7	51.9	53.5	62.5	0.0	30.0	36.4	18.2	28.6
避難場所への誘導・介助	31.9	66.7	69.2	54.5	39.0	29.4	25.0	0.0	35.0	36.4	13.6	10.7
医療的な援助	29.3	0.0	30.8	36.4	26.6	26.5	37.5	0.0	65.0	36.4	36.4	28.6
常備薬の提供	28.2	66.7	15.4	27.3	26.6	25.9	37.5	0.0	55.0	54.5	31.8	10.7
避難所のバリアフリー化	10.8	33.3	23.1	48.5	13.3	8.8	25.0	0.0	25.0	18.2	0.0	7.1
その他	2.4	0.0	0.0	12.1	2.5	1.2	0.0	0.0	10.0	4.5	0.0	7.1
特になし	0.8	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
わからない	3.7	0.0	0.0	0.0	2.9	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	10.7

【成人】

成人全体についても、「水の提供」「食糧の提供」の割合が多く、それぞれ7割程度となっています。

障害種別で見ると、肢体不自由は「福祉避難所の設営」「避難所のバリアフリー化」が、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べると、「医療的な援助」が約8ポイント減少しています。

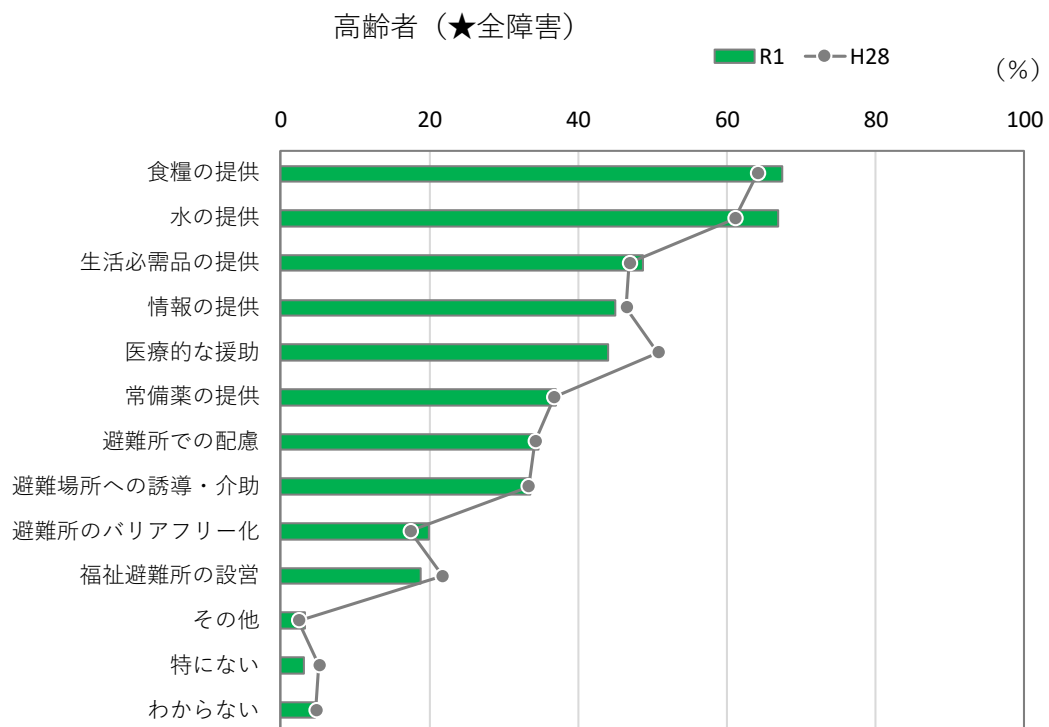


(単位：%)

成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	809	34	58	102	271	94	271	14	32	110	20	35
水の提供	67.7	76.5	62.1	77.5	65.7	62.8	69.7	64.3	59.4	73.6	70.0	65.7
食糧の提供	67.7	70.6	69.0	78.4	68.3	67.0	68.3	78.6	59.4	68.2	70.0	65.7
生活必需品の提供	51.1	50.0	50.0	60.8	52.0	54.3	53.9	57.1	37.5	46.4	50.0	57.1
情報の提供	49.1	61.8	69.0	52.9	43.5	46.8	48.3	57.1	43.8	45.5	55.0	54.3
常備菓の提供	40.9	35.3	24.1	45.1	34.3	38.3	52.0	64.3	43.8	50.0	30.0	42.9
医療的な援助	40.0	35.3	37.9	48.0	32.5	38.3	51.7	50.0	46.9	44.5	35.0	37.1
避難所での配慮	38.3	58.8	37.9	51.0	45.8	47.9	36.2	35.7	37.5	28.2	40.0	45.7
福祉避難所の設営	28.2	47.1	37.9	51.0	42.4	40.4	23.6	35.7	15.6	18.2	5.0	17.1
避難場所への誘導・介助	27.6	38.2	34.5	40.2	38.0	26.6	24.4	50.0	15.6	21.8	15.0	34.3
避難所のバリアフリー化	13.5	50.0	25.9	45.1	15.9	8.5	8.9	35.7	12.5	10.9	5.0	11.4
その他	3.5	8.8	3.4	6.9	4.1	6.4	3.3	7.1	0.0	5.5	0.0	11.4
特になし	3.1	2.9	1.7	2.9	2.6	1.1	3.7	0.0	3.1	2.7	5.0	2.9
わからない	5.7	2.9	3.4	2.0	7.0	9.6	7.0	0.0	9.4	1.8	0.0	8.6

【高齢者】

高齢者全体では、「水の提供」「食糧の提供」が6割以上と多くなっています。
前回調査と比べると、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

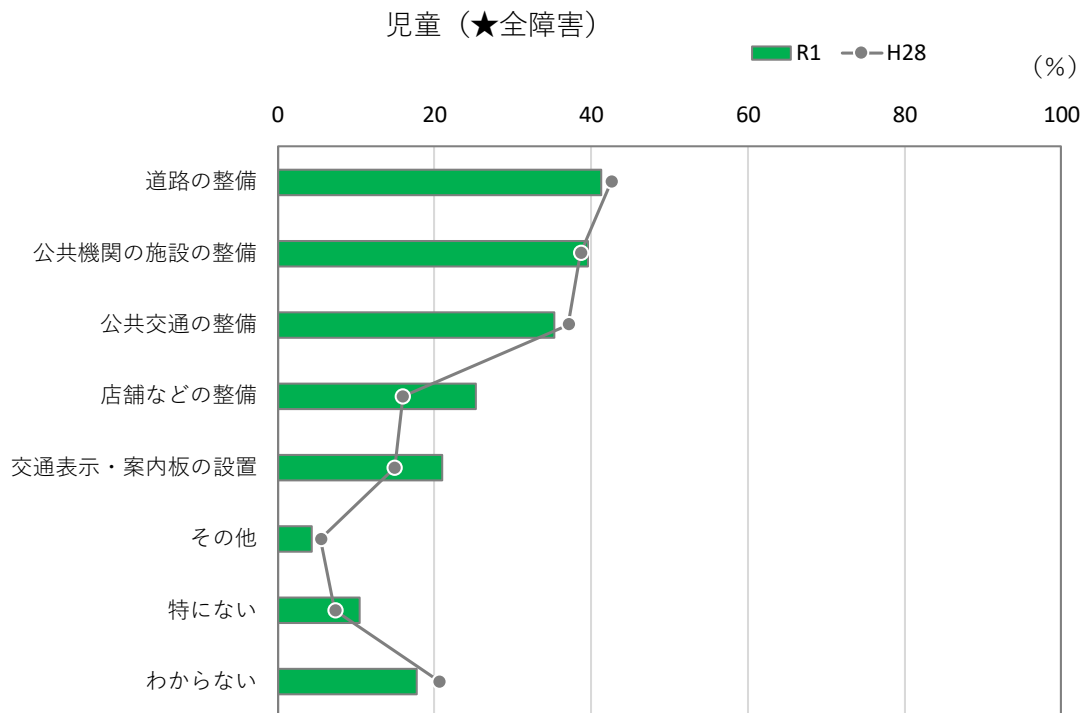
高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数(人)	522	49	66	139	13	2	53	8	126	110	18	38
食糧の提供	67.4	61.2	72.7	66.2	61.5	100.0	64.2	62.5	62.7	66.4	77.8	84.2
水の提供	66.9	57.1	74.2	63.3	53.8	100.0	58.5	75.0	65.9	68.2	72.2	86.8
生活必需品の提供	48.7	38.8	37.9	48.2	61.5	100.0	37.7	37.5	51.6	48.2	77.8	57.9
情報の提供	45.0	46.9	47.0	35.3	30.8	50.0	45.3	50.0	42.9	49.1	66.7	57.9
医療的な援助	44.1	38.8	45.5	46.0	38.5	50.0	24.5	25.0	46.8	53.6	55.6	50.0
常備薬の提供	37.0	38.8	34.8	35.3	38.5	0.0	39.6	25.0	34.9	42.7	50.0	39.5
避難所での配慮	34.7	38.8	45.5	40.3	53.8	0.0	26.4	50.0	26.2	39.1	27.8	39.5
避難場所への誘導・介助	33.5	51.0	30.3	43.9	46.2	50.0	26.4	50.0	27.0	30.9	33.3	23.7
避難所のバリアフリー化	19.9	44.9	18.2	30.9	15.4	0.0	3.8	12.5	8.7	26.4	16.7	18.4
福祉避難所の設営	18.8	26.5	18.2	18.7	46.2	50.0	11.3	12.5	18.3	17.3	33.3	15.8
その他	3.3	2.0	1.5	2.2	7.7	0.0	1.9	0.0	5.6	4.5	5.6	5.3
特になし	3.1	6.1	1.5	2.9	0.0	0.0	1.9	0.0	4.0	1.8	0.0	0.0
わからない	4.6	2.0	4.5	5.0	23.1	0.0	7.5	0.0	3.2	1.8	11.1	2.6

問 66. 今後バリアフリー化を進めていくうえで力を入れてほしい部分はどこですか
(○はいくつでも)。

【児童】

児童全体では、「道路の整備」「公共機関の施設の整備」が4割程度と多くなっています。
障害種別でみると、肢体不自由については「道路の整備」「公共機関の施設の整備」が、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査と比べ、「店舗などの整備」が約9ポイント増加しています。



(単位：%)

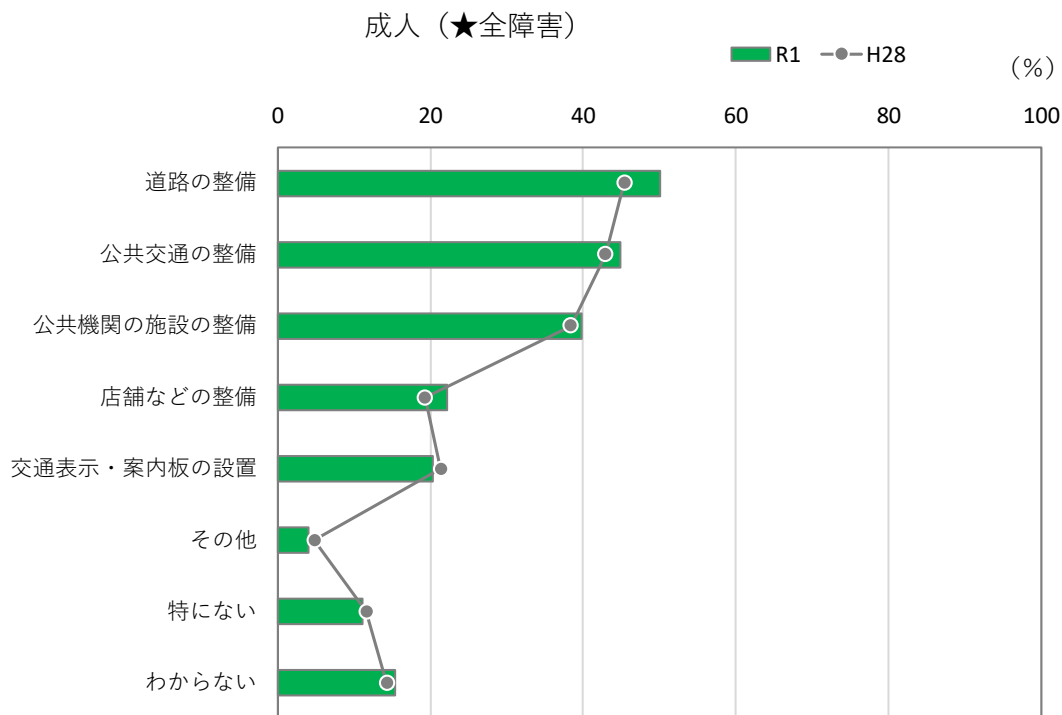
児童	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数(人)	371	3	13	32	236	167	8	1	20	21	21	28
道路の整備	41.2	33.3	46.2	62.5	41.1	38.9	75.0	100.0	45.0	61.9	42.9	42.9
公共機関の施設の整備	39.6	66.7	46.2	75.0	39.4	38.9	37.5	0.0	45.0	38.1	38.1	35.7
公共交通の整備	35.3	33.3	23.1	46.9	34.7	31.7	62.5	100.0	40.0	33.3	23.8	39.3
店舗などの整備	25.3	33.3	53.8	46.9	26.3	26.9	12.5	0.0	15.0	23.8	19.0	28.6
交通表示・案内板の設置	21.0	33.3	15.4	21.9	21.6	25.1	12.5	0.0	10.0	4.8	14.3	14.3
その他	4.3	0.0	7.7	21.9	5.1	1.2	12.5	0.0	15.0	14.3	0.0	10.7
特になし	10.5	0.0	0.0	0.0	10.2	10.2	0.0	0.0	20.0	19.0	9.5	14.3
わからない	17.8	33.3	7.7	0.0	15.3	19.8	12.5	0.0	15.0	9.5	33.3	21.4

【成人】

成人全体では、「道路の整備」が5割程度と最も多く、次いで「公共交通の整備」となっています。

障害種別でみると、肢体不自由は「道路の整備」「公共交通の整備」「公共機関の施設の整備」が、他の障害に比べ多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



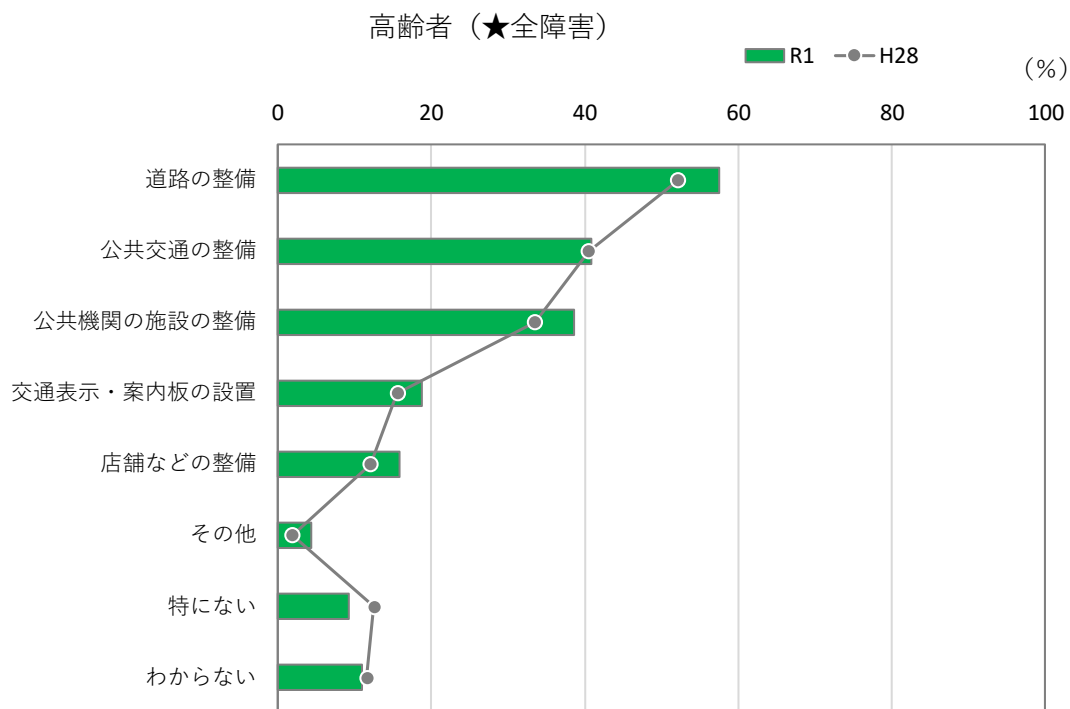
(単位：%)

成人	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数 (人)	791	34	57	103	263	92	262	15	31	107	20	33
道路の整備	50.1	73.5	49.1	71.8	48.7	39.1	45.8	93.3	48.4	59.8	60.0	48.5
公共交通の整備	44.9	61.8	50.9	56.3	41.8	38.0	43.9	66.7	48.4	44.9	35.0	27.3
公共機関の施設の整備	39.8	52.9	49.1	53.4	42.2	38.0	38.2	46.7	48.4	40.2	30.0	30.3
店舗などの整備	22.3	32.4	31.6	34.0	18.6	21.7	22.5	33.3	41.9	23.4	10.0	18.2
交通表示・案内板の設置	20.4	32.4	47.4	17.5	19.4	21.7	19.1	20.0	12.9	16.8	10.0	27.3
その他	4.0	8.8	7.0	5.8	3.4	7.6	3.8	6.7	0.0	3.7	0.0	12.1
特にない	11.1	5.9	3.5	6.8	11.8	13.0	14.5	6.7	3.2	6.5	15.0	12.1
わからない	15.4	8.8	7.0	3.9	17.1	16.3	17.6	0.0	12.9	14.0	15.0	21.2

【高齢者】

高齢者全体では、「道路の整備」が6割近くと最も多くなっています。

前回調査と比べ、大きな傾向の違いは見られません。



(単位：%)

高齢者	★全障害	視覚	聴覚	肢体	知的	発達	精神	高次脳	内部	難病	未認定	わからない・その他
有効回答数 (人)	511	49	64	133	11	3	49	8	125	109	18	37
道路の整備	57.5	67.3	51.6	61.7	45.5	33.3	42.9	62.5	49.6	59.6	77.8	56.8
公共交通の整備	40.9	34.7	29.7	42.1	45.5	33.3	40.8	50.0	40.8	45.0	55.6	43.2
公共機関の施設の整備	38.6	34.7	35.9	45.1	63.6	66.7	32.7	37.5	32.8	45.9	38.9	43.2
交通表示・案内板の設置	18.8	18.4	23.4	14.3	18.2	0.0	14.3	25.0	18.4	23.9	44.4	16.2
店舗などの整備	15.9	18.4	12.5	21.1	9.1	0.0	4.1	25.0	15.2	20.2	16.7	13.5
その他	4.3	10.2	3.1	3.0	9.1	33.3	2.0	0.0	7.2	0.9	5.6	5.4
特にない	9.2	6.1	10.9	6.8	0.0	0.0	18.4	12.5	11.2	6.4	0.0	2.7
わからない	11.0	12.2	14.1	9.8	9.1	0.0	12.2	0.0	10.4	7.3	11.1	16.2

全体を通して

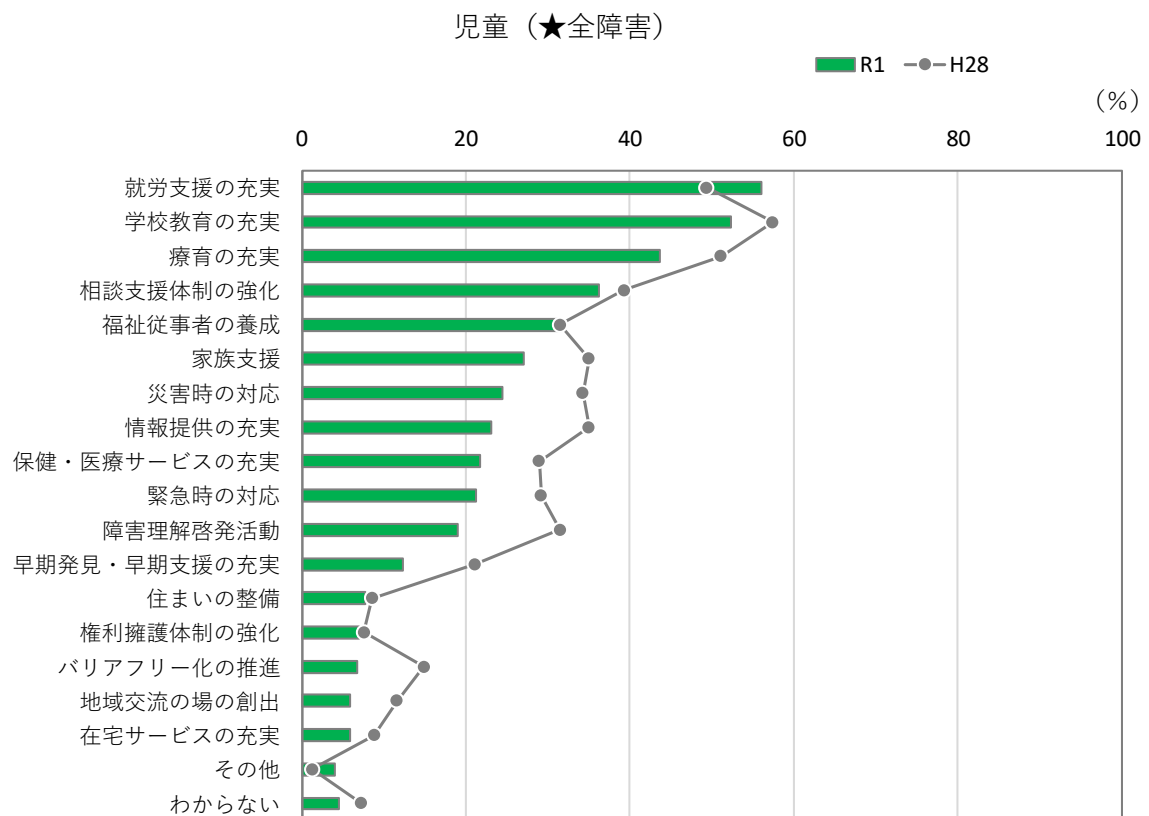
問 67. 柏市の資源や財源は限られており、特に必要な取組みから優先して実施していかなければなりません。今後、柏市の障害福祉の取組みについて、特に優先して力を入れてほしいものは何ですか（○は5つまで）。

【児童】

児童全体では、「就労支援の充実」が最も多く、5割以上となっています。

障害種別でみると、肢体不自由で「災害時の対応」「保健・医療サービスの充実」が、発達障害で「療育の充実」「相談支援体制の強化」が、他の障害と比べ多くなっています。

前回調査では回答可能な選択肢数に上限がなかったため単純な比較はできませんが、「情報提供の充実」が約12ポイント、「障害理解啓発活動」が約13ポイント減少しており、「就労支援の充実」が約7ポイント増加しています。



(単位：%)

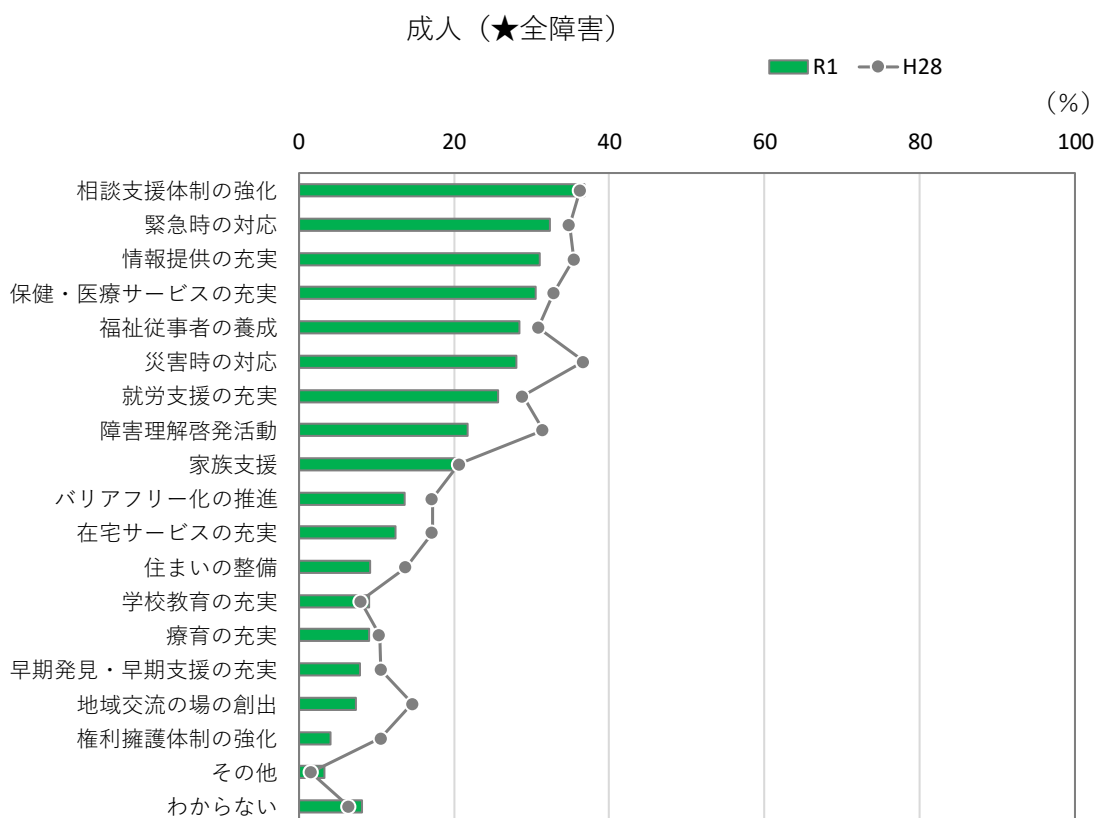
児童	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	373	3	13	33	238	167	8	1	19	20	22	28
就労支援の充実	56.0	66.7	76.9	39.4	60.1	61.1	75.0	0.0	36.8	50.0	45.5	39.3
学校教育の充実	52.3	0.0	61.5	45.5	47.1	59.9	50.0	0.0	47.4	35.0	59.1	64.3
療育の充実	43.7	0.0	61.5	39.4	42.9	52.1	12.5	0.0	26.3	20.0	45.5	50.0
相談支援体制の強化	36.2	33.3	53.8	36.4	39.9	44.3	37.5	0.0	10.5	30.0	18.2	25.0
福祉従事者の養成	31.6	33.3	23.1	39.4	36.1	29.3	0.0	0.0	15.8	30.0	27.3	14.3
家族支援	27.1	66.7	30.8	21.2	31.1	32.9	12.5	100.0	10.5	35.0	27.3	10.7
災害時の対応	24.4	33.3	53.8	39.4	26.9	24.6	0.0	0.0	21.1	30.0	13.6	25.0
情報提供の充実	23.1	66.7	23.1	18.2	21.4	25.7	25.0	0.0	26.3	20.0	22.7	10.7
保健・医療サービスの充実	21.7	33.3	23.1	36.4	23.9	18.0	25.0	100.0	36.8	45.0	22.7	17.9
緊急時の対応	21.2	66.7	23.1	18.2	23.1	22.2	25.0	100.0	26.3	20.0	13.6	17.9
障害理解啓発活動	19.0	66.7	0.0	12.1	21.8	25.7	62.5	0.0	0.0	0.0	4.5	14.3
早期発見・早期支援の充実	12.3	33.3	7.7	3.0	8.4	16.8	0.0	0.0	5.3	0.0	22.7	10.7
住まいの整備	7.8	33.3	7.7	15.2	9.7	6.6	0.0	0.0	0.0	20.0	4.5	7.1
権利擁護体制の強化	7.0	0.0	15.4	3.0	10.1	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
バリアフリー化の推進	6.7	0.0	23.1	27.3	8.4	3.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	3.6
地域交流の場の創出	5.9	0.0	7.7	6.1	5.9	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	3.6
在宅サービスの充実	5.9	0.0	7.7	12.1	7.1	5.4	12.5	0.0	10.5	15.0	0.0	0.0
その他	4.0	0.0	0.0	12.1	5.0	3.0	0.0	0.0	15.8	0.0	0.0	3.6
わからない	4.6	0.0	0.0	3.0	2.9	2.4	0.0	0.0	5.3	5.0	4.5	17.9

【成人】

成人全体では、「相談支援体制の強化」が最も多く、次いで、「緊急時の対応」「情報提供の充実」「保健・医療サービスの充実」となっています。

障害種別で見ると、肢体不自由で「緊急時の対応」「保健・医療サービスの充実」「バリアフリー化の推進」が、発達障害で「相談支援体制の強化」「福祉従事者の養成」「就労支援の充実」が他の障害と比べ高い割合となっています。

前回調査では回答可能な選択肢数に上限がなかったため単純な比較はできませんが、「災害時の対応」は約9ポイント、「障害理解啓発活動」は約10ポイント減少しています。



(単位：%)

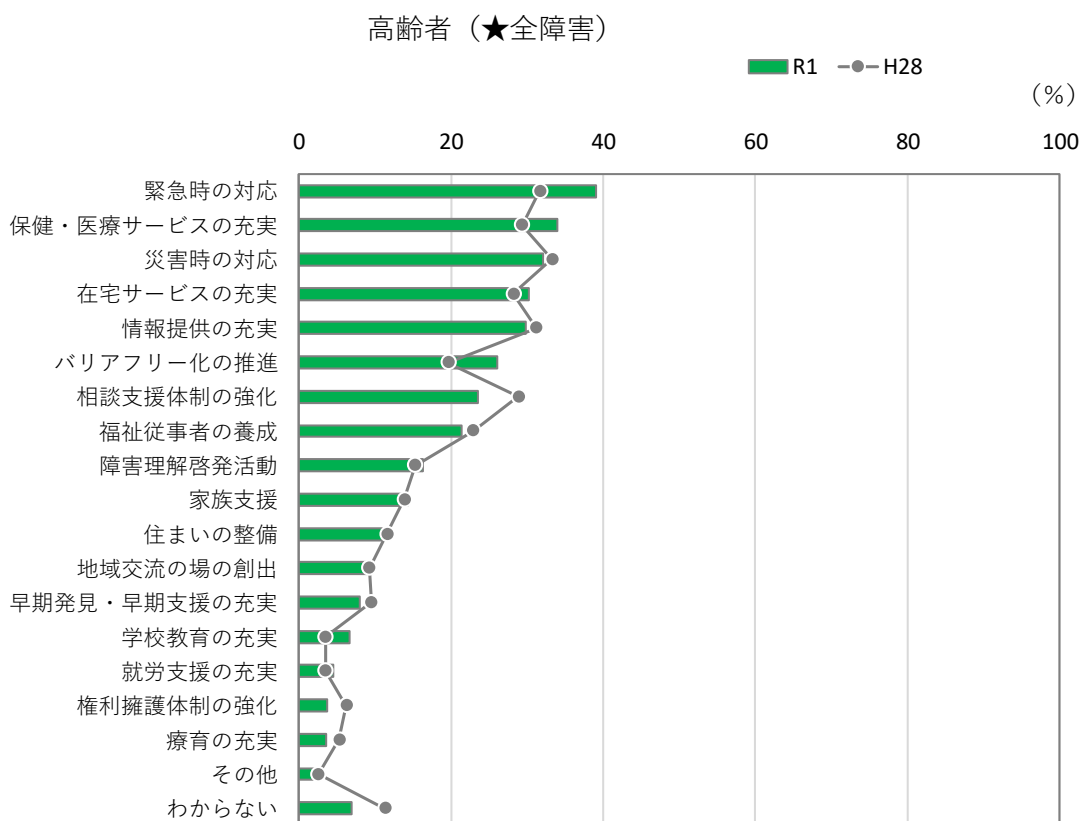
成人	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他
有効回答数（人）	807	34	58	99	269	94	270	14	33	109	21	37
相談支援体制の強化	36.8	32.4	17.2	26.3	40.1	48.9	44.1	21.4	24.2	27.5	38.1	40.5
緊急時の対応	32.3	44.1	44.8	44.4	36.1	31.9	30.4	57.1	42.4	31.2	28.6	37.8
情報提供の充実	31.0	44.1	41.4	27.3	28.3	28.7	35.2	35.7	33.3	25.7	28.6	29.7
保健・医療サービスの充実	30.5	26.5	32.8	42.4	21.6	25.5	32.6	42.9	33.3	54.1	47.6	10.8
福祉従事者の養成	28.4	38.2	32.8	38.4	40.1	50.0	22.2	21.4	21.2	20.2	28.6	24.3
災害時の対応	28.0	41.2	25.9	34.3	29.7	25.5	23.7	35.7	42.4	33.0	14.3	37.8
就労支援の充実	25.7	8.8	19.0	11.1	23.0	40.4	30.4	28.6	15.2	17.4	33.3	18.9
障害理解啓発活動	21.8	23.5	34.5	17.2	25.3	28.7	24.1	14.3	9.1	13.8	9.5	13.5
家族支援	20.3	20.6	19.0	21.2	25.3	25.5	21.9	21.4	6.1	18.3	19.0	18.9
バリアフリー化の推進	13.6	47.1	25.9	37.4	6.7	4.3	10.7	42.9	15.2	22.9	0.0	2.7
在宅サービスの充実	12.5	23.5	22.4	30.3	13.8	7.4	13.0	35.7	9.1	14.7	0.0	2.7
住まいの整備	9.2	5.9	10.3	16.2	7.8	6.4	8.9	7.1	9.1	11.0	0.0	8.1
学校教育の充実	9.0	8.8	8.6	8.1	6.3	11.7	10.0	14.3	3.0	11.9	9.5	8.1
療育の充実	9.0	5.9	3.4	5.1	14.9	13.8	6.7	14.3	3.0	7.3	14.3	0.0
早期発見・早期支援の充実	7.9	2.9	1.7	10.1	2.6	8.5	11.5	7.1	6.1	11.9	23.8	8.1
地域交流の場の創出	7.3	5.9	3.4	2.0	7.8	12.8	10.7	14.3	0.0	1.8	4.8	2.7
権利擁護体制の強化	4.1	11.8	5.2	4.0	3.3	7.4	6.3	7.1	3.0	1.8	0.0	2.7
その他	3.3	2.9	5.2	5.1	3.3	3.2	3.3	21.4	0.0	2.8	0.0	5.4
わからない	8.2	5.9	5.2	5.1	8.2	3.2	7.4	0.0	12.1	7.3	9.5	13.5

【高齢者】

高齢者全体では、「緊急時の対応」が最も多く、次いで「保健・医療サービスの充実」「災害時の対応」となっています。

障害種別で見ると、視覚障害で「バリアフリー化の推進」が、難病で「保健・医療サービスの充実」が他の障害と比べ高い割合となっています。

前回調査では回答可能な選択肢数に上限がなかったため単純な比較はできませんが、「緊急時の対応」は約8ポイント増加しています。



(単位：%)

高齢者	★ 全 障 害	視 覚	聴 覚	肢 体	知 的	発 達	精 神	高 次 脳	内 部	難 病	未 認 定	わ か ら な い ・ そ の 他 ・
有効回答数（人）	509	50	62	130	14	3	54	7	122	106	18	39
緊急時の対応	39.1	36.0	43.5	36.2	50.0	66.7	37.0	57.1	39.3	36.8	66.7	56.4
保健・医療サービスの充実	34.0	26.0	27.4	39.2	7.1	0.0	22.2	14.3	33.6	41.5	44.4	35.9
災害時の対応	32.0	26.0	35.5	31.5	28.6	33.3	29.6	14.3	35.2	27.4	55.6	43.6
在宅サービスの充実	30.3	34.0	25.8	32.3	14.3	0.0	24.1	0.0	31.1	34.9	22.2	28.2
情報提供の充実	29.9	32.0	33.9	20.8	28.6	66.7	24.1	57.1	31.1	30.2	61.1	23.1
バリアフリー化の推進	26.1	40.0	27.4	36.9	7.1	0.0	9.3	28.6	18.9	26.4	38.9	20.5
相談支援体制の強化	23.6	32.0	27.4	27.7	35.7	33.3	25.9	14.3	18.0	25.5	16.7	15.4
福祉従事者の養成	21.4	30.0	21.0	18.5	57.1	100.0	24.1	42.9	21.3	15.1	22.2	20.5
障害理解啓発活動	16.3	36.0	25.8	12.3	42.9	66.7	18.5	28.6	12.3	9.4	22.2	5.1
家族支援	14.3	8.0	21.0	13.8	14.3	33.3	20.4	14.3	8.2	18.9	22.2	15.4
住まいの整備	11.0	12.0	17.7	13.8	0.0	0.0	11.1	14.3	6.6	8.5	5.6	5.1
地域交流の場の創出	9.0	14.0	16.1	4.6	7.1	33.3	7.4	42.9	7.4	4.7	22.2	2.6
早期発見・早期支援の充実	8.1	2.0	8.1	7.7	0.0	0.0	9.3	0.0	6.6	9.4	16.7	20.5
学校教育の充実	6.7	4.0	4.8	5.4	0.0	0.0	5.6	0.0	4.9	10.4	22.2	0.0
就労支援の充実	4.5	4.0	3.2	3.1	7.1	0.0	9.3	0.0	3.3	3.8	11.1	0.0
権利擁護体制の強化	3.7	6.0	3.2	3.1	14.3	33.3	11.1	0.0	1.6	2.8	5.6	0.0
療育の充実	3.5	2.0	3.2	2.3	7.1	33.3	3.7	0.0	5.7	3.8	5.6	0.0
その他	2.6	0.0	4.8	0.8	0.0	0.0	1.9	0.0	2.5	3.8	0.0	5.1
わからない	6.9	8.0	4.8	5.4	7.1	0.0	7.4	0.0	7.4	5.7	5.6	5.1

4. 自由意見のまとめ

問 68. 全体を通して、また、親や介護者の立場として何かご意見があればご自由に記入してください。

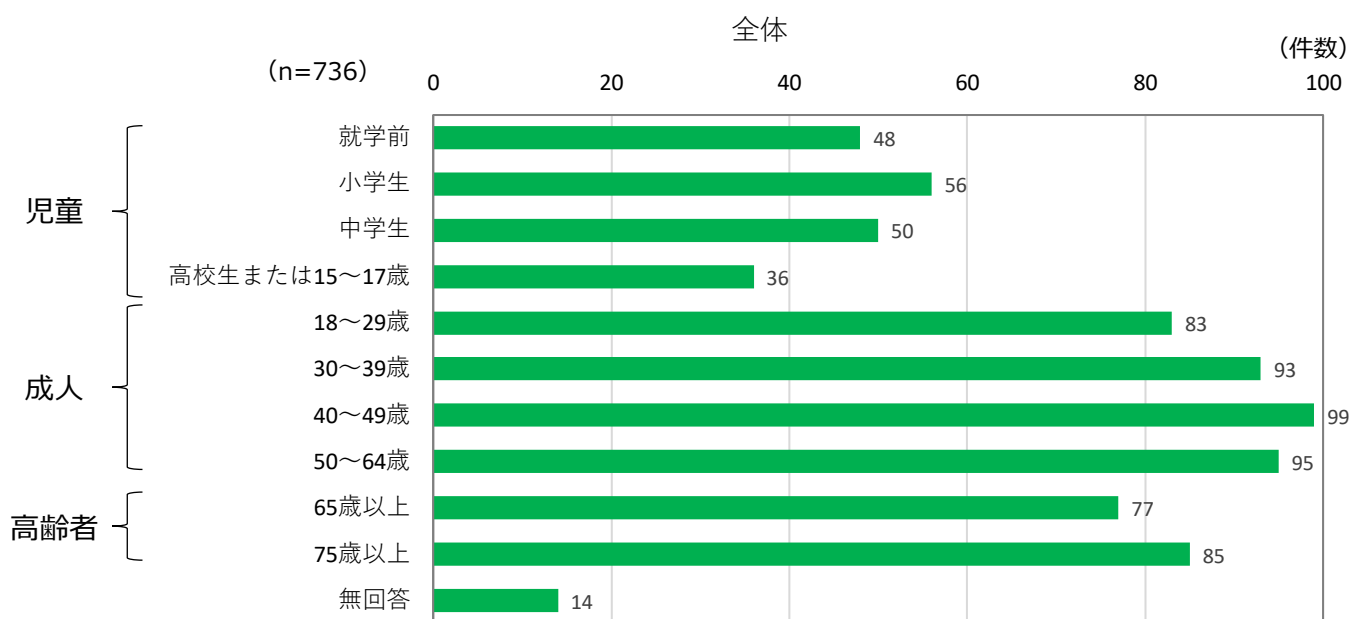
問 68 での自由記述欄には、多くの方からご意見をいただきました。これら意見を分類し、代表的な回答を抜粋して概要をまとめました。

※ 一人の回答につき、複数の意見を含む場合は、それぞれ分類し件数としてカウントしています。

※ ご意見は、できる限り原文のまま掲載しています。

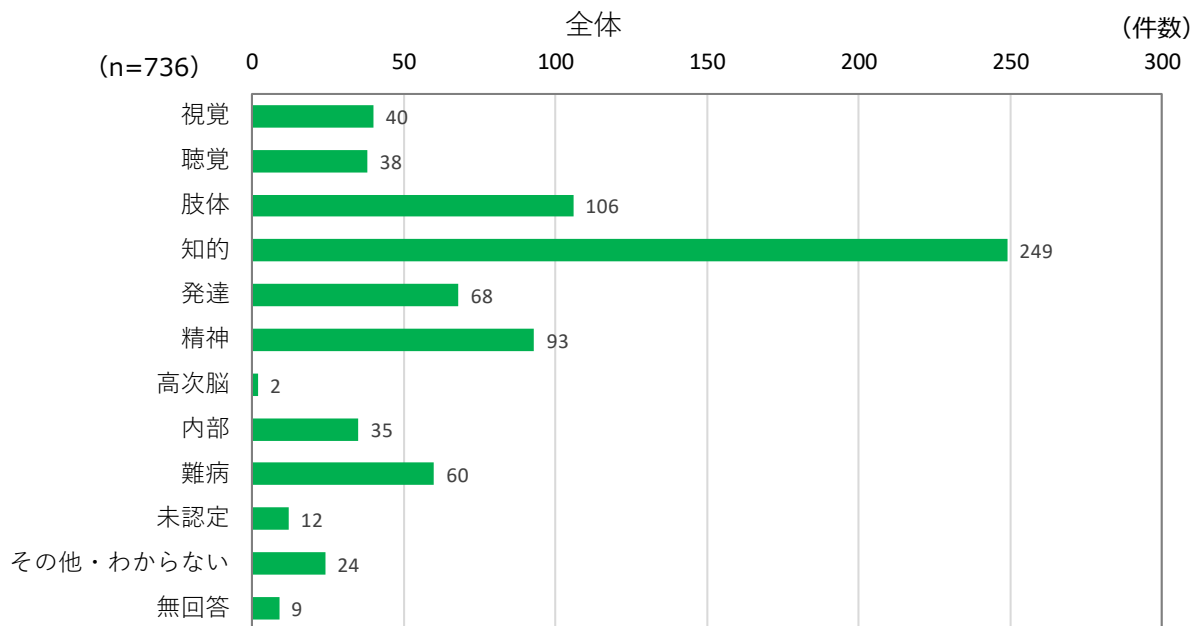
(1) 年齢別回答者数

自由記述欄の回答者数は 736 人でした。うち、17 歳以下の児童は 3 割近く、成人は 5 割、高齢者は 2 割になります。



(2) 障害別回答者数

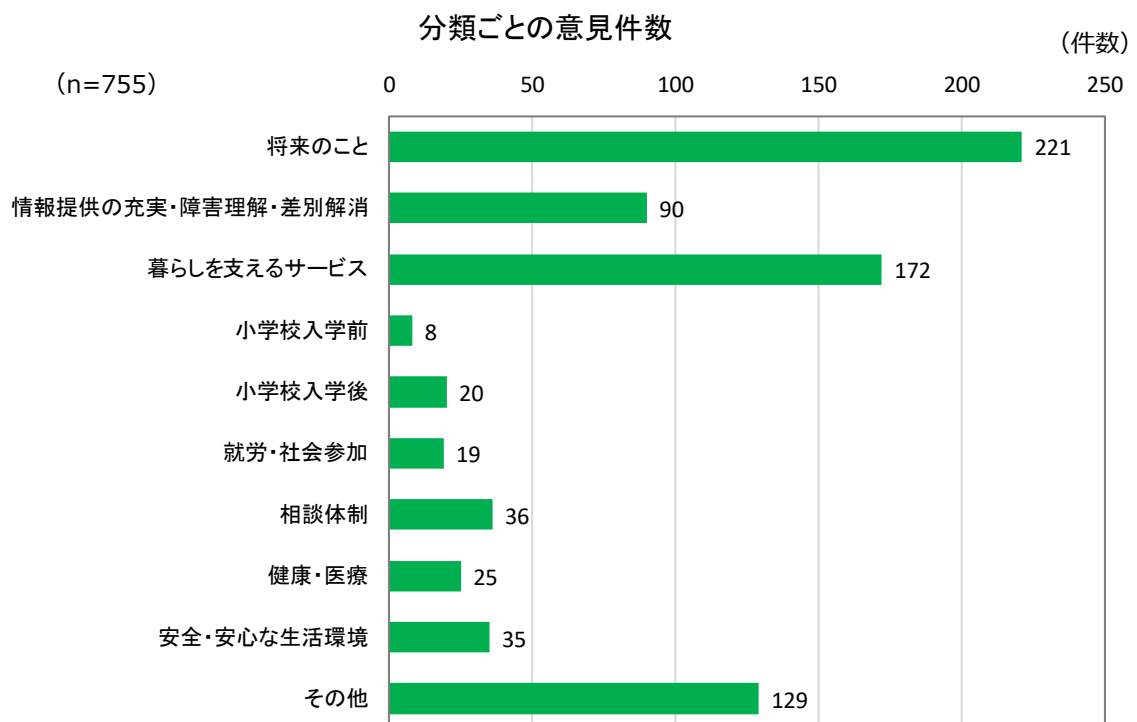
回答者数のうち、知的障害が全体の3割以上と最も多くなっています。



(3) 分類ごとの回答件数

分類ごとの回答件数の内訳は以下の通りです。

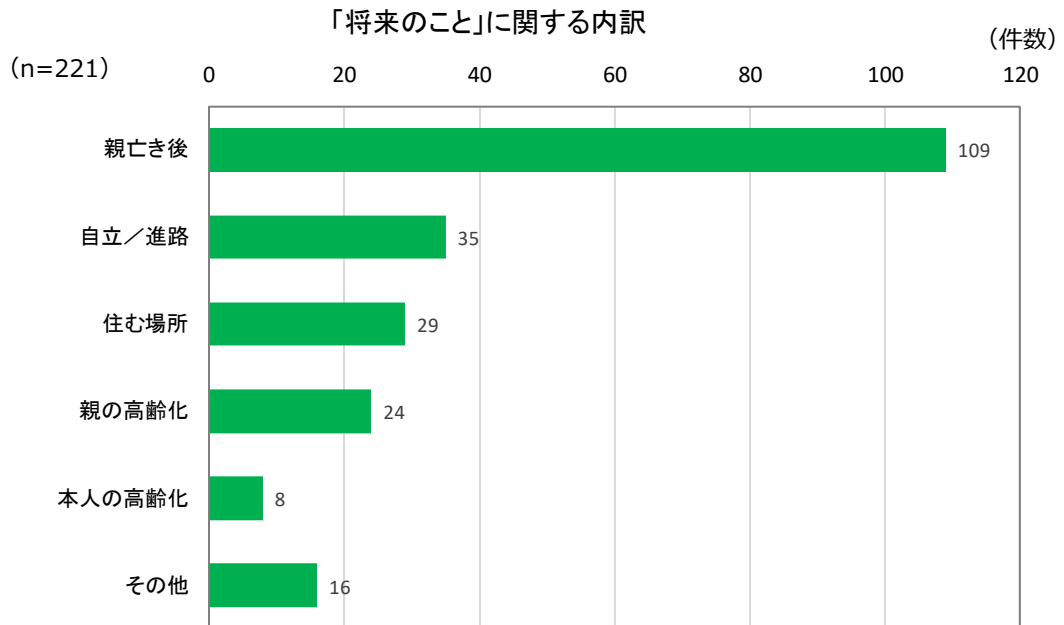
「将来のこと」に関する意見が最も多く、221件となっています。次いで、「暮らしを支えるサービス」が172件です。



(4) 分類ごとの意見のまとめ

① 将来のこと (221 件)

「親亡き後」に関する意見が最も多く、109 件ありました。他に、「自立／進路」「住む場所」「親の高齢化」に関する意見も多くありました。



「親亡き後」(109 件)

「親亡き後への不安」や「親亡き後のための福祉サービスの充実」を求める意見が多くありました。

<ul style="list-style-type: none">今は親も元気で子どもの面倒を見てあげられるが、高齢になってきていつまで一緒に暮らせるのか不安です。親が倒れたり、死んだ後、子どもが安心して暮らせるグループホームやケアホームを願っています。親亡き後に安心して暮らせる場所を充実させて下さい。
<ul style="list-style-type: none">将来一人になった時、どのようにしたら良いか、今から考えている。
<ul style="list-style-type: none">自宅で生活しているが、親が年をとっているので面倒を見られなくなったときに生活していけるところがすぐに見つかって入所できるか心配です。
<ul style="list-style-type: none">先のことがとても気になっている。親がいなくなったときにはとか。そういう不安を少しでも減らせるようにしていきたい。
<ul style="list-style-type: none">全ての親は自分が亡くなったあとのことを心配していると思います。親亡き後の福祉サービスの情報提供がほしい。
<ul style="list-style-type: none">まだ親が元気ですが、親亡き後のことを考えると不安です。限られる資源、財源の中で厳しいとは思いますが、障がい者が地域の中で生活できるようお力添えをお願いしたいです。
(他 103 件)

「自立／進路」(35件)

「将来の自立や進路」への不安や希望に関する意見が多くありました。

<ul style="list-style-type: none">今は自宅で生活しているが、いずれは一人で暮らせるようになりたいと思います。結婚もしてみたいと思います。
<ul style="list-style-type: none">現在の住居に本人は不満をもっているが、一人暮らしをする自信はなさそう。近い将来の一人暮らしに向けて、引きこもる息子をどうすればいいか、悩みます。
<ul style="list-style-type: none">配偶者との2人暮らし。今、夫は元気で生活の全てを支えてくれているが、将来が不安。地域で自立した生活ができるような支援の充実を切望する。
<ul style="list-style-type: none">将来への不安があります。就労への道があるのか、1人で生活していくことが出来るのかどうか、気軽に本人が相談できる場所や集まれる場所がほしいと思います。
(他 31件)

「住む場所」(29件)

「将来の住む場所に関する不安」についての意見が多くありました。

<ul style="list-style-type: none">いつまでも親が介護し続けられないので、早いうちに自分の居場所を作ってあげられたらと思っています。グループホーム等入所に関して空きがない状態。
<ul style="list-style-type: none">子どもの将来の生活の場について不安がある。
<ul style="list-style-type: none">視覚障害のため、将来一人になったとき、本人に最も暮らしやすい施設を紹介してください。
<ul style="list-style-type: none">両親が見られなくなったとき、近くに入所施設のような所がほしいと思います。
<ul style="list-style-type: none">子どもはまだ小さいが、将来成人した時に一人で暮らすことは難しいと思うので施設が十分に入れる状況なのかが心配。仮に施設に入れない場合、グループホームの数は十分なのか。まだまだ先のこととは言えとても心配です。その辺りを色々相談できる機関があると助かるし心強いです。
(他 24件)

「親の高齢化」(24件)

「親の高齢化により生じる困難への不安」に関する意見が多くありました。

<ul style="list-style-type: none">近所に住む両親はまだ元気だが、介護等が必要となった場合、自分が動かないといけないので、不安がある。
<ul style="list-style-type: none">親の高齢化に伴う今後の生活環境の変化が不安。
<ul style="list-style-type: none">今は親が丈夫なので良いが、将来親も高齢化となり、他の兄妹にも負担になるようになったら心配である。一人で生活は出来ないなので、その時どうしたらいいか、ずっと考えている。
(他 21件)

「本人の高齢化」(8件)

「本人の高齢化により生じる困難に対する不安」についての意見がありました。

• 今は特にないが、高齢化により、買い物・家事が困難になった時が心配。
• 私は今、一人で住んでいます。これから体が思うように行かなくなったときのことを考えると全ての面で不安になります。高齢のため、ボランティアも出来ません。せめて少しでも皆様に迷惑をかけないですむようにと願っています。
(その他6件)

「その他」(16件)

「将来の見通しが持てないことへの不安」や「子どもの将来への希望」等の意見が寄せられました。

② 情報提供の充実・障害理解・差別解消(90件)

「障害理解・差別解消」に関する意見が最も多く、46件の意見がありました。また、「情報提供の充実」(29件)、「申請手続」に関する意見(15件)が挙げられています。

「障害理解・差別解消」(46件)

「誰もが住みやすい柏市になってほしい」といった意見のほか、「精神障害や高次脳機能障害等、外見では分からない障害への理解の促進」「幼少期からの福祉教育の充実」「ヘルプマークの活用促進」に関する意見が多くありました。

• だれもが安心して暮らせる町に柏市もなってほしい。やさしい都市づくりをお願いします。
• 障害理解がまだまだ遅れていることに不安を感じております。特別ではなく、普通に接して頂ける世の中にしていただけることを願っています。
• 障がいというものをもっと広めて、色々な人がいて良いんだということを市民全体が理解できるようになれば良い。
• 学校や通所先では手厚い支援を受けることが出来ていますが、地域では偏見が強く生活しづらいです。
• 障害の有無に関らず、色々な人と関わる機会がある世の中になったら、「みんな違ってみんないい」という意識をもった人が増え、みんなが暮らしやすい社会になると思います。
• 公共の場では特に、杖をついている人、車いすに乗る人への心配りがなさ過ぎる。
• 精神障害に関しては、ちょっと見ただけではわかってもらえない。又、自分から他人に言うこともないので、つらさをわかってもらえない。
• 病気や障害は目に見えるものだけではない(健康に見えても病気を抱えている人がいる)ということがもっと広まってくるとよい。
• 私は高次脳機能障害者です。見た目で分かりづらいので、いつも周囲の理解を得られず、大変な思いをしながら生活しています。

<ul style="list-style-type: none"> 障害児・者も健常者も同じ人間だということを幼い頃から学習してほしい。「かわいそうだから、大変だから」ではなく、自然と手をかせる世の中になってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 障がい者が日常を暮らしやすくなるために、小学校からの福祉教育の実施、充実で未来へつなげる。
<ul style="list-style-type: none"> 障がい理解を「学校」から発信してほしい。学校からなら年齢の小さいうちから、また、大人数の人たちに（子どもや保護者含めて）障がい特性などが伝わりやすいのではないかと思うから。
<ul style="list-style-type: none"> 偏見を持ってみられるのが一番辛いです。子どもの頃から障害に対する理解が必要だと思います。子どもへの障害に対する教育を充実させてほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> 保育園、幼稚園への理解、受け入れの拡大をしないとこの差別の連鎖は続くと思います。幼い子どもの頃から多様な人と関わることは健常児にとってもプラスになると思います。
<ul style="list-style-type: none"> （障害のある方が）私たちと変わらないただの個人としてみることが出来るようになるには、まずは知ること、親しくなることがとても大切だと思います。是非小さいうちから一緒に過ごせる機会を自然と持っていけるような支援をしてくださることを希望します。
<ul style="list-style-type: none"> ヘルプマークが知られていないので電車が苦痛です。派遣社員でヘルプマークをつけていると仕事が来なくなるのが辛い。
<ul style="list-style-type: none"> ヘルプカードはあるが、知的障害を示すものがないのであればいいと思います。
<p>(他 29 件)</p>

「情報提供の充実」(29 件)

障害福祉サービスに関する情報について、「よく分からない」「もっと分かりやすくしてほしい」といった意見が多くありました。

<ul style="list-style-type: none"> 何も知らない当事者の気持ちを理解し、「わかりやすく」説明してもらえたことが、一番ほっとします。ぜひ、お願いします。
<ul style="list-style-type: none"> 様々な制度やサービスがあるが、自分で調べて、言わないと使えない。
<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉サービスで知らないサービスがある。他の障害者の方も知らないサービスが有ると思うので、もっと情報提供が必要だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 障害者に対する柏市の取り組みや情報を発信してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 免除されるお金のことや、支援してくれる場所がよく分からない。分かりやすく教えてくれると助かります。
<ul style="list-style-type: none"> 受けられるサービスを知るためにネットで情報を集めているが大変です。
<ul style="list-style-type: none"> 小学校の支援学級に在籍しているが、進学に関する情報を周知させてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 子は未就学児なので、節目ごとにサービスや相談できるところの一覧や冊子があると良いと思う（今後の見通しが全く想像できていない）
<p>(他 21 件)</p>

「申請手続」(15件)

「福祉サービスの申請手続きの簡素化や一元化」を求める意見が多くありました。

• 障害福祉サービスを受けるにあたり、提出する申請書や現況届等、相当件数が多く、介護者の負担となっている。
• 支援を受ける際の手続きの簡素化を望みます。
• 県・市・保健所・年金等の提出書類が多すぎる。視覚障害者の為、記入・提出が困難。
• 本人の移動が難しい場合、市役所の方が本人のいるところに来ていただけたらとか、代理人で住むように配慮していただけたらと助かります。
• 市の相談窓口や申請手続きを一括で出来るようにしてほしい。役所内の各部署間での連携が出来ていないので、何度も同じ事を話すということが多すぎて、精神的ストレスが強い。
(他 10 件)

③ 暮らしを支えるサービス (172件)

「サービスの充実」に関する意見が最も多く、28件の意見がありました。ほかには、「グループホーム」(27件)、「入所施設」(19件)、「福祉従事者」(15件)に関する意見がありました。また、「年代別の意見」(28件)と「障害種別の意見」(10件)もあります。

「サービスの充実」(28件)

「地域で安心して暮らすためにサービスを充実してほしい」、「必要とするサービスが十分でない」といった意見が多くありました。

• 老いていく中、近い将来、支援相談員の力添えを得ながら、多様な福祉サービスを利用し、地域での生活を考えています。重度障害者に対する福祉サービスの充実を速やかに活用できれば助かります。
• 障害(視覚障害)全盲になっても、不安なく一人暮らしが出来る対応がほしい。
• 就職先、デイサービスなどが開設と同時に申し込みしなければ入れないほど、枠が不足していると感じます。充実してほしいと思います。選択をする余地や幅がないに等しい。
• 卒業後の生活が不安です。生活介護や日中一時支援の施設を利用したいけど、既に定員がいっぱいで入所できないので、どこへ行けば良いのか分かりません。もっと施設を増やしてほしいです。
• 親がけがをしてショートステイを利用する時も自分で色々電話して大変だった。
• 利用したい支援(サービス)は一応存在するものの、実際は機能していなかったり定員いっぱいでは利用できないなど。結局利用できないことが非常に多いと感じます。情報もなかなか入ってこず、見つけるのにも苦労します。
(他 22 件)

「グループホーム」(27件)

グループホームの拡充を求める意見が多くありました。

• こどもが1人でも生活していけるようグループホームを充実して欲しい。
• こどももグループホームで生活したいと望んでいるが数が全く少なく、どこのグループホームにも入所できない。
• 質の良いグループホームを増やしてほしい。
• 現在は親と同居ですが、本人が一人になったときに入りたいグループホームが少ないので不安です。
• 親は年老いていき、こどもが安心して暮らせる、障害が重度のレベルに対応したグループホームが少ないため、市でも重度レベルのグループホームを増やして頂きたい。
• 知的障害のグループホームが少ないので、設立するのが難しいのであれば、高齢者のグループホームに知的障害者も入居できる枠を何人か確保できる体制をとってほしい。
(他 21 件)

「入所施設」(19件)

入所施設の拡充を求める意見が多くありました。

• 入所施設の数少なく新しい開所も認められにくいいため、自宅介護が親の高齢化で苦しくなっている。
• 色々な障害のある人が(もちろん重度の人も)、安心して生活できる入所施設があると良いと思います。
• 施設入所を考えていますが、入所する場所がありません。早急にほしいです(重度身体障害者専用)。
(他 16 件)

「福祉従事者」(15件)

「福祉従事者の不足」や「福祉従事者の待遇改善」に関する意見が多くありました。また、「福祉従事者の質の向上」についても意見が出されています。

• 施設で働くスタッフの方々の賃金、待遇を良くし、今の職員不足がなくなり、より健全な施設運営が出来るよう祈るばかりです。
• 色々サービスが多くても、それを行うヘルパーや支援者が少ないのが現実です。
• 福祉従事者の人数が少ない。全く足りてない。人がいなさすぎて、ショートステイの入浴介助者がおらず、男性利用者は自宅で風呂に入ってきてくれと言われるほどです。

<ul style="list-style-type: none"> 作業所や行動援護などでお世話になっている事業所の職員さんは、とてもよくやってくれていて感謝しています。でも、どこの事業所も人手不足で職員さんの負担も大きいと思います。職員さんのお給料をもっと増やしてあげられるような仕組みを作ってほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> 障がい者支援者にはもう少し障害特性に対する知識をつけ、当事者に寄り添ってほしいです。不適切な支援は当事者にマイナスとなる。
<ul style="list-style-type: none"> 職員の育成にも力を入れていただきたい。質の高いスタッフを育ててほしい。
(他 9 件)

「年代別の意見」(31 件)

児童は「放課後等デイサービス」、成人は「余暇や日中活動の充実」に関する意見が多くありました。

児童 (17 件)

<ul style="list-style-type: none"> 我が子は自閉症児のなかでも大変な部類の子で、一緒にいると心が休まる時がありません。放課後デイサービスのおかげでなんとか育てられているなど感じています。小学校に上がるまでは放課後デイサービスはなく、療育園は 14 時には終わっていたのでかなりしんどかったです。未就学児の預かり体制がもっと充実したらいいなと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 放課後デイサービスを利用しているが、夏休みなどは時間が 16 時までとかなることが多く、朝も受け入れ時間が 9 時からと遅いので、なかなか正社員として働けない。経済的にも困るのでなんとかしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 放課後デイサービスを利用しているが、どこもいっぱい利用したい日に利用できないことが多々あるのでもっと充実してほしい。
(他 14 件)

成人 (13 件)

<ul style="list-style-type: none"> 成人になって余暇を楽しめる場所が少ない。トライアングルのように成人デイサービスを増やしてほしい。スポーツを楽しめる障がい者が優先的に使える施設を作してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 18 歳以降の対応も考えていただきたいです。親も高齢になりますと子どもと一緒に動くことができないときもあります。毎日でなくても職場から寄れるところなど、また、休日に過ごせる場がほしいです。
(他 11 件)

高齢者 (1 件)

<ul style="list-style-type: none"> 今、家族総出で援助しているが、障害のある高齢者が受けられるサービスの拡大をお願いしたい。
--

「障害種別の意見」(10件)

「医療的ケア児」に関する意見が多くありました。ほかには、肢体不自由、精神障害、難病、小児慢性特定疾病に関する意見が寄せられました。

• 医療的ケアが必要でも利用できる放課後等デイサービス、ヘルパー事業所の持続・拡充、また通学のサポートを是非お願いします。
• 医療的なケアがあっても健常者の子たちと同様、通うことの出来る施設がほしいです。
• 地域の支援センターは、かつて「精神障害」のみの受け入れだったが、障害の種類を区別することなく受け入れるようになってから、元々いた私たち「精神障害者」がいづらい場所になってしまった。
• 柏市小児慢性特定疾病医療受給証が20歳で終わってしまうことに不満を感じます。小児から発症し完治しない病気については、その他の方法を考えてほしい。
(他6件)

「その他」(42件)

「経済面や精神面での家族への支援」や「成年後見制度」の充実にすること、また「サービス利用費用の負担」「障害認定」「介助の負担」等の意見がありました。

• 乳幼児期から保護者や兄姉のメンタル面のサポートをお願いします。
• 医療的ケアがあったり、体調が安定しないため、介護者(母)も経済的に働きたいがかなり難しい。
• 法人後見制度をひろめて欲しい。親戚なきあとの全員の問題です。
• 本人の老後が心配。収入も年金(障がい者)が現在不足で心配です。自宅以外で生活の場合の費用に不足がないようにしていただけたらと思います。
• 現在補聴器を使用しているが、市の補助が受けられるタイプは決まっており、自分が使用したい補聴器購入には全額自己負担になっております。上限は必要と思いますが、自分の希望する補聴器購入時も補助をお願いします。
• 障がい者の日帰り旅行の際、ガイドヘルパーの費用を本人が負担しなければならない現状ですが、今後市で負担していただけると助かります。
• 障害等級が不自由さの割に低いと思う。見直しの機会を作ってほしい
• 自分では何も出来ないので、食事・日常生活(排尿排便時に負担)全て妻の手を必要としているが、気軽に替わって手伝ってくれる人が近くにいないのが辛い。
• 現在子どもはグループホームで生活していますが、通院やリハビリ等は親が連れて行きます。親の高齢化で車の乗降等の負担が大きいです(その間のトイレ介助もあります)。
(他33件)

④ 子ども (28 件)

小学校入学前では「療育の充実」、学齢期では「学校での支援の充実」「学校の専門性・理解の向上」に関する意見が多くありました。

④-1 小学校入学前 (乳幼児期) (8 件)

「療育の充実」(6 件)

<ul style="list-style-type: none">面談や支援に繋がるまで時間がかかりすぎる。療育機関が少ない。定員がいっぱい。幼児専門の ST (言語聴覚士) が少ない。療育は早く受けた方が良いと思いますが、その場所が限られている。療育を受けられるところ、または相談できるところが増えると良いと思います。
(他 4 件)

「保育園・幼稚園」(2 件)

<ul style="list-style-type: none">保育園, 幼稚園に看護師さんを配置してほしいです。保育園等は入園するにあたり応諾義務があると思うので, 障害がある園児の入園に対して積極的に行ってほしい。
--

④-2 小学校入学後 (学齢期) (20 件)

「学校での支援の充実」(8 件)

<ul style="list-style-type: none">これから中学生になりますが, 学校によって支援の仕方がまちまちで困惑しています。小学校では充実していた支援体制 (それでも十分ではありません) が, 中学校ではほぼなくなるというほど手薄になります。小中学校の不登校問題, 特に書字学習障害への無理解からの学校の対応不足や教員の障害特性への無理解が目立ちます。学校と福祉が一緒に動ける体制が必要だと思います。公立の特別支援学級の教員は何かの理由で通常級を持ってない方や定年を迎えて再雇用で学校に残る方が受け持っているように感じます。それでもおかれたところで精一杯していただければ良いですが, 知識のなさ, やる気のなさが子どもを預ける立場としては不安で心配です。支援級在籍で普通級に行くことを交流学級という呼び名が嫌だ。それこそ通いに行ってるクラスなので通級という名を使ってほしい。基本みんな普通級在籍で支援級には通いに行くというスタンス, まさに通級という名であってくれる方が抵抗なく入りやすい。
(他 4 件)

「学校の専門性・理解の向上」(6件)

<ul style="list-style-type: none">• 学校教育で、障がいについて専門知識のある先生を充実させてほしいです。
<ul style="list-style-type: none">• 学校の子供達は障害の子供たちに手を差し伸べてくれます。しかし、先生方は他のクラスだからなのかありません。もう少し先生方全員が障害の理解をしてほしいです。
(他4件)

「その他」(6件)

<ul style="list-style-type: none">• インクルーシブ教育について、先進地の見学や新しい考え方に添ってほしいと思います。新しい時代を切り開いてほしいです。
(他5件)

⑤ 就労・社会参加(19件)

「就労支援」や「社会参加」の機会の充実に関して、多くの意見がありました。また、「ピアや家族同士の交流の場」がを求める意見も寄せられました。

「就労」(8件)

<ul style="list-style-type: none">• 働く意思があっても就労の機会がない。
<ul style="list-style-type: none">• 障害者で働くために従業員の理解も必要だと思うので、それぞれの会社に専門的な人をおいたら良いと思います。
<ul style="list-style-type: none">• もっと働いてみたいが、身体が悪くなるのではないかと不安です。安心して働ける場所がほしいです。
<ul style="list-style-type: none">• 仕事はしたいが、人が怖くて働けない。
(他4件)

「社会参加」(7件)

<ul style="list-style-type: none">• 同じ障害を持った方の相談相手になる等、自らが助けを必要とするより、誰かに必要とされる人間になれるように、ボランティアからでも何か働ける環境がほしいと思います。
<ul style="list-style-type: none">• デイサービスを利用しておりますが、失語症があり、なかなか自分から利用者の皆さんと話が出来ず、体も自由に動けないので、何か楽しいことがひとつでもでき、楽しみに通えたらと思うこの頃です。
<ul style="list-style-type: none">• 障がい者が外に出られる様なイベント等企画してほしい。
(他4件)

「仲間・交流の場」(4件)

<ul style="list-style-type: none">障がい者の家族として親が集まる地域家族会は、色々な意味で親たちの勉強の場であり、憩の場でもあります(何でも話せて)。当事者同士が集まれる場を是非作っていただきたいと思います。親では無理だと思うので、行政側のご理解の下、回数は少なくとも集まれる機会があれば「引きこもり」対策にもなるのではないのでしょうか。
<ul style="list-style-type: none">息子に今一番大事なのは友達、ピアサポーター等の話し相手。
(他2件)

⑥ 相談体制(36件)

相談支援の充実を求める意見で、具体的には、「どこに相談したらよいか分からない」「気軽に相談できる場所がほしい」といった意見が多くありました。また、「成人以降の相談の場の充実」「親亡き後のことの相談」に関する意見も寄せられました。

<ul style="list-style-type: none">家族が精神的に苦しい時に、大人になった息子を一緒につれて出かけられず、私一人で動けないので、気軽に相談できたら気持ちが楽になるのでは…と何度も思った。でも、実際はどこに話せば良いかわからない。
<ul style="list-style-type: none">子どもが大変なとき、誰かに助けてもらいたいと思うことが多々あります。どうにもならないとき、ただ話を聞いてもらうだけでは済まないとき、すぐに駆けつけてくれるような支援の体制があったらと思うことがあります。
<ul style="list-style-type: none">今は相談員さんに相談できていますが、相談員さんの存在も知らない頃は、本当に誰に相談したらいいかも分からず八方塞がりのような状況でした。
<ul style="list-style-type: none">困った時に気軽に相談できる場所(1か所)で全てそこで済むように、あちこちたらい回しにされるとかなり混乱します。
<ul style="list-style-type: none">継続的に相談できる場所がないように感じる。引っ越した当初、不登校について役所へ電話して聞くとたらい回しだった。障害福祉課へ行くとフリースクールを紹介されたがそこへはもうすでに行っていて合わなかった。その後長期間引きこもるしかない状態だった。唯一の保護者の私が亡き後は助けてと声を出せない者はどうすればいいのだろうか?不安しかない。
<ul style="list-style-type: none">入学後普通級から支援級に移動させていただいたが、相談先を多く紹介していただくものの、実際には1ヶ月後、2ヶ月後とかなり時期が空いてしまうため、もう少しカジュアルに相談したい。
<ul style="list-style-type: none">障害者の日常生活の中でぶつかる様々なハードルを、気軽に友達感覚で話ができる場が重要と思います。
<ul style="list-style-type: none">進学、受験、就労についての情報がなくいつも不安に思っている。相談するところがない。

<ul style="list-style-type: none"> • 大人になると相談できる場所がほぼなく、何かあった時や親の具合が悪くなったりした時、どうすればいいのかと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> • 18歳以上になった時に親も子も相談する場所がなくなるのが現状です。地域に暮らしているのに、障害がなくなるわけでもないのに、長い支援体制があればと願っています（そのまま情報を引き継ぐような）。
<ul style="list-style-type: none"> • 実際にグループホームで暮らしている方や、一人暮らしをされている方の生活ぶりや、どんな支援があるのか、どのくらいお金がかかるかなど、具体的な情報を知りたい。勉強会や相談会があると良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> • 福祉サービス事業所で定期的に相談にのって頂いているのですが、単なる相談で終わっている。
(他 24 件)

⑦ 健康・医療（25 件）

「医療費の負担が大きいこと」「医療機関での障害者への配慮」に関する意見が多くありました。

「医療費の負担」（9 件）

<ul style="list-style-type: none"> • 医療費の補助額（難病）を増額してほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> • 難病につき、ほぼ生きているうちは薬を飲み続けないと体調が悪化する状態なので、その薬代が毎回死ぬまでかかると思うとしんどいです
<ul style="list-style-type: none"> • 持病が多く医療費の出費がかさむので金銭的補助をしてほしい。
(他 6 件)

「医療機関での配慮」（6 件）

<ul style="list-style-type: none"> • 未就学の子どもの健診での待ち時間が長く大変だった。多動の子どもなど別枠で時間を設けてもらえると助かります。
<ul style="list-style-type: none"> • 病院からの連絡について、電話しかできない病院が多い。電話は出来ない（耳が不自由）と言ってもダメと言う。それっておかしいです。
<ul style="list-style-type: none"> • 障害者が利用、行きやすい内科部門があれば良いと思います。
(他 3 件)

「その他」（10 件）

<ul style="list-style-type: none"> • 介護保険が適用された場合費用が心配です。
<ul style="list-style-type: none"> • 障害者も早くからフレイル予防が出来るような場所がほしい（出来れば親が付き添わなくても本人が楽しめる支援もあると嬉しい）。
<ul style="list-style-type: none"> • 都内の病院に通院しています。柏市内でも十分な医療を受けられるように取組んでほしい。
(他 7 件)

⑧ 安全・安心な生活環境（35件）

バリアフリーに関する意見が最も多く、14件ありました。「交通手段」に関することでは、「公共交通機関の充実」に関する意見が複数ありました。「災害への対応」については、その充実を求める意見が多く寄せられました。

「バリアフリー」（14件）

• 歩道が狭くて、また、斜めになっており、障害児バギーで通行するのが危ない道が結構ある。
• 歩道橋があってもその下に歩行者用信号機を作ってほしい。
• 移動は車いすを利用。柏市の道路はひどい。狭く、車いすで転倒したこともある。特に千代田町の道路。早急なる改善をお願いしたい。
• 気象台前の道路は車や自転車が結構なスピードを出していく。危険な箇所は他にもあると思うので、実際に歩いて確認してほしいです。柏は歩きやすい街を目指してほしいと思っています。
• バス通りの安全化を早急にやって欲しい。
• ユニバーサルトイレの設置もまだ全然なく困っています。
(他8件)

「交通手段」（12件）

• 本人は現在、自転車も車も運転できず、移動手段は徒歩だけである。バスの本数や通行路線を広げてほしい。
• 車がない、運転できない等の事情があるため、病院、駅、市役所、学校等、公共機関だけを周回するバスがあると助かる。
• 加齢のためか足腰肩の不具合があり、外出時の移動に困っています。病院は福祉タクシー券を利用していますが、日常の買い物やイベントなどでのタクシー券の使用に少々戸惑いがあります。行動はすごく狭くなっています。
(他9件)

「災害への対応」（9件）

• いざという時、障害のある人は簡単に逃げられないということを前提に考えてほしい。
• 障がい者と家族が気兼ねなく避難する場所を要望します。
• 災害時に避難所に行くことが困難な障害者の福祉避難所や、自宅に避難している障がい者へのサポート体制など、情報が分かるようにしていただきたいです。
• K-Net に登録しているが、近所の方が支援して下さるとのことですが、どういう立場の方が支援して下さるのでしょうか。
• 防災無線は風で流れ、非常に聞きづらいです。災害時は尚更、役に立たないと思います。
(他4件)

⑨ その他（129件）

その他では、「アンケートに関すること」（25件）、「市役所への要望」（11件）に関する意見が寄せられました。他には、「市の障害福祉サービスへの感謝」や「個別の状況」に関すること等の意見がありました。

V. 各種ヒアリング等結果について

1. 障害福祉関係団体ヒアリング

(1) ヒアリング対象団体

以下の9団体を対象に調査を実施しました。()内は略称です。

- ・ 柏市肢体不自由児者を育てる会 (育てる会)
- ・ 柏市手をつなぐ育成会 (育成会)
- ・ 柏市聴覚障害者協会 (柏聴協)
- ・ 柏市身体障害者福祉会 (身体)
- ・ 千葉県中途失聴者難聴者協会柏地区会 (中難協)
- ・ 柏市視覚障害者協会 (視覚)
- ・ 柏市自閉症協会 (自閉症)
- ・ 精神障害者家族会よつば会 (よつば)
- ・ 東葛菜の花「高次脳機能障害者と家族の会」 (高次脳)

(2) 優先的に市に取り組んでほしいと挙げられた事項

各団体から市に対し優先的に取り組んでほしいと求める事項について7項目に分けて整理したところ、下記のようになりました。

《障害理解の促進に向けた取り組みの充実》

- ・ 障害理解の促進について (高次脳, 中難協, 育成会, 柏聴協)
- ・ 障害に配慮した市の窓口での対応, 情報提供について (視覚, 中難協, 柏聴協)

《相談支援の充実やライフステージに応じた切れ目の無い支援》

- ・ 親や家族への相談支援の充実について (育てる会, 高次脳)
- ・ 医ケア児への相談支援の充実について (育てる会)
- ・ ライフステージに応じた相談支援の構築について (育成会, 自閉症)
- ・ 学齢期や思春期における教育と福祉の連携した支援について (自閉症)

- ・生まれてから看取りまで総合的な、切れ目のない支援について

(視覚)

《人材育成の仕組みづくり》

- ・支援者の自宅への派遣について

(よつば)

- ・障害について理解の深い支援者の養成について

(高次脳, 自閉症)

《居住環境の充実》

- ・障害特性に応じた住まいの受け皿拡充, 支援体制の構築について

(高次脳)

- ・適正な福祉サービスの提供について

(身体)

《居場所づくりと社会参加の支援》

- ・放課後デイや成人向けの日中一時支援など, ライフステージに合わせたサービス, 余暇支援の充実について

(育てる会, 身体, 自閉症)

- ・障害者が参加しやすい生涯学習, 就労の場の提供について

(中難協, 育成会, 柏聴協)

《高齢化に向けた備え》

- ・当事者の高齢化に伴う自立生活の支援について

(よつば)

- ・移動等の日常生活への支援について

(視覚, 身体, 柏聴協)

- ・団体会員の高齢化に対し若年層の加入等の運営支援について

(身体)

《災害対応の体制整備》

- ・災害時の情報保障について

(身体, 柏聴協)

- ・災害時の避難所等の対応について

(自閉症)

2. 各団体からの意見

聞き取りの際に各団体から挙げられた意見を調査票の質問項目ごとに整理をしました。

障害保健福祉の全般に渡る活動やサービスについて、障害別に加え高齢化への対応や切れ目の無い支援の充実といった年齢やライフステージに応じたきめ細やかな対応を求める意見が多くありました。

個別の項目についての各団体の意見は次の通りです。

① 啓発・広報・協働による障害理解の推進を含む福祉活動の充実について

障害理解の促進を求める意見や、団体の活動を広く PR の機会及び当事者が社会に出る機会の創出を求める声が多くありました。

(障害理解のための啓発について)

- 高次脳機能障害については知らない方が多い。言葉は知っているが、実態は知られていない。高次脳機能障害は赤ちゃんから高齢者に至るまで、いつ、誰でも起こり得ること。一般社会がもっと知るべきである。(高次脳)
- 就労の場での理解促進も必要である。(高次脳)
- 誰もが聴覚障害について理解し、気づいてもらえる柏市であってほしいと願っている。(中難協)
- 柏市役所を含め、柏市民が聴覚障害のことを理解してくれるようになってほしい。(中難協)

(団体が実施する啓発・広報について)

- 学校から障害理解の出前講座が依頼されているが、数校に留まる。これを広げていきたい。小中学生の学齢期の時期に障害理解を進めることが重要なので、積極的にできればよい。出前講座では、知的障害や発達障害について扱うことは難しい場合もある一方、知的障害の理解が進んだと実感したような実例もある。障害理解は難しい内容ではなく、通じ合える機会や身体で覚えていく機会をつくれるとよい。(育成会)
- 柏祭りのようなイベントは、そこを通る市民が団体について知る機会となる。会だけでバザーを実施しても、売れにくい。会独自でできるのは広報活動くらいである。大きなイベントの中で出店して広報を行うことが効果的だと思う。(育てる会)

(協働・交流について)

- 会では聞こえる人も聞こえない人も一緒に交流し、活動をしている。そのような形で交流や勉強の機会を充実できるとよい。(中難協)
- 中途失聴者・難聴者の方で一人暮らしの場合、家にいても誰ともコミュニケーションの機会がない。会の集まりに来ると仲間と会い交流ができることは重要である。(中難協)

② 情報提供の方法や体制の充実，意思疎通支援の充実について

年代に応じたきめ細やかな情報提供及び手話・代読等の情報保障の充実を求める声が多くありました。

（情報提供の方法，媒体について）

- 高齢者はスマホやパソコンを持っていない。先般の台風災害でも情報が入ってこなかった。テレビや有線の活用等について検討することが可能ではないか。テレビは全国の情報に留まるので，柏市の情報が迅速に得られたらよい。（身体）
- 障害福祉のしおりは，市役所の人にとっては使いやすいであろうが，一般の人にとっては使い勝手が大変悪い。しおりは読んでほしいと思って作られているのではなく，辞書的要素が強い。どのページを開いたら良いのか分からないし，用語も難しく意味を理解するのが大変である。知的や自閉症といった分野別に，わかりやすく，平易に伝えてもらえるといい。パンフレットが良いと言っているのではない。（育成会）
- 情報伝達の媒体は，印刷，インターネット等，様々あるといい。（育成会）

（意思疎通支援の充実について）

- 一般の講演会などに，手話通訳者がいない場合があるので，もっと自由に参加できるように，文字や手話での情報保障を必ずつけることが重要。（柏聴協）
- 市役所窓口到手話通訳者がいない場合，筆談で対応してもらっているが，片言の手話，身振り手ぶりなど聾者に通じる方法を理解して対応を工夫してほしい。（柏聴協）
- 聞こえない方の中では，若い方は文章になじんでいて筆談は可能だが，高齢の方は筆談が中々難しいことがある。分からない聾者も分かったふりをして帰ってしまう場合もある。（柏聴協）
- 父親が全盲障害者で，人工呼吸器をつけなくてははいけなくなり，その父親の大事な文書の代読を依頼され困ったことがあった。連絡があったのは金曜日の夕方だったため対応が大変であった。読んでよいものとそうでないものの判別は難しい。（視覚）
- 「聞こえない」と伝えても，しゃべっていると聞こえるように見えて，なかなか理解してもらえない。しゃべらないで，耳カードを見せているという人もいる。耳マーク表示版の設置拡大についても同じような理由で求めている。（中難協）
- 市役所全体（各課）で耳マーク表示板を設置してほしい。市役所の職員にも障害について理解を持ってもらいたい。（中難協）

③ 相談支援及びケアマネジメント体制の充実、権利擁護体制の充実について

ライフステージや当事者以外の家族への支援といったきめ細やかな相談支援を求める意見や相談支援専門員の質の向上を求める声がありました。

(ライフステージに合わせた相談体制について)

- 肢体・医ケア児の相談支援事業所、相談支援専門員が不足している。医ケア児が増えており、それに合わせて専門員の数も増やしてほしい。(育てる会)
- 生まれてから看取りまでの総合的な、切れ目のない支援。65歳での線引きはやめてほしい。(視覚)
- キッズルームこすもすやひまわりのお母さんと話す機会があるが、「何もわからない」と言う。相談支援専門員もいるが、分からない状況のようである。どんな風に、どのサービスを得て、子どもを育てていけばよいか分からない。「相談支援専門員を頼ってください」と伝えている状況である。(育成会)

(相談支援専門員の質の向上について)

- 相談支援専門員は若い方が多く、また事業所によってはある特定の年齢のサービスしか提供していないため、知識が十分ではない場合がある。市役所の相談支援専門員の場合、すぐに他課に問合せが可能であったりするが、相談する側がそこまで相談していないことも考えられる。(育成会)
- 今は福祉サービスが充実しているため、自分から動けない人が多いかもしれない。なので、相談支援専門員の質が重要となる。相談支援専門員に親と一緒に動くことの重要性を伝えてほしい。(育てる会)
- 親は子どもの特性に応じた療育的な支援を非常に望んでいる。それにも関わらず、市は行く場所(ハコモノ)をつくる方向に進みがちで、親のニーズとのギャップを感じている。(自閉症)

(家族へのケアマネジメント体制整備について)

- 昨年実施した市民公開講座でも講師が話されたが、家族は家族でリフレッシュが必要。共倒れにならないような支援が必要。(高次脳)
- 若い人の高次脳機能障害者が増えている。若い方については、病気ではなく、事故等で突発的に発生する。そういう場合、本人の障害受容が難しく対応が困難なこともあるため、家族への支援が重要である。家庭内暴力につながることもある。若い方の高次脳機能障害の対策が重要であり、相談業務、福祉関係、医療関係、家族等の複合的なネットワークが必要である。これについては、千葉県にも要望を挙げている。(高次脳)

（相談時の合理的配慮について）

- （乳幼児健診や就学時相談での合理的配慮について）ある母親が、1歳児と3歳児健診に行ったが、発達が遅れているということと言われただけで、何ら助言も得られず、傷ついていたということがあった。3歳児健診では事前に尿を採ったり、視覚検査をする必要があるが、対応できず苦慮する中で健診を受けた。行くべきものかどうかの判断も難しいとのことであった。このようなことさえ相談できる場もないのかと思った。健診については保護者によって意向は異なるが、行っても行かなくても良いということを伝えてもらえると良いであろう。（育てる会）

④ 暮らしの場（住まい）の充実及び日常生活を支援するサービスについて（主に障害福祉サービスについて）

地域で暮らしていける住環境の整備やサービスの充実を求める声が多くありました。

（暮らしの場（住環境）の充実について）

- 開放型のグループホームに住むことは難しかった。閉鎖的な環境が落ち着く精神障害者も多いのではないか。（よつば）
- 沼南地域に住んでいるが、点字誘導ブロックがほとんどない。音声信号も2つしかなく、歩行困難である。16号に横断歩道があるが、長い距離で危険である。点字誘導ブロックについては地域でばらつきがあるので改善が必要。（視覚）
- 親亡き後のことが気になっている。今は親がすべて関わっているが、親亡き後に子どもがどのようにサービスを利用できるのか気になっている。（自閉症）

（日常生活を支援するサービスについて）

- 障害福祉サービスにつながっている方は少ない。背景としては、外部との接触をしたくない、苦手ということがある。作業所や会合に行きたくない。精神障害の特徴である。サービスにつながらないことが大きな課題である。（よつば）
- 成人の日中一時支援事業所が不足している。半径10キロメートル以内に必要なサービスを得られると良い。（育てる会）
- 放課後等デイサービスを使っている場合、成人後も同様のサービスを求めざるを得ない場合がある。親が継続して就労したり、資格を活かして社会貢献をするためには、成人のサービスの充実も必要である。（育てる会）
- （利用可能なサービスや施設が少なく）施設やグループホームは知的や精神を対象とするところが多い。高次脳機能障害を対象とした施設はなく、発達障害に近いということでそのサービスを利用している。しかし、高次脳機能障害は中途障害であり発達障害と異なる。高次脳機能障害に対応したサービスや施設であれば、本人も家族も楽。別の障害と一緒にした施設やサービスは無理がある（高次脳）

- 総合的な支援体制の整備が望まれる。お金がないから施設は作れない、サービスは提供できないというのではなく、近隣各市と連携し、知恵を出し合って支援方法を検討していただきたい。近隣の近場で支援を受けることが完結できるように。 (高次脳)

(家族やヘルパーの支援について)

- 家族会は本人だけではなく家族も参加することにより、リフレッシュすることができる。担当する例会では、家族だけで集まる場を設けたりもしている。こうした場は家族にとって大変貴重である。例会も当事者中心から家族中心に集まるようになってきている。 (高次脳)
- 目に見える障害ではないため、当事者、家族も大変困っている。家族が鬱状態になってしまっている方も多い。これは障害者を増やすことにもつながる。 (高次脳)
- ヘルパーによる支援、マンツーマンの支援は限られた方しか利用できない。市内の担い手が少なく増えていかない。 (自閉症)

⑤ 就労支援の充実及び社会参加の機会（余暇や生涯学習活動）の充実について

就労支援については障害種別に応じた工夫を求める声や、社会参加については参加する機会を充実するだけでなく一般の人と当事者が共に活動出来る場の確保を求める声が多くありました。

(就労支援の充実について)

- グループホームが主体となり、住と食を確保した上で、作業所につなげるのが良いのではないかと。作業所は福祉的な要素として居場所を提供。よつば会のサービスはそれとは反対で、作業所が先にあり、必要に応じグループホームを提供している形である。 (よつば)
- (就労の場における手話通訳派遣について) 民間の会社では認めない場合が多いが、聾者の就労のために認めてほしい。息子の職場では、パソコンを使って文字で伝達している。また打ち合わせなどの時は筆談ボードなどで筆談してくれる人がいる。 (柏聴協)

(社会参加（余暇や生涯学習活動）について)

- 健康の確保と安心・安全の生活につながる「余生の活動」(カラオケや外出、スポーツ等)の充実を福祉社会でも重点課題として取り組んでいく予定である。激励会、ふれあい大会等で意見交換を行っているところ。 (身体)
- 社会参加するための勇気を持ってない人が多い。自身もそうであったし、みんな最初は同じ状況だと思う。人と話すことが苦手で、外出すると声をかけられたりして怖くなる。家で呼び鈴が鳴っても知らない人の場合は答えない人が多い。 (中難協)
- 一般の趣味の教室やイベントでの障害者受け入れが促進されるとよい。障害のある人に

とって、障害のない人と比べると趣味や余暇の選択肢はかなり限られていることから、一般の教室やイベントに行けるようになるとよい。障害者といっても、障害の重い方から軽度の方まで様々であり、一般の教室に通いたい、通える人もいる。（育成会）

- 障害者のための教室やイベントもあるが、共生社会の実現に向けて、できれば「障害者のための」という枠を外していきたい。（育成会）
- 聾者と中途失聴・難聴者が一緒に集まって受けられる講座をつくってほしい。情報保障がある講座ならば聴覚障害に特化したものとする方がよい。（柏聴協）

（社会参加（日常生活）について）

- 自身の経験でも、突然訪問があり、「聞こえないんです」と伝えても、話せるので聞こえると思われ一方的に話されたことがある。今は文章で「聞こえないです」と書いて伝えている。（中難協）
- 社会参加にあたっては周囲の理解も重要である。（中難協）
- 聞こえないことにより、人とのコミュニケーションが難しくなる。本当はしゃべりたいけれど、聞こえないために家に閉じこもったりしている人が多い。このような意味で、同じ仲間が集まる場は重要である。（中難協）
- 会員全体で閉じこもっている人が多いかどうかはわからないが、（聴覚障害になった）最初は、皆閉じこもってしまう。市役所で会を紹介してもらったりして、集会に勇気をもって参加することにより、変わっていく。（中難協）

⑥ 18歳未満のお子さん（児童）を対象とした、発達支援と医療的ケアを含む療育体制の充実について（こどもの成長への支援について）

当事者（お子さん）の支援の充実だけでなく、保護者のケアを求める声が多くありました。また、学校が移った際や卒業後の切れ目の無い支援の充実を求める声がありました。

（親への支援体制について）

- 子どもだけの支援体制ではなく、親も含めた支援体制の充実が必要。親の相談、親の心のケア。親も含めたトータルケアが重要である。（育てる会）
- 親同士の情報交換の場が少ない。会としてこすもすに行く回数を増やすことを検討している。若いお母さんたちを送り、身近に話せる環境を作るのがよいのではと話している。（育てる会）
- 親のネットワークがほしい人とそうでない人が分かれる。若い世代は親のネットワークがない。親同士が会う機会がないので、学齢期に入り会に入るケースが増えている。（育てる会）

(お子さん（児童）への発達支援について)

- 聞こえない子どもだとわかったら、理解をもって対応してほしい。子どもたちも安心して勉強し、成長できるような環境を整えてほしい。 (中難協)
- 以前、柏市でも読話教室があったが、聞こえない人だけではなく、聞こえる人にも参加してもらいたい。そうすれば、聴覚障害の人も口を読んで理解することができる。 (中難協)
- 就学前はこども発達支援センターがあり、相談する場所や機会は充実しているが、学校に入ってしまうと、学校以外の療育相談の場がないと聞く。学校の中での療育と、学校外の相談は異なる。 (育成会)

(相談場所の提供について)

- 個人的な体験からも、話を聞いてもらえる場が必要だと思う。サービスに関する相談とカウンセリング的な役割の両方が必要である。 (育成会)
- 相談の場がいろいろなところにあるということ伝えるだけでも有効であろう。その人に合うところに相談に行くことができる。 (育成会)
- 肢体不自由または医ケアが必要な乳幼児で、事業所にはつながっていない子どもは把握していないため、会員をどのように開拓していくかも課題である。会につながっていない人が大変なのではないか。 (育てる会)

(放課後児童デイサービス等について)

- 高等部2年の子どもがいる。今は放課後児童デイを利用し満足しているが、卒業して18歳以上になると途端に日中に一時利用できるところがなくなってしまう16時～18時の支援がなく、親が仕事を続けることが難しいと聞いている。18歳以上には放課後デイに代わるサービスが必要である。 (自閉症)
- 義務教育を終えた16～18歳に対するサービスや支援が必要。思春期は精神疾患を発症する割合が高い。親子ともども見捨てられ感がある。 (自閉症)
- (県から市に権限が移譲された) 放課後デイについては、これまで利用できていたのに利用できなくなったなど、親が不安になった、困ったという声をよく聞く。親の困った感が子どもに伝わると、変化に弱い子どもは翻弄される。せっかく市のサービスが充実してきたので、利用者の使い方にあったサービスに変更してほしい。 (自閉症)

⑦ 精神保健の充実及び精神障害者の方が地域で生活できる支援体制の構築について

地域や社会とのつながり、福祉サービスや医療へとスムーズにつながられるようにしてほしいという声が多くありました。

(精神保健の充実について)

- 引きこもりの方に対する支援体制をお願いしたい。市内にどれだけいるのか、実態をはっきりさせてほしい。(自閉症)
- 障害がある人の受診を積極的に推進するよう、医療機関に働きかけてほしい。(自閉症)
- 精神障害者の方には、うつや統合失調症など従来型の方と、高次脳機能障害など器質性精神障害の方がいる。両者を分けて整理してほしい。(高次脳)
- 障害者本人のつらさ、生きにくさを地域の人が理解して、排除の目で見ないことが、とても大切なことだと思う。(育成会)

(地域で生活できる支援体制について)

- 精神障害当事者は、親亡き後にも住み慣れた住居で住み続けるものだと思っている。一方で、買い物、食事、ゴミ出し、隣近所との付き合い等難しく、親亡き後はすぐに生活が破綻してしまうことが予想される。当事者の地域生活の希望と実態はかけ離れているのが現状。(よつば)
- 会員の3分の1は自宅に引きこもっている。通院以外の外出はしていない場合が多い。仕事をせず親元にいる。会員の中で作業所に通っている人は一握り。本人も親亡き後の不安は持っているであろうが、どうしたら良いか分からないというのが実態。(よつば)
- 多くの方が地域の中で孤立している中で、地域社会に溶け込みたいが、実態は難しい。(よつば)

⑧ 障害の重度化防止や加齢に伴う身体の衰えに備えた健康管理の充実について

高齢者のニーズに応じた移動手段や活動場所の確保を求める声の他、各団体の高齢化が進んでおり団体運営の支援を求める声がありました。

(高齢化に伴う移動手段の確保について)

- 会員の高齢化や独居化に伴い、地域とつながりが持てる場や社会貢献につながる活動の場の確保が重要である。そのためにも、移動手段の確保は課題。(視覚)
- 聾者も高齢化していて、歩くことが難しい人がたくさんいる。免許を返納して車を使わない人が増えており、タクシー利用しないと移動が難しいので、タクシー券の助成を考えてほしい。視覚障害の人には補助があると聞いている。(柏聴協)
- 現在、福祉バスを借りられるのは年2回。主要行事への参加は5回ほどあり、高齢障害

- 者が車を運転して、他の会員を運ばなければならぬ状況にある。 (身体)
- 教育福祉会館のリニューアルにあたり、高齢者はじめ、駅から市役所まで来るのが大変なので、シャトルバスや巡回バスを考えてほしい。 (柏聴協)

(支援者の育成について)

- 保護者の立場として、これまで関わってきた人が変わったり、辞めることが不安。支援者には長く関わってほしい。障害理解や重度化防止には理解者がたくさん必要。市で養成することまで望まなくても、人材育成に困っている事業所に対して、情報提供するなど、まだまだできることがあるのではないかと。先進事例や他市町村でやっている良い事例などを提供してもらえたらよい。県で支援者の養成研修をしているが、柏市は中核都市なので、市独自の取組があってもよいのではないかと。 (自閉症)

(会員の高齢化について)

- 今後の課題として、会の高齢化に伴い後継者が必要であるが、役員を引き受ける人がいない点が挙げられる。経理処理についても難しく、パソコンがない状況で大変である。こうした状況を見ているため、尚更、引き継ぐ人がいない。関東下の組織すべて同じ状況。障害当事者だけで運営していくのは難しいと感じており、市や社協の人の手を借りながら続けていくしかないと思っている。 (身体)

⑨ 安心・安全の対策の推進、福祉のまちづくりについて

台風等の風水害だけでなく地震等の様々な災害に対応した準備が必要との声が多くありました。地域共生社会のまちづくりに向けては、ハード面のバリアフリーに加えて当事者が一般の方と交わる機会の創出が必要との声がありました。

(災害対応について)

- 様々な災害時の対応強化が必要。ガイドラインの作成や要支援者の個別支援計画の作成等、前もってできる対策もあるので市に取組みをお願いしたい。 (育てる会)
- 災害の時を考えても、障害理解の促進が重要である。 (高次脳)
- (災害時の対応について) 視覚障害者の場合は、基本的には自宅待機となる。転倒防止用のストッパーやガラスの飛散防止フィルム等、ハード面のアドバイスや助成金があると良い。安否確認も重要である。 (視覚)
- K-Net に登録しているが、実際に必要な時にはどのような対応となるのか、こちら側が必要な対応等、避難訓練も含めて具体的に教えてほしい。 (視覚)
- 先日の台風で、大雨の恐怖を実感した。指定避難所はあるが、自閉症のある人が安心できるスペースは皆無なので、居室の確保をお願いしたい。広域に1か所だけでなく、複数用意してほしい。福祉サービスの利用計画に、災害時の対策を盛り込んでほしい。いつ災害

が来てても対応できるよう、できるだけ備えをしてほしい。(自閉症)

- 先日の台風の際は、テレビから情報を得た。コミュニケーションセンターかしわ経由で災害情報がメールで届いた。ファックスでの情報発信もあったと聞く。東日本大震災の時はメールがしばらく通じず大変だった。(柏聴協)

(福祉のまちづくり, 共生社会について)

- 共生社会を作っていくために、福祉だけでは限界がきていると考える。地域共生社会の実現と高齢化への対応として、福祉の枠を超えて、柏をつくっていくための具体的な取り組みを検討し、核となるものを作り動いていかなければならない。(育成会)
- 共生社会の実現に向けて、地域の中で生きる仕組みをつくってほしい。地域の中で、公的だけではなく、私的な支援も受けながら、他の人と交じり合っ、生活していけるような取り組みが必要。(育成会)
- 家からなかなか出ない人や引きこもっている人を掘り起こすことはできないが、独居の人の生活が心配。行事参加など約束したのに連絡がなく、一人で倒れているのではないかと心配なこともあった。関わり方をどうしたらよいか心配している。(柏聴協)

⑩ その他の意見

- 「障害者」について、公文書でも「害」を使っている。「障がい者」の使用について検討をお願いしたい。(高次脳)
- 昔の福祉課と今の福祉課は全然違う。受付がスムーズに進まない。相談者もかなりの人数がいる。(視覚)
- 他部署、警察署、保健関係との連携も必要なことがあるので、引き続きの支援をお願いしたい。(視覚)
- ヘルプマークのおかげか、車がゆっくり進んでくれた気がした。そんな風に、気づいてもらえたら嬉しい。(中難協)
- 毎月の会合で福祉会館を利用させてもらっている。新しくなる教育福祉会館も集える場所とし利用したい。(自閉症)
- 教育福祉会館の聾者対応を知りたい。(柏聴協)

3. 委託相談支援事業所ヒアリング結果概要

(1) ヒアリング先事業所

以下の5事業所を対象に調査を実施しました。

- ・社会福祉法人青葉会 地域生活相談センターシャル
- ・社会福祉法人桐友学園 サポートセンター沼南
- ・特定非営利活動法人権利擁護あさひ
- ・社会福祉法人ぶるーむ ぶるーむの風相談室
- ・社会福祉法人ワナーホーム たんぼぼセンター

(2) ヒアリングで重点的に意見を聴取した事項

市からヒアリングの際に、各委託相談支援事業者に重点的に聴取したのは次の3つです。ここではヒアリング結果の主なポイントをまとめました。なお、本ヒアリング結果は今後の施策展開に活用するために委託相談支援事業所との率直な意見交換を行う必要があったことから、回答した事業所名を伏せています。

① 一般相談の内容や傾向について。

一般相談においてひきこもりの疑われる相談は多いか。

(調査票問1 関係)

- **一般相談に係る相談**について、精神障害が疑われる方からの相談が他障害と比べて多く感じられ、1件当たりの相談時間も長く掛かる傾向だという回答が多くありました。対応方法は傾聴に徹する事が多く、長時間に渡る場合には1件の相談に時間を区切って対応しているという事例もありました。
- **一般相談においてひきこもりが疑われる相談**は多いと感じていることがわかりました(件数は未把握)。委託相談支援事業所への相談のきっかけは、地域包括支援センターからの連絡が最も多いという回答でした。次いで保護者・支援者からの相談、保健所等の他機関が情報提供の主なルートであることがわかりました。

② 他の相談支援事業所及び関係機関（市等）との連携について。

（調査票問5 関係）

- 委託相談支援事業所で受けたケースを、相談支援事業所へと引き継ぐ事例は少ないという回答が最も多くありました。また、一般相談支援事業所では基本相談との線引きが曖昧で当事者のちょっとした不安を整理する対応も求められるという指摘や医療的ケアのプラン作成を担える事業所が少ないといった専門性が異なる点が課題であること、計画作成の段階に入ってから他の事業所への引き継ぐ際には経緯の共有が難しくスムーズに引き継げないという背景があることがわかりました。
- 地域の特定の事業所同士の関係性は、巡回指導や（柏市自立支援協議会の）相談支援部会の活動で培われているという意見が多かった他、相談支援専門員の日頃の活動に基づく人間関係に支えられているという指摘もありました。

③ 事業所職員の育成（スーパーバイズ）及び定着について

（調査票問2 及び問3 関係）

- 委託相談支援事業所では、事業所内で職員同士で助言指導を行うスーパーバイズの体制が整っており、情報共有やバックアップがなされているという回答が多くありました。
- 相談支援専門員が不足している、いわゆる一人事業所を中心にアセスメントや計画外・緊急時の対応を想定した計画作成等のスキル向上の支援が不足しているという指摘がありました。

④ その他に挙げられた課題

- 触法障害者の受入れ先確保について
- 医療機関及び地域包括支援センターとの連携について
- 当事者と家族の高齢化に伴う暮らしの場の確保について
- 災害対応について
- 医療的ケアについて
- 地域での委託相談支援事業所の周知について

(3) 各事業所からの意見

聞き取りの際に各委託相談支援事業所から挙げられた意見を調査票の質問項目ごとに整理しました。

① 一般相談に係る件数や時間について。

一般相談においてひきこもりの疑われる相談は多いか。

(調査票問 1 関係)

(一般相談の内容やその対応について)

- 近隣トラブル(金銭貸借,騒音等),SNS,ネット通販のトラブル
- 精神障害の方からの電話で,話を聞いてほしいものが多い。通所をしておらず,友人や家族も実質いない中で,不安や孤独感が強いようである。被害妄想や他者(主治医・家族・行政・他の相談機関など)へのクレームを話されることも多い。
- 精神障害の方の相談は,終わりが無いと思っている。終わらせようではなく,その都度どう対応していくか考えている。終わりは特に意識していない。
- 不安の訴えや,その解消のための相談支援や傾聴
- 精神状態不穏などで,「今,話を聞いてほしい,どこも忙しいと断られた」と当事者から頻回な電話相談。相談支援専門員がすでについているケースでもある。
- 特に,重度の行動障害や精神障害の方の場合,地域にその受け手であるサービス提供事業所がない,若しくは消極的であることから,特に生活の場を急ぎで探す必要がある際は地域外にその場をもとめローラーで情報を集めている状況。施設間での取り決めや各市町村独自のルールが障害になることも多く,数ある相談の中でも困難である。
- 相談は,季節柄や時期によって集中する。突発的なので,時間を調整するのが大変。不安の訴えや解消のための相談(が多い)。電話が長くなることもある。
- 医療的ケアでは,医療機関への受診同行のケースがある。精神障害では,具合が悪くなる時,メンタルクリニックに同行することが多い。市内に周産期の小児神経の大きな病院がないため,つくば,千葉,女子医大,都内などへ付き添うのは一日仕事。コンスタントではないが,半日から一日がかり。
- 福祉サービス利用の相談が最も多い,家族と本人から。ちょっと話を聞いて,不安などの相談はたまにある程度。市役所窓口からの紹介,ネットで調べて電話が来ることが多い。
- 精神障害や発達障害で,障害受容ができていない,病識がない方の対応に時間を要する。どこから相談を進めようか迷い,時間もかかる。何回も話を重ねていくしかない。

(ひきこもりについて)

- ひきこもりのケースも時間を取られ、どうしていったら良いかわからない。そもそも本人に会えない。
- 若い世代のひきこもりが深刻。不登校だったという若い世代のひきこもりが多い。
- ひきこもり=障害とは限らない。実態は分からない。医療につなげることが難しい。病院に行くまでが大変で時間がかかるが、診断が付かなければ市の制度（※注 自立支援医療（精神通院）や精神障害者保健福祉手帳）は使えない。
- 来る前に、行政や保健所などによく電話したりして、意外とつながっている。孤立している人からの電話はないという印象。
- ひきこもり本人は電話してこない。母やひきこもりの人と関わり気になった人から電話がある。一定の生活はしているが、通所や仕事もなく、このままでよいのかといった相談。本人の意向がわからないので、直接訪問も難しい。支援のタイミングを見計らっているケースもある。
- 地域包括支援センターからも相談があって、8050問題で、誰々のお子さんが心配といった相談はある。ひきこもりだと入りづらいので、ケアマネや母を通して、本人に委託相談支援事業所への相談や事業所を知らせる。
- 親が高齢化したことで、ケアマネとつながりができて、子どものひきこもりなどが見つかる場合がある。以前見つかったケースでは本人をスムーズに生活介護につなげられた。その経験は法人にとって力になる。
- ひきこもりの相談は増えている印象。地域包括支援センターからの紹介も多く、高齢者宅を訪問したらその子どもがひきこもりといったことがある。
- 市の南部地域、松戸市境からの依頼も多い。親と一緒に連れて来るから見立ててほしいといった依頼。
- 事業所主催の子ども食堂に、スクールソーシャルワーカーの先生も来て、学校の不登校児童について相談を受けることもある。
- 大人で一人暮らしの人は最初は信頼関係をつくるのが大変だが、関係づくりがうまくいけばヘルパーなどを受け入れてくれる。
- 例えば、ひきこもりの本人40歳、祖母90歳のケースでは対応していくと行き詰まり感のようなものがある。現状の福祉制度でどうにかなるものでない。病院は見つかったが、本人が行きたがらない。
- 保健予防課のソーシャルワーカーや病院、貧困が絡むとあいネット（柏市地域生活支援センター）とも連携する。

(受け入れ先確保が困難なケースについて)

- 窃盗ならまだともかく、放火や性犯罪などに関しては、グループホームなど法人の理解も含めて受け入れは厳しいところがある。このため一人暮らしの方が（地域移行に繋がる）可能性が高い。
- 突然連絡が来て釈放されたということが多く、意外と予定が立たないものである。宿泊型の自立訓練施設は少なく、すぐに受け入れてもらうのは難しい。
- 触法者の自立訓練施設があるとよい。刑務所から出てすぐ一人暮らしでなく、数年でも訓練できる場所があるとよい。例えば、地域生活支援拠点の一か所は自立訓練施設と併設で宿泊型の施設とするなど。ホームレスが緊急で住める場所があいネット（柏市地域生活支援センター）にあるので、そこを増やすイメージ。
- （触法者の受入れについては）短期入所では対応しきれない。必要な時に宿泊型の自立訓練施設に入りやすいよう、施設の余力（空き）を持たせておく方が良いが、空きの分は収入が減るので（施設の運営事業者としても）苦しい。あいネット（柏市地域生活支援センター）が緊急で居住の場所を持っているが同様の居場所を増やしてほしい。
- （施設が）「見つからず、すみません」と保護者に話す時が辛い。
- 20代の人が多い。特別支援学校を卒業して、生活介護へ行くことを想定して預け先を探すが（生活介護も）短期入所の受け皿もない。グループホームは出来ているが、受け入れてくれない場合もある。
- サービス事業所が見つからない場合、事業所を回って、どういうケースなら受け入れるか個別に聞く。他市の事業所も見て、なるべく得意とする事業所につなぎたいと思っている。

② 他の相談支援事業所及び関係機関（市等）との連携について

（調査票問5 関係）

（相談支援事業所同士や他サービス事業所との連携について）

- 各種機関同士より、個人での連携が取れている。ケースや地域によって得意な人に振り分ける。
- 事業所のつながりでなく、相談員のキャラクターや信頼関係で連携している。事業所間の連携も個人ベースが強い。
- 委託相談支援事業所に来る相談は困難なケースが多いので他（の相談支援事業所）に振りづらい。
- 基幹相談支援センターや一般の相談支援事業所に求めるものがあまりない。地域生活支援拠点でないと難しい、基幹相談支援センターと組まないと難しいケースはなかった。
- 委託相談支援事業所が関わっているのは（複雑な）ケースが多い。他の事業所も大変と感じていることが多い。
- 保護者は、柏市では大変な人を受け入れてくれる法人や事業所があると思っているのに、それが叶わないことをなかなか納得してもらえない。
- 委託相談支援事業所として関わっても、計画をつけないとやっていけない。他の事業所に依頼するのは難しいので、結果的に計画が増えていき、委託相談支援事業所の相談員が持たざるを得ない。
- 身体障害の方はプランを作り、環境を整えることで（他の相談支援事業所へ）引継ぎやすくなるが、精神障害や発達障害のケースは他へ引継ぎづらい。（事業所に所属する相談支援専門員が一人だけのいわゆる）一人職場の事業所が増えても、委託相談支援事業所から引き継げないのでは（全体が上手く回らず）解決にならない。すべての相談支援事業所が特定相談を受けられるようになれば良いのだが難しい。
- 委託相談支援事業所が併設でない事業所では基本相談の線引きがあいまいで、すぐ委託相談支援事業所が紹介されてしまう。家族などに関する相談への対応が上手くできれば（委託相談支援事業所で引き受ける前に）解決することも多い。
- 通常の指定相談事業所ではサービスに関係のない、ちょっとした不安などには触れないことがある。このため、利用者が不安になって相談してくることがある。家族に不満があるなら「お母さんにこう言ってみたら？」、本人の不安を整理するだけでも対応してあげてほしい。精神障害の人に慣れていなくても、特別難しいことではない。
- 計画相談支援事業所から電話がある場合もあるし、具体的なケースで関わることもある。事業所を巡回する中で、電話をかけるほどではないが訪問した時に相談されることもある。以前より相談は増えた印象で、特に（所属する相談支援専門員が1人の）一人職場の相談員から相談を受けることは多い。

(市役所との連携について)

- 相談体制に障害福祉課は外せない。ちょっとした申し送り事項があれば違う。今はほとんどつなががないので、家族にとってはたらい回し感があり、もっと丁寧に接してほしいと感じているだろう。
- 手帳の申請など事務的なこと以外、まだやることが整理されていない人が市役所に来たら、要点を整理して、委託相談支援事業所に事前に伝えてほしい。事前の申し送り事項があれば、準備ができる。今年度は市役所からリストだけ渡されて来る人が増えている印象。シートなどに必要事項を記入して共有などでできれば良いのではないか。
- 市の機関との連携がとれていない。障害福祉課のワーカーとは連携がとれており、分からないことは聞いている。障害福祉課の窓口が問題。
- こども福祉課、市や県の児童相談所と足並みがそろわない時がある。虐待のケースは難しいので、信頼関係がある人がつないでくれると進めやすいが、児童相談所担当者と時間が合わず、対象者に会えなかった。つながりが大切だ。また、家庭児童相談室（※2019年現在は柏市こども部こども福祉課）の職員も異動でつながりが切れてしまうこともある。
- 30年度から市の体制が変わったが、以前は市のワーカーと相談員と一緒に現場に行くこともあり、市の制度の勉強になってよかった。
- 相談者が市役所の窓口に来た時に、委託相談支援か計画相談支援かを判断せずに、リストだけ渡されて終わるケースが多い。まずは基幹相談支援センターに必ずつなぐよう案内するなどしてはどうか。基幹相談支援センターを通す流れをつくってほしい。
- 今年度になって、リストを渡すだけといった市の対応が増えている印象。以前は委託相談支援の5事業所のいずれかに電話するよう案内していることが多かったが、今は近くに行くようにと言われるようだ。相談者はまた同じことを話さねばならない、たらい回しの印象を持つ。

③ 事業所職員の育成（スーパーバイズ）及び定着について

（不足している資質について）

- 知識，制度，ネットワークを持っていないとスキルは身につかない。
- 資質を上げるには，他法人や在宅のプランを作ることを通して，地域を知り，誰かに助けをもらう経験が必要。
- 利用者と関わる他の事業所の職員とつながりを持っていたい。相談員同士はもちろんだが，他の業種とのつながりが必要で，それが相談支援にもつながる。
- 相談支援専門員の役割があいまい。一般相談がちゃんとできる，モニタリング，計画外に必要な時に動けることが大事。
- 計画内容が本人に合っているか。自法人だけでなく，他法人や他事業所のサービスも使って，緊急時に地域生活支援拠点を使わないで済むように，日頃のプランを作っておかなければならない。その人にとって何がよいか，普段から考えてプランを立ててほしい
- 相談支援専門員自身が役割などを理解していない。（市内で70数人の専門員登録があるが）連絡会に出席するのは40人くらい。残りは理解していないのでは。70人の中で常勤や専従がどの程度いるかも気になる。
- 事業所内に2人以上の相談員がいて，互いに相談できる体制や余裕が必要。
- 事業所の数を増やしていく方向性だと思うが，（所属する相談支援専門員が1人の）一人職場ばかりでは（相談支援専門員としての）役割を理解する機会が少ない相談員が増えるだけだろう。
- 相談支援専門員の質を高める取組をした方がよい。今ある事業所を育てていく必要がある。地域生活支援拠点と連携してどう育てていけるか。
- アセスメントに加え緊急時対応に関しても想像力を働かせてクライシスプランも想定しておくことが大切。例えば，利用者の母親が高齢であればショートステイをつけておくなど。
- 委託相談支援事業所同士は互いにヘルプしているが，指定相談支援事業所は決まった（特定の）事業所以外関わりが少ない。まったく相談のない事業所は孤独にやっているのか。
- （相談支援は）特別なことではなく，基本は対人援助なので，相談者と一緒に考えていくことだ。そうすれば，専門知識が必要になるし根拠に基づく支援が必要と当然思えるのでは。

(事業所内の体制等、資質向上に向けた取り組みについて)

- 相談員同士のお茶会をしたり、アウェイでやることの楽しさを教える。色々な人に出会って、人に育ててもらったことを実感。出会いの数だけ成長するので、なるべく多くの人と出会える場所を提供する。厚労省の役人、著名人など出会いをつくる演出を心掛けている。それが相談員のスキルや人間性を上げることにつながる。
- 相談員がスーパーバイズを受けられる環境をつくっている。場合によって、相談する人は分ける。退職するなど利害関係を離れた方が、相談しやすい場合もある。
- そのケースが得意な人を紹介してもらって電話したり、他の事業所に聞くことも多い。看護のことで分からないことは看護師に聞いたり、ジャンルごとに個人同士での相談もしている。連絡会や研修の案内があれば積極的に参加する。
- 相談については、毎月連絡会があって、はじめは回数が多いとは思ったありがたい。グループワークもするので、相談員のネットワークを広げるためには大切だ。
- 事業所にスーパーバイズができる環境がある。毎週の事例検討会のほか月1度会合を持つ。
- 他機関へアドバイスをする機会もある。相談員個人の関係性の中で行っている。
- 事例検討は大事。
- すべてのサービス等利用計画は市が見ているので、苦手なところなど把握しているのなら、それを委託相談支援事業所にフィードバックして一緒に考えられれば、有効な対策が考えられると思う。私たちのプランもこれでよいか不安はあるので、全体を見ている市から教えてほしい。
- 現在進行形のケースの検討、どうしてこうかという検討はあるが、あれはどうなったのかという検証の必要性を感じている。自分たちの支援の振り返りのスーパーバイズはできていないかもしれない。終結したケースの振り返りは難しい。
- 現在、4つの地域生活支援拠点の中で、緊急で受けたケースを持ち寄って、検証しようとしている。他の地域生活支援拠点は関われなかったのか、他に利用できることはなかったか、などを検証しないと、各地域生活支援拠点の経験が積み上がっていかない。
- 職員のメンタルヘルスクアはできていないと思う。相談支援専門員それぞれが個別のケースを持っていて、逐一話し合えないので、すっきりしないこともあるだろう。緊急の携帯を持たされていて、完全に仕事オフにはならないのではないかな。
- 全員が全員のケースを共有するので、色々な人の意見を聞いて、日々のスキルアップにつながる。抱え込まないことはメンタルヘルスクアにもつながる。みんなの意見を聞くことは、自分の考えの後押しにもなるし、事業所全体の方針として自信を持って示すことができる。

④ その他の課題

(災害対応について)

- 災害対策が大事。風水害や地震など災害の内容によって必要なことは違う。
- 先般の台風での経験から、災害時に市との連絡がとれなくてもオートマチックにできる体制が必要と感じた。
- 今回初めて福祉避難所をつくったが、発信力のある法人でないと相互に応援しづらい。

(医療的ケアについて)

- 医療的ケアの計画を書ける人は少ないが、増やすことが課題。コンスタントに新規が増えるわけでないので経験も積みづらい。最初のプランを立てるのが肝。
- 医ケアのコーディネーターの活用と言われても難しい。現在抱える件数は70～80件(松戸、流山などの市外も含め)で、松戸市では担える事業所が1か所しかない。

(医療や地域包括支援センターとの連携について)

- 地域包括支援センターやケアマネジャーとの連携は今後の課題だろう。法人には、放課後等デイサービスや精神障害対応の地域活動支援センターがあるので、20～30代の利用が多いが、いずれ課題となる。
- 精神障害の40～50代も多く、今後介護保険に移行することも考えられるので、地域包括支援センターともう少しつながっておきたい。
- 高齢の方からの相談は少ない。介護保険を利用するに至る人がまだ少ない。計画相談や委託相談は若い人が多い。親が高齢化していて、そのケースというより、その親に対して地域包括支援センターが支援することもある。
- (医療機関と)あまり連携がとれていないと思う。どのように連携したらよいか分からないことが多い。最近柏地域医療連携センターと関わる機会も増えたが、まだ課題もあるだろう。
- 医療が必要な人も増えているので、法人として取り組む必要性を感じている。

(地域での周知について)

- 相談先の周知は大きな課題だろう。どこに相談するのかが人によってバラバラになっている。すでに委託相談支援事業所が関わっている人の家族でさえ、警察からあいネット(柏市地域生活支援センター)に行くよう言われて連れて行ってしまふ。障害保健福祉部門で関わっている人もあいネットに行ってしまうので、警察にすら知られていないことが問題。

4. 一般市民向けアンケート結果概要

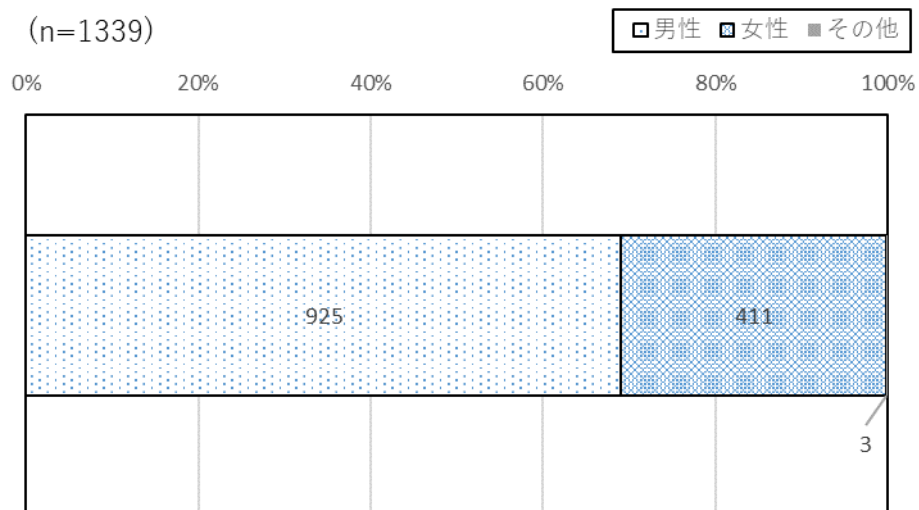
(1) 質問項目一覧

質問項目	質問設定	
	柏市職員	一般市民
問1. あなたの性別をお答えください。	○	○
問2. あなたは何歳ですか(2019年4月1日現在)	○	○
問3. あなたは保健福祉部署に配属された経験がありますか。	○	×
問4. あなたのお住まいはどこですか。	○	○
問5. あなたはヘルプマーク・ヘルプカードをご存じですか。	○	○
問6. あなたは過去1年程度の間、ヘルプマーク・ヘルプカードをお持ちの人を見たことがありますか。	○	○
問7. 障害がある人に対して声をかけたり手助けをしたりすることについて、あなたは心理的な抵抗がありますか。	○	○
問8. 「障害者」と聞いて、あなたはどのような印象を持っていますか。	○	○
問9. 過去1年程度の間、あなたは電車やバスなどの交通機関、街中等で障害がある人や困っている人を見かけたことはありますか。	○	○
問10. (問9で「ある」と答えた方にお伺いします。) 過去1年程度の間、障害がある人を見かけた時に、あなたは手助けをしたことがありますか。	○	○
問11. (問10で「ある」と答えた方にお伺いします。) 手助けをしたのはどのような気持ちからですか。(複数回答)	○	○
問12. (問10で「ない」と答えた方にお伺いします。) それはどのような気持ちからですか。(複数回答)	○	○
問13. 限られた資源や財源の中で、今後、どのような障害福祉の取組みを優先して実施すべきだと思いますか。(最も必要だと思うもの1つに○)	○	○
問14. あなたは障害者差別解消法を知っていますか。	○	○
問15. あなたは障害者に対する「合理的配慮」を知っていますか。	○	×

(2) 各質問項目の回答結果

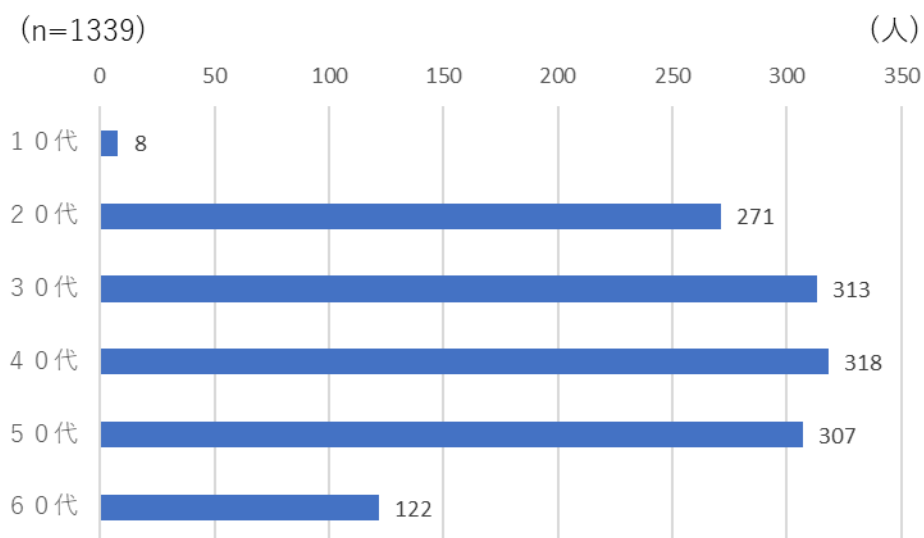
問1. あなたの性別をお答えください。

「男性」が7割程度となり、「女性」より多くなっています。



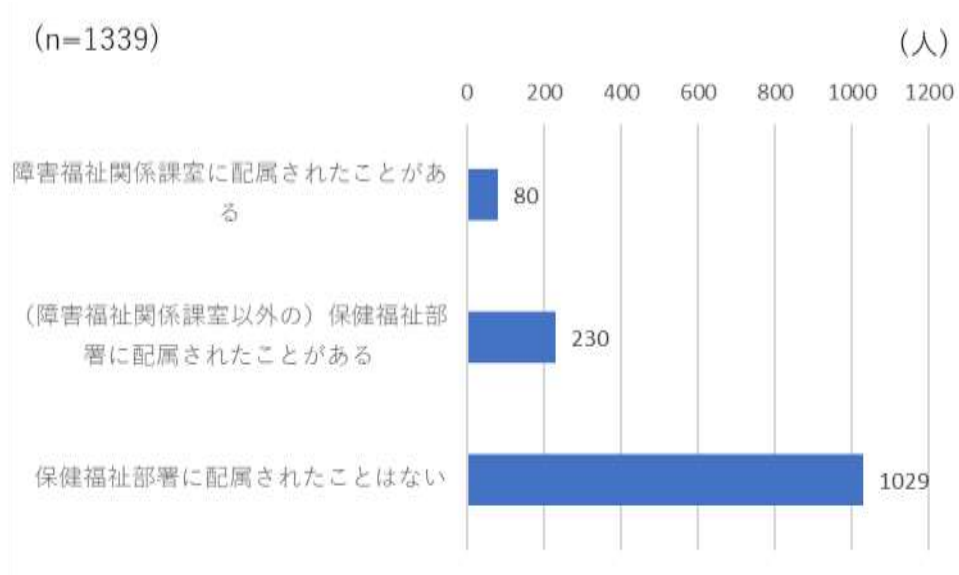
問2. あなたは何歳ですか（2019年4月1日現在）

「30代」「40代」「50代」がそれぞれ2割以上となっています。「10代」はほとんどおらず、「60代」は1割程度となっています。



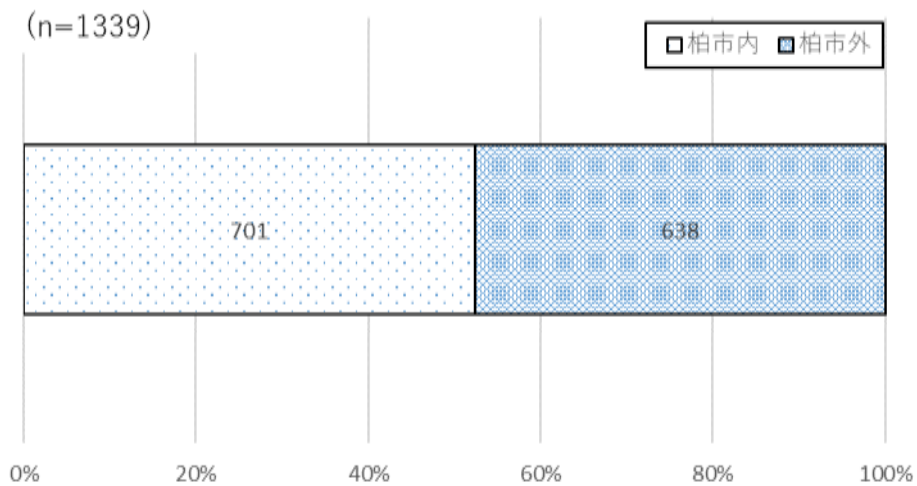
問3. あなたは保健福祉部署に配属された経験がありますか。(職員のみ)

「保健福祉部署には配属されたことはない」が8割程度で、回答者の大多数を占めています。



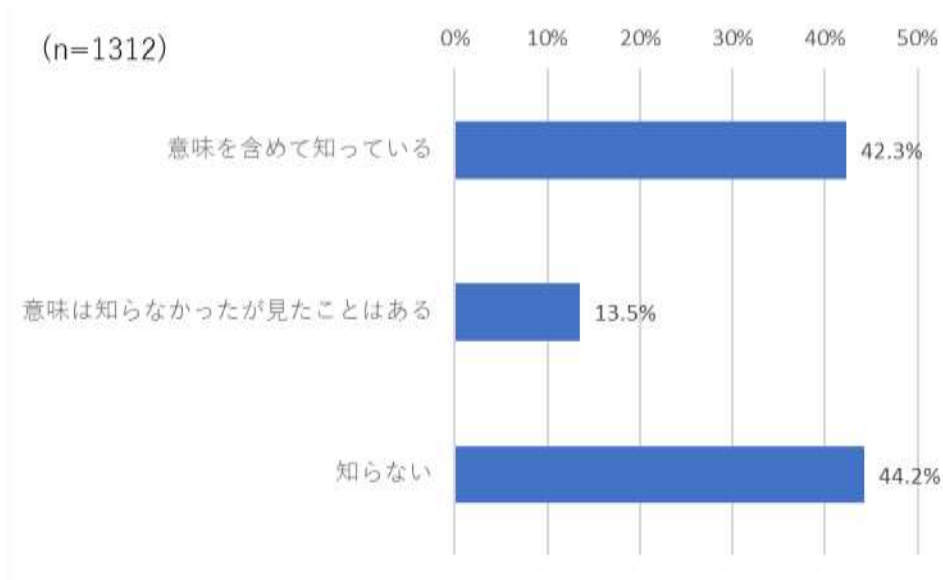
問4. あなたのお住まいはどこですか。

「柏市内」が若干多くなっていますが、「柏市外」と大きな差はありません。



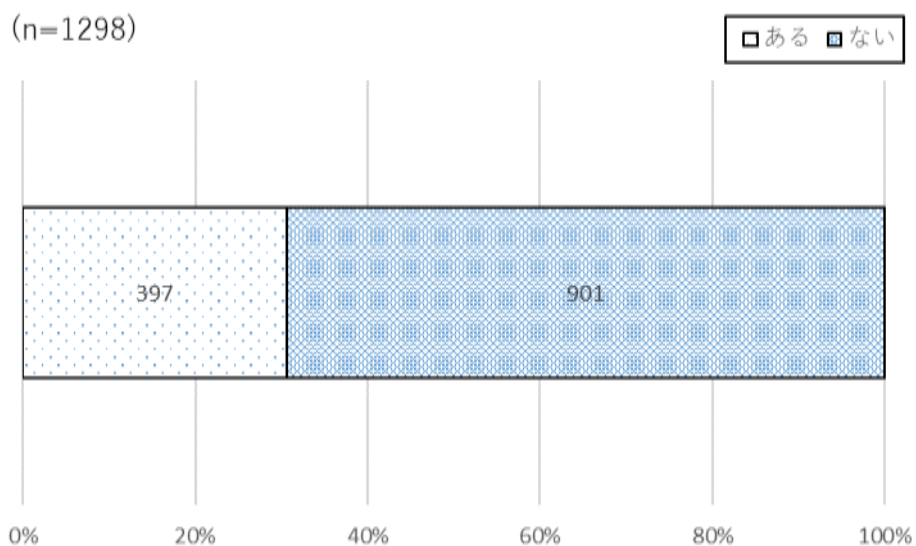
問5. あなたはヘルプマーク・ヘルプカードをご存じですか。

「意味を含めて知っている」と「意味は知らなかったが見たことはある」をあわせると6割程度と「知らない」を上回っていますが、「知らない」も4割以上となっています。



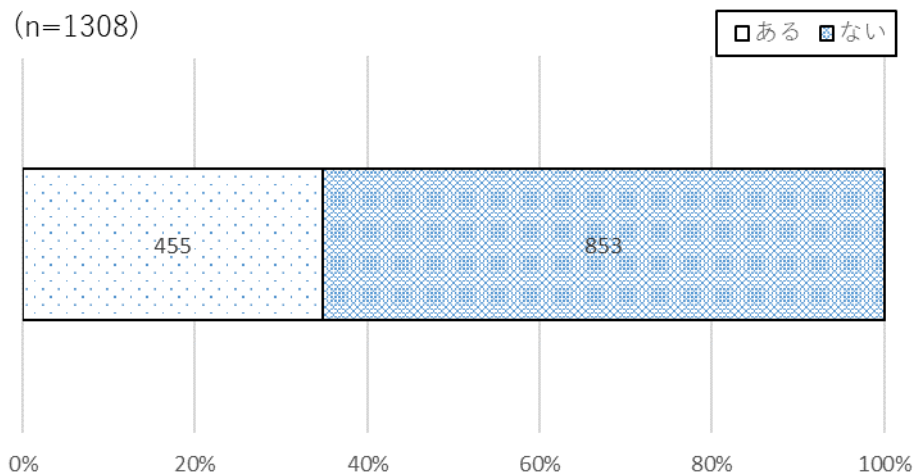
問6. あなたは過去1年程度の間、ヘルプマーク・ヘルプカードをお持ちの人を見たことがありますか。

「見たことがある」が3割程度、「見たことがない」が7割程度となっています。



問7. 障害がある人に対して声をかけたり手助けをしたりすることについて、あなたは心理的な抵抗がありますか。

「抵抗がない」が6割以上となっており、「抵抗がある」を上回っています。



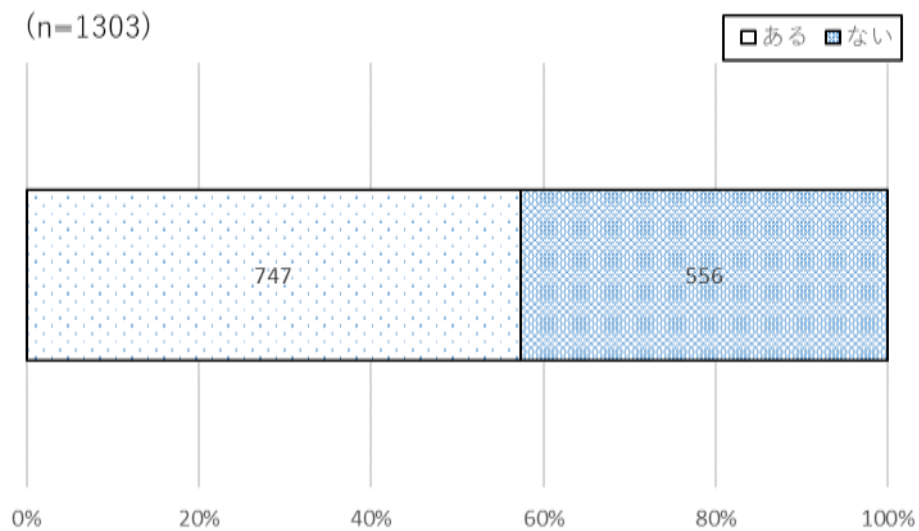
問8. 「障害者」と聞いて、あなたはどのような印象を持っていますか。(自由記載)

記載内容を分類すると、「手助けや配慮等が必要、手助け等したい」といった印象が最も多く、2割程度となっています。また、「日常生活に不便がある、大変そう」「不自由やハンデがある」といった印象も1割以上となっていますが、一方で、「特別な印象はない、健常者と変わらない」といった印象も1割以上となっています。(※各分類の内容等は後述)



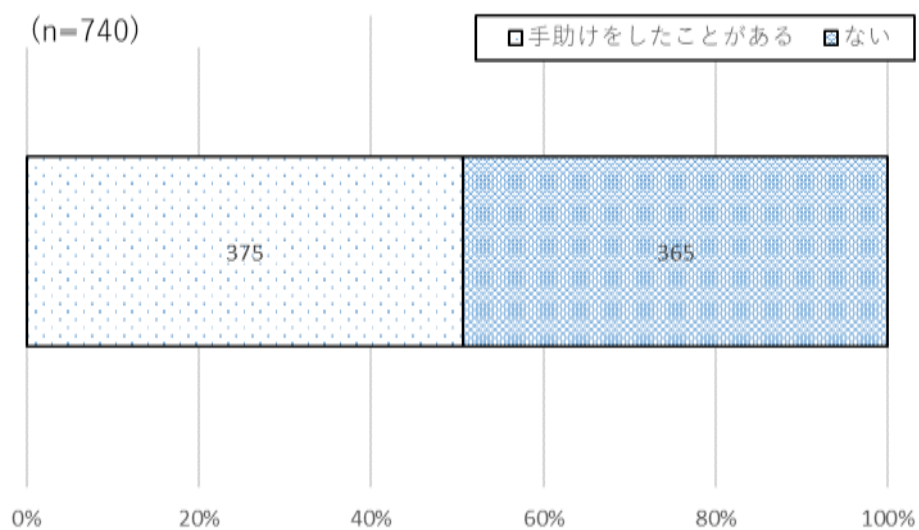
問9. 過去1年程度の間に、あなたは電車やバスなどの交通機関、街中等で障害がある人や困っている人を見かけたことはありますか。

「見かけたことがある」が6割程度となっており、「見かけたことがない」を上回っています。



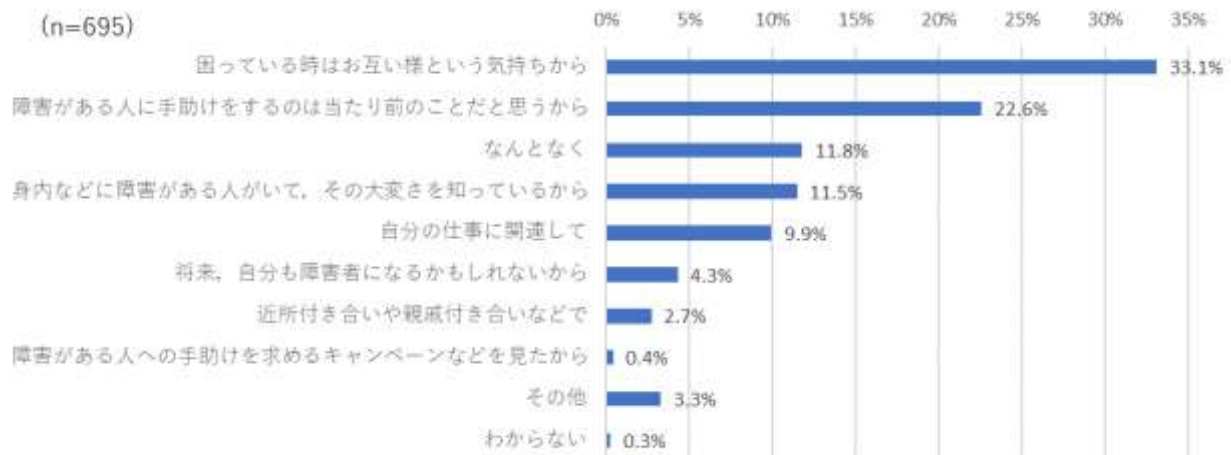
問10. (問9で「ある」と答えた方にお伺いします。) 過去1年程度の間に、障害がある人を見かけた時に、あなたは手助けをしたことがありますか。

「手助けをしたことはない」と「手助けをしたことがある」がそれぞれ半数程度となっています。



問11. (問10で「ある」と答えた方にお伺いします。) 手助けをしたのはどのような気持ちからですか。(複数回答)

「困っている時はお互い様という気持ちから」が3割以上と最も多く、ついで「障害がある人に手助けをするのは当たり前なことだと思うから」が2割程度で続いています。



問12. (問10で「ない」と答えた方にお伺いします。) それはどのような気持ちからですか。(複数回答)

「困っている障害者を見かける機会がなかったから」が2割以上と最も多く、ついで「お節介になるような気がしたから」が2割程度、「どのように接したらよいかわからなかったから」が1割以上で続いています。



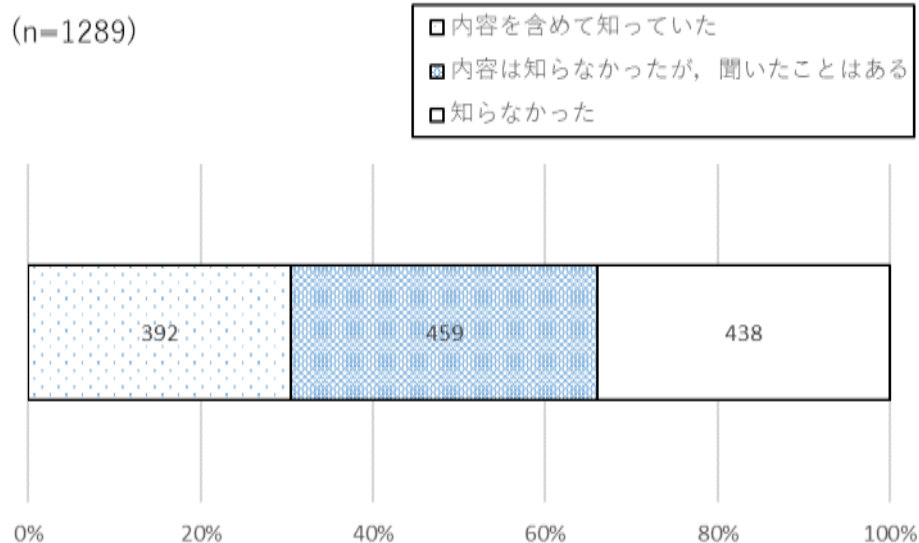
問 1 3. 限られた資源や財源の中で、今後、どのような障害福祉の取組みを優先して実施すべきだと思いますか。(最も必要だと思うもの1つに○)

「自立や社会参加を促す支援の充実」が2割程度と最も多く、ついで「障害理解・啓発活動の充実が」も2割程度となっています。一方で、「福祉手当やタクシー助成券等の経済的援助の充実」や「重度心身障害者医療費等の助成の充実」は合計でも1割未満となっています。また、どのような取組みを優先して実施すべきか「わからない」と回答も1割以上となっています。



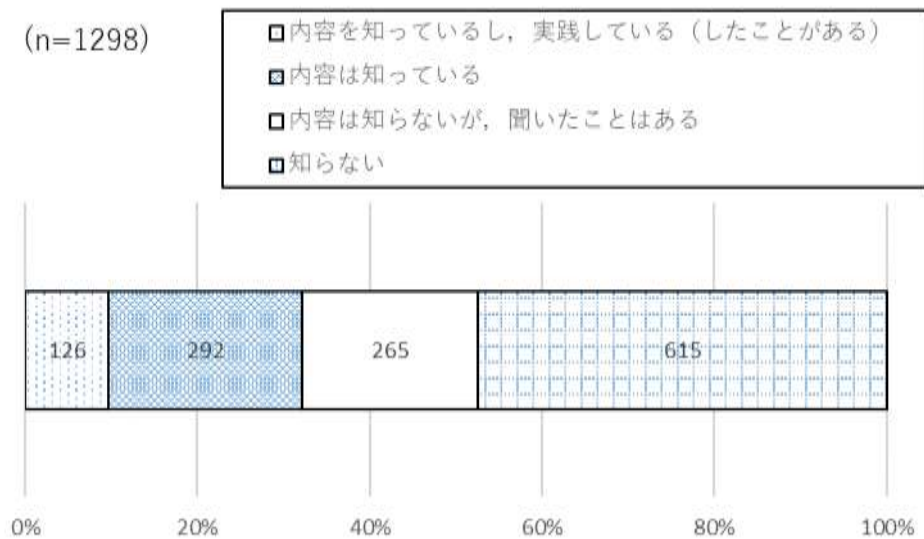
問 1 4. あなたは障害者差別解消法を知っていますか。

「内容を含めて知っていた」「内容は知らなかったが、聞いたことはある」をあわせると6割以上となっており、「知らなかった」を上回っています。



問15. あなたは障害者に対する「合理的配慮」を知っていますか。(職員のみ)

「知らない」が5割程度で、「内容を知っているし、実践している（したことがある）」「内容は知っている」「内容は知らないが、聞いたことはある」をあわせたものと同程度となっています。



(3) 自由記載の回答結果（分類別意見例）

「問8.「障害者」と聞いて、あなたはどのような印象を持っていますか」での自由記載欄にいただいた回答を分類し、代表的な意見を抜粋して概要をまとめました。

①手助けや配慮等が必要，手助け等したい（126人）

（困っている時などには）手助けが必要な方，配慮が必要な方といった意見や，そういった状況になったら手助けや配慮をしたいといった意見がみられました。

（代表的な意見）

- ・自分のしたいことがひとりでできず，他の人や用具の介助が必要な人
- ・特別な偏見を持つことはせず，助けが必要な時としている時に援助をする方という印象
- ・手伝いを必要とする場合は，積極的に手助けしたい。

②日常生活に不便がある，大変そう（97人）

障害があることによって，日常生活を送るうえで不便が生じそう，苦勞していそう，大変そうといった印象を持っているという意見がみられました。

（代表的な意見）

- ・日常生活が健常者に比べて大変苦勞するだろうな。
- ・私生活を送るうえで支障をきたす方
- ・日常生活が大変そうなイメージ

③不自由やハンデがある（94人）

身体的や精神的に不自由がある，ハンディキャップがある人という印象を持っているといった意見がみられました。

（代表的な意見）

- ・何らかのハンディキャップを負っている人。
- ・身体的，心身的に困難なことがある。
- ・日常生活において心身共に健常な人と比べ何かしらのハンディがある

④特別な印象はない，健常者と変わらない（93人）

障害者だからといって特別な印象はない，障害は個性であり，健常者と変わらないといった意見がみられました。

（代表的な意見）

- ・特に意識していない
- ・同じ人間だとしか思わない。
- ・健常者と違うところはあるが，特に意識はしていない。一つの個性として見ています。

⑤対応がわからない，意思疎通が難しい（４７人）

障害者に対して，どのように対応すればよいかわからない，手助けしたいが何ができるかわからないといった意見や，意思疎通が難しい印象を持っているとの意見がみられました。

（代表的な意見）

- ・何か手伝ったり，助けたりできることがあればと思いつつ，どう手助けすることができるかわからない。
- ・時と場合によるが，どの程度助けたら良いか迷うときがある。
- ・コミュニケーションをとることが難しい印象。

⑥多様，一概にはいえない（３１人）

ひと口に「障害者」といっても，障害の種類によって多様であり，一概にはいえないといった意見がみられました。

（代表的な意見）

- ・「障害者」という言葉でくくれる人などいないのでは。「健常者」と同じく様々な人がいると思います。
- ・障害者といっても様々な障害を持つ方がおり，多様。固定したイメージはない。
- ・個人個人で異なる印象

⑦その他の意見

上記分類のように，一定数が集まることはありませんでしたが，同趣旨の意見が 10 件程度集まったのがみられました。

●「障害者」という表記がよくない（１６人）

- ・差別的である。呼び名を変えた方がいい。
- ・障害者と一つのくくりにしてよいのかと思う。支援の必要な方など今の時代に合った言い方が求められると思う。

●頑張っている，努力している（１６人）

- ・健常者に比べ，より努力している人。
- ・一生懸命頑張っている人

●かわいそう（１５人）

- ・かわいそうとの思いが強い
- ・同情心を抱く

●特定の障害のイメージ（１５人）

- ・知的障害，認知症，車いす，視覚障害の印象が強い
- ・知能・精神障害をイメージする

●（社会的，災害）弱者（１４人）

- ・社会的弱者という印象を持っています。
- ・災害弱者となる。

5. ひきこもりが疑われる障害者に係るヒアリング概要

(1) 傾向

一定期間、家から出ることの無いひきこもりが疑われる障害者は、障害者手帳の有無や、家にひきこもっている期間が異なっている等、その状態像は多様です。ひきこもりが疑われる方には共通して「家庭との関係」や「学校との関係」あるいは「社会との関係」が希薄であったため、対象者に対人関係の不安や自己喪失感が強く表出しており、自宅以外の「居場所」を持っていない方が多く見られます。ひきこもりが疑われる障害者の支援に当たっては、支援者は対象者の複雑な心情を理解し寄り添いながら、対象者の意識の変化や家庭状況の変化などのきっかけを掴み、居場所を得られるよう長期的な支援が求められます。

(本調査におけるひきこもりの定義)

本調査の実施に当たっては、「ひきこもり」について次のように定義しました。

ここ6ヶ月以上、「一切外出していない」「近所のコンビニやスーパーにしか外出していない」「趣味の活動以外で外出していない」のいずれかに該当する人。

(2) 項目別まとめ

ヒアリングの内容について、個別に項目立てを行い、まとめました。

(関係機関等同士連携)

今回聞き取りを行った関係機関等のうち、障害福祉の相談支援事業所、精神科医療機関、柏市地域生活支援センターあいネットに加えて、柏市保健所保健予防課、柏市保健福祉部障害福祉課及び生活支援課、柏市内地域包括支援センターの間ではケースに応じて柔軟な連携を行っているとの回答が多く得られました。

関係機関等同士の連携の在り方は複数あります。行政の制度である障害者手帳の取得、自立支援医療（精神通院）及び生活保護の認定に係る手続き等のため、担当者間での連携が日常的に必要なとされる他、家庭訪問に市役所関係部署が同行する等の連携も見られました。

関係機関等同士の情報共有の課題についても指摘を受けました。特に、学校卒業後に対象者と繋がった支援機関が、障害者手帳の取得に際して在学時の情報を必要としているケースや、保健所が実施している未就学児のスクリーニングに係る情報が学校に共有されれば、より効果的な支援が可能ではないかという指摘もありました。

なお、ひきこもりが疑われる方（障害者に限らない）への支援機関は千葉県内に「千葉県ひきこもり支援センター」「千葉市ひきこもり支援センター」が設置されています。他に、ひきこもりに限定されませんが、鬱病等の心の病に係る相談支援機関があります。

(ひきこもりが長期化する背景)

市役所や関係機関等がひきこもりが疑われる障害者が何処にいるかを把握し、アウトリーチするには様々な障壁があります。家庭にひきこもりの疑われる障害者がいるという情報が外に知られることは少ないです。情報が隠され長期間に渡りひきこもり続けてしまうことが多くみられており、早期発見が難しいことがわかりました。

早期発見が困難な背景には、対象者が親族等から様々な支援を受けており、ひきこもった生活を継続できてしまっていることが挙げられます。具体的には、親族等から生活費等の金銭的支援を受けている、あるいは障害年金等の収入を得ている、親族等から食事の提供等生活援助を受けることで、家の外に出ることなく生活を継続することが出来るというものです。ヒアリングを行った関係機関等のいずれからも同様の指摘を受けました。

親族等が様々な支援を続けている背景は、次のようなものと考えられます。親族等が家庭内にひきこもりの方がいるという情報を近所や会社等に知られることを恐れていることから、関係機関等に相談することが出来ないままひきこもった生活が継続されていると思われれます。「親のプライドが相談しようとする際の障壁となって、周囲に対し隠そうとする傾向が強い」という指摘を複数の関係機関等から受けました。

「家庭との関係」や「学校との関係」等と上記の要因が絡み合い、深刻なケースでは10年・20年と関係機関等の支援者に繋がらないままひきこもりの生活が続いてしまっている例も見られました。「親が病に倒れ支援が打ち切られてしまった」「親が同居することに耐えられなくなってしまった」等、何らかのきっかけにより関係機関等の支援者に繋がり、課題が顕在化したという事例が多く見られました。関係機関等に繋がった時点では、既に対象者は深刻な病気や生きづらさを抱えており、支援に当たる親族等が疲弊してしまっているという事例が見られます。

(家庭における問題)

家庭における問題は、多岐に渡り一概に言及するのは困難です。たとえば、不登校がきっかけで学校卒業後も家から出ることなくひきこもりとなったケースでは、親子の関係性が適切に構築されておらず、家族間にストレスが恒常的に発生している機能不全家族であることが多く見られます。また、不登校になった際、子どもに対する親の対応が適切ではなかったためひきこもってしまったケースがみられるという指摘も受けました。

また、前述したように親が近所や会社等にそれを知られることを恐れ、関係機関等に相談することためらってしまい、子どもに生活資金を渡す、食事を提供する等が続けた結果、ひきこもっている期間が10年、20年と長期化してしまうケースが複数見られました。ひきこもっている期間が長期化しているケースでは、親が病気で倒れる等のきっかけで家庭内での対応が限界を迎えた時に、関係機関等に支援を求めることがあるとの指摘を受けました。

(学校における問題)

学校でのいじめが原因で不登校になった結果、教育の機会やコミュニケーションに必要なスキルを学ぶ機会を失ってしまい、家の外に出ることなく学校卒業後にひきこもりになった

ケースが多いとの複数の関係機関等から指摘を受けました。特に、障害者の支援を専門とする委託相談支援事業所から、発達障害や知的障害の子どもが学校でいじめに遭い不登校となった事がひきこもりのきっかけになっているという指摘を受けました。学齢期にコミュニケーションを学ぶ場を失ってしまい、対人恐怖を払拭できないまま社会に出ることが出来ず、ひきこもってしまっていると思われます。

なお、柏市では小学校及び中学校における不登校児を把握しており、不登校児へ個別に学習支援を行う学習相談室を市内に4か所設置しています。不登校中であっても学習の機会を確保すると共に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが家庭の相談を受ける体制を整備してきました。

しかしながら、関係機関等からは学校との情報共有の仕組みに課題があるという指摘を受けました。不登校児に係る情報を学校から支援機関に適切な方法で伝える仕組みや、一方で、保健所が実施している知的障害及び発達障害の未就学児童のスクリーニング結果を、学校に適切な方法により共有する仕組みを検討する余地があると考えられます。

(就職に係る支援)

ひきこもりが疑われる障害者の傾向として、本人の自己評価が低く他者の言葉や態度に対し傷つきやすい点が見られます。ですが、決して他者や社会との関わりを拒否しているわけではありません。支援者が何らかのきっかけを掴み、少しずつ対象者の意欲を引き出し社会への一步を踏み出した例も多くありました。ひきこもりが疑われる障害者への支援として、就労に向けた準備・訓練の他、地域活動支援センターで軽作業等、少しずつ他者との接点を持っていく取り組みが効果的であることがわかりました。

市内にはかしわ地域若者サポートステーション（以下、「かしわサポステ」という。）が設置されており、就労に向けた訓練を行っている他、対象者や家族から相談を受け付ける等、継続的な支援を行っています。利用者は20代を中心に若い障害者が多く、社会復帰の意欲を持った障害者が相談に訪れているケースが複数あります。かしわサポステに相談している方の中では、不登校の経験や就職後に何らかの理由で退社したことがきっかけで、ひきこもりが疑われる状態になった障害者が見られるとのことでした。

（※地域若者サポートステーションは、今年度末までは制度上39歳まで利用可能とされている。来年度より49歳まで年齢上限が引き上げられる。）

(医療に係る支援)

精神障害やその他疾患が疑われるケースについては、ひきこもりになっている対象者にその病識が無く、関係機関等が働きかけても受診に繋がらないことが多いとの指摘を受けました。対象者が支援を拒否するケースについては、前述のように親族等の金銭的支援、障害年金等の受給、食事提供等の生活援助により家から出ることなく生活が継続できていると想像されます。何らかのきっかけで関係機関等による支援の入る余地が生まれなければ、積極的な支援は困難とみられます。

市内の精神科医療機関からは、長期入院している方を含め高齢のひきこもりが疑われる障

害者が多いとの指摘を受けました。特に、認知症等を発症して自宅での生活が困難となっているケースが多く、認知症対応型共同生活援助（認知症対応型グループホーム）や特別養護老人ホーム等施設で生活を営んでいるということです。

また、市内には往診又は訪問診療を行う精神科医療機関が無く、精神科に特化した在宅医療の資源が不足していることから今後の充実が必要との指摘を受けました。

（ひきこもりが疑われる障害者の支援の在り方）

ひきこもりが疑われる障害者の支援に携わる関係機関等は複数あり、専門性もそれぞれ異なりますが、いずれの機関においても「長期的」に働きかけを続け、何らかのきっかけから対象者との関わりを作り始め、対象者の新たな「居場所」を少しずつ確保していくことが支援策の基本となるとの指摘を受けました。そのためには、きっかけが掴めるまでの間は、長期的に支援をすること、信頼関係を構築することが必要となってきます。

しかし、ひきこもりが疑われる方には障害があるとは限らず、また、医療機関を受診しておらず医師の診断を受けていない場合があることから、対象者について医療及び福祉の関係機関等が把握している例は残念ながら多くはありません。支援者である親が積極的に関係機関等に相談をすることが出来ないためと推測されます。関係機関等が持つ情報の共有により早期にひきこもりの兆候をつかみ適切な支援に繋げることが望まれます。

（今後の課題）

ひきこもりが疑われる障害者の方への支援に当たっては、長期的な支援が求められることから、支援に携わる関係機関等において情報共有体制の整備が課題となります。もちろん、個人情報保護の観点からもひきこもりに係る繊細な個人情報の管理は、厳密に行わなければなりません。諸課題について適切に把握した上で、早期発見及び支援に繋げるために、対象者に係る情報共有について検討が必要と思われます。

本調査で情報共有が望まれると関係機関等から指摘を受けた項目は次の点です。

- ・「過去に不登校やひきこもりだったという情報」

本人や家族等から相談が寄せられた際、過去に不登校だったこと等が事前に判れば、支援方法の検討に当たって参考になるという指摘を受けました。

- ・「療育手帳の申請に必要な学校での記録」

療育手帳の申請手続き等に当たっては、知能検査の情報が必要とされることから、学校における記録の入手をスムーズに行いたいという指摘を受けました。

- ・「就学前のスクリーニング検査の情報」

本市では、未就学児童のスクリーニング検査を行っていることから、小学校に入学予定の児童の検査結果が共有できれば学校での手間が省けるのではないかと、という指摘を受けました。

また、情報共有を進めるには、対象となる「ひきこもりが疑われる障害者」について認識を共有する必要があります。しかし、「ひきこもり」の定義が定まっておらず、支援に携わる関係機関等においてもひきこもりに対する定義や認識が様々であることが散見されました。

本調査におけるひきこもりの定義は、内閣府が平成 30 年度に実施した「生活状況に関する調査報告書」を参考にして、「ここ 6 ヶ月以上、『一切外出していない』『近所のコンビニやスーパーにしか外出していない』『趣味の活動以外で外出していない』のいずれかに該当する人」としました。しかし、上記定義には収まりきれない多様なケースについて、ひきこもりに含めるべきか否かという指摘を受けました。